



病院年報

第 51 号

平成 27 年度版

川崎市立川崎病院

川崎市立川崎病院 基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。

2016年1月

病院運営方針

基本理念を踏まえ、自治体病院の使命と役割を果たし、市民に信頼される安全安心で質の高い医療を継続的かつ効率的に提供していくために、次の方針を定めます。

- 1 患者さんの声を尊重し、高い倫理観をもって医療にあたります。
- 2 地域の基幹病院として、地域の医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる、良質な急性期医療および専門性の高い医療を提供します。
- 3 救急医療、がん診療、周産期医療、災害時医療の充実を図ります。
- 4 地域の医療機関との連携を大切にします。
- 5 教育、研修を推進し、職員の知識、技術の向上と人材育成に努めます。
- 6 安全管理の向上に努めます。
- 7 健全な経営基盤の確立に努めます。
- 8 職員の経営意識の高揚を図るとともに、働きがいのある職場づくりに努めます。

2016年1月

患者さんの権利

当院は、患者さんの医療にかかわる、次の権利を尊重します。

- 1 生命の尊厳と、人格を尊重した医療を受ける権利があります。
- 2 安全安心で質の高い医療を平等に受ける権利があります。
- 3 ご自身の病気や治療について知る権利を持ち、わかりやすく説明を受け、希望や意見を述べる権利があります。なお、病名や予後について知りたくない場合は、そのお気持ちを尊重します。
- 4 ご自身が受ける医療を自らの意思で選択あるいは拒否する権利があります。
- 5 ご希望により、診療のいかなる段階においても、他の医師および他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
- 6 診療上の個人情報厳重に保護され、その秘密は守られます。

患者さんの責務

当院が安全安心で質の高い医療を提供するためには、患者さんご自身にも医療チームの一員として主体的に参加していただく必要があります。そこで、次のことについてご協力ください。

- 1 ご自身の健康に関する情報を、医療提供者にできるだけ詳しくお話しください。
- 2 診療に関し希望されること、またはされないことを、医療提供者にお話しください。
- 3 診療に関する説明がよく理解できない場合は、医療提供者に遠慮なくお聞きください。
- 4 ご自身および他の患者さんが適切な診療を受けるための妨げにならないよう、病院内の規則や社会的なルール、病院職員の指示をお守りください。お守りいただけない場合は、退去していただくことがあります。
- 5 診療に伴う医療費を適正にお支払いください。

患者さんへのお願い

当院は質の高い医療を提供するとともに、明日の医療を担う人材を育成しています。そこで、次のことについてご理解とご協力をお願いいたします。

- 1 医療の質の向上を目的として調査・臨床研究を行い、得られた結果は個人情報特定されないかたちで公表しています。
- 2 教育研修病院として、研修医、看護師をはじめとする医療従事者の研修、あるいは学生の臨床実習を行っています。

刊 行 の こ と ば

平成 27 年度の川崎市立川崎病院の年報を皆様にお届けする時期がやってまいりました。

年報には、職員一人一人が毎日積み重ねた成果が数字になって表されています。数字で仕事の成果を全て評価するのは不可能なことです、職員の皆様は当院の置かれている現状を認識する材料として、この年報に目を通していただき、新年度に向けた病院の新たな発展と自己啓発の材料としていただきたいと思います。

また、学会活動の業績目録のページは、より見やすい形態に改善されていますので、当院各部門の学術的な成果をより分かりやすく示すことができるものと自負しております。

世界に目を向けると、中東では IS（イスラム国）が台頭し、欧州では難民・移民の扱いに四苦八苦しています。日本人の憧れの地で起こったパリの同時多発テロ事件は、まさに衝撃的であり、今後人間の自由な思想や行動がどんどんと制限されていくことを危惧せざるを得ません。そのような中で、2 名の日本人のノーベル賞受賞は明るい話題でした。特に大村教授の医学・生理学賞の受賞は、抗寄生虫薬の開発という我々は普段接することの少ない基礎的な領域での評価であり、研究において一つの領域を一途に長く、ぶれずに信念を持って持続することの大切さを痛感しました。

振り返ってみて、私たちに今何ができるかを考えてみると、医療に携わる者として地域の皆様に安全、安心で質の高い医療を引き続き提供することに尽きるように思われます。当院は平成 27 年 12 月に日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、平成 33 年 1 月までの再認定を取得いたしました。また、平成 28 年 3 月には地域医療支援病院の承認を頂きました。これらは、いずれも職員が一丸となって取り組んだ成果であり、全職員の医療に対する高い意識と実行力に感謝しております。

この度、新公立病院改革ガイドラインに基づいて「川崎市立病院中期経営計画 2016-2020」が策定されました。ここには「信頼される市立病院の運営」を目指して、誰もが安心して暮らせる医療体制づくり、地域医療連携の強化、災害に強い病院作り、といった施策が示されています。5 年にわたる中期的な計画ではありますが、当院ではこれらの取組を着実に推進して、次の年報には数字の上でもより良い結果を示すことができるように努力してまいります。

最後に、この年報の作成に御協力いただいた皆様と、編集に当たって尽力された委員の方々に心から敬意と感謝の念を表します。



平成 28 年 10 月

病院長 成松 芳明

目 次

病院の基本理念・病院運営基本方針……………	1	16 放射線診断科・放射線治療科業務状況…	101
患者さんの権利 ……………	2	17 リハビリテーション科業務状況 ……	110
臨床における倫理指針 ……………	3	18 検査科業務状況 ……………	113
刊行のことば ……………	5	19 給食業務状況 ……………	119
位置及び案内 ……………	8	20 栄養指導・NST業務状況 ……………	121
川崎市立川崎病院全景 ……………	9	IV 経理概要 ……………	123
I 沿 革 ……………	10	1 年度別経営収支状況 ……………	123
1 沿 革 ……………	10	2 収入・支出状況 ……………	124
2 人事の変遷 ……………	17	3 年度別一般会計繰入金及び出資金…	126
II 概 要 ……………	21	4 比較貸借対照表 ……………	126
1 施 設 ……………	21	5 主な経営分析 ……………	128
2 病床数 ……………	21	V 研究・研修及び実習・講師派遣 ……	130
3 機 構 ……………	22	1 診療関係研究 ……………	130
4 職員の状況 ……………	23	2 院内研究交流会 ……………	132
5 主要医療器械・備品 ……………	27	3 看護部研究発表会 ……………	136
6 主な委託業務 ……………	43	4 研 修 ……………	140
7 図書室 ……………	44	5 院外看護活動……………	144
8 看護部の概況 ……………	50	6 各科別実習状況報告 ……………	145
9 地域医療連携室 ……………	54	7 講師派遣 ……………	147
10 医療相談室 ……………	57	VI 臨床研修概要 ……………	151
11 医療安全管理室 ……………	59	1 経 緯 ……………	151
12 定例院内会議 ……………	62	2 初期臨床研修医プログラム ……	156
III 診療業務概要 ……………	64	VII 業績目録 ……………	161
1 平成27年度外来患者状況 ……	64	科別業績統計 ……………	162
2 平成27年度入院患者状況 ……	65	1 当院における学位取得者 ……	164
3 病棟の利用状況 ……………	66	2 賞 ……………	164
4 科別収益状況 ……………	68	3 研究助成及び共同研究 ……	164
5 地区別新患外来・入院患者数 ……	69	4 著 書 ……………	164
6 救急患者取扱状況 ……………	70	5 書籍の章 ……………	165
7 救命救急センターの業務状況 ……	71	6 論 文 ……………	166
8 専門外来及び診療相談 ……	72	7 学会・研究会 ……………	173
9 手術件数 ……………	73	8 講演会等 ……………	192
10 分娩件数 ……………	89	9 その他 ……………	201
11 麻酔科状況 ……………	90	編集後記 ……………	204
12 内視鏡センター利用状況 ……	91		
13 クリニカルパス使用件数 ……	92		
14 外来治療センター利用状況 ……	92		
15 薬剤部業務状況 ……………	93		

位置及び案内

川崎市は、多摩丘陵の南端多摩川の河口に開けた平坦部にあります。東京と横浜の間に接している細長い形の都市で、東京駅へ18分、横浜駅へ7分の距離にあります。

川崎市は、平成28年3月現在で人口が147万人を超え、政令指定都市の中で市民の平均年齢が最も低い活気にあふれた大都市（平成27年国勢調査結果）として、「成長」と「成熟」の調和による持続可能な「最高のまち」を目指して更なる発展を続けております。

川崎市立川崎病院は、少子・高齢化社会が進む中、高度化、情報化をキーワードに、救急医療（精神科救急を含む。）、総合診療体制、新生物疾患医療、循環器疾患医療、中枢神経疾患医療、感染症対策、健康相談・健康教育、在宅医療等の充実のため、21世紀の新しい医療を提供してまいります。



【交通機関】

J R川崎駅東口下車

バス

直通ワンコインバス（市バス・臨港バス）

②3番のりば 川崎病院行き

市バス

⑪番のりば 市営埠頭行き

⑮番のりば 扇町行き

⑭番のりば 水江町行き

⑯番のりば 浮島バスターミナル行き

教育文化会館前下車
(徒歩5分)

臨港バス

⑤番のりば 鋼管循環

⑦番のりば 大師行き

⑧番のりば 三井埠頭行き

①番のりば 水江町・日立造船行き

②番のりば 塩浜営業所行き

さつき橋下車
(徒歩3分)



川崎市立川崎病院全景

I 沿革

1 沿革

大正13年7月1日	川崎町、大師町及び御幸村の2町1村が合併（市制施行）
昭和2年4月30日	明治37年12月28日に設立された伝染病組合病院を川崎市立病院と改称
昭和11年12月16日	伝染病院として、川崎市立病院大規模改築整備の上、開院（院長以下21名、病床数96床）
昭和12年3月15日	川崎市立新川病院と改称
昭和20年6月1日	総合病院に切替え（内科、外科、眼科、産婦人科、歯科及び耳鼻咽喉科の設置）、川崎市立川崎病院と改称
昭和22年4月1日	理学診療科の設置
昭和24年1月1日	皮膚泌尿器科の設置
昭和26年7月1日	小児科の設置
昭和26年11月1日	婦人科病棟の完成（昭和42年11月北病棟完成に伴い撤去）
昭和27年3月1日	伝染病棟改築落成（昭和48年5月東病棟建設に伴い撤去）
昭和28年3月1日	本館起工（第一期、第二期及び第三期工事に分けて施工）
昭和31年5月1日	整形外科の設置
昭和32年8月1日	総合病院の名称使用許可（昭和23年、法律第205号）
昭和32年12月1日	厨房及び寄宿舍（第4号館）落成
昭和33年4月1日	神経科の設置
昭和33年10月1日	基準看護（1類）の取得
昭和34年6月1日	本館の完成
昭和37年5月1日	厚生年金病棟（3号館）の完成
昭和39年3月1日	看護婦宿舍が完成
昭和39年4月1日	皮膚泌尿器科を皮膚科及び泌尿器科に分離 地方公営企業法の一部適用 川崎市立高等看護学院の実習病院
昭和40年8月15日	救急病院に指定
昭和42年4月1日	研修医制度（3年制）の発足
昭和42年11月27日	北病棟（地下1階地上6階建及び旧2号館）が完成
昭和42年12月2日	日本小児科学会認定の小児科専門医教育病院
昭和43年2月8日	日本内科学会認定の内科専門医教育病院
昭和43年7月16日	厚生省指定の臨床研修病院
昭和44年3月31日	放射線治療室の完成
昭和44年5月15日	児童福祉施設第1種助産施設として認可
昭和45年1月1日	消化器科及び脳神経外科の設置
昭和45年6月10日	日本脳神経外科学会認定の脳神経外科専門医教育病院
昭和45年11月19日	職員厚生会館の完成
昭和46年4月1日	麻酔科の設置、産婦人科を産科及び婦人科に分離
昭和46年11月1日	特殊医療部及び教育指導部の設置

昭和47年2月1日	基準看護（特類）の実施
昭和48年4月1日	経理課の設置
昭和49年4月1日	食養科の設置
昭和49年10月1日	基準看護（特2類）の実施
昭和50年10月14日	東病棟（旧1号館）の完成
昭和51年4月1日	精神科の設置
	永年カルテ制度（1患者1病歴制度）の採用
昭和51年5月1日	血液センターの設置
昭和51年6月1日	中央採血室の設置
	施設の名称を本館（旧本館）、1号館（旧東病棟）、2号館（旧北病棟）、3号館（旧厚生年金病棟）及び4号館（旧教育指導棟）に変更
昭和52年4月1日	臨床研修医制度（2年制）の発足
	医事課に入院用コンピュータの導入
昭和52年5月1日	1号館5階感染症病棟の開設
昭和52年10月5日	I C U開設準備室の開設
昭和52年10月31日	腎センターの開設
昭和53年4月1日	病院事業部の設置に伴い経理課を廃止
	看護師を初めて採用
	病院群輪番制運営事業参加
昭和53年6月28日	1号館3階総合病棟の開設
昭和53年9月11日	I C U準備室をI C U病棟として開設
昭和53年11月1日	医事課に外来用コンピュータの導入
昭和54年3月31日	日本病理学会の認定病院
昭和54年5月2日	本館内科病棟の名称を内科西病棟及び内科東病棟に変更
	3号館内科病棟を休床して本館内科東病棟に移転
昭和54年5月15日	1号館4階総合病棟の開設
昭和54年10月2日	日本外科学会の認定医修練施設
昭和55年1月1日	日本麻酔学会の認定指導病院
昭和55年4月1日	看護科病棟部門の週44時間体制
昭和56年6月1日	病床数を733床（一般683、伝染50）に変更
昭和58年4月11日	日本整形外科学会の認定医制度研修施設
昭和58年10月1日	日本眼科学会の専門医研修施設
昭和59年4月1日	食養科調理部門の週48時間体制
昭和60年1月1日	日本消化器外科学会の専門医修練施設
昭和60年1月1日	副院長2人制の導入
昭和60年1月19日	日本耳鼻咽喉科学会の専門医研修施設
昭和61年4月1日	日本泌尿器科学会の専門医教育施設
昭和62年4月1日	日本皮膚科学会の認定医研修施設
昭和63年3月29日	外国医師又は外国歯科医師の臨床修練指定病院
昭和63年4月1日	日本産婦人科学会の認定医制度卒後研修指導施設

昭和63年6月1日	基準看護（特3類）を小児科病棟で取得
昭和63年9月1日	基準看護（特3類）を産科及び分娩病棟で取得
平成元年4月1日	看護部制の実施 臨床クラーク業務の委託
平成2年12月1日	基準看護（特3類）を取得 本館総合病棟、1号館4階小児病棟、1号館4階未熟室、1号館4階総合病棟、2号館4階外科病棟、2号館5階病棟及び3号館婦人科病棟で取得
平成3年4月1日	在宅ねたきり患者処置指導管理の取得 看護の日・看護週間の制定
平成3年5月1日	在宅酸素療法指導管理の取得
平成4年10月1日	電動ギャッジベッド100台導入。その後順次導入
平成5年3月21日	完全週休2日制に伴い第2土曜日及び第4土曜日外来診療全科の休診
平成5年4月1日	理学診療科を放射線科に変更
平成6年3月27日	完全週休2日制に伴い全土曜日外来診療全科の休診
平成6年4月1日	心臓血管外科の設置
平成6年10月1日	新看護2対1（A）看護の取得（全病棟） 医事業務の全面委託
平成6年11月1日	夜間勤務看護（加算）の取得
平成7年3月1日	新設された看護短大へ看護専門学校を移転
平成7年4月1日	在宅医療部の設置 管理当直業務の委託
平成7年6月1日	適時適温給食の開始
平成7年7月1日	看護専門学校及び看護宿舍の解体開始
平成7年7月19日	新病院建設着工
平成7年10月11日	自走式二階建駐車場の設置（収容62台）
平成7年12月14日	新病院建設起工式
平成8年4月1日	事務室から事務局に改変 助産師職認定
平成9年1月10日	新病院立柱式
平成9年3月1日	リハビリテーション科の設置
平成9年3月31日	看護専門学校の閉校
平成9年4月1日	リウマチ科及び歯科口腔外科の設置 副院長3人制に変更 移転準備担当の設置 衛生局から健康福祉局へ機構改革
平成9年12月18日	新病院の上棟式
平成10年3月20日	神奈川県知事から災害医療拠点病院の指定
平成10年4月1日	呼吸器科、呼吸器外科、総合診療科及び感染症科の設置 在宅医療部から地域医療部へ名称変更 特殊医療部が発展的解消

平成10年4月1日	食養科（特食以外）業務の委託 中央器材室滅菌消毒業務の委託 補修室縫製等業務の委託 中央監視室（受電・空調・ボイラー）業務の委託
平成10年7月15日	日本プライマリ・ケア学会の認定医研修施設
平成10年10月21日	新病院病棟・中央診療棟完成
平成10年11月1日	物流管理（S P D）・滅菌消毒・ME（医療器機中央管理）業務の委託 管理系施設管理業務の委託 ハウスキーパー業務の委託 検体系検査（医化学・血清・一般・血液）業務の委託
平成10年11月10日	病棟・中央診療棟竣工式
平成10年11月24日	病棟・中央診療棟開設 新棟にて病棟及び一部外来の運用開始 病床種別（一般683床、伝染30床、精神20床）を変更 医療情報システム（HUMAN）稼動 9階北病棟に精神科病棟（20床、新看護3対1（A）・6対1看護補助）の開設
平成10年12月25日	インターネット上に川崎病院ホームページ開設 （ http://www.city.Kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/index.html ）
平成11年1月1日	N I C U（新生児特定集中治療室）開設（平成13年1月辞退）
平成11年2月1日	川崎南部訪問看護ステーション（川崎市看護協会）を院内に設置
平成11年4月1日	副院長2人制に変更 標榜科目から神経科を削除 電話交換業務の委託
平成11年5月1日	リハビリテーション科で作業療法を開始
平成11年6月1日	9階精神科病棟20床から38床へ病床数の変更
平成11年7月1日	リハビリテーション科で言語療法を開始
平成11年10月26日	薬剤科で無菌製剤処理の実施
平成11年12月1日	日本消化器内視鏡学会の認定指導施設
平成11年12月21日	遠隔医療協力モデル事業（川崎市及び慶應義塾大学医学部）の記者発表
平成12年3月30日	川崎市立川崎病院外来病棟の竣工式
平成12年3月31日	井田病院が研修指定病院となったため、川崎病院が従病院となる
平成12年4月1日	病院移転担当（庶務課主幹）の廃止 看護助手業務の委託 9階精神科病棟、精神保健及び精神障害福祉に関する法律第19条の8の規定に基づく指定病院（4床設置）
平成12年4月24日	外来診療部門の全面オープン
平成12年5月1日	8階小児科病棟（小児科46床、未熟児室14床）の病床数変更
平成12年5月7日	14階南（内科）病棟のオープン
平成12年6月1日	神奈川県精神救急医療事業の基幹病院

平成13年1月21日	脳死判定による臓器摘出手術の実施
平成13年3月30日	外構工事完了
平成13年3月30日	川崎市立川崎病院の基本理念建立除幕式
平成13年4月1日	新病院完成
平成13年4月1日	有料駐車場（駐車台数202台）のオープン 川崎病院ホームページアドレスの変更 (http://www.city.kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/home.html)
平成13年4月2日	川崎駅－川崎病院間の直通ワンコインバスの運行開始
平成14年3月1日	産婦人科で体外受精による治療の開始
平成14年4月1日	川崎病院組織改革 内視鏡室、血液透析室、救急部及び小児急病センターを新設 地域医療部及び医療相談室が医事課へ移管 地域医療部及び訪問看護部門が看護部へ移管
平成14年4月9日	精神科救急24時間体制の開始
平成14年4月15日	川崎病院内に小児急病センターの開設
平成14年12月1日	院内駐車場保守業務の委託
平成15年4月1日	川崎病院の機構改革 院外処方開始 食養科調理業務の全面委託 看護助手業務の全面委託 ナースキャップの廃止
平成15年4月6日	薬剤師、臨床検査技師及び放射線技師の勤務が変則勤務体制に変更
平成15年7月1日	「患者さんの権利」及び「患者さんへのお願い」を制定
平成15年8月1日	受動喫煙を防止する法律（健康増進法）の施行に伴い、院内禁煙
平成15年10月20日	川崎病院通信「くすの木」創刊号発行
平成15年12月2日	重症急性呼吸器症候群（SARS）搬送訓練
平成16年2月17日	医療安全管理室の設置
平成16年4月1日	副院長3人制に変更
平成16年9月1日	1階外来飲食コーナーの設置
平成16年10月17日	病院機能評価受審
～19日	
平成17年3月23日	外来治療センターの開設
平成17年4月1日	病院局の設置 地方公営企業法の全部適用
平成17年7月1日	救急センターの開設
平成17年10月3日	当院で日本初の西ナイル熱患者発生を届出
平成17年11月26日	川崎消防署と合同で災害時医療訓練を実施
平成18年1月23日	(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を受ける
平成18年4月1日	川崎病院組織改革 救命救急センターの開設

平成18年4月1日	放射線科から放射線診断科及び放射線治療科へ組織変更 薬剤科から薬剤部へ組織変更 集中治療部新設 診療部長制度新設
平成18年10月28日	神奈川県災害医療拠点病院合同災害医療対策訓練及び消防局航空隊ヘリ コプターによる救急患者搬送等訓練
平成19年2月5日	ヘリポートに夜間照明を設置
平成19年4月1日	副院長4人制に変更 消化器外科新設 脳血管外科新設 血管外科新設 救急科新設 アドボカシー相談員配置
平成19年11月1日	CRC事務室設置
平成20年4月1日	院内感染対策担当新設 肝臓内科新設 冠疾患集中治療室新設 婦人内視鏡科新設
平成20年6月2日	市内救急医療派遣事業（Kawasaki ONE PIECE）開始
平成20年10月1日	日本口腔外科学会認定関連研修施設
平成21年1月1日	新総合医療情報システム（HOPE／EGMAIN－GX）稼働
平成21年4月1日	新生児集中治療管理室（NICU）再開
平成21年4月1日	新生児科新設
平成21年7月1日	DPC導入
平成21年7月7日	川崎DMAT（災害医療派遣チーム）設置病院として指定
平成21年11月12日 ～19日	第48回全国自治体病院学会を川崎市（サンピアンかわさき）で開催 学会長 市立川崎病院長 長 秀男
平成22年4月1日	神奈川県周産期救急医療システム中核病院として指定
平成22年4月1日	神奈川県地域周産期母子医療センターとして認定
平成22年4月1日	臨床研究支援室の設置
平成22年12月1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける
平成23年3月23日	神奈川DMAT指定病院として指定
平成24年4月1日	事務局担当部長配置
平成24年4月1日	医療相談室が地域医療部へ移管
平成24年5月1日	糖尿病内科新設 内分泌内科新設 腎臓内科新設 小児外科新設 乳腺外科新設

平成24年5月1日	循環器科、新生児科、耳鼻いんこう科及び感染症科から循環器内科、新生児内科、耳鼻咽喉科及び感染症内科へ組織名変更
平成24年8月7日	病床数を713床（一般663、精神38、感染12）に変更
平成24年10月20日	川崎市立3病院合同災害医療訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる重症患者等搬送訓練
平成24年11月1日	7：1看護配置の取得
平成24年11月26日	ER初療ベットを10床に増設
平成24年12月1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける（H24.12.1～H30.11.30）
平成25年3月1日	助産外来開設
平成25年4月1日	リウマチ科からリウマチ膠原病・痛風センターへ組織名変更 腫瘍内科新設 ペインクリニック内科新設 アレルギー科新設
平成26年4月1日	血液内科新設
平成27年4月1日	庶務課に企画調整担当を設置 内視鏡室から内視鏡センターへ組織名変更 医師及び歯科医師の給与制度改正
平成27年9月11日	神奈川DMA T（川崎病院隊）茨城県常総市へ派遣
平成27年12月15日 ～16日	病院機能評価受診
平成28年1月1日	「病院の基本理念」「病院運営基本方針」「患者さんの権利」「臨床における倫理指針」を「川崎市立川崎基本理念」「病院運営方針」「患者さんの権利」「患者さんの責務」「患者さんへのお願い」に改定
平成28年1月23日	(公)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定
平成28年2月3日	救命救急センター10周年記念講演会開催
平成28年3月30日	地域医療支援病院の名称承認

2 人事の変遷（平成28年4月1日現在）

	歴代	氏 名	在 任 期 間
病 院 長	初代	竹 山 且 子	昭和10年 9月 5日 ～ 昭和17年11月 9日
	2代	依 田 稔	昭和16年 7月18日 ～ 昭和18年 4月 2日
	3代	博 田 三雄治	昭和18年 4月 2日 ～ 昭和27年 7月24日
	4代	宮 尾 啓	昭和27年 7月25日 ～ 昭和39年 9月 1日
	5代	勝 正 孝	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	山 本 浩	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 2月 1日
	7代	藤 森 一 平	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和61年11月30日
	8代	林 茂	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	9代	入 交 昭一郎	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	10代	岩 田 嘉 行	平成11年 4月 1日 ～ 平成12年 3月31日
	11代	武 内 可 尚	平成12年 4月 1日 ～ 平成15年 3月31日
	12代	秋 月 哲 史	平成15年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日
	13代	長 秀 男	平成20年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
	14代	堀 内 行 雄	平成22年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
	15代	増 田 純 一	平成25年 4月 1日 ～ 平成28年 3月31日
	16代	成 松 芳 明	平成28年 4月 1日 ～ 現在に至る。
理 事 担当理事	初代	堀 内 行 雄	平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
	2代	増 田 純 一	平成24年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
	3代	林 保 良	平成24年 4月 1日 ～ 現在に至る。
	4代	堀 内 行 雄	平成25年 4月 1日 ～ 平成26年 3月31日
	5代	番 場 正 博	平成27年 4月 1日 ～ 現在に至る。
副 院 長	初代	宮 尾 啓	昭和26年 1月23日 ～ 昭和27年 7月24日
	2代	高 村 長 治	昭和34年 8月 1日 ～ 昭和36年 9月 1日
	3代	勝 正 孝	昭和36年12月 1日 ～ 昭和39年 8月31日
	4代	石 田 堅 一	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和45年 3月31日
	5代	山 本 浩	昭和45年 4月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	藤 森 一 平	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 1月31日
	7代	菅 野 卓 郎	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和56年 3月31日
	8代	斉 藤 敏 明	昭和56年 4月 1日 ～ 昭和62年 3月31日
	9代	鹿 野 達 男	昭和60年 1月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	10代	入 交 昭一郎	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	11代	山 本 泰 秀	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	12代	岩 田 嘉 行	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	13代	松 岡 康 夫	平成 9年 4月 1日 ～ 平成15年 3月31日
	14代	武 内 可 尚	平成11年 4月 1日 ～ 平成12年 3月31日
	15代	納 賀 克 彦	平成12年 4月 1日 ～ 平成17年 3月31日

16代	堀 内 行 雄	平成15年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
17代	篠 原 弘 子	平成16年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
18代	関 賢 一	平成17年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
19代	長 秀 男	平成19年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
20代	成 松 芳 明	平成20年 4月 1日	～	平成28年 3月31日
21代	齊 田 和 子	平成20年 4月 1日	～	平成25年 3月31日
22代	久場川 哲 二	平成21年 4月 1日	～	平成22年 3月31日
23代	竹 中 信 夫	平成21年 4月 1日	～	現在に至る。
24代	増 田 純 一 (兼)	平成22年 4月 1日	～	平成25年 3月31日
25代	番 場 正 博	平成25年 4月 1日	～	平成27年 3月31日
26代	綱 嶋 たかえ	平成25年 4月 1日	～	現在に至る。
27代	宮 川 俊 一	平成27年 4月 1日	～	現在に至る。
28代	大曾根 康 夫	平成28年 4月 1日	～	現在に至る。

事 務 長

初代	海 野 才 知	昭和20年 6月 1日	～	昭和21年 8月23日
2代	白 倉 謙 一	昭和21年 8月24日	～	昭和27年 7月24日
3代	宇田川 政 之	昭和27年 7月25日	～	昭和29年 8月27日
4代	石 井 一 郎	昭和29年 8月28日	～	昭和30年 7月31日
5代	石 井 英 夫	昭和30年 8月 1日	～	昭和37年 4月30日
6代	竹 山 忠 雄	昭和37年 5月 1日	～	昭和40年 3月31日
7代	森 己之松	昭和40年 4月 1日	～	昭和42年10月31日
8代	塚 原 重 年	昭和42年11月 1日	～	昭和44年 3月31日
9代	小 熊 栄 次	昭和44年 4月 1日	～	昭和47年10月 4日
10代	遠 藤 文 郎	昭和47年10月 5日	～	昭和47年12月13日
11代	田 代 穆 彦	昭和47年12月23日	～	昭和54年 4月30日
12代	重 岡 賢 治	昭和54年 5月 1日	～	昭和57年 1月31日
13代	上 野 松 治	昭和57年 2月 1日	～	昭和62年 3月31日
14代	岡 庭 英 昭	昭和62年 5月 1日	～	平成元年 3月31日
15代	白 鳥 房 夫	平成元年 4月 1日	～	平成 3年 3月31日
16代	藤 井 健 司	平成 3年 4月 1日	～	平成 5年 3月31日
17代	鈴 木 嗣 明	平成 5年 4月 1日	～	平成 6年 3月31日

事務局長

18代	斎 藤 至 旦 (経営担当理事)	平成6年4月1日	～	平成 8年 3月31日
19代	蟹 江 徹 也 (経営担当理事)	平成8年4月1日	～	平成10年 3月31日
20代	菊 池 敏 彦 (経営担当理事)	平成10年4月1日	～	平成11年 3月31日
21代	山 本 栄 一 (経営担当理事)	平成11年4月1日	～	平成13年 3月31日
22代	石 井 洋二郎 (経営担当理事)	平成13年4月1日	～	平成14年 3月31日
23代	佐 藤 猛 (経営担当理事)	平成14年4月1日	～	平成15年 3月31日
24代	添 田 真 郷	平成15年 4月 1日	～	平成17年 3月31日
25代	鈴 木 康 夫	平成17年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
26代	佐々木 元 行	平成20年 4月 1日	～	平成21年 3月31日

	27代	高 井 敏 雄	平成21年 4月 1日	～	平成26年 3月31日
	28代	柄 崎 智	平成26年 4月 1日	～	平成28年 3月31日
	29代	田 邊 雅 史	平成28年 4月 1日	～	現在に至る。
総 婦 長	初代	植 田 まき子	昭和20年 6月 1日	～	昭和39年 9月30日
	2代	船 場 宮 子	昭和39年10月 1日	～	昭和53年 6月30日
	3代	久保田 好 實	昭和53年 7月 1日	～	昭和58年 9月30日
	4代	加治木 ユ リ	昭和58年10月 1日	～	昭和61年 3月31日
	5代	高 木 昌 子	昭和61年 4月 1日	～	昭和62年 4月30日
看護部長	6代	久保田 好 實	昭和62年 5月 1日	～	平成 2年 3月31日
	7代	庄 崎 雅 子	平成 2年 4月 1日	～	平成 7年 3月31日1
	8代	高 木 サカエ	平成 7年 4月 1日	～	平成10年 3月31日
	9代	強 矢 智恵子	平成10年 4月 1日	～	平成13年 3月31日
	10代	釣 巻 慈 子	平成13年 4月 1日	～	平成15年 3月31日
	11代	篠 原 弘 子 (兼)	平成15年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
	12代	齊 田 和 子 (兼)	平成20年 4月 1日	～	平成25年 3月31日
	13代	綱 嶋 たかえ (兼)	平成25年 4月 1日	～	現在に至る。
救命センター長	初代	石 井 誠一郎	平成17年 7月 1日	～	平成18年 3月31日
救 命 救 急	初代	石 井 誠一郎	平成18年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
センター所長	2代	堀 内 行 雄 (兼)	平成21年 4月 1日	～	平成22年 3月31日
	3代	竹 中 信 夫 (兼)	平成22年 4月 1日	～	平成27年 3月31日
	4代	田 熊 清 継	平成27年 4月 1日	～	現在に至る。

Ⅱ 概 要

1 施 設

所 在 地 川崎市川崎区新川通12番1号

〒210-0013 TEL 044(233)5521 FAX 044(245)9600

敷地面積 19,813.32m²

建物面積 6,325.94m²

延床面積 49,890.18m²

2 病 床 数

713床 内訳：一般 663床 感染 12床 精神 38床（平成28年3月31日現在）

へリポート

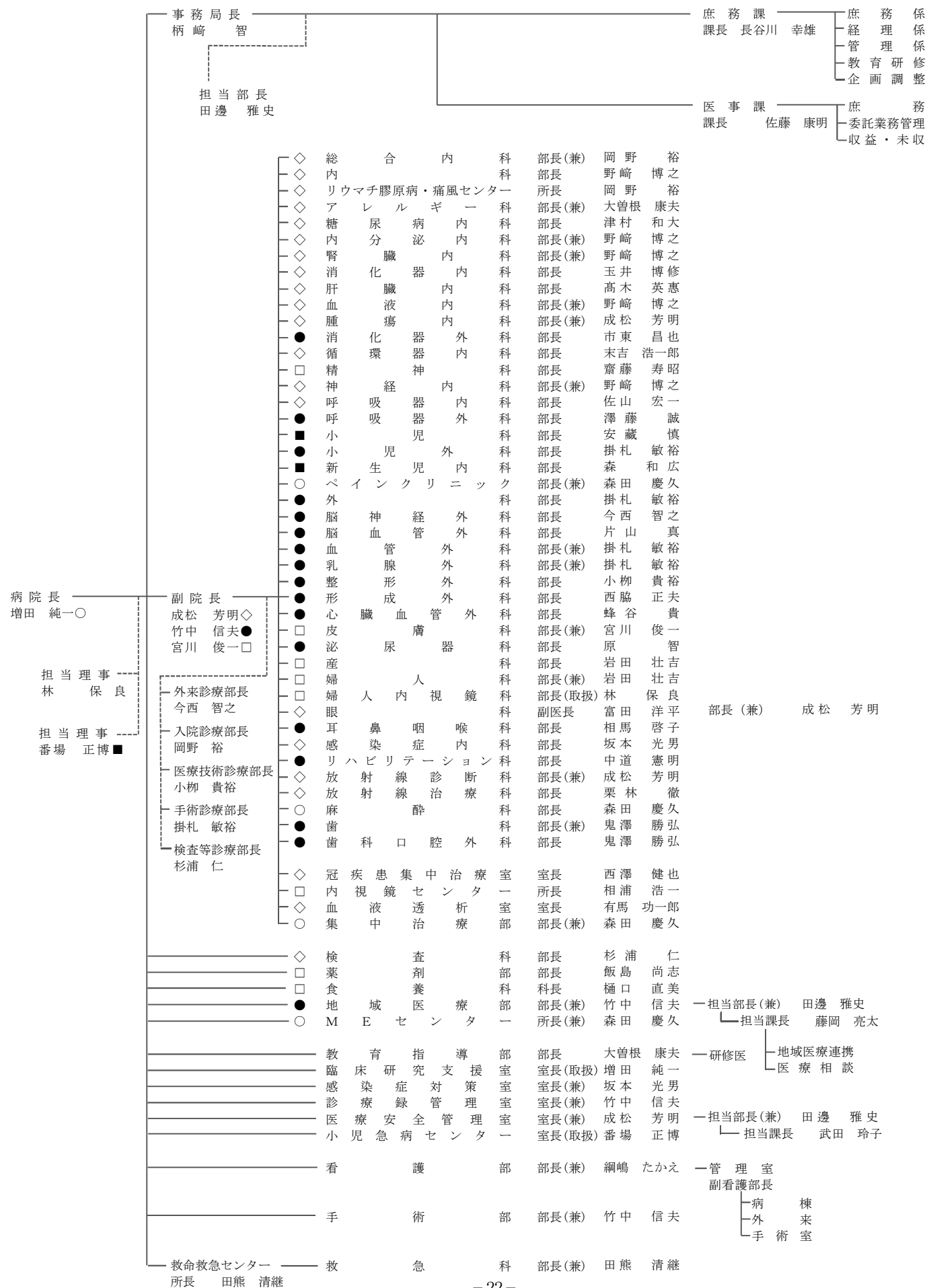
E L V機械室					
職員・一般レストラン		15	食 養 科 厨 房		
内科（51床）	南 病 棟	14	内科（47床）・透析（5床）		
内科・神経内科（53床）		13	心臓血管外科・循環器科（51床）		
脳神経外科・皮膚科・放射線科・ リハビリテーション科・内科（53床）		12	耳鼻いんこう科・眼科・歯科口腔外科・ 泌尿器科・形成外科（51床）		
外科（53床）		11	外科（53床）		
婦人科・整形外科（52床）		10	整形外科・形成外科（53床）		
感染症（12床）・救命救急センター（20床）		9	精神科（38床）		
小児科（41床）・G C U（18床）・ N I C U（6床）		8	分娩室・産科（44床）		
講堂・会議室	電気室	7	リネン室・ベッドセンター	手術部空調機械室	
総合医局	解剖室・霊安室	6	MEセンター		
	I C U（8床） C C U（4床）	5	中央器材室	手術室（11室）	
	医療安全管理室	4	看護部・地域連携室・会議 室・検体検査・電話交換室	図書室・病理・管理部門	
	診療録管理室・内視 鏡室	3	小児科外来	生理・細菌検査・リハビリテ ーション・外来治療センター	
	採尿・採血室・薬剤 部・臨床研究支援室	2	歯科・歯科口腔外科 精神科外来・血液センター	C T・X線・放射線科 結石破碎室	
	医事課・薬剤部 入退院受付・売店・ATM	1	医療相談室 S P D・防災センター	放射線治療・MR・核医 学・廃棄物センター	
コジェネ室・ボイラー室		B1	中央監視室		

A棟（外来棟）

B 棟

C 棟

担当診療科
○増田 純一 ■番場 正博 ◇成松 芳明 ●竹中 信夫 □宮川 俊一



4 職員の状況

(1) 職種別現員

職 種	平成27年 3月1日 現 員 数	平 成 27 年 度				平成28年 3月1日 現 員 数	平成28年 4月1日 現 員 数
		採 用	異動人数	退 職	異動出棟		
医 師	126	32		29	2	127	127
歯 科 医 師	3			1		3	2
薬 剤 師	22	3		1	2	22	22
助 産 師	23	3		1		25	28
看 護 師	561	63	2	52	4	568	583
(准看護師)	4					4	4
歯 科 衛 生 士	2					2	2
栄 養 士	6	2				8	8
臨 床 検 査 技 師	22			1		21	23
診 療 放 射 線 技 師	28	3			2	29	30
理 学 療 法 士	7				1	7	6
作 業 療 法 士	3					3	4
言 語 聴 覚 士	2	1				3	3
視 能 訓 練 士	2					2	2
臨 床 工 学 技 士	5	2				6	6
一 般 事 務 職	25	1	10	1	6	28	28
医 療 事 務 職							2
社 会 福 祉 職	3		1			3	3
電 気 職	2					2	2
小 計	842	110	13	86	17	859	881
手 術 指 導 等 医 師	3	1		2		2	2
専 攻 医	45	42		36	1	54	56
臨 床 研 修 医	24	16		14		22	23
地 域 連 携 看 護 師	3					2	2
地 域 医 療 連 携 事 務	1					1	1
心 理 、 精 神 保 健	4	1				4	4
ア ド ボ カ シ ー 業 務	2			1		2	3
保 育 業 務	8	2		2		8	7
医 療 相 談 業 務	10	2		2		9	10
臨 床 検 査 専 門 員	1					1	1
診 療 報 酬 請 求 専 門 員	2					2	2
主 任 診 療 報 酬 請 求 専 門 員	1					1	1
臨 時 的 任 用 雇 用 事 務 嘱 託 員	1	2		3		1	1
医 療 福 祉 相 談 員	2	1		1		3	4
臨 床 研 究 支 援 業 務	3	2				2	3
安 全 衛 生 管 理 嘱 託 員	1	2		1		1	1
医 療 情 報 シ ス テ ム 管 理 専 門 員	1					1	2
各 種 委 員 会 書 記 業 務	2			1		2	2
診 療 情 報 管 理 業 務	3					3	3
周 産 期 心 理 相 談 業 務	1					1	1
救 急 業 務 嘱 託 員	1					1	1
診 療 報 酬 請 求 シ ス テ ム	1					1	1
臨 床 研 究 支 援 室 事 務 補 助	0			1		1	1
退 院 支 援 ・ 相 談 業 務	2	1		3		2	
教 育 指 導 部 関 係 業 務	0	1				1	1
小 計	122	73	0	67	1	128	133
合 計	964	183	13	153	18	987	1,014

※ (准看護師)数は、看護師数の再掲の数字を示す。

※ 手術指導等医師以下、全て非常勤嘱託員

(2) 平成27年度退職者及び平成28年4月1日付け院外異動者

＊印は院外異動者

医 師

＊ 岩 田 壮 吉	平成19年9月1日	～	平成28年3月31日	角 浩 史	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
＊ 福 原 悠 介	平成26年10月1日	～	平成28年3月31日	白 井 俊	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
高 川 佳 明	平成26年9月1日	～	平成27年4月30日	堂 本 佳 典	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
吉 野 華 菜	平成26年7月1日	～	平成27年4月30日	鴨 志 田 久 美	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
仙 波 宏 史	平成27年4月1日	～	平成27年6月30日	金 澤 慶	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
古 川 律 子	平成25年10月1日	～	平成27年8月31日	藏 成 香	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
別 所 祐 貴	平成25年1月1日	～	平成27年9月30日	兵 頭 正 浩	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
橘 田 祐 樹	平成25年6月1日	～	平成27年9月30日	長 谷 川 靖 浩	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
大 門 憲 史	平成25年10月1日	～	平成27年9月30日	宮 田 順 之	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
真 壁 健	平成27年7月1日	～	平成27年9月30日	鈴 木 まり 重	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
日 高 悠 葵	平成25年1月1日	～	平成27年9月30日	佐 藤 悠	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
近 野 祐 介	平成27年4月1日	～	平成27年9月30日	小 泉 知 子	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
竹 田 貴	平成27年10月1日	～	平成27年12月31日	小 林 茉 莉	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
増 田 純 一	平成21年4月1日	～	平成28年3月31日	種 本 俊	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
東 谷 卓 美	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日	菅 野 瑛 梨	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
松 永 篤 志	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日	片 桐 翔 治	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
筒 井 麻 衣	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日	飯 尾 み な み	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
切 詰 和 孝	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日	藏 成 勇 紀	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
大 野 聡 一 郎	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日	的 場 優 介	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
内 田 貴 仁	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日	伏 見 茜	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
小 杉 哲 平	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日	船 山 拓 也	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
安 藏 慎	平成18年8月1日	～	平成28年3月31日	及 川 裕 之	平成27年6月1日	～	平成28年3月31日
津 村 由 紀	平成25年7月1日	～	平成28年3月31日	牧 里 紗	平成27年10月1日	～	平成28年3月31日
後 藤 正 之	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日	森 永 將 裕	平成27年11月1日	～	平成28年3月31日
飯 島 茂 異 人	平成28年1月1日	～	平成28年3月31日	吉 永 怜 史	平成28年1月1日	～	平成28年3月31日
大 西 英 之	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日				
相 馬 啓 子	平成23年4月1日	～	平成28年3月31日				
鳥 飼 秀 幸	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日				
永 井 美 江	平成23年4月1日	～	平成28年3月31日				
入 江 理 恵	平成19年10月1日	～	平成28年3月31日				
伊 藤 壮 一	平成18年4月1日	～	平成28年3月31日				

歯科医師

佐 藤 仁	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
-------	-----------	---	------------

非常勤医師・歯科医師

＊ 有 馬 聖 永	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
青 山 ま ゆ	平成24年12月1日	～	平成27年4月30日
山 本 裕 子	平成26年4月1日	～	平成27年4月30日
三 谷 麻 里 絵	平成26年4月1日	～	平成27年5月31日
小 室 祥 子	平成26年8月1日	～	平成27年6月19日
高 橋 希 衣	平成27年4月1日	～	平成27年6月30日
増 澤 佑 哉	平成27年4月1日	～	平成27年6月30日
北 畑 伶 奈	平成27年4月1日	～	平成27年9月30日
山 本 保 天	平成27年7月1日	～	平成27年9月30日
吉 田 稔	平成26年4月1日	～	平成27年12月31日
眞 鍋 淳	平成27年10月1日	～	平成27年12月31日
川 島 裕 平	平成27年7月1日	～	平成28年2月29日
大 谷 慧	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
坂 本 容 規	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日

臨床研修医

小 林 健	平成27年10月26日	～	平成27年11月22日
進 藤 淳 也	平成27年11月23日	～	平成28年1月24日
木 下 水 葵	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
田 中 千 尋	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
朝 比 奈 祐 一	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
西 浦 美 穂	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
津 崎 盾 哉	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
荒 井 香 菜	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
有 田 祐 起	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
佐々木 雅 世	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
中 西 美 沙	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
西 恵 美 里	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
上 園 志 穂	平成27年10月5日	～	平成28年3月31日
古 守 真 由 子	平成27年10月5日	～	平成28年3月31日

看護師・助産師

＊ 稲 部 眞 由 美	昭和55年4月1日	～	平成28年3月31日
＊ 藤 原 実 香	平成4年4月1日	～	平成28年3月31日
＊ 堀 部 貴 子	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
＊ 小 寺 清 美	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
土 居 未 依	平成26年4月1日	～	平成27年5月31日
呉 屋 百 合 菜	平成27年4月1日	～	平成27年5月31日
塚 本 紀 子	平成18年4月1日	～	平成27年6月30日

小笠原 香織	平成20年4月1日	～	平成27年6月30日
善理 祐子	平成22年1月1日	～	平成27年6月30日
多田 弥生	平成23年4月1日	～	平成27年6月30日
上地 碧	平成24年4月1日	～	平成27年6月30日
青木 英里子	平成24年4月1日	～	平成27年6月30日
関口 優子	平成24年4月1日	～	平成27年6月30日
柴田 洸介	平成24年4月1日	～	平成27年6月30日
柴田 桜	平成24年4月1日	～	平成27年6月30日
緒方 悠	平成24年4月1日	～	平成27年6月30日
松苗 玲香	平成24年4月1日	～	平成27年8月31日
福村 楓	平成27年4月1日	～	平成27年9月9日
朱通 真弓	平成25年1月1日	～	平成27年9月30日
小野 寺賢	平成25年4月1日	～	平成27年9月30日
市川 麻美	平成5年4月1日	～	平成27年10月31日
駒野 久恵	平成10年4月1日	～	平成27年10月31日
眞壁 絢子	平成25年4月1日	～	平成27年10月31日
叶内 美沙	平成27年4月1日	～	平成27年10月31日
川田 さやか	平成27年4月1日	～	平成27年11月30日
柳下 優司	平成27年10月1日	～	平成27年11月30日
亀山 景子	平成22年4月1日	～	平成27年12月31日
中村 咲貴	平成25年4月1日	～	平成27年12月31日
白井 佳子	平成10年5月1日	～	平成28年3月31日
鈴木 ゆかり	昭和58年4月1日	～	平成28年3月31日
佐藤 和子	昭和64年1月1日	～	平成28年3月31日
大槻 妙子	平成2年1月1日	～	平成28年3月31日
前田 玲子	平成8年4月1日	～	平成28年3月31日
福田 千恵	平成14年4月1日	～	平成28年3月31日
永野原 玲子	平成17年4月1日	～	平成28年3月31日
田中 靖弘	平成19年4月1日	～	平成28年3月31日
藤井 夏希	平成19年10月1日	～	平成28年3月31日
坂本 晴香	平成21年4月1日	～	平成28年3月31日
山崎 真美子	平成22年4月1日	～	平成28年3月31日
山村 沙由里	平成23年4月1日	～	平成28年3月31日
高岡 由季	平成24年4月1日	～	平成28年3月31日
長澤 優花	平成24年4月1日	～	平成28年3月31日
佐藤 佳奈	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
高木 怜美	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
高田 望	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
磯本 奈苗	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
佐藤 亜沙美	平成25年7月1日	～	平成28年3月31日
山崎 千裕	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
坂本 秀一郎	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
丸山 幹枝	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
中村 菜摘	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
仲宗根 将司	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
高橋 聡	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
工藤 香澄	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
小原 智子	平成26年10月1日	～	平成28年3月31日
伊藤 桃子	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
野口 茜	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日

事務

＊長谷川 幸雄	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
＊鈴木 和文	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
＊内田 政人	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
＊奥 知子	平成22年4月1日	～	平成28年3月31日
＊中島 啓	平成24年4月1日	～	平成28年3月31日
＊伊藤 和茉 柄崎 智	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日

薬剤師

＊高 綱 薫	平成13年5月1日	～	平成28年3月31日
＊齋藤 裕太 坪田 結香	平成25年4月1日	～	平成28年3月31日
	平成23年4月1日	～	平成28年3月31日

臨床検査技師

殿岡 弘敏	平成17年4月1日	～	平成28年3月31日
-------	-----------	---	------------

診療放射線技師

＊小菅 友也	平成13年5月1日	～	平成28年3月31日
＊南 雅之	平成21年4月1日	～	平成28年3月31日

理学療法士

＊山本 柳三郎	平成20年4月1日	～	平成28年3月31日
---------	-----------	---	------------

アドボカシー業務

大井 富美子	平成26年4月1日	～	平成28年3月31日
--------	-----------	---	------------

保育業務

岡崎 その子	平成26年4月1日	～	平成27年11月27日
大橋 恵	平成22年2月1日	～	平成28年3月31日

医療相談業務

高橋 幸治	平成24年4月1日	～	平成27年10月15日
丹野 彦治	平成26年4月1日	～	平成27年12月31日

臨時的任用雇用事務嘱託員

中村 梨恵	平成27年4月1日	～	平成27年4月21日
麻生 節子	平成20年4月1日	～	平成27年8月31日
中山 恵美子	平成27年8月16日	～	平成28年3月31日

医療福祉相談員

栗原 稔	平成27年4月1日	～	平成28年3月31日
------	-----------	---	------------

安全衛生管理嘱託員

和田 直子	平成27年4月1日	～	平成27年11月30日
-------	-----------	---	-------------

各種委員会書記業務

新井 優実	平成24年4月1日	～	平成28年3月31日
-------	-----------	---	------------

臨床研究支援室事務補助

岩 尾 愛 子 平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日

退院支援・相談業務

藤 原 愛 海 平成26年8月1日 ～ 平成27年6月30日

高 木 容 代 平成27年2月1日 ～ 平成28年3月31日

大 竹 容 子 平成27年7月1日 ～ 平成28年3月31日

5 主要医療器械・備品

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
手 術 室	弁手術用開胸器システム	St.Jude Medical KS-7002 他	1 式	
〃	腹腔鏡下手術システム	カールストルツ エンドビジトリカム	1 式	
〃	婦人科用腹腔鏡システム	オリンパス UHI-3 他	1 式	
〃	膝関節鏡システム	0988-010-000-S2 他	1 式	
〃	脳神経外科内視鏡セット	オリンパス工業 光学視管 (A7500A) 他	1 式	
〃	脳外科用手術顕微鏡	OPMI CS-NC+NC2	1	
〃	尿管鏡	原田産業 M3 テレスコープ 他	1 式	
〃	頭部固定装置 (バデーハローリトラクター)		1	
〃	電動手術台 (手術台テーブル)	マッケ・ジャパン 1150.15DO	1	
〃	電子内視鏡	フジノン EL2-TF410 TYPE41	1	
〃	電子スコープ	フジノン EL2-TF410	1	
〃	電気手術装置システム	エルベ VIO300D	1	
〃	電気手術装置	アムコ VIO300D	1 式	
〃	電気メス装置	エルボトーム ICC350	1	
〃	電気メス	バリーラブ フォース FX 本体 他	3	
〃	超音波診断装置 (外科)	SSA-240A	1	
〃	超音波凝固切開装置	ジョンソン・エンド・ジョンソンハーモニックスカルペルⅡ	1	
〃	超音波画像診断装置		1	
〃	創外固定器システム		1	
〃	全身麻酔器	オメダ エクセル 210SE	1	
〃	心拍出量測定装置	日本光電 DDG-2001	1	
〃	手術用無菌水手洗装置	MRE-SR-3 型, 2 型	1	
〃	手術室無影灯 (4 脳外科用)	山田医療照明 U6160	1	
〃	手術室無影灯 (5 心外用)	山田医療照明 No11-4	1	
〃	自動洗浄除染乾燥装置	エムエス WD/LS-76CS	1	
〃	自己血回収システム	セルセーバー 5 CS-2005	1 式	
〃	耳鼻科用内視鏡手術装置	ストライカー MV-882TE 他	1	
〃	耳鼻科用ドリルシステム	ジンマー オステオンドリルシステム 5038-001	1 式	
〃	耳鼻科内視鏡システム	カールストルツ IMAGE1	1 式	
〃	耳鼻咽喉科用手術顕微鏡	ライカ M500-N/MS-1	1	
〃	子宮鏡セット	オリンパスヒステロスコープHYF-XP他	1 式	
〃	高周波ラジオ波メス	エルマン・ジャパン サージマックス	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
手 術 室	血管内超音波診断装置	ボストン・サイエンティフィック GALAXY TM2	1	
〃	結石破碎装置	コントロールユニット840-100 他	1	
〃	経皮的循環補助システム	テルモ キャピオックスEBS	1式	
〃	経食道トランスジューサー	オムニプレーン 2 21367A	1	
〃	関節鏡システム	ジンマー IM3300システム	1式	
〃	関節鏡システム	オリンパス	1式	
〃	患者監視装置	日本コーリン BP-508N	2	
〃	患者監視装置		1	
〃	外科用X線テレビ装置	日立メディコ Sirius Floating/C	1式	
〃	外科用X線テレビジョン装置	OEC-9600	1	
〃	フレキシブルビデオラパロ スコープセット	フジノン	1式	
〃	マイダレックスモーターシ ステム	ムラナカ	1式	
〃	バリーラブフォースG S U ユニット	米国バリーラブ社	1	
〃	ハーモニックスカルペル	ジョンソン&ジョンソン GEN04	1	
〃	ナビゲーターGPSシステム	タイコヘルスケア 097010 他	1式	
〃	ナビゲーションシステム	メドトロニック TERON plusシステム	1式	
〃	ドリルシステム	日本メドトロニック マイダスレックス・ハイスピードド リル・レジェンド・システム	1式	
〃	鏡視下脊椎手術セット	メドトロニック ME T R x システム	1式	
〃	イリゲーション付バイポー ラセット	J & J CMC-3	1式	
〃	C T 定位脳手術装置	駒井式	1	
〃	腹腔鏡用カメラシステム	オリンパス VISERAProシステム	1	
〃	電気手術装置（4台）	バリーラブ ForceTriad	4	
〃	超音波血流計	Medi-Stim社 トランジットタイム血流計 VQ4122	1	
〃	全身麻酔器（2台）	GE横河メディカルシステム エスティバ 7900Pro、気化器Sevotec7	2	
〃	耳鼻科用シェーバー/ドリ ルシステム	メドトロ・ソファモアダネック XPS3000	1	
〃	喉頭観察鏡システム	オリンパス PortaView-LF	1	
〃	急速輸液加温システム	スミスメディカル レベル1システム/レベ ル1ホットライン	1	
〃	マイクロサージェリー手術台	瑞穂医科 最低位41 c m以下	1	
〃	皮膚灌流圧測定器	カネカメディックス PAD3000	1	
〃	周術期患者情報システム	オムロンコーリン	1式	
〃	外科用手術顕微鏡システム	ライカ他M525-MS3/MKC-507	1式	
〃	電動マイクロドリル	ストライカーコアシステム	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
手 術 室	気道式ドリルシステム	エースクラップ他ハイランHS コンプリートスペック他	1式	
〃	ラジオフリークエンシーシステム	スミスアンドネフュー他ValcanEASSystem他	1式	
〃	外科用X線TV装置	東芝メディカルシステムズ	1	
〃	生体情報モニタ	オムロンコーリンソーラー8000i	1式	
〃	ハーモニックスカルペルⅡ	ジョンソン・エンド・ジョンソンGEN04他	1式	
〃	処置用ビデオスコープ	オリンパス ENF-VT2	1	
〃	腎盂/上下尿路観察鏡セット	オリンパス URF-V他	1式	
〃	整形外科用ドリルシステム	ストライカー コードレスドライバー3	1	
〃	関節鏡カメラシステム	スミス・アンド・ネフュー 560シリーズ	1式	
〃	電気メス	東機貿 ベサリウスMCM	1	
〃	電気けいれん治療器	光電メディカル サイマトロン	1	
〃	内視鏡手術カメラシステム	カールストルツ IMAGE1他	1	
〃	腹腔・胸腔用TVシステム	オリンパス OTV-S7PRO	1式	
〃	電解質TUR+内尿道切開システム	オリンパス WA22367A 他	1式	
〃	手術顕微鏡システム	ライカ OH4	1式	
〃	脊椎内視鏡 SPINAL ENDOSCOPES セット	カールストルツ spinal endoscopes セット	1式	
〃	腹腔鏡・胸腔鏡TVシステム	オリンパス VISERA ELITE 他	1式	
〃	超音波吸引システム	オリンパス SONOSURG-G2	1式	
〃	デュアルイメージングカラ	ライカ DIC500FL	1式	
〃	開胸器（一般）	日本ストライカー システム 7 胸骨鋸ハンドピース他	1式	
〃	眼科用冷凍手術システム	キーラー・アント・ワイター クライオマチック M-4100	1式	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケアジャパン VIVIDi	1	
〃	バッテリーハンドピース	日本ストライカー システム 7 シングルトリガーロータリーハンドピース他	1式	
〃	下肢静脈瘤レーザー治療用超音波診断装置	GEヘルスケアジャパン LOGIQe Expert	1	
〃	内視鏡下手術用TVシステム	オリンパス VISERA ELITE OTV-S190 他	1式	
〃	眼底観察システム	カールツァイス Resight 他	1式	
〃	下肢静脈瘤レーザー治療器	インテグラル ELVeS レーザー	1	
〃	移動型外科用X線撮影装置	GEヘルスケア・ジャパン OEC9900 Elite Standard-C 12Inch	1	
〃	Force Triad	コウイデイエシ エネルギープラットフォーム	1	
〃	手術用治療機器	オリンパス Surgical Tissue Management System	1	
〃	白内障・硝子体手術装置	日本アルコン コンステレーションビジュアルシステム LXT	1	
〃	内視鏡システム	日本ストライカー 内視鏡 1488 カメラシステム	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
手 術 室	軟性尿管ビデオスコープ	オリンパス URF-V 他	1	
〃	手術用无影灯 STERIS LED 2 灯式	アムコ S27-0724 他	1	
〃	電解質溶液下レゼクトセット	オリンパス OTV-S7ProH-HD-L08E D 他	1	
〃	手術用ナビゲーションシステム	ブレインラボ KICK ナビゲーションシステム	1	
〃	電動手術台	マッケジヤパン	1	
〃	◎ハイスピードドリル	日本メドトロニック EM200 他	1	
〃	◎手術用カメラ・I テレスコープ	カールストルツ	1	
〃	◎超音波画像診断装置	LOGIQ S8	1	
〃	◎无影灯	STERIS LED 2 灯式	2	
〃	◎无影灯	STERIS LED 2 灯式 (カメラ非対応) S27-5953	1	
〃	◎高周波電源焼灼装置灼装置	USG-400	1	
〃	◎无影灯	アムコ STERIS LED 2 灯式	2	
〃	◎无影灯	アムコ STERIS vLED 2 灯式 (カメラ非対応)	1	
器 材 室	滅菌設備	サクラ精機	1	
〃	滅菌コンテナ		1	
〃	中央器材室セット 5	ムラナカ 113-002-03 他	1 式	
〃	高圧蒸気滅菌装置	サクラ精機 FI-370E	1	
〃	プラズマ滅菌器	ジョンソン&ジョンソン ステラッド 200	1	
〃	システム乾燥機	サクラ精機 SNK-1152E	1	
〃	インテリジェントトレイシステム	自治体病院共済会	1 式	
〃	RO水用洗瓶洗浄装置	三菱レーヨン MRE-SSX1	1	
〃	自動滅菌システム及び自動供給制御システム	サクラ精機一式	1 式	
〃	スリッパ洗浄器	オカダ医材	1	
〃	酸化エチレンガス滅菌装置	サクラ精機他 SHE-G15W 型	1 式	
〃	ジェット式超音波洗浄装置	シャープ MU5100	2	
〃	ジェット式超音波洗浄装置	サクラ精機 WUS-3100	1	
〃	◎高圧蒸気滅菌装置	HS6613TDR2-SR-UL	1	
麻 酔 科	混合血酸素飽和度監視システム	日本光電 INVOS4000 他	1	
〃	超音波診断装置	GE 横河メディカル Vivid I	1	
〃	全身麻酔器	GE 横河メディカル エスティバ 7900	1	
〃	人工呼吸器解析装置システム	大正医科 VT-PLUS	1 式	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
麻 酔 科	人工呼吸器	日本光電 ザビーナ	1	
〃	血液ガス分析装置	ノバ・メディカル スタットプロファイル CCX1	1	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケア アバンスケアステーションPro	2	
〃	経皮的循環補助システム	テルモ キャピオックスEBS他	1式	
〃	全身麻酔器	GEヘルスケアジャパン アバンスケアステーションPro	2	
〃	◎超音波診断装置	富士フイルム S-Nerve	1	
外来手術室	高周波ラジオ波メス	エルマン サージマックス	1	
〃	眼科用手術顕微鏡	カールツァイス OPMI Lumera T	1	
〃	移動用外科用X線装置	東洋メディック Premier	1	
〃	超音波白内障硝子体手術装置	アルコン インフィニティ・アキュラス 4400	1	
〃	眼科用ヤグレーザー手術装置	エレックス ウルトラQオフサルミックヤ グレーザー	1	
〃	◎ミニCアームX線診断装置	ホロジック	1	
MEセンター	保育器（超未熟児用）	アトム V-2100HL	2	
〃	体外循環用血液パラメータ モニターシステム	テルモ CDI500	1式	
〃	人工呼吸器	日本光電 ザビーナ	1	
〃	人工呼吸器	日本光電 Savina5380008 他	1	
〃	人工呼吸器	日本光電 EVT-4000 他	1	
〃	人工呼吸器	東機貿 ニューポート E100M	7	
〃	人工呼吸器	東機貿 E-100M	6	
〃	人工呼吸器	ニューポートベンチレーター	2	
〃	人工呼吸器	ドレーグルメディカル ザビーナ	2	
〃	自動赤血球沈降速度測定器	TMR-6000	1	
〃	血液成分分離装置	スペクトラVer6	1	
〃	医用テレメーター	日本光電 WEP-8530	2	
〃	医用テレメーター	日本光電 WEP-4202,4204,4208	1	
〃	医用テレメータ	日本光電 WEP-4204	1	
〃	医用テレメータ	日本光電 WEP-4204	1	
〃	ライフスコープ11	日本光電	1	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-7105,7106	5	
〃	ニューポートレスピレータ ー	東機貿 E-100A	2	
〃	心筋保護液供給システム	泉医科 HCP-5000	1式	
〃	医用テレメーター	日本光電 WEP-5218	2	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

（取得価格：160万円以上）

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
MEセンター	人工呼吸器	日本光電 HAMILTON-C2	3	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina300	2	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina300	2	
〃	心拍出量測定装置	エドワーズライフサイエンス Vigilance II	1	
〃	非侵襲的人工呼吸器	フィリップス・レスピロニクス V60	1	
〃	輸液ポンプテスター	フルーク・バートメディカル IDA-4Plus/4ch,データ解析用パソコン 東芝Dynabook T453/33JW	1	
〃	血液浄化装置	旭化成メディカル ACH-Σ,データ解析用パソコン 富士通LIFEBOOK P772/G	1	
〃	ビシランスヘモグレイミックス	エドワーズライフサイエンス VIG2	2	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina300	1	
〃	バイタルサインシュミレーター	大正医科 Prosim8SP	1	
〃	◎人工呼吸器	レスピロニクス Trilogy02Plus	1	
〃	◎人工呼吸器	コヴィディエン P B 9 8 0	1	
〃	◎人工呼吸器	コヴィディエン P B 8 4 0	1	
〃	◎バイタル連携対応機器	テルモ	1	
放 射 線 科	乳房用X線撮影装置	インストルメンタリウムイメージング社 (diamond)	1	
〃	超音波画像診断装置・腹部検査用	東芝メディカルシステムズ	1	
〃	大容量冷却遠心機		1	
〃	体外式衝撃波結石破碎装置	ドルニエメドテックシステムズ Delta II	1	
〃	パノラマ撮影X線装置	モリタ X500CP-CR	1	
〃	治療計画用CT装置	東芝メディカルシステムズ AquilionLB TSX-201A/1A 16列	1	
〃	腔内小線源治療装置	ニュークレトロン社マイクロセレクトロン HDR	1	
〃	救急外来用一般X線撮影装置	島津製作所 UD150B-40 他	1式	
〃	救急室X線CT装置	東芝メディカルシステムズ Asteion	1式	
〃	移動型X線撮影装置	日立メディコ シリウス130H P	1	
〃	移動型X線撮影装置	島津製作所 モバイルアートルミナ	1	
〃	放射線治療システム	バリアン社 CLINACiX	1式	
〃	放射線監視システム		1式	
〃	ピクチャーテルメドリンク S	ピクチャーテル CP-1746	1	
〃	ハンドフットクロスモニター	アロカ MBR-201	1	
〃	ガンマカメラ	東芝メディカルシステムズGCA-7200A/DI	1	
〃	定位放射線治療システム	ユーロメディテック社スカルペル	1式	
〃	ガンマカメラ	東芝メディカルシステムズGCA-9300A/UI型	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
放 射 線 科	多軌道断層撮影装置	島津製作所 HLZ-110	1	
	〃 X線骨塩定量装置	QDR-4500A	1	
	〃 X線CT装置	東芝メディカルシステムズ Aquilion64	1式	
	〃 RI遮蔽用鉛貯蔵庫	TH-J1331	1	
	〃 RIフード	TH-F1602	1	
	〃 MR造影剤自動注入装置	根本杏林堂 ソニックショット50 他	1	
	〃 超電導磁気共鳴画像診断装置	フィリップス Achiva 1.5T NovaDual	2式	
	〃 CRシステム	FCR5000, FCR9501-HQ 他	1式	
	〃 遠隔式X線透視撮影装置	島津製作所 Cvision Safire 17	1	
	〃 X線CT装置	東芝メディカルシステムズ Aquilion64	1	
	〃 ガンマカメラ	シーメンスジャパンSymbia E	1	
	〃 医用画像作成装置及び外部データ取込み装置	コドニクス他 画像取込/書き込み一式	1式	
	〃 アブレーションシステム	セントジュード CoolPathシステム一式	1式	
	〃 心血管用アンギオ装置	フィリップス Allura Xper FD10	1	
	〃 汎用アンギオ装置	フィリップス Allura Xper FD20	1	
	〃 全身用X線コンピューター撮影装置	東芝メディカルシステムズ AquilionCX	1式	
	〃 インバータ式回診用X線撮影装置	島津製作所 MobileArt Evolution	1	
	〃 放射線読影レポート用音声入力システム	アドバンスト・メディア	1式	
	〃 デジタル画像処理システム	富士フィルムメディカル CALNEO-C 他	1式	
	〃 多目的デジタルX線TVシステム	島津製作所 SONIALVISION G4	1	
	〃 X線発生装置	東芝メディカルシステムズ RADREX MRAD-A80S/2G	4	
	〃 X線発生装置	東芝メディカルシステムズ RADREX MRAD-A80S/BH	2	
	〃 ◎回診用X線撮影装置	FUJIFILM DR CALNEO Go	1	
検 査 科	誘発電位検査装置	日本光電 MEB-5508	1	
	〃 病理検査支援システム	インテック Expath II	1式	
	〃 脳波検査システム	日本光電 EEG-1514	1式	
	〃 内視鏡画像ファイリングシステム	オリンパス光学 EVIS-NET	1式	
	〃 電子顕微鏡	日本電子 JEM-1010	1	
	〃 超音波診断装置（循環器）	GE横河メディカル Vivid7 Dimension 4D	1	
	〃 超音波画像診断装置	Core Vision SSA-350A, 340A	2	
	〃 超音波画像診断装置	GEヘルスケアジャパン LOGIQ7	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
検 査 科	心電計	日本光電 ECG-9422 他	1	
〃	心電計	日本光電 ECG-9372	3	
〃	実験台 4 (解剖室)		1	
〃	実験台 3 (標本切出室)		1	
〃	実験台 2 (病理検査室)		1	
〃	実験台 1 (細菌検査室)		1	
〃	自動封入装置	サクラ精機 SGC-400-D	1	
〃	自動染色装置	サクラ精機 DRS-2000B	2	
〃	嫌気性インキュベーター	ヒラサワ ANX-3 (a)	1	
〃	蛍光顕微鏡	本体 ニコン E8-RFL-2 他	1	
〃	解剖台	サクラ精機 KBH-LA	1	
〃	運動負荷試験システム	日本光電 ECG-9522 トレッドミル	1式	
〃	密閉式自動固定包埋装置	サクラファインテックジャパン ETP-5-F	1	
〃	ABIフォルム	日本コーリン from PWV/ABI	1	
〃	超音波診断装置	G Eヘルスケア LOGIQ7	1	
〃	凍結組織切片作製装置	サクラファインテック ティッシュテック クライオ	1	
〃	自動採血管準備システム	テクノメディカ BC・ROBO-787	1式	
〃	血液照射装置	IBL-437C	1	
〃	輸血管理システム	オーソオートビューシステム	1	
〃	超音波診断装置	G Eヘルスケア LOGIQ7	1	
〃	生理検査システム	日本光電 PrimeVita他	1式	
〃	呼気ガス分析装置	ミナト医科 AE-310SRC他	1式	
〃	血圧脈派検査装置	オムロン HFA-203RPEⅢ	1	
〃	超音波診断装置 (汎用)	東芝メディカルシステムズ Aplio400	1式	
〃	全自動免疫染色装置	ライカ Bond-max	1式	
〃	超音波診断装置 (乳腺精細用)	日立アロカメディカル Preirus	1式	
〃	総合肺機能検査システム	チェスト CHESTAC-8900N	1	
〃	脳波計	日本光電 EEG-1218	1	
〃	血液培養装置	シメックス・ビオメリュー バクテアアート 3D 360 型	1	
〃	全自動同定・感受性検査装置／感 染制御システム	シーメンスヘルスケア マイクロスキャン WalkAway96Plus	1	
〃	脳波計	日本光電 EEG-1214	1	
〃	筋電図・誘発電位検査装置	日本光電 MEB-2312	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
検 査 科	システム生物顕微鏡	オリンパス BX-53	1	
〃	◎加算心電図ソフトウェア	日本光電 ECG-2550	1	
〃	◎長時間心電図解析装置	日本光電 DSC-5500	1	
内視鏡センター	内視鏡画像ファイリングシステム	オリンパス光学 EVIS-NET	1 式	
〃	電子内視鏡システム	フジノン東芝 ES システム EL2-TF410	1 式	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス EVIS ルセラ 260 システム	1 式	
〃	電子内視鏡システム	オリンパス CV-260SL 他	1 式	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス EVIS LUSER PCF240 i	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q260A	2	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス CF-Q240ZI	1	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q260	2	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	3	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	1	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260Z	2	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	1	
〃	上部消化管処置用 2 チャンネル内鏡	オリンパス GIE-2T20	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-Q240	1	
〃	十二指腸用電子スコープ	オリンパス JF-240	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス TJF-240	1	
〃	下部消化管ビデオスコープ	オリンパス PCF-240L/ i	1	
〃	ベットサイドモニター	日本光電 BSM-83D1	1	
〃	ファイバースコープ	オリンパス BF-240	1	
〃	内視鏡管理システム	オリンパス SolemioENDO	1 式	
〃	高周波手術装置	エルベ VIO-300D	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス EVISLUCERA BF-6C260	1	
〃	アルゴンプラズマシステム	アムコ アルゴンプラズマ APC300 他	1 式	
〃	上部消化管汎用ビデオスコープ (2 式)	オリンパス GIF-H260	2	
〃	消化器内視鏡システム (2 式)	オリンパス EVIS LUCERA SPECTRUM	2	
〃	気管支超音波穿刺システム	オリンパス スコープ BF-UC260F-OL8/観測装置 EU-C2000	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-XP260F	1	
〃	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q26AI	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-H260	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
内視鏡センター	大腸ビデオスコープ	オリンパス PCF-Q2660AZI	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス JF-260V	1	
〃	超音波内視鏡システム	オリンパス EU-ME1 他	1 式	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-XP260F	1	
〃	上部消化管ビデオスコープ	オリンパス GIF-XP260NS	1	
〃	気管支ビデオスコープ	オリンパス BF-260	1	
〃	十二指腸ビデオスコープ	オリンパス JF-260V	1	
〃	◎内視鏡室マネージメントシステム	Solemio ENDO Ver. 4	1	
〃	◎電子内視鏡システム	LUCERA ELITE CV-290	1	
内 科	携帯型超音波診断装置	ソノサイトジャパン iLook25	1	
〃	血管内超音波診断装置	テルモ TU-C200	1	
〃	超音波診断装置	GEヘルスケア LOGIQP5	1	
〃	◎個人用多用途透析装置	日機装 DBG-03	1	
産 婦 人 科	超音波診断装置	持田シーメンスメディカル ソノビスタ C3000	1	
〃	超音波診断装置	東芝 SSA-340A 他	3	
〃	超音波診断装置	ソノビスター (MEU-1585)	1	
〃	婦人科内視鏡システム	オリンパス VISERA-PROCCU 他	1 式	
〃	超音波診断装置	日立アロカメディカル Prosound α 6	1 式	
〃	超音波画像診断装置	GEヘルスケア・ジャパン VOLUSON P8	4	
産婦人科外来	超音波診断装置	持田シーメンス X500	1	
〃	◎ヒステロ内視鏡システム	オリンパス OTV-S190	1	
外 科	超音波診断装置		1	
〃	ラジオ波焼灼装置	ボストンサイエンティフィックジャパン RF3000	1	
〃	◎超音波診断装置	東芝メディカルシステムズ Xario200	1	
耳鼻咽喉科	聴力検査装置	リオン AA-75	1	
〃	耳鼻科ユニット	永島医科 SNニューピアレスF (片面)	3	
〃	喉頭電子スコープセット	オリンパス ENF-V 他	1 式	
〃	吸入器	SNネブライザー装置ルミエール	1	
〃	眼振計	日本光電 MBN-1104	1	
〃	レーザー手術装置	ニーク ホルミウムヤグレーザー IH102	1	
〃	鼻咽喉内視鏡システム	オリンパス VISERA-PROCCU 他	1 式	
〃	インピーダンスオージオメーター	リオン RS-22	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
耳鼻咽喉科	重心動揺計	アニマ グラビコダ GP-5000	1	
〃	眼振図解析システム	第一医科 ニスタモグラフ FNG-1004 他	1 式	
〃	神経刺激モニター	日本メドトロニック N I Mレスポンス 3.0	1 式	
〃	耳鼻咽喉ビデオスコープ	オリンパス ENF-VQ	1 式	
〃	オージオメーター	リオン AA-H1	1	
泌尿器科	泌尿器用内視鏡装置	武井医科 TV-3500	1	
〃	泌尿器科用検診台	モリタ製作所 SPN-1	1	
〃	ウロダイナミクス検査装置	アムコ ウロラブスペクトラム	1	
〃	泌尿器内視鏡システム	オリンパス VISERAPro システム	1	
〃	超音波診断装置	東芝 NEMIO XG	1	
整形外科	埋込型シャウカステン	森山X線 ISH-02U (36 台) 他	1 式	
皮膚科	診断用顕微鏡	ニコン エクリプス 80i MTH5-31	1	
〃	近赤外線治療器	東京医研 スーパーライザー HA-2200LEI-DX 2WAY	1	
形成外科	QスイッチYAGレーザー	HOYA メドライト	1	
眼科	網膜電気図記録装置	トーマー PE-3000	1	
〃	非接触式角膜内皮細胞撮影装置	コーナン社 ノンコロンボ	1	
〃	投影式精査型視野計	タカギセイコー プロジェクションペリメーターMT-325UD	1	
〃	超音波画像診断装置	トーマー UD-6000A/B 他	1	
〃	自動視野計	カールツァイス HFA II 740	1	
〃	光干渉断層計	フリーエドメイン OCTRT Vue-100	1	
〃	眼科手術装置	アルコン アキュラス 800CS 本体 他	1	
〃	眼科検査訓練機器	クレメントクラーク社シノプトフォア 2001 他	1	
〃	画像ファイリング機能付スリットランプ	カールツァイス SL130	1	
〃	角膜形状測定装置	トーマー TNS-4	1	
〃	オートレフケラトメーター	キャノン RK-5	1	
〃	オートレフ・ケラトメーター	キャノン RK-F1	1	
〃	眼底カメラ	コーワ VX-10 i	1	
〃	マルチカラーレーザー光凝固装置	ツァイス	1	
〃	ピズラスPD Tシステム	スリットランプ SL130 付システム 690 S	1	
〃	眼科診療支援システム	ニデック NAVIS-HP 他	1	
〃	細隙灯顕微鏡	ハーグストレート 900BQ LED	1	
〃	細隙灯顕微鏡	カールツァイス	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
眼 科	オートレフケラトトノメーター	キャノン TX-20P 他	1	
〃	眼圧・角膜厚測定装置	キャノンライフケアソリューションズ TX-20P	1	
〃	◎眼軸長測定機器	カールツァイス iOL マスター (モデル 700)	1	
腎センター	透析用監視装置	日機装 DCS-73	1	
〃	多人数用透析液供給装置	日機装 DAB-10E	1	
〃	多人数透析液供給装置	日機装 DAB-05B	1	
〃	逆浸透性精製水製造装置	東レ・メディカル TW-300HI	1	
救 急 室	便尿器消毒機	ゲティンゲ S 406 他	1	
〃	搬送用人工呼吸器	ドレーゲルメディカル オキシログ 3000	1	
〃	経皮的心肺補助装置	テルモ キャピオックス EBS 他	1 式	
救命救急センター	高機能患者シミュレータ	METI (アイエムアイ) ECS 成人モデル	1	
〃	高機能 ICU ベッド	ヒルロム トータルスポーツケア	1	
〃	救急用ストレッチャー	日本ストライカー SM204	1	
〃	ポータブル超音波診断装置	ソノサイトジャパン マイクロマックス	1	
〃	ヘモダイナミックモニター	エドワーズライフサイエンス VIG2	1	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1 式	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1 式	
〃	ベッドサイドモニター	日本光電 BSM-2301	1 式	
〃	病棟モニタリングシステム	日本光電 CNS-9701	1 式	
〃	全自動血液ガス分析装置	バイエルメディカル ラピッドポイント 405	1 式	
〃	心電図受信装置	日本光電 CNS-9701	1 式	
〃	人工呼吸器	日本光電 EVT-400	2	
〃	血液透析濾過装置	旭化成メディカル Plasauto i Q21	1	
〃	救急用受信システム	日本光電 WEC-4100	1 式	
〃	陽・陰圧体外式人工呼吸器	メディベント社 RTX	1	
〃	超音波診断装置	ソノサイト L04326 他	1 式	
〃	救急・搬送用人工呼吸器	ドレーゲル	1	
〃	超音波診断装置 (救急用)	富士フイルムメディカル FAZONE M	1	
歯 科 口 腔 科	歯科用ユニット	FGMD2-163L	2	
〃	歯科用キャビネット	ウエダ キャビネット A B C 他	1	
〃	歯科用インスツルメント	長田電気	1	
〃	感染対策歯科セット	O F J - M Z L タービンセット 他	1 式	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
歯科口腔外科	デンタルユニット	GM/ML-223LL	1	
〃	セントラルシステム	フレクシークリーンエアバキューム 他	1 式	
心臓血管外科	遠心ポンプ	テルモ サーンズセントリ フューガルシステム	1 式	
〃	大動脈内バルーンポンプ	ゼメックス I A B P	1	
〃	大動脈内バルーンポンプ	エドワーズライフサイエンス CS-100	1	
〃	人工心肺装置	スタックカート スタックカート S 5	1	
リ ハ ビ リ	耳鼻咽喉ファイバースコープ	町田製作所 FLT-SIII 他	1	
〃	磁気刺激装置	ミュキ技研 マグスティムラピッドシステム	1 式	
〃	筋力評価訓練装置	酒井医療 BDX-3 他	1	
〃	起立訓練ベッド	酒井医療 SPR-8000	1	
〃	バランス・計測訓練機器	アニマ キネトグラビコーダ G-7100 他	1	
〃	トレッドミル		1	
〃	耳鼻咽喉ビデオスコープ	オリンパス OTV-S190 他	1	
透 析 室	透析用監視装置	日機装 DCS-73	1	
〃	HDF 監視装置	日機装 DCG-03	1	
〃	多用途透析監視装置	日機装 DCG-03	1	
〃	個人用透析装置	日機装 DBB-27	1	
8 階 北 病 棟	便尿器消毒機	ゲッチング S 406 他	1 式	
〃	分娩監視システム	アトムメディカル AFD-32 他 一式	1 式	
〃	体外受精用無菌培養システム	日本医科器械 HIS-M-1600CIS	1 式	
〃	新生児連れ去り防止システム	マトリックス IC タグセキュリティーシステム	1 式	
〃	産科病棟セキュリティーシステム	シスメックス C-CV20-2 他	1 式	
〃	顕微受精システム	オリンパス ON2-ICSI-II	1 式	
〃	分娩台	アトム LDR-7000	1	
〃	分娩監視装置・単胎用	アトムメディカル FM-20A/E-20 他	1 式	
〃	分娩監視装置・双胎用	アトムメディカル FM-20B/E-20 他	1 式	
〃	体外受精用培養器	クックメディカル ミニインキュベーター K-MINC-1000	1	
〃	超音波画像診断装置	シーメンス SONOVISTA FX premium edition	1	
8 階 南 病 棟	◎フラッシュャーディスイنفЕКター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
8 階 西 病 棟	人工呼吸器 (ベンチレーター)	東機質 SLE2000 他	1	
〃	新生児用人工呼吸器	東機質 SLE2000HFO	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
8 階 西 病 棟	インファントウォーマー	アトム V-505HL	1	
9 階 南 病 棟	肺理学療法システム	ヒルロム (パラマウント) トータルケア スポーツ	6	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル Savina	1	
〃	アークティックサン	アイエムアイ モデル 2000 VER. 4	1	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲ GETINGE607	1	
10 階 北 病 棟	◎フラッシュャーディスインフェクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
〃	◎病棟用医用テレメータシステム	H X C-1150	1	
10 階 南 病 棟	超音波診断装置	フィリップスメディカルシステムズ iE33	1 式	
11 階 北 病 棟	超音波画像診断装置	腹部検査用	2	
〃	新生児用人工呼吸器	東機貿 SLE2000	1	
11 階 南 病 棟	血管アクセス用超音波診断装置	メディコン サテライト 5	1	
〃	◎フラッシュャーディスインフェクター	GETINGE607LCC-2P-50	1	
12 階 北 病 棟	耳鼻科ユニット	永島医科 S I V ニューピアレス	1	
〃	細隙灯顕微鏡	ハーグストレイト 900BQV 他	2	
〃	ネブライザーユニット	永島医科 SN-P 型 3 人用	1	
12 階 南 病 棟	8 人用医用テレメーター	日本光電 WEP-5218	1 式	
13 階 北 病 棟	セントラルモニター	オムロンコーリン HXC-1190 他	1 式	
〃	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲ GETINGE607	1	
13 階 南 病 棟	フラッシュャーディスインフェクター	ゲティンゲ GETINGE607	1	
14 階 北 病 棟	介護浴槽	酒井医療 LUP-930G/P	1	
14 階 南 病 棟	医用テレメーター	オムロンコーリン HXC-1100 他	1 式	
N I C U	新生児用聴覚検査装置	日本光電 MAAS	1	
〃	新生児用人工呼吸器	ドレーゲル Babylog 8000plus	4	
〃	新生児用人工呼吸器	イワキ カリオペα	2	
〃	光凝固装置	エレックス ソリティア	1	
〃	血液ガス分析装置	ラジオメーター ABL835FLEX	1	
〃	C R システム	コダック CR ELITE-19	1	
〃	ポータブル X 線撮影装置	シーメンス MOBILETT XP	1	
〃	カウンターユニット・シーリングモジュール	セントラルユニ カウンターユニット+シー リングモジュール	1	
〃	C R P 測定器	日水製薬 エバネット E V 20	1	
〃	脳機能モニタ	アイエムアイ 16ch 124 01 20	1	
〃	呼吸機能測定装置	アイビジョンアーフェルⅢ	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
N I C U	閉鎖式保育器	アトムメディカル	10	
〃	生体情報モニター	フィリップス MP50	5	
〃	体温管理システム	アイ・エム・アイ アークティックサン	1	
〃	搬送用保育器	アトムメディカル V-808 Sp02	1	
〃	開放型保育器	アトムメディカル インファウォーマー I	1	
〃	閉鎖循環式保育器	アトムメディカル インキュ I	1	
ICU/CCU	便尿器消毒機	ゲッチング S 406 他	1	
〃	超音波診断装置	SONOS-5500	1	
〃	人工呼吸器	ドレーゲルメディカル エビタ 4	1	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル エビタ X L	1	
〃	人工呼吸器	ドレーゲル EVT4000	3	
〃	持続緩徐式血液濾過装置	旭メディカル Plasauto iQ	1	
〃	持続緩徐式血液浄化装置	旭メディカル ACH-10	1	
〃	在室患者監視システム	オムロンコーリン ベッドサイドモニタ Solar8000i	1	
〃	I C U天井懸垂システム	インケアポート MODEL-277	1 式	
〃	血液浄化システム	旭化成クラレ プラソート I Q21	1	
〃	高機能 ICU ベッド	パラマウントベッド KH-151	1	
感染対策室	採痰ブース	日本医科器械製作所 VCM-1500N2	1	
薬 剤 部	薬剤保管用縦型回転柵	クラヤ薬品 92C3-315-42	1	
〃	薬剤管理業務支援システム	ユヤマ クスリ箱エース 21 他	1 式	
〃	薬剤トレイ回収システム	セントラルユニ	1 式	
〃	電動式移動棚	クラヤ薬品 RAM-5240 K-TE 他	1	
〃	蒸留水製造装置	清水理化学機器 TKS-30	1	
〃	プレハブ低温室		1	
〃	I V H機器システム	日科ミクロン	1 式	
〃	調剤支援システム	ユヤマ一式	1 式	
〃	全自動散薬分包機	ユヤマ YS-TWIN-R93Ⅲ	2	
〃	全自動錠剤分包機	ユヤマ YS-TR-330FDS2	1	
〃	薬液・薬ビン用蒸気滅菌器	サクラ精機 ΣⅢYR-B09SLPC	1	
〃	注射薬自動払出システム	トーショー UNIPUL-4000-V4	1	
〃	◎バイオハザード対策用キャビネット	日科ミクロン B C G 401	2	
食 養 科	保温保冷配膳車	松下電工 CD1354P	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

所 属 別	品 名	規 格	数量	備考
食 養 科	プレハブ冷凍庫	日本調理機 HCA22A	1	
〃	食器洗浄機	日本調理機 DWF2-6RPE-01	1	
〃	哺乳瓶用乾熱滅菌装置	三田理化工業 MB-20E	1	
〃	スチームコンベクションオープン	ニチワ SCOS-2020RH-L 他	1 式	
〃	◎温冷配膳車	エレクトー MOG48RER-SY	4	
医 事 課	総合医療情報システム	富士通	1 式	
〃	ムーブラック	イトーキ	1	
〃	レセプトチェックシステム	エーアイエスマイティチェッカー	1	
〃	収納 POS レジシステム	富士通	6	
教育指導部	救命処置トレーニングシステム	レイダ爾社ハートシステム A C L S トレーニング	1 式	
〃	救命処置トレーニングシステム	レイダ爾社ハートシステム A C L S トレーニング	1 式	
〃	システムオートラック	マルタン	1	
庶務課・管理	物品器材管理システム	セントラルユニ	1 式	
〃	物品管理システム	セントラルユニ	1 式	
〃	ベッド洗浄機	DWA-2300	1	
〃	プラスチック破砕器	EC-15-30-B	1	
〃	ピアノセット	ヤマハ C3L	1 式	
〃	防災対策用カメラシステム	ヤマハ C3LTOA C-CV160S-3 他	1 式	
川崎病院	急性期患者情報システム	オムロンコーリン ICU システム・ER システム・OR システム	1 式	
〃	◎デジタルサイネージ機器	シャープ	1	

◎印は平成27年度新規購入及び買換を示します。

(取得価格：160万円以上)

6 主な委託業務

病院業務の効率的な運営を期して、業務の一部を次のとおり委託しています。

平成10年度から委託業務の一部を整理統合しました。

委 託 業 務 名	委 託 内 容	開始年度
清 掃	院内（病棟区域・外来区域）、構内清掃	昭和32年度
リネンセンター 運営管理業務	診療衣・看護衣・診察用布等の洗濯、折りたたみ 新生児・乳幼児用肌着等の提供と洗濯 入院患者寝具・洗濯・病棟配布 宿直職員及び夜勤看護師用寝具の提供と補修・洗濯 患者病衣の提供 ベッドセンター運営管理・補修室縫製等	昭和35年度 昭和41年度 昭和41年度 昭和48年度 平成6年度 平成10年度
施設管理業務	空調機・自家発電機・医療ガス設備・昇降機点検 機械設備管理・運転監視・空調設備保守等	昭和45年度 平成10年度
消防設備関係	外観・機能点検1回、総合点検1回	昭和45年度
検査業務	一般・血液・生化学・血清・細菌検査	昭和45年度
医 事 業 務	診察データの入力・診療報酬請求書・行為別集計等の作成 臨床クラーク（病棟及び外来の医療業務上の事務補助） 初診受付・再診受付・外来会計受付・電算入力 事務当直業務（時間外患者受付） 医事業務（全面委託）	昭和52年度 平成1年度 平成1年度 平成2年度 平成5年度
給 食 業 務	調理・盛り付け・配膳・下膳・食器洗浄等 給食材料の発注及び検収等	平成7年度 平成23年度
情報システム運用業務	総合医療情報システム管理運用業務	平成10年度
物 流 管 理 業 務	S P D（物流管理）・滅菌業務	平成10年度
院 内 保 安 警 備	院内の保安警備、駐車場管理業務 防災センター監視業務ほか	昭和43年度 平成10年度
放射性物質濃度法定測定	作業環境法に基づく測定業務	平成1年度
電 話 交 換 業 務	電話交換・院内放送業務	平成10年度
感染性産業廃棄物処理	廃棄物処理法による感染性産業廃棄物の処理	平成4年度
医事データ遠隔地保管	医事データのバックアップを外部で保管	平成13年度
そ の 他	歯科技工、害虫駆除、植木剪定、解剖臓器処理、カーテン賃貸借、院内保育室調理業務等、夜間保育（平成25年）	

7 図 書 室

平成 27 年度は、前年度に引き続き、研修医向けの図書室資料の充実を図りました。

地域医療支援病院として連携登録医に当院の図書室の利用ができることを案内していく中で、従来の「川崎病院図書室院外利用者利用規定」を改訂しました。

電子ジャーナルパッケージ「Clinical Key」を 12 月に導入し、講習会・登録会を開催しました。リモートアクセス登録を行うことで、院外からの利用が可能になりました。

「つつじ文庫」は多くの患者の皆様に好評を得ています。

蔵書は市民・職員の皆様の温かい御支援の下、多くの図書が寄贈されています。

平成 27 年度末現在約 32,000 冊の蔵書数となっています。

平成27年度図書室資料受入状況

区 分	購 入	寄 贈	計
単行書（和）	166	47	213
単行書（洋）	6	0	6
雑誌（和）	108	61	169
雑誌（洋）	53	3	56
視聴覚資料	0	0	0
年報・報告書	0	130	130
雑誌所蔵目録	1	2	3
検索用データベース	4	0	4
医中誌Web			
JDream3			
メディカルオンライン			
最新看護索引web			
臨床支援ツール	2	0	2
Up To Date			
今日の診療			
電子ジャーナル パッケージ	2	0	2
Clinical Key			
Fixed 10			

平成27年度和雑誌購読（108誌）

- | | |
|---------------------------------------|------------------------|
| 1 あたらしい眼科 | 38 看護 |
| 2 ブレインナーシング | 39 看護技術 |
| 3 病院 | 40 看護実践の科学 |
| 4 病院安全教育 | 41 看護管理 |
| 5 クリニカルエンジニアリング | 42 看護研究 |
| 6 地域連携入退院支援 | 43 看護きろくと看護過程 |
| 7 中毒研究 | 44 看護教育 |
| 8 電気と工事 | 45 看護展望 |
| 9 栄養と料理 | 46 肝・胆・膵 |
| 10 エキスパートナース | 47 緩和ケア |
| 11 エマージェンシーケア | 48 形成外科 |
| 12 がん看護 | 49 呼吸と循環 |
| 13 癌と化学療法 | 50 呼吸器ケア |
| 14 画像診断 | 51 コミュニティケア |
| 15 外科 | 52 厚生指標 |
| 16 月刊 保険診療 | 53 胸部外科 |
| 17 月刊 ナーシング | 54 救急医学 |
| 18 月刊 ナースマネジャー | 55 救急・集中治療 |
| 19 月刊 新医療 | 56 麻酔 |
| 20 月刊 薬事 | 57 Medical Practice |
| 21 ハートナーシング | 58 Medical Technology |
| 22 皮膚病診療 | 59 Medicina |
| 23 ホルモンと臨床 | 60 内科 |
| 24 ICUとCCU | 61 日本病院会雑誌 |
| 25 医学のあゆみ | 62 日本医事新報 |
| 26 医学のあゆみ 別冊 | 63 日本臨床 |
| 27 医学教育 | 64 脳神経外科 |
| 28 医学図書館 | 65 脳神経外科速報 |
| 29 Infection Control | 66 ナーシングビジネス |
| 30 胃と腸 | 67 ナーシングトゥデイ |
| 31 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 | 68 Nutrition Care |
| 32 腎と透析 | 69 オペナーシング |
| 33 JJNスペシャル | 70 Phase3:最新医療系 |
| 34 JOHNS | 71 ペリネイタルケア |
| 35 助産雑誌 | 72 プロフェッショナルがんナーシング |
| 36 Journal of Clinical Rehabilitation | 73 クインテッセンス・デンタル・インプラン |
| 37 重症集中ケア | トロジー |

- | | |
|--------------|--------------------|
| 74 レジデント | 92 精神科治療学 |
| 75 レジデントノート | 93 精神科看護 |
| 76 理学療法ジャーナル | 94 設備と管理 |
| 77 臨床栄養 | 95 歯界展望 |
| 78 臨床婦人科産科 | 96 神経内科 |
| 79 臨床外科 | 97 総合リハビリテーション |
| 80 臨床泌尿器科 | 98 消化器外科ナーシング |
| 81 臨床放射線 | 99 小児科 |
| 82 臨床整形外科 | 100 小児看護 |
| 83 臨床精神薬理 | 101 小児科診療 |
| 84 臨床透析 | 102 小児内科 |
| 85 老年精神医学雑誌 | 103 手術 |
| 86 作業療法ジャーナル | 104 周産期医学 |
| 87 産科と婦人科 | 105 糖尿病ケア |
| 88 整形外科 | 106 ヴィジュアル・ダーマトロジー |
| 89 整形外科 別冊 | 107 薬局 |
| 90 整形外科看護 | 108 全国自治体病院協議会雑誌 |
| 91 整形・災害外科 | |

平成27年度購読洋雑誌 (53誌)

- 1 American Heart Journal
- 2 American Journal of Medicine
- 3 American Journal of Obstetrics & Gynecology
- 4 American Journal of Ophthalmology
- 5 American Journal of Psychiatry
- 6 American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine
- 7 American Journal of Sports Medicine
- 8 American Journal of Surgery
- 9 Anesthesia & Analgesia
- 10 Annals of Emergency Medicine
- 11 Annals of Internal Medicine
- 12 Annals of Thoracic Surgery
- 13 Arthritis & Rheumatism (inc.Arthritis Care & Research)
- 14 Auris Nasus Larynx
- 15 Blood
- 16 BMJ:British Medical Journal (international)
- 17 Bone & Joint Journal (前誌: Journal of Bone & Joint Surgery(Br))
- 18 Cancer (inc.Cancer cytopathology)

- 19 Chest
- 20 Clinical Infectious Diseases
- 21 Diabetes Care
- 22 Gastroenterology
- 23 Hepatology (Liver Transplantation)
- 24 JAMA Dermatology (前誌 : Archives of Dermatology)
- 25 JAMA Ophthalmology (前誌 : Archives of Ophthalmology)
- 26 JAMA Otolaryngology-Head & Neck Surgery
(前誌 : Archives of Otolaryngology-Head & Neck Surgery)
- 27 JAMA Surgery (前誌 : Archives of Surgery)
- 28 Journal of Allergy & Clinical Immunology
- 29 Journal of American Academy of Dermatology
- 30 Journal of American College of Cardiology
- 31 Journal of American Medical Association
- 32 Journal of Bone & Joint Surgery (Am)
- 33 Journal of Clinical Oncology
- 34 Journal of Hand Surgery (Am)
- 35 Journal of Hand Surgery (Eur)
- 36 Journal of Neurosurgery
- 37 Journal of Orthopaedic Science
- 38 Journal of Pediatrics
- 39 Journal of Shoulder and Elbow Surgery
- 40 Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery
- 41 Journal of Trauma and Acute Care Surgery
- 42 Journal of Urology
- 43 Journal of Vascular & Interventional Radiology
- 44 Journal of Vascular Surgery
- 45 Lancet
- 46 Laryngoscope
- 47 Neurology
- 48 New England Journal of Medicine
- 49 Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology
- 50 Pediatrics
- 51 Radiology
- 52 Sports Health
- 53 Surgery

平成27年度購読電子ジャーナルパッケージ

- 1 Fixed10
- 2 Clinical Key (平成27年12月から購読開始)

平成27年度寄贈和雑誌 (61誌)

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 Circulation Journal | 32 日本産科婦人科学会 関東連合地方部会会誌 |
| 2 Clinical Pediatric Endocrinology | 33 日本産科婦人科学会 神奈川地方部会会誌 |
| 3 Gastroenterological Endoscopy | 34 日本産科婦人科学会 東京地方部会会誌 |
| 4 北海道農村医学会雑誌 | 35 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 |
| 5 茨城県救急医学会雑誌 | 36 日本整形外科学会雑誌 |
| 6 International Journal of Hematology | 37 日本歯科医師会雑誌 |
| 7 神奈川医学会雑誌 | 38 日本心臓血管外科学会雑誌 |
| 8 感染症 | 39 日本小児科学会雑誌 |
| 9 感染症学雑誌 | 40 日本小児救急医学会雑誌 |
| 10 川崎市医師会医学会誌 | 41 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 |
| 11 こども医療センター医学誌 | 42 日本透析医学会雑誌 |
| 12 共済医報 | 43 日赤医学 |
| 13 Nagoya Medical Journal | 44 Osteoporosis Japan(日本骨粗鬆症学会) |
| 14 日本エイズ学会誌 | 45 Pediatrics International |
| 15 日本腹部救急医学会雑誌 | 46 Reproductive Medicine and Biology |
| 16 日本顎関節学会誌 | 47 臨床評価 |
| 17 日本癌治療学会雑誌 | 48 臨床医薬 |
| 18 日本外科学会雑誌 | 49 臨床核医学 |
| 19 日本医師会雑誌 | 50 臨床血液 |
| 20 日本女性医学学会雑誌 | 51 臨床薬理の進歩 |
| 21 日本看護技術学会誌 | 52 聖マリアンナ医科大学雑誌 |
| 22 日本環境感染学会会誌(前誌：環境感染) | 53 歯科薬物療法 |
| 23 日本口腔科学会雑誌 | 54 島津評論 |
| 24 日本救急医学会雑誌 | 55 小児保健研究 |
| 25 日本救急医学会雑誌 関東地方会雑誌 | 56 帝京医学雑誌 |
| 26 日本内分泌学会雑誌 | 57 Therapeutic Apheresis and Dialysis |
| 27 日本内科学会雑誌 | 58 頭頸部癌 |
| 28 日本内視鏡外科学会雑誌 | 59 東京都医師会雑誌 |
| 29 日本農村医学会雑誌 | 60 予防医学 |
| 30 日本臨床外科医学会雑誌 | 61 横浜医学 |
| 31 日本産科婦人科学会雑誌 | |

平成27年度寄贈洋雑誌（3誌）

- 1 Gynecology and Minimally Invasive Therapy
- 2 International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery
- 3 Oral Science International

平成26年度神奈川県・川崎市年報、報告書（13誌）

- 1 神奈川県悪性新生物登録事業年報
- 2 神奈川県予防医学協会事業年報
- 3 神奈川県立がんセンター年報
- 4 神奈川リハビリテーション病院年報
- 5 川崎市健康安全研究所年報（前誌：川崎市衛生研究所年報）
- 6 川崎市立看護短期大学年報
- 7 川崎市立看護短期大学紀要
- 8 川崎市立井田病院年報
- 9 川崎市立川崎病院年報
- 10 川崎市立多摩病院年報
- 11 川崎市立川崎病院看護部看護研究集録
- 12 川崎市立川崎病院看護部事例研究集録
- 13 川崎市立川崎病院看護部活動実績

8 看護部の概況

平成 27 年度は、新規採用者 61 名と井田病院からの異動者 2 名の看護師を迎え入れ、看護職員（臨時的任用職員を含む。）675 名でスタートしました。

看護部の人材育成として、川崎市立病院「人材育成計画」にのっとり、病院局・井田病院・川崎病院合同で実施される「局研修」、それをフォローする川崎病院独自の「院内研修」、「院外留学研修」、そして OJT など、看護実践能力向上のため様々な研修企画及び研究支援を実施しました。

平成 27 年度は局研修に延べ 672 名が参加し、看護に必要なスキルを身につけることができました。また、研究においては、自己の看護実践を振り返る「事例研究」45 演題、業務改善や実践している看護の評価を基に看護を創造する「看護研究」12 演題の発表があり、看護において知の創造を生み出すことができました。さらに、全国自治体病院学会を始め全国の学会で 7 演題を発表し、研究成果を報告しました。

そして、地域との急性期医療のつながりを深めるため、院外留学研修（訪問看護ステーション見学実習）をスタートさせて 2 年目を迎えました。研修参加者は、患者・家族が安心して在宅ケアに移行できる支援・指導を実践している訪問看護師の実践から、退院後の生活と指導の結び付きの実際を知り、退院支援の強化につなげています。

また、平成 27 年 12 月 15 日から 16 日にかけて病院機能評価（3rdG : Ver. 1.1）を受審しました。承認を受けるためには乗り越えなければならない高いハードルがたくさんありましたが、受審準備を通してチーム医療の中のメディカルスタッフの活躍を改めて知る機会にもなりました。病院機能評価の審査の結果では、サーベイヤーから病棟でのケアプロセスの取組、医療安全や感染対策、退院調整等良質なチーム医療が提供されていると高い評価を頂きました。今後も職員全体研修、倫理カンファレンス、医療の質改善への取組等に専心し、課題をしっかりと受け止め、利用者のみならず職員にも説明責任を果たせる病院づくりを更に目指してまいります。

「2025 年問題」を控えて、高度急性期病院である当院も病院完結型の医療ではなく、地域全体の医療サービスを見据えながら近隣の病院や診療所と当院の各々の特徴をいかした機能分化及び連携を進めています。三次救急入院患者が増加する中、在院日数を短くしながら、安心して、自宅やリハビリ施設に移行できるように、必要時に集中的に高度医療を提供するため、チーム医療のキーパーソンとして活躍してまいります。

今後も高度急性期病院の強みをいかして、多くの患者さんに質の高いチーム医療が提供できるようにリーダーシップを発揮していきます。

(1) 看護職員配置数

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

項目 看護単位		許可 病床数	稼動 病床数	助産師 看護師	臨時 職員	夜勤人員		看護 助手	クラーク (委託)
						準夜	深夜		
		713	647						
看護部配置数				589					
看護部 4 月現在現在数				609					
14 階北病棟(内科・透析室)		52	42	32	1	4	4	3	1
14 階南病棟(内科)		51	46	30	1	4	4	4	1
13 階北病棟(心外・循環器内科)		51	46	29	4	4	4	4	1
13 階南病棟(内科)		53	48	31	1	4	4	3	1
12 階北病棟(泌・耳・眼・口腔)		51	46	28		3	3	2	1
12 階南病棟(脳・皮・放・リハ)		53	48	29	2	4	4	4	1
11階北病棟(外科)		53	48	28		4	4	4	1
11階南病棟(外科・肺外科)		53	48	28	2	4	4	3	1
10 階北病棟(整形外科・形成外科)		53	48	28	2	3	3	3	1
10 階南病棟(婦人科・整形外科)		52	47	27		3	3	2	1
9階北病棟 (精神科)		38	33	17	5	3	2	1	1
9階南病棟 (EICU・救命救急病棟・小児急病センター)		20	20	53		10	9		1
9 階西病棟 (感染症・ER)		12	12	13	5	2	2	4	1
8 階北病棟 (産科・新生児)		44	42	30	6	4	4	2	1
8 階南病棟・小児科外来		41	41	29	1	4	3	1	1
NICU		6	6	14	1	2	2	1	1
GCU		18	18	13	2	3	3		
5 階 ICU・CCU		12	8	27	1	4	4	1	1
5 階 手術室				35		2	2		1
外 来	A ブロック			32	25			4	31
	B ブロック								
	C ブロック								
副院長(看護部長)室				1					
看護部管理室				3					
担当課長・看護師長				1(再掲)					
看護師長				18(再掲)					
地域医療部兼務担当係長				1					
医療安全管理室兼務担当係長				1					
産休・育休・病休・休職・派遣研修				48					

(2) 職員の出身校別内訳・年齢分布・平均年齢

ア 出身校別内訳

(平成28年3月31日現在)

種別	学校 人数	看護大学	助産師校	看護短期 大学	看護専門 学校	准看学校
総 数	591人	85人	21人	154人	327人	4人
構成比(%)	100%	14%	4%	26%	55%	1%
助 産 師	25人	4人	21人	0人	0人	0人
構成比(%)	4%	1%	4%	0%	0%	0%
看 護 師	562人	81人	0人	154人	327人	0人
構成比(%)	95%	14%	0%	26%	55%	0%
准看護師	4人	0人	0人	0人	0人	4人
構成比(%)	1%	0%	0%	0%	0%	100%

イ 年齢分布

年齢	助産師	看護師(准看護師含む)	計
21	0	0	0
22	0	16	16
23	0	43	43
24	1	32	33
25	1	33	34
26	1	29	30
27	2	26	28
28	0	11	11
29	1	10	11
30～34	6	91	97
35～39	2	62	64
40～44	3	80	83
45～49	5	58	63
50～54	3	44	47
55～59	0	29	29
60～	0	2	2
合計	25	566	591

ウ 平均年齢

(平成28年3月31日現在)

助産師	看護師(准看護師含む)	総平均
34	35.9	35.9

(3) 勤続年数

【 助産師 : 7.8年 / 看護師(准看護師含む) : 9.8年 / 総平均 :
(平成28年3月31日現在)

年数	助産師	看護師 (准看護師含む)	年数	助産師	看護師 (准看護師含む)
	25人	566人			
0	3人	58人	20	0人	13人
1	4人	56人	21	1人	4人
2	0人	35人	22	0人	14人
3	3人	56人	23	1人	7人
4	2人	34人	24	0人	7人
5	2人	27人	25	1人	3人
6	1人	20人	26	0人	4人
7	1人	22人	27	0人	4人
8	0人	24人	28	0人	7人
9	1人	23人	29	0人	4人
10	0人	13人	30	0人	5人
11	0人	14人	31	0人	7人
12	0人	11人	32	0人	5人
13	1人	11人	33	0人	1人
14	1人	8人	34	0人	6人
15	1人	16人	35	0人	6人
16	2人	7人	36	0人	1人
17	0人	11人	37	0人	3人
18	0人	9人	38	0人	2人
19	0人	8人	39～	0人	0人

(4) 平成27年度看護職員採用・退職状況

採用者数	66名	助産師3名 看護師63名
退職者数	54名	助産師1名 看護師53名

(5) 通勤及び入寮状況

(平成28年3月31日現在)

通 勤	541名	91.8%	助産師23名・看護師514名・准看護師4名
入 寮	48名	8.2%	助産師2名・看護師46名

9 地域医療連携室

川崎病院は、平成28年3月30日付けで「地域医療支援病院」の承認を得ました。

当院は、地域の基幹病院として求められる高度・特殊な医療を確実かつ効率的に提供していくため、「かかりつけ医」を推進しています。そして、検査機器の共同利用や研修体制等の強化を行い、これまで以上に地域の医療機関と連携・協力しながら医療の質とサービスの向上に努めてまいります。

さらに、患者さんが住み慣れた町で安心して暮らし続けることができるように、退院支援職員が中心となり、病棟看護師や多職種と連携を図りながら、退院支援調整に力を入れていきます。

(1) 紹介率・逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紹介率	63.69	58.85	59.96	60.77	58.83	60.99	62.48	62.59	64.81	63.88	61.94	62.64	61.73
逆紹介率	69.8	74.85	74.7	71.04	70.16	76.18	74.99	78.13	86.03	80.03	93.54	99.69	78.82

(2) 地域医療連携業務

	受診依頼	入院依頼	転院依頼	かかりつけ医 紹介	診療情報 提供・依頼	紹介予約 件数
件数	1,895	371	204	698	1,143	495

(3) 退院支援業務

内容	退院調整会議	訪問看護	訪問診療	介護支援	HOT導入	その他 医療処置支援
件数	399	215	184	265	122	318

(4) 医療機器共同利用

	C T	M R I	腹部エコー	心エコー	骨シンチ	上部内視鏡	栄養相談
件数	135	163	37	29	13	77	4

(5) 地域広報業務

地域医療連携だより発行	(VOL.9 7月) (VOL.10 12月) (VOL.11 3月) 発行
外来診療担当表	川崎区・幸区内の診療所及び病院に毎月発送

(6) 在宅支援業務

内容	ショートステイ	あんしん見守り
件数	23	1

(7) 地域医療連携研修

NO.	開催月日	主催	名称	内容
1	4月28日(火)	内科・脳外科	川崎脳疾患を考える会	治療に関する講演と質疑応答
2	5月12日(火)	内科	川崎高血圧フォーラム	治療に関する講演と質疑応答
3	5月13日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	感染管理に関する講演と質疑応答
4	5月16日(土)・ 5月17日(日)	川崎病院	第6回神奈川県単位型 緩和ケア研修会	緩和ケアに関する知識と技術の習得
5	5月25日(月)	外科	第8回川崎外科病診連携の会	症例検討
6	6月17日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	急変時の対応に関する講義と 質疑応答
7	6月26日(金)	内科・ 整形外科	第20回リウマチ膠原病 懇話会	治療に関する講演と質疑応答
8	6月30日(火)	小児科	川崎市小児科医会症例検討会	症例検討
9	7月15日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	看護師の“うつ”
10	7月24日(金)	内科・総診	川崎病院講演会	在宅医療の現状と病診連携
11	8月5日(水)	整形外科	川崎病院整形外科WEB カンファレンス	治療に関する講演と質疑応答
12	8月19日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	摂食・嚥下障害についての 講義と質疑応答
13	9月7日(月)	救急科	川崎市立川崎病院院内講演会	外傷診療の心得
14	9月9日(水)	川崎病院	緩和ケアフォーラム	がんリハビリテーションについて
15	9月16日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	救急看護に関する講義と知識
16	10月20日(火)	地域医療部	第1回 地域ケア懇談会	地域ケアに関する懇談会
17	10月21日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	がん化学療法の副作用とケアの実際
18	11月11日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	高齢者のスキンケア・高齢者の インスリン療法
19	11月16日(月)	川崎病院	川崎病院講演会	治療に関する講演と質疑応答
20	11月27日(金)	内科・ 整形外科	第21回リウマチ膠原病 懇話会	治療に関する講演と症例検討 質疑応答
21	11月30日(月)	外科系・ 地域医療部	川崎病院・川崎区医師会 病診連携会	症例検討会
22	12月11日(金)	外科	川崎病院講演会	血管外科の治療とチーム医療
23	1月13日(水)	内科・ 循環器内科	川崎地域連携心不全治療 講演会	治療に関する講演と質疑応答
24	1月20日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	脳卒中患者のケア
25	1月21日(金)	リウマチ膠原病・ 痛風センター	リウマチ膠原病セミナー	治療に関する講演と質疑応答
26	1月22日(金)	地域医療部	第2回 地域ケア懇談会	地域ケアに関する懇談会
27	2月17日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	緩和ケアに関する講演と質疑応答
28	2月17日(水)	小児科	川崎市小児科医会症例検討会	症例検討会
29	2月26日(金)	地域医療部・ 診療部	第6回 幸・川崎病診Net	症例検討会
31	3月16日(水)	看護部・地域医療部	知っとくナース	認知症ケアに関する講演と質疑応答
32	3月23日(水)	口腔外科	川崎病院 口腔外科 病診連携セミナー	治療に関する講演と質疑応答

(8) 地域連携研修参加状況

		名称	主催
1	4月9日(木)	第5回 川崎区糖尿病診療を考える会	川崎市医師会
2	4月16日(木)	医療連携講演会	関東労災病院
3	4月20日(月)	川崎市外科医会学術講演会のご案内	川崎市医師会・川崎市外科医会・川崎市内科医会・川崎市整形外科医会
4	6月4日(木)	第81回 井田病院症例検討会	井田病院
5	6月11日(木)	聖マリアンナ医科大学東横病院「地域連携の会」	聖マリアンナ医科大学東横病院
6	6月27日(土)	川崎南部摂食嚥下・栄養研修会市民フォーラム	川崎南部摂食嚥下・栄養研修会
7	6月27日(土)	第二川崎幸クリニック内覧会	石心会
8	7月14日(火)	第6回医療と介護の連携のために退院時の支援を考える会「病院機能の特徴と関連機関との連携」	川崎市医師会
9	8月6日(木)	平成27年度第1回神奈川脳卒中連携の会	神奈川脳卒中連携の会
10	8月25日(火)	第1回巨樹の会グループ医療連携会	巨樹の会グループ
11	9月9日(水)	第12回川崎南部緩和ケアフォーラム	川崎南部緩和ケアフォーラム 川崎南部地区摂食嚥下・栄養研究会 川崎呼吸器ケア研究会
12	9月16日(水)	かわさき南部訪問看護ステーション運営委員会	川崎市看護協会
13	9月24日(木)	川崎市川崎区在宅療養推進協議会	川崎区医師会
14	9月30日(水)	第3回かわさき救急フォーラム	川崎救急フォーラム 川崎市救急告示医療機関協会
15	11月19日(木)	第4回川崎「医療・介護公開セミナー」	川崎区在宅療養推進協議会
16	1月13日(水)	川崎地域連携心不全治療講演会	川崎病院
17	1月15日(金)	悠翔会在宅クリニック「地域連携の会」	悠翔会
18	2月18日(木)	第13回川崎南部緩和ケアフォーラム	川崎南部緩和ケアフォーラム 川崎南部地区摂食嚥下・栄養研究会 川崎呼吸器ケア研究会
19	2月18日(木)	平成27年度第2回神奈川脳卒中連携の会	神奈川脳卒中連携の会
20	2月19日(金)	第1回地域異職種交流会	川崎七福診療所 福祉のツクイ
21	3月3日(木)	川崎市川崎区在宅療養推進協議会	川崎区医師会
22	3月24日(木)	第5回川崎「医療・介護公開セミナー」	川崎区在宅療養推進協議会

10 医療相談室

平成 27 年度に取り扱った援助内容は、退院援助に関する相談が全体に占める割合の 70.9%にまで達しています（表(1)(2)参照）。その内容は、在宅復帰に向けた福祉サービスについての相談や転院・他施設紹介という情報提供及び関係機関の調整にとどまらず、患者の抱える家族問題並びに経済的問題の整理及び解決への支援がかなりの比重を占めています。

年間の相談件数は、相談延件数で表しており、平成 26 年度は 41,624 件に対して、平成 27 年度は 33,240 件と減少しました（表(3)参照）。その他の業務の取扱い件数については、生活保護入院時申請援助が、平成 25・26 年度は 60 件台と減少傾向でしたが、平成 27 年度は 20 件増加して 85 件ありました。

医療通訳派遣システム事業調整は、年々増加傾向にあります。派遣言語は、中国語が 262 件と一番多く、次いで英語が 113 件、スペイン語が 100 件となっています。昨年に比べ、英語は減少傾向にあるものの、中国語は 3 倍以上増加しています。

重症心身障害児者短期入所について、今年度の利用件数は 32 名であり、利用実人数は 9 名です。平成 27 年度新規利用者は 1 名です。ほとんどの利用者が年度内に複数回の利用をしており、在宅生活を送るに当たり、貴重な社会資源の役割を担っています。

なお、受入れ病棟については、院内関係部署との話し合いで、平成 26 年度から 15 歳以下を小児科病棟、16 歳以上をその他の病棟としています。

(1) 平成 27 年度援助内容別集計（単位：件）

区 分 \ 月 別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
援 助 内 容	受診・受療援助	66	51	63	65	67	55	101	112	90	125	126	88	1,009
	医療費等経済的問題	104	84	236	252	167	240	259	191	135	110	167	92	2,037
	在宅退院援助	155	76	236	266	312	284	306	254	289	340	261	408	3,187
	転院・他施設入所援助	1,667	1,321	2,492	2,323	2,047	1,781	2,024	2,328	2,521	2,565	1,916	2,324	25,319
	生活保護等連絡調整	137	67	2	124	121	111	94	318	387	260	170	96	1,961
	精 神 科 関 連	26	6	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
	自立支援法短期入所	39	10	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49
	医療通訳派遣調整	75	51	0	34	45	28	32	35	55	85	50	120	673
	児童虐待・DV等援助	9	0	63	31	0	0	1	0	0	0	0	12	55
	福祉的サービス活用	398	261	2	881	789	580	540	436	292	325	217	328	5,728
	会議等連絡調整	13	0	681	18	0	6	16	0	0	0	0	0	73
	そ の 他	14	32	20	0	0	0	3	0	0	0	9	0	58
合 計		2,703	1,959	3,899	4,004	3,548	3,085	3,376	3,674	3,769	3,810	2,916	3,468	40,211

(2) 退院支援処理状況の推移

(単位：件)

年 度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
在 宅 退 院 援 助	2,489	2,639	3,626	2,565	3,187
転院・他施設入所等援助	23,532	26,991	24,884	29,991	25,319
退 院 援 助（計）	26,021	29,630	28,510	32,556	28,506
全 相 談 処 理 件 数	35,602	40,968	41,247	44,233	40,211
相 談 処 理 全 体 に 退院援助が占める割合	73.0%	72.3%	69.1%	73.6%	70.9%

(3) 相談方法別の相談延件数

(単位：件)

年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
相 談 方 法	面 接	7,680	9,584	10,518	10,685	7,682
	電 話 ・ 文 書 等	26,113	29,465	29,476	30,731	25,405
	訪 問 ・ そ の 他	56	90	97	208	153
相 談 延 件 数		33,849	39,139	40,091	41,624	33,240

(4) その他主な業務の取扱い件数の推移

(単位：件)

年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
生活保護入院時申請援助	住 所 不 定	39	42	34	31	26
	生 活 困 窮	45	47	29	34	59
生 活 保 護 日 用 品 費		93	67	54	41	67
重症心身障害児者短期入		26	42	44	23	32
医療通訳派遣システム事業調整		236	366	479	560	569
児 童 虐 待 連 絡 検 討 会		12	2	3	5	2
計		451	566	643	694	755

11 医療安全管理室

医療安全管理室は、安全な医療の提供と医療の質の向上を目的に、医療安全管理体制の確立及び医療事故の予防並びにインシデントの再発防止対策を推進しています。

平成 27 年度は 10 月から開始の医療事故調査制度に向けた体制整備を行いました。施行事例として、委員会開催及び報告書の作成を 1 事例行いました。また、インシデントレポートシステムの更新に伴い、インシデントレベルの変更と合併症・併発症の用語の定義を整理しました。各部署から報告されるインシデントレポート件数は年間 4,000 件以上になりますが、報告されたレポートを集計・分析し医療安全関連の委員会で検討しています。さらに、警鐘事例や共有事例については再発防止策を立案し周知する必要があると、薬剤部や検査科・ME センター等、他部門・他職種と連携しながら改善策を示しています。医療機器の安全使用については、機器別に毎年勉強会を企画して医療機器の設定や管理について知識・技術の向上を目指しています。院内のシステム改善としては、ワーファリンのアラーム設定の追加、院内で AED を使用する際の包括指示を作成し、マニュアルに追加しました。

昨今、社会的な問題である院内暴力・暴言対策としましては、院内にポスターを掲示して組織的な抑止を図るとともに、職員の安全性を確保するため 24 時間体制で警察 OB を配置する等、体制が整備されています。また、現場で暴力やハラスメントを受けた職員からの報告を奨励し、現状を加味した活用できる暴力暴言対応マニュアルとして改訂しています。

医療行為を実施するに当たっては、患者・家族の意思を尊重し納得の得られる説明と同意が不可欠です。医療者と患者・家族間では当然情報量に差があり、医療者には理解しやすい表現で丁寧に説明する義務があります。平成 27 年度は当院における説明と同意に関する手順の改訂を行いました。

医療安全を推進するためには、他職種が連携し、専門性を発揮しながらチーム医療として力を高める必要があります。平成 27 年度から医療安全ラウンドを開始し、各種医療チームによる組織横断的な情報共有を図りました。また、事例検討会や合同カンファレンスの開催等、全職員が医療安全と医療の質の向上に努めています。

(1) 平成27年度 インシデントレポート件数

	平成 26 年度	平成 27 年度	増減	平成 27 年度 構成比
薬剤	1,278	1,665	387	40.3%
輸血	22	19	△3	0.5%
治療・処置	268	373	105	9.0%
医療機器等の使用・管理	106	116	10	2.8%
ドレーン・チューブ類等の使用・管理	521	608	87	14.7%
検査	226	284	58	6.9%
療養上の場面	581	698	117	16.9%
その他	307	367	60	8.9%
合計	3,309	4,130	821	100.0%

* 複数の職員からレポートの提出があった場合は、1件として集計しています。

(2) 主な改善項目

	項目	目的 改善内容
治療・処置	医療機器の使用・管理	● 心電図モニターの装着の目安を電子カルテにアップ ● 院内 AED 使用時の包括指示の作成、AED の設置場所・平面図の修正
	電子カルテ	● ワーファリンの過剰投与の予防策としてアラームの表示
療養生活	暴言暴力への対応	● 暴言・暴力マニュアル改訂
	安全への取組	● 外来患者間違い防止→ドアに掲示 ● CV ポートの管理→ポートの反転を透視下で確認する方法、ポートの種類、ロックに関する注意喚起 ● カラーシリンジの使用基準→再注意喚起 ● 注射ダブルチェックの変更
	改訂及び新規作成	● 車椅子・歩行器の点検表作成
マニュアル		● 医療安全管理ポケットマニュアル作成→全職員配布 ● VTE マニュアルの改訂 ● カリウム製剤ハイリスクマニュアルの改訂 ● 説明と同意に関する手順改訂 ● 医療法第 6 条の 11 に伴う医療事故調査委員会要綱設置 ● 医療安全管理指針改訂

12 定例院内会議

(1) 三役会議【病院長、事務局長、担当理事①、副院長④、担当部長、庶務課長、医事課長】週 1 回

(2) 運営会議【病院長、事務局長、担当理事②、副院長④、各科部・課(科)長、担当部・課(科)長】月 2 回

(3) 各種委員会

(平成28年3月1日現在)

番号	委員会名 活動内容	委員長名	役職名	統括 開催予定
1	倫理委員会 (脳死判定委員会) *医療行為に関し、倫理的・社会的観点から審査等を行う。	成松 芳明 (竹中 信夫)	副院長 (副院長)	成松副院長 (竹中副院長)
2	職員服務委員会 *職員の服務の確立と不祥事故防止の徹底を図る。	増田 純一	病院長	病院長 必要に応じて開催
3	病院(経営)改善委員会 (DPCコーディング部会) (病院機能再編検討委員会) (県がん診療連携指定病院準備委員会) *経営改善及び調査等を行い検討する。	増田 純一 (野崎 博之) (番場 正博) (成松 芳明)	病院長 (内科部長) (担当理事) (副院長)	病院長 (病院長) (病院長) (病院長)
4	防火防災管理委員会 *消防法に基づき、院内の防災対策を検証及び推進する。	増田 純一	病院長	病院長 必要に応じて開催
5	医療安全管理委員会 (医療安全管理部会) *医療事故を防止し、安全かつ適切な医療体制を確立する。	成松 芳明 (岩田 壮吉)	副院長 (産科・婦人科部長)	成松副院長 (成松副院長)
6	職員衛生委員会 *職員の労働衛生に関する事項を調査審議し、衛生管理の推進を図る。	岡野 裕	リウマチ膠原病・痛風センター所長	成松副院長 月1回
7	感染対策委員会 (感染対策チーム) *院内感染の防止のため、諸問題を調査及び審議する。	坂本 光男 (坂本 光男)	感染症内科部長 (感染症内科部長)	宮川副院長 (宮川副院長)
8	医療ガス安全管理委員会 *高圧ガス保守法に基づき、院内医療ガスの安全を検証及び推進する。	佐山 宏一	呼吸器内科部長	病院長 年2回
9	放射線安全委員会 *放射線障害の防止について、必要事項を調査及び審議する。	増田 純一	病院長	病院長 年2回
10	個人情報管理委員会 (診療録等開示検討部会) *診療記録及び診療報酬明細書の開示を行うために、必要な事項を検討する。	大曾 根 康 夫 (今西 智之)	教育指導部長 (脳神経外科部長)	成松副院長 (竹中副院長)
11	診療録管理委員会 *診療録の管理と診療情報の提供を行うために、必要事項を検討する。	安 藏 慎	小児科部長	竹中副院長 月1回
12	給食委員会 *栄養業務及び給食業務の管理運営について検討する。	有馬 功一郎	血液透析室長	竹中副院長 月1回
13	治験審査委員会・臨床研究倫理審査委員会 *治験を行うことの適否、その他治験に関する調査及び審議する。	小柳 貴 裕	整形外科部長	番場担当理事 月1回
14	輸血療法委員会 *輸血関連業務等の必要事項を検討する。	市 東 昌 也	消化器外科部長	竹中副院長 隔月
15	臨床検査業務検討委員会 *臨床検査の精度管理を行う。	杉 浦 仁	検査科部長	成松副院長 必要に応じて開催
16	業務改善委員会 *職場環境を整え、患者サービスの充実と医療の向上を図るために、必要事項を検討する。	宮 川 俊 一	副院長	宮川副院長 月1回
17	機種選定委員会 *購入する医療用器機の仕様の決定又は機種の選定を行う。	成松 芳明	副院長	成松副院長 必要に応じて開催
18	クリニカルパス検討委員会 *チーム医療の機能と効率性を高めるために、必要事項を検討する。	津 村 和 大	糖尿病内科部長	成松副院長 隔月
19	廃棄物管理委員会 *院内の環境保全を図るとともに、感染性廃棄物による感染事故防止を目的とする。	西 澤 健 也	冠疾患集中治療室長	宮川副院長 必要に応じて開催
20	薬事委員会 *薬事全般に関する事項について審議する。	飯 島 尚 志	薬剤部長	宮川副院長 月1回
21	保険委員会 *診療報酬の請求に対する査定等について検討し、経営効率の向上に努める。	増田 純一	病院長	病院長 月1回
22	情報システム管理委員会 (システム運用検討部会) *医療情報システムの管理及び運用について検討する。	野 崎 博 之 (楢林 敦)	内科部長 (小児科医長)	成松副院長 (成松副院長)
23	手術部委員会 (外来手術室部会) *手術部門の安全かつ円滑な運営をするために、必要事項の検討、調査審議及び提言を行う。	竹 中 信 夫 (掛札 敏裕)	副院長 (外科部長)	竹中副院長 (竹中副院長)
24	ICU・CCU運営委員会 *ICU・CCUの安全管理と集中治療室としての機能を発揮できる運営を推進する。	森 田 慶 久	麻酔科部長	病院長 年4回
25	医療材料等委員会 *医療材料等の採用・死蔵化の防止、使用の効率化及び試用に関する事項を検討する。	末 吉 浩一郎	循環器内科部長	成松副院長 月1回

26	地域医療支援病院検討委員会	中 道 憲 明	リハビリテーション科部長	竹中副院長
	(退院調整部会)	(加藤 理賀子)	地域医療部課長補佐	竹中副院長
	*病院と地域の連携を図り、情報の共有化及びネットワーク作りを検討及び推進する。			月1回
27	褥瘡対策委員会	宮 川 俊 一	副院長	宮川副院長
	*褥瘡対策を討議し、その効率的な推進を図る。			月1回
28	救急医療運営委員会	田 熊 清 継	救命救急センター所長	田熊所長
	(災害時医療等専門部会)	(大城 健一)	(救命救急センター副医長)	田熊所長
	(DMA T作業部会)	(大城 健一)	(救命救急センター副医長)	田熊所長
	(院内救急対策部会)	(伊藤 壮一)	(救命救急センター医長)	田熊所長
	(当直業務検討部会)	(掛札 敏裕)	(外科部長)	田熊所長
	(冠疾患緊急患者受入体制検討部会)	(末吉 浩一郎)	(循環器内科部長)	田熊所長
	*救急部門及び災害時医療対策について、必要事項を検討する。			月1回
29	化学療法委員会	澤 藤 誠	呼吸器外科部長	竹中副院長
	*外来治療センターの運営に関する必要事項を検討する。			月1回
30	物流運営委員会	相 馬 啓 子	耳鼻咽喉科部長	病 院 長
	*院内の輸送設備を効率よく運用することを検討する。			必要に応じて開催
31	保育室運営委員会	高 木 英 恵	肝臓内科部長	事務局長
	*保育室の運営に関する事項を検討する。			必要に応じて開催
32	広報委員会	蜂 谷 貴	心臓血管外科部長	病 院 長
	*広報雑誌とホームページの作成を中心に、病院の広報活動の推進を図る。			年1回
33	接遇教育委員会	綱 嶋 たかえ	副院長・看護部長	綱嶋副院長
	*職員の接遇教育の充実を図り、患者サービスの充実と医療の質向上を図る。			隔月
34	ボランティア推進委員会	綱 嶋 たかえ	副院長・看護部長	綱嶋副院長
	*ボランティア活動を円滑化して、患者サービスの充実及び向上を図る。			隔月
35	精神科救急医療検討委員会	齋 藤 寿 昭	精神科部長	田熊所長
	*精神科救急医療を円滑に実施するために、必要事項を検討する。			必要に応じて開催
36	病院機能評価検討委員会	竹 中 信 夫	副 院 長	竹中副院長
	*病院機能評価の受審等に関する事項について検討する。			必要に応じて開催
37	医療機器安全管理委員会	森 田 慶 久	麻酔科部長	成松副院長
	*医療機器の安全使用のための情報収集。医療機器の安全使用のための研修の策定及び実施、医療機器の保守点検の計画の策定。			必要に応じて開催
38	糖尿病診療連携委員会	津 村 和 大	糖尿病内科部長	成松副院長
	*糖尿病の診療連携について検討する。			月1回
39	チーム医療推進委員会	竹 中 信 夫	副 院 長	竹中副院長
	(S C U部会)	(竹中 信夫)	(副院長)	(竹中副院長)
	(栄養サポートチーム(NST))	(伊藤 真梨)	(リハビリテーション科副医長)	(竹中副院長)
	(呼吸器ケア部会)	(森田 慶久)	(麻酔科部長)	病 院 長
	(緩和ケア部会)	(齋藤 寿昭)	(精神科部長)	病 院 長
	(緩和ケアチーム)	(夏 錦言)	(外科担当部長)	病 院 長
	*チーム医療について討議し、その効率的な推進を図る。			必要に応じて開催
40	外来診療委員会	大 曾 根 康 夫	外来診療部長	宮川副院長
	*外来診療について検討する。			隔月
41	虐待対策委員会	安 藏 慎	小児科部長	番場担当理事
	*児童虐待に関する諸問題を調査及び審議する。			必要に応じて開催
42	行動制限最小化委員会	齋 藤 寿 昭	精神科部長	宮川副院長
	*精神科入院患者の隔離・拘束・通信制限などにつきその妥当性を検討する。			月1回
43	内視鏡センター委員会	相 浦 浩 一	内視鏡センター所長	宮川副院長
	*医療従事者の診療検査体制及び診療情報共有による質の高い円滑な医療提供を図る。			隔月
44	教育研究委員会	大 曾 根 康 夫	教育指導部長	番場担当理事
	(研修管理委員会)	(小宮 浩一郎)	整形外科担当部長	番場担当理事
	(教育部会)	(原 智)	泌尿器科部長	番場担当理事
	(研究部会)	(津村 和夫)	糖尿病内科部長	番場担当理事
	(図書部会)	(玉井 博修)	消化器内科部長	番場担当理事
	(年報編集部会)	(柄崎 智)	事務局長	番場担当理事
	*研修医の教育支援と管理、臨床研究支援、図書の整備、業績管理を行う。			必要に応じて開催
45	精神科身体合併症管理委員会	齋 藤 寿 昭	精神科部長	宮川副院長
	*精神科身体合併症患者の診察・治療において院内連携を円滑にするための調整を行う。			月1回
46	医師負担軽減処遇改善委員会	番 場 正 博	担 当 理 事	番場担当理事
	*医師の負担軽減及び処遇の改善に資する計画の作成や達成状況の評価等を行う。			必要に応じて開催

Ⅲ 診 療 業 務 概 要

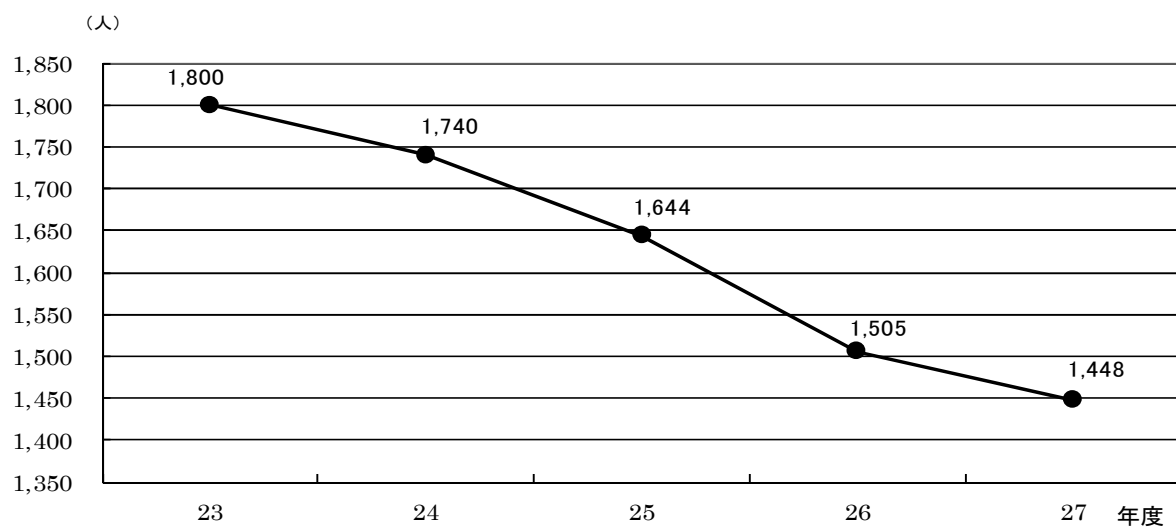
1 平成27年度外来患者状況

科 別	新 患	一日平均	再 来	一日平均	患者延数	一日平均	比 率 (%)	平均通院 日 数
内 科	9,445	38.9	97,471	401.1	106,916	440.0	30.4	11.3
精 神 ・ 神 経 科	468	1.9	20,620	84.9	21,088	86.8	6.0	45.1
小 児 科	11,126	45.8	20,911	86.1	32,037	131.8	9.1	2.9
外 科	1,288	5.3	28,098	115.6	29,386	120.9	8.4	22.8
脳 神 経 外 科	682	2.8	6,297	25.9	6,979	28.7	2.0	10.2
整 形 外 科	3,212	13.2	26,380	108.6	29,592	121.8	8.4	9.2
形 成 外 科	467	1.9	2,248	9.3	2,715	11.2	0.8	5.8
心 臓 血 管 外 科	28	0.1	2,732	11.2	2,760	11.4	0.8	98.6
皮 膚 科	1,505	6.2	19,258	79.3	20,763	85.4	5.9	13.8
泌 尿 器 科	827	3.4	16,462	67.7	17,289	71.1	4.9	20.9
産 婦 人 科	3,168	13.0	23,375	96.2	26,543	109.2	7.5	8.4
眼 科	451	1.9	9,425	38.8	9,876	40.6	2.8	21.9
耳 鼻 い ん こ う 科	2,018	8.3	12,697	52.3	14,715	60.6	4.2	7.3
リハビリテーション科	8	0.0	3,222	13.3	3,230	13.3	0.9	403.8
放 射 線 科	250	1.0	6,065	25.0	6,315	26.0	1.8	25.3
歯 科 口 腔 外 科	2,828	11.6	12,720	52.3	15,548	64.0	4.4	5.5
救 命 救 急 セ ン タ ー	3,226	13.3	2,867	11.8	6,093	25.1	1.7	1.9
小 計	40,997	168.7	310,848	1,279.2	351,845	1,447.9	100.0	8.6

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合があります。

診療日数243日 平均通院日数 = $\frac{\text{患者延数}}{\text{新患者数}}$

外来患者数（1日平均）

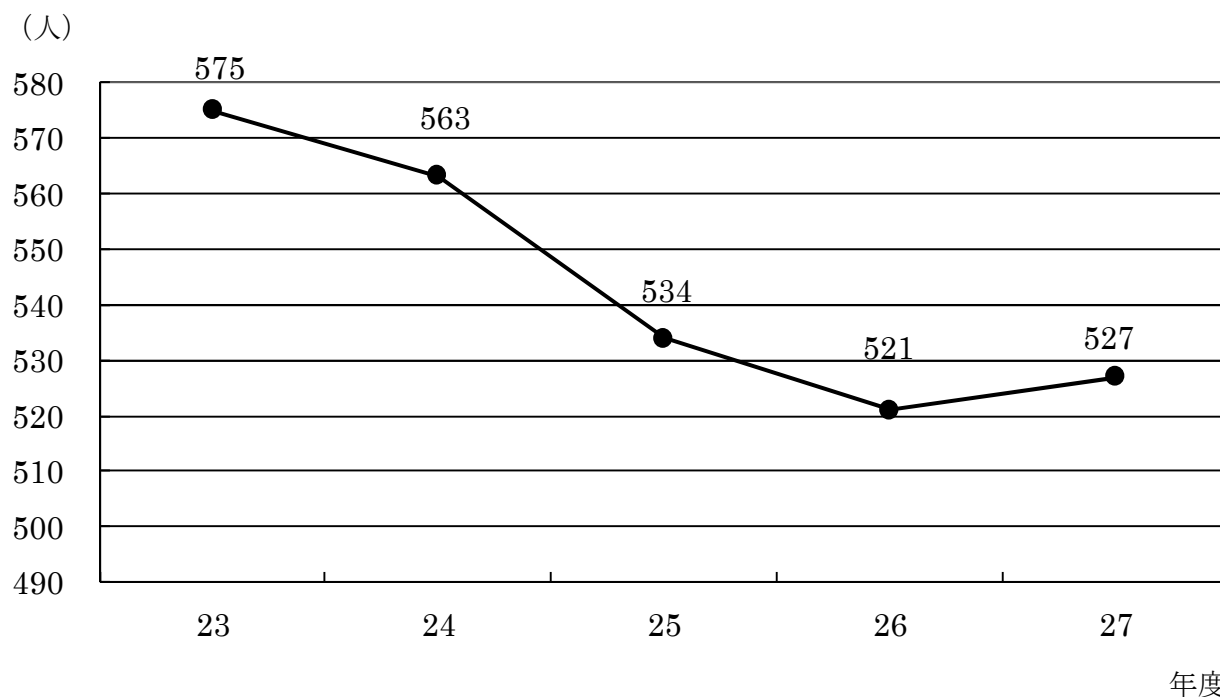


2 平成27年度入院患者状況

科 別	前年度 繰 越	入 院	退 院	死亡 (再掲)	次年度 繰 越	患者延数	一日平均	比 率 (%)	平均入院 日 数
内 科	157	4,362	4,254	249	186	77,643	212.1	40.3	18.0
小 児 科	24	1,944	1,935	3	31	14,370	39.3	7.5	7.4
外 科	56	1,794	1,859	61	50	25,708	70.2	13.3	14.1
脳神経外科	13	202	227	15	13	4,759	13.0	2.5	22.2
整形外科	56	1,025	1,061	2	49	17,797	48.6	9.2	17.1
形成外科	2	58	61	0	1	627	1.7	0.3	10.5
心臓血管外科	7	89	98	3	3	1,919	5.2	1.0	20.5
皮 膚 科	10	165	165	3	6	2,827	7.7	1.5	17.1
泌 尿 器 科	20	685	698	15	17	7,061	19.3	3.7	10.2
産 婦 人 科	34	2,064	2,065	4	36	16,927	46.2	8.8	8.2
眼 科	1	173	172	0	2	673	1.8	0.3	3.9
耳鼻咽喉科	14	444	450	1	12	6,085	16.6	3.2	13.6
リハビリ科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
放 射 線 科	0	8	8	0	0	41	0.1	0.0	5.1
歯科口腔外科	2	115	115	0	1	710	1.9	0.4	6.2
救命救急センター	22	571	494	79	26	7,438	20.3	3.9	14.0
小 計	418	13,699	13,662	435	433	184,585	504.3	95.7	13.5
感 染 症	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
感染小児科	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
精 神 科	18	274	287	0	27	8,223	22.5	4.3	29.3
合 計	436	13,973	13,949	435	460	192,808	526.8	100.0	13.8

注:小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合があります。

入院患者数(1日平均)



3 病棟の利用状況

(1) 平成27年度病棟別患者数

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延 数	前 月 繰越患者	入 院	転 入
	公 称	稼動	公 称	稼 動				
14 階 北	52	42	19,032	15,372	14,538	35	618	183
14 階 南	51	46	18,666	16,836	15,832	39	626	185
13 階 北	51	46	18,666	16,836	15,021	38	860	417
13 階 南	53	48	19,398	17,568	16,145	34	672	210
12 階 北	51	46	18,666	16,836	14,745	35	1,388	95
12 階 南	53	48	19,398	17,568	16,111	35	639	267
11 階 北	53	48	19,398	17,568	14,669	31	986	188
11 階 南	53	48	19,398	17,568	14,450	33	954	213
10 階 北	53	48	19,398	17,568	14,891	39	867	109
10 階 南	52	47	19,032	17,202	14,078	31	1,096	94
精 神	38	33	13,908	12,078	8,223	18	274	25
9 階 南	20	20	7,320	7,320	4,645	7	1,215	149
9 階 西 感 染	12	12	4,392	4,392	1,027	4	147	40
8 階 北	44	42	16,104	15,372	11,766	28	1,413	0
8 階 南	41	41	15,006	15,006	10,419	14	1,781	12
G C U	18	18	6,588	6,588	2,542	4	139	154
N I C U	6	6	2,196	2,196	2,067	6	166	0
I C U ・ C C U	12	8	4,392	2,928	1,639	5	132	563
合 計	713	647	260,958	236,802	192,808	436	13,973	2,904
新 生 児	0	0	0	0	6,390	12	1,112	0

(稼動日数 366日)

(2) 平成27年度年間病床利用状況

病棟名	病床数		延病床数		入院患者 延 数	前 月 繰越患者	入 院	転 入
	公 称	稼動	公 称	稼 動				
一般	663	602	242,658	220,332	184,582	418	13,698	2,879
感染症	12	12	4,392	4,392	3	0	1	0
精神	38	33	13,908	12,078	8,223	18	274	25
合計	713	647	260,958	236,802	192,808	436	13,973	2,904
新生児	0	0	0	0	6,390	12	1,112	0

(稼動日数 366日)

注: 小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合があります。

退 院	転 出	期 末 患者数	一日平均	病床利用率(%)		平均在院 日 数	死亡	健全化用 平均在院日数
				公 称	稼 働			
757	43	36	39.7	76.4	94.6	21.1	47	20.0
775	34	41	43.3	84.8	94.0	22.6	52	21.5
1,072	207	36	41.0	80.5	89.2	15.5	44	14.4
828	48	40	44.1	83.2	91.9	21.5	60	20.4
1,420	63	35	40.3	79.0	87.6	10.5	16	9.5
814	90	37	44.0	83.1	91.7	22.2	26	21.1
1,046	130	29	40.1	75.6	83.5	14.4	38	13.4
1,011	161	28	39.5	74.5	82.3	14.7	37	13.7
907	66	42	40.7	76.8	84.8	16.8	3	15.8
1,170	28	23	38.5	74.0	81.8	12.4	8	11.4
287	3	27	22.5	59.1	68.1	29.3	0	28.3
261	1,099	11	12.7	63.5	63.5	6.6	82	5.9
95	91	5	2.8	23.4	23.4	7.2	4	7.7
1,407	4	30	32.1	73.1	76.5	8.3	0	7.3
1,780	9	18	28.5	69.4	69.4	5.9	2	4.9
283	5	9	6.9	38.6	38.6	12.0	0	10.7
16	150	6	5.6	94.1	94.1	22.7	1	22.5
20	673	7	4.5	37.3	56.0	21.6	16	21.3
13,949	2,904	460	526.8	73.9	81.4	13.8	436	12.8
1,108	0	16	17.5			5.8		4.8

退 院	転 出	期 末 患者数	一日平均	病床利用率(%)		平均在院 日 数	死亡	健全化用 平均在院日数
				公 称	稼 働			
13,662	2,900	433	504.3	76.1	83.8	13.5	436	12.5
0	1	0	0.0	0.0	0.0	6.0	0	0.0
287	3	27	22.5	59.1	68.3	29.3	0	28.3
13,949	2,904	460	526.8	73.9	81.4	13.8	436	12.8
1,108	0	16	17.5			5.8	0	4.8

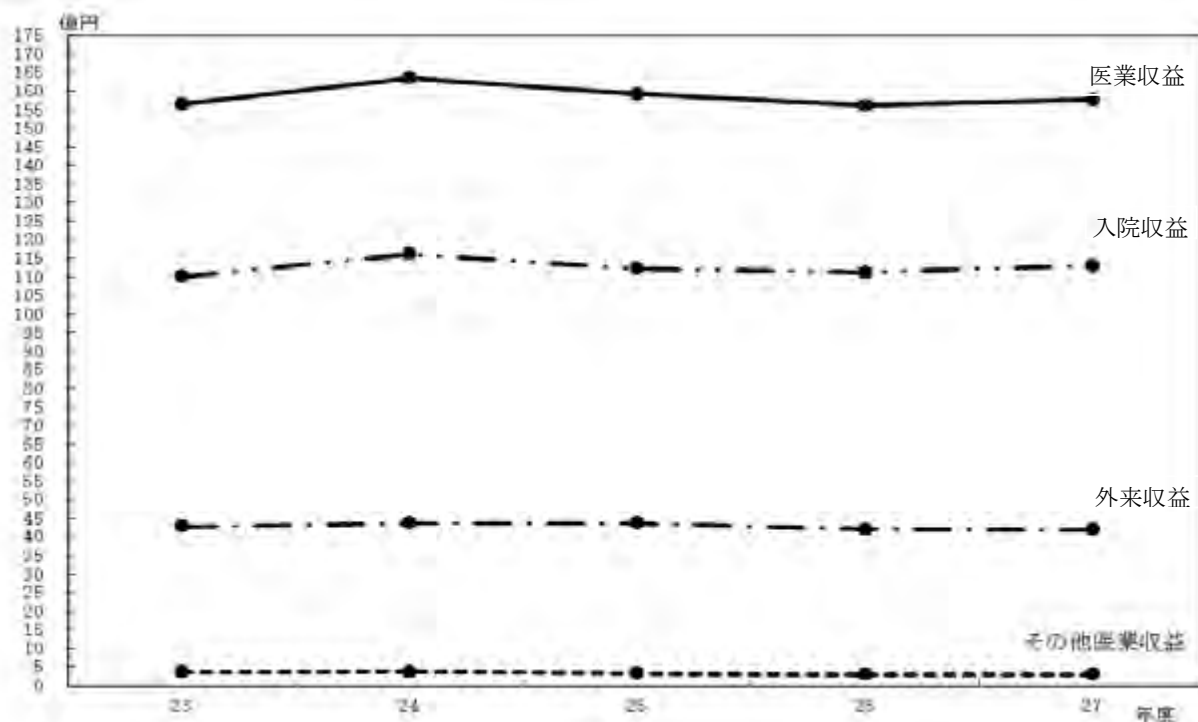
$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{患者延数}}{\text{入院+退院}}$$

4 科別収益状況

平成27年度科別収益状況は、平成26年度の医業収益に対し平成27年度の医業収益は、外来収益が0.5%の減収、入院収益は1.7%の増収で、その他医業収益は2.2%の減収となりました。医業収益全体では、率で1.0%、額で約1億6千万円の増収となりました。

科 別	外 来		入 院		そ の 他 医業収益額	合 計	
	収益額 (千円)	構成比率 (%)	収益額	構成比率 (%)		収益額 (千円)	構成比率 (%)
内 科	1,693,069	40.4	3,925,806	34.8	—	5,618,875	35.6
精 神 科	128,599	3.1	219,577	1.9	—	348,176	2.2
小 児 科	388,676	9.3	926,133	8.2	—	1,314,809	8.3
外 科	512,331	12.2	1,816,012	16.1	—	2,328,343	14.8
脳 神 経 外 科	97,342	2.3	429,404	3.8	—	526,746	3.3
整 形 外 科	202,312	4.8	1,238,436	11.0	—	1,440,748	9.1
形 成 外 科	19,022	0.5	32,971	0.3	—	51,993	0.3
心 臓 血 管 外 科	19,502	0.5	215,965	1.9	—	235,467	1.5
皮 膚 科	66,497	1.6	94,530	0.8	—	161,027	1.0
泌 尿 器 科	238,560	5.7	443,056	3.9	—	681,616	4.3
産 婦 人 科	292,593	7.0	970,619	8.6	—	1,263,212	8.0
眼 科	102,604	2.5	66,589	0.6	—	169,193	1.1
耳 鼻 い ん こ う 科	112,932	2.7	323,758	2.9	—	436,690	2.8
リハビリテーション科	10,493	0.3	0	0.0	—	10,493	0.1
放 射 線 科	114,364	2.7	5,261	0.0	—	119,625	0.8
歯 科 口 腔 外 科	87,881	2.1	40,602	0.4	—	128,483	0.8
救命救急センター	96,986	2.3	546,982	4.8	—	643,968	4.1
感 染 症	—	—	0	0.0	—	0	0.0
そ の 他 医 業 収 益	—	—	—	—	290,401	290,401	1.9
合 計	4,183,763	100.0	11,295,701	100.0	290,401	15,769,865	100.0

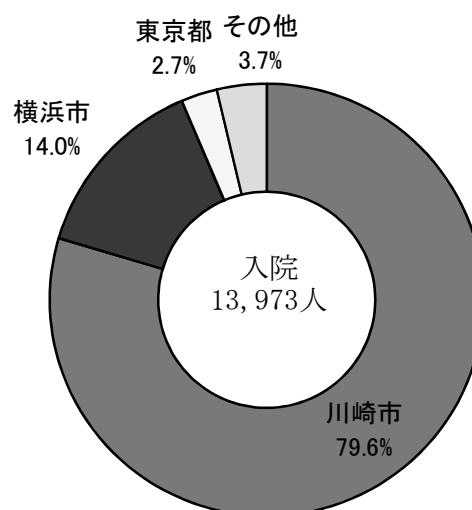
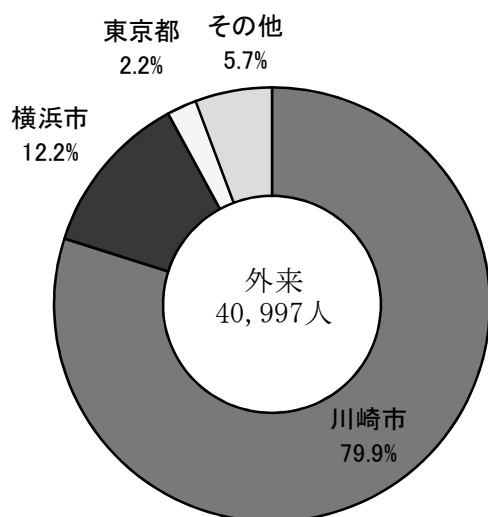
年度別収益グラフ



5 地区別新患外来・入院患者数

地区	区名	患者総数（人）		構成比率（％）		患者数及び比率	
		外 来	入 院	外 来	入 院	外 来	入 院
川崎 市	川崎区	22,927	7,579	55.9%	54.2%	32,772 79.9%	11,129 79.6%
	幸区	7,172	2,715	17.5%	19.4%		
	中原区	1,666	436	4.1%	3.1%		
	高津区	518	182	1.3%	1.3%		
	宮前区	250	105	0.6%	0.8%		
	多摩区	174	87	0.4%	0.6%		
	麻生区	65	25	0.2%	0.2%		
市 外	横浜市	4,999	1,952	12.2%	14.0%	8,225 20.1%	2,844 20.4%
	東京都	909	371	2.2%	2.7%		
	その他	2,317	521	5.7%	3.7%		
合計		40,997	13,973	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

注：小数点以下の端数処理の関係で、合計が一致しない場合があります。



6 救急患者取扱状況

(1) 平成27年度月別取扱状況

(単位：人又は台)

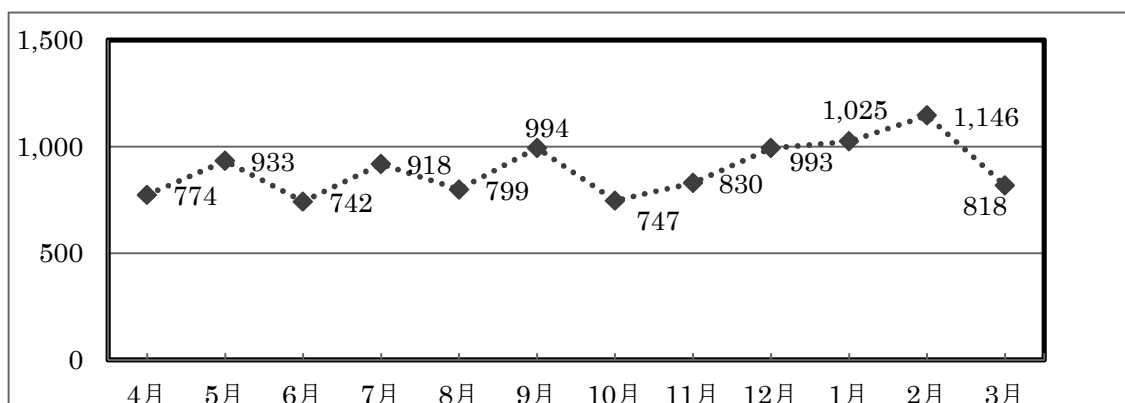
区 分	交通事故	一般 負傷	自損 行為	急 病	分 娩	そ の 他	合 計	来院方法別患者数			
								救急車	パトカー	その他	合 計
4月	16	150	5	1,760	46	0	1,977	397	1	1,579	1,977
5月	27	155	5	2,222	43	0	2,452	411	0	2,041	2,452
6月	13	150	2	1,664	40	0	1,869	385	0	1,484	1,869
7月	31	146	3	2,029	49	0	2,258	444	0	1,814	2,258
8月	14	126	2	1,894	43	0	2,079	423	1	1,655	2,079
9月	27	165	2	2,185	45	0	2,424	431	3	1,990	2,424
10月	13	183	4	1,846	47	0	2,093	418	4	1,671	2,093
11月	20	166	5	1,864	36	0	2,091	388	3	1,700	2,091
12月	11	184	0	2,268	32	0	2,495	477	4	2,014	2,495
1月	16	125	2	2,404	41	0	2,588	436	1	2,151	2,588
2月	17	137	1	2,449	39	0	2,643	456	1	2,186	2,643
3月	31	156	2	1,872	29	0	2,090	438	4	1,648	2,090
計	236	1,843	33	24,457	490	0	27,059	5,104	22	21,933	27,059
構成比率 (%)	0.9	6.8	0.1	90.4	1.8	0.0	100.0	18.9	0.1	81.1	100.0

(2) 平成27年度科別取扱状況

(単位：人)

区 分		科別	内 科	神 経	小 児	外 科	脳 外	整 形	形 成	心 外	皮 膚	泌 尿	産 婦 人 科	眼 科	耳 鼻	リ ハ ビ リ	放 射	口 外	救 命 救 急	計
外 来	患者数		6,560	13	10,219	161	176	1,068	121	3	298	62	290	127	706	5	54	449	3,374	23,686
	構成比率 (%)		27.7	0.1	43.1	0.7	0.7	4.5	0.5	0.0	1.3	0.3	1.2	0.5	3.0	0.0	0.2	1.9	14.2	100
入 院	患者数		768	32	500	114	12	39	0	1	3	7	580	0	25	0	0	2	1,290	3,373
	構成比率 (%)		22.8	0.9	14.8	3.4	0.4	1.2	0.0	0.0	0.1	0.2	17.2	0.0	0.7	0.0	0.0	0.1	38.2	100
計	患者数		7,328	45	10,719	275	188	1,107	121	4	301	69	870	127	731	5	54	451	4,664	27,059
	構成比率 (%)		27.1	0.2	39.6	1.0	0.7	4.1	0.4	0.0	1.1	0.3	3.2	0.5	2.7	0.0	0.2	1.7	17.2	100.0

(3) 平成27年度小児急病センター患者受入状況



7 救命救急センターの業務状況

(1) 体制・施設規模（平成28年4月1日現在）

- ア 体 制 医師（常勤13人、非常勤7人）／看護師（常勤66人、臨時職員5人）
 イ 施設規模 20床（ICU 4床、救急病床 16床）

(2) 受入状況

- ア 当院で救急車を受入れた救急車総数（7,075台）のうち、ホットライン経由で救急車を受入れた件数は、6,066台になります。（平成27年度）

イ 平成27年度月別救命救急センター受入状況

	総数	時間			救急隊							傷病分類					トリアージ区分					転帰												
		深夜	日勤	準夜	川崎南部	川崎中部	川崎北部	横浜	東京	その他	内因性		外傷		CPA	1次 軽症	2次 中等症	3次		帰宅	入院								転送	死亡				
																					重症 重篤	死亡 確認	計	救命救急	内科	外科	整形	脳外			小児	その他		
																																	うち入院	うち入院
合計	6,066	1,658	2,326	2,082	5,391	204	44	312	65	50	3,547	(1432)	2,153	(529)	366	3,346	1,187	1,498	35	3,611	2,039	556	1,224	90	73	40	3	53	122	302				
1月平均	505.5	138.2	193.8	173.5	449.3	17.0	3.7	26.0	5.4	4.2	295.6	(119.3)	179.4	(44.1)	30.5	278.8	98.9	124.8	2.9	300.9	169.9	46.3	102.0	7.5	6.1	3.3	0.3	4.4	10.2	25.2				
1日平均	16.6	4.5	6.4	5.7	14.7	0.6	0.1	0.9	0.2	0.1	9.7	(3.9)	5.9	(1.4)	1.0	9.1	3.2	4.1	0.1	9.9	5.6	1.5	3.3	0.2	0.2	0.1	0.0	0.1	0.3	0.8				

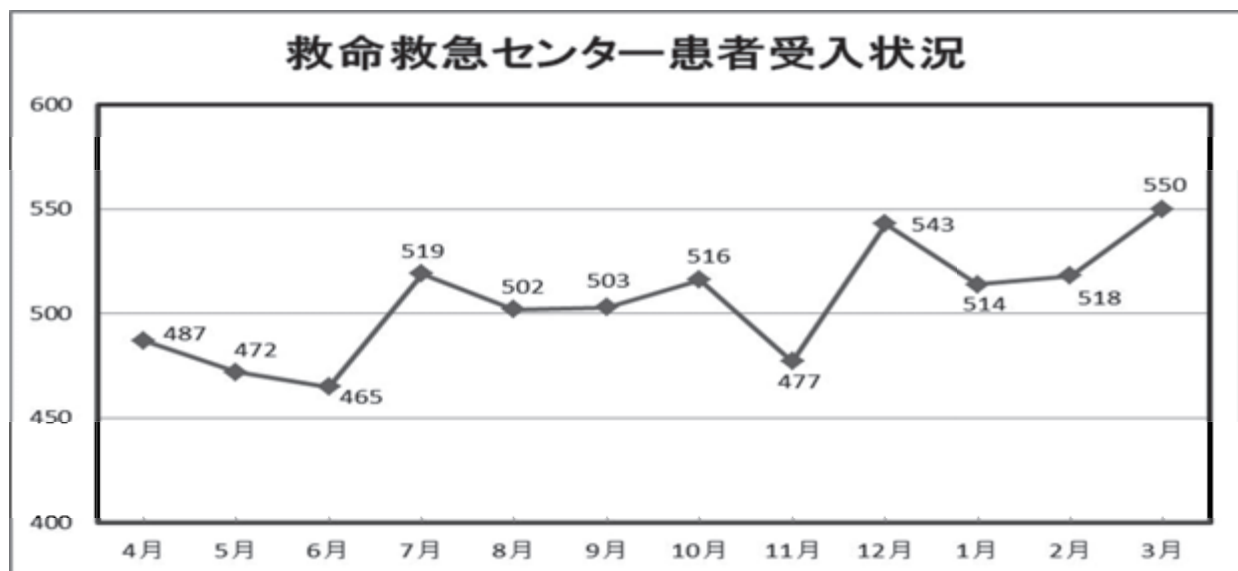
ウ 平成27年度三次救急の内訳

（単位：人）

	計	重症 脳血管 障害	急性冠 症候群・ 心不全	肝不全 腎不全	多外 発傷	急中 性毒	意識 障害	その他	CPA ※心肺 停止	CPAのう ち蘇生成功 数（再掲）
年間	1,533	164	131	35	113	79	52	593	366	78
1日平均	4.19	0.45	0.36	0.10	0.31	0.22	0.14	1.62	1.00	—
傷病別割合	100.0%	10.7%	8.5%	2.3%	7.4%	5.1%	3.4%	38.7%	23.9%	—

※受入全体中の死亡者数302人（救命救急センター受入全体の5.0%）

エ 平成27年度救命救急センター患者受入状況（件数）



8 専門外来及び診療相談

各科専門外来

科 別	内 容
内 科	リウマチ膠原病・痛風センター、循環器、呼吸器、糖尿病、消化器、腎臓、神経内科、内分泌、感染症
精 神 ・ 神 経 科	心理面接
小 児 科	心臓、循環器、神経、内分泌、代謝、予防接種、腎臓、呼吸器、精神衛生、フォローアップ、アレルギー、血液
新 生 児 内 科	フォローアップ、1か月健診
外 科	乳腺、血管、肺、肝臓、胆嚢、膵臓、食道、胃、大腸、肛門、小児外科
心 臓 血 管 外 科	不整脈・心房細動、ペースメーカー
整 形 外 科	外傷、リウマチ、骨粗しょう症、脊椎、（肩、肘、手、股、膝）関節外科
産 科 ・ 婦 人 科	手術診、子宮鏡、不妊症、ハイリスク妊娠、婦人科腫瘍フォローアップ
眼 科	網膜硝子体、白内障、光凝固、蛍光眼底、未熟児、視野
耳 鼻 咽 喉 科	頭頸部腫瘍、内視鏡、神経耳科、めまい、甲状腺
皮 膚 科	光線
泌 尿 器 科	自己導尿指導、フォローアップ、超音波検査、ストマ及び特殊検査、膀胱鏡
歯 科 口 腔 外 科	顎関節症、歯科矯正相談、うけ口、埋伏歯抜歯、歯科インプラント
リハビリテーション科	義肢装具、嚥下障害、ボトックス（痙攣治療）、高次脳機能障害、顔面神経麻痺、呼吸リハビリ、がんのリハビリ（リンパ浮腫など）

- 1 神奈川リウマチ友の会：関節リウマチや膠原病の患者を中心に組織し、リウマチ膠原病に関する知識の向上・会員相互の親睦を図ることを目的としています。昭和38年7月発足（当時40名）、昭和45年10月から「神奈川県リウマチ友の会」と改組し、事業として会誌の発行や講演会を開催し、日本リウマチキャンペーンの一翼となっています。
- 2 かわびょう糖友会（糖尿病友の会）：糖尿病の治療及び予防に関する知識の普及並びに会員の福祉の増進を目的として昭和38年に発足しました。糖尿病患者、医療スタッフ会員で組織されています。糖尿病啓発事業やスタッフ勉強会を開催するとともに、神奈川県糖尿病協会の運営の中核を担いながら、同協会主催の講演・講習会、研修旅行、ウォークラリーなどの各種事業に参加しています。
- 3 母親学級：当院で出産予定の妊婦を対象として、妊娠、分娩、産褥及び育児についての保健指導をしています。前期・後期の2回コースで、妊娠の生理、妊産婦の栄養、安産体操、分娩の進行と呼吸法・補助動作、母乳育児、赤ちゃんについてなど、ビデオや実習を交えて行っています。それぞれに、医師、助産師、栄養士、看護師が担当しています。
- 4 分娩入院説明：当院での分娩予定者で、妊娠28週以降の方全員を対象に、オリエンテーションを行っています。内容は、入院の時期、入院時の持ち物、入院中の生活についてです。その目的は、陣発時や入院時の不安を軽減し、入院がスムーズにできることです。第1、第2水曜日に助産師・看護師が説明を行っています。
- 5 小児アレルギー教室：当院受診中のアレルギー疾患患児の保護者を対象に、食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息の各疾患について、主に治療導入期に疾患教育を行っています。医師が約1時間、病態・診断・治療・長期管理についての説明とデモ器での手技指導を行います。長期的な治療の理解により、病状の安定化とかかりつけ医への移行促進を目的とします。

9 手術件数

(1) 手術室における手術件数

	外 科	脳 神 経 外 科	整 形 外 科	形 成 外 科	心 臓 血 管 外 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	産 科 ・ 婦 人 科	眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	歯 科 口 腔 外 科	精 神 科	麻 酔 科	救 急 科	合 計
中央手術室	1,125	147	1,068	69	32	13	442	976	0	312	81	167	2	8	4,442
外来手術室	29	0	207	166	0	112	0	90	445	0	40	0	0	0	1,089
手術室合計	1,154	147	1,275	235	32	125	442	1,066	445	312	121	167	2	8	5,531

※ 産科・婦人科については外来手術室に分娩室を含む。

(2) 心血管・検査、血管内治療・検査（手術室No. 2・No. 3室使用状況）

	放 射 線 科	内 科	心 臓 外 科	脳 神 経 外 科	外 科	他 科	合 計
血管内治療・検査	165			54	151		370
心血管治療・検査		556	13				569
ペースメーカー埋め込み			30				30
体外ペースメーカー		3					3
血管外治療・検査	47						47
そ の 他		5	2	8	19		34
合 計	212	564	45	62	170	0	1,053

(3) 主な手術の内容

ア 外科

データの個数：症例		件数			
臓器	手術	平成25年	平成26年	平成27年	総計
血管	血管内手術（EVS）	99	121	125	345
	静脈瘤手術	78	148	85	311
	内シャント造設術	49	42	35	126
	血栓塞栓除去術	33	23	26	82
	バイパスまたは置換術	13	18	13	44
	その他の血管手術	8	17	17	42
	内膜切除術	3	6	2	11
	下肢切断術	6	2		8
	IVHポート埋め込み術	2	1	3	6
	止血術	2		1	3
	開腹止血術	1	1		2
	遊離空腸移植	1			1
	切除術			1	1
	異物摘出			1	1
	CVポート抜去			1	1
	その他	5	10	3	18
血管 計		300	389	313	1,002
ヘルニア	メッシュプラグ法	61	67	51	179
	ポッツ法	16	27	22	65
	ヘルニア根治術（従来法）	10	11	17	38
	ヘルニア根治術（腹腔鏡下）	1	15	14	30
	ダイレクトクーゲル法	4	5	2	11
	ヘルニア修復術	1	1	4	6
	メッシュ法	1	3		4
	クーゲルパッチ法	3			3
	縫合閉鎖術		1	1	2
	その他	7	2		9
ヘルニア 計		104	132	111	347
乳腺	止血術	1			1
	乳房温存術	47	41	44	132
	乳管区域切除術		1	3	4
	摘出術	7	7	6	20
	全乳房切除術	1			1
	生検	1			1
	腫瘍摘出術	1	2		3
	胸筋温存乳房切除術	40	55	55	150
	リンパ節郭清		1		1
	その他		2	1	3
乳腺 計		98	109	109	316
胆嚢	臍頭十二指腸切除		1		1
	摘出術			1	1
	胆嚢摘出術	86	85	79	250
	胆管切除			1	1
	生検	1			1
	肝切除（葉）			1	1
	肝床切除	1	2		3
胆嚢 計		88	88	82	258
食道胃接合部	食道切除術	2			2
	胃切除（噴門側）	1			1
食道胃接合部 計		3			3

データの個数：症例		件数			
臓器	手術	平成25年	平成26年	平成27年	総計
結腸	バイパスまたは置換術	1			1
	IVHポート埋め込み術			1	1
	縫合閉鎖術	1			1
	癒着剥離術		1		1
	直腸切断術			1	1
	直腸切除術	2		1	3
	全結腸切除術			1	1
	穿孔部縫合閉鎖	1			1
	洗浄ドレナージ	1			1
	人工肛門閉鎖術	1	5	9	15
	人工肛門造設術	12	8	3	23
	審査腹腔鏡		1		1
	結腸切除術	59	58	60	177
	回盲部切除術	11	8	12	31
	横行結腸部分切除術(D1+)	1		1	2
	その他		1		1
結腸 計		90	82	89	261
虫垂	虫垂切除術	95	66	73	234
	穿孔部縫合閉鎖			1	1
	結腸切除術	2	1	1	4
	回盲部切除術	1	4	3	8
虫垂 計		98	71	78	247
胃	IVHポート埋め込み術			1	1
	縫合閉鎖術			1	1
	腸瘻造設術	1			1
	大網被覆術	2	6	3	11
	人工肛門造設術		1	1	2
	審査腹腔鏡		1	1	2
	試験開腹		1	1	2
	胃瘻造設術		1		1
	胃部分切除	5	2	4	11
	胃粘膜切除		1		1
	胃切除（幽門側）	32	34	24	90
	胃切除（噴門側）	2		4	6
	胃切除（全摘）	27	16	14	57
	胃空腸吻合術	1		3	4
	ESD			6	6
	その他	1			1
胃 計		71	63	63	197
腹壁	止血術	1		1	2
	異物摘出		1		1
	ヘルニア根治術(従来法)		2		2
	ヘルニア修復術	1	1	2	4
	メッシュ法	4	6	1	11
	縫合閉鎖術	3	2	2	7
	摘出術	1			1
	洗浄ドレナージ			1	1
	腫瘍摘出術	1			1
	その他		1		1
腹壁 計		11	13	7	31
十二指腸	縫合閉鎖術			1	1
	臍頭十二指腸切除		1		1
	腸瘻造設術		1		1
	大網被覆術	8	9	9	26
	大網充填術			2	2
	穿孔部縫合閉鎖	1		1	2
	洗浄ドレナージ			1	1
	小腸部分切除術		1		1
	胃瘻造設術	1			1
	胃部分切除			1	1
	胃切除（幽門側）	1	2	1	4
	胃空腸吻合術	1		1	2
	その他		1	1	2
十二指腸 計		12	15	18	45

データの個数：症例		件数			
臓器	手術	平成25年	平成26年	平成27年	総計
その他	血管内手術（EVS）		1		1
	その他の血管手術			1	1
	下肢切断術			1	1
	IVHポート埋め込み術	48	46	52	146
	止血術	2	1	2	5
	異物摘出	1		2	3
	CVポート抜去	7	10	10	27
	ポツツ法	4			4
	ヘルニア修復術	1	4	3	8
	縫合閉鎖術	5	2		7
	（空白）			1	1
	癒着剥離術	1		1	2
	摘出術	1	1	4	6
	直腸切除術			1	1
	腸瘻造設術	1			1
	洗浄ドレナージ	1		2	3
	切開排膿術			3	3
	生検	7	5	5	17
	人工肛門閉鎖術			1	1
	人工肛門造設術	1		3	4
	審査腹腔鏡			1	1
	小腸部分切除術			1	1
	腫瘍摘出術	1	1	2	4
	試験開腹	2	1		3
	結腸切除術			1	1
	壊死組織デブリドマン		1		1
	回盲部切除術			2	2
	胃瘻造設術			1	1
	胃切除（幽門側）	1			1
	胃空腸吻合術			1	1
	リンパ節郭清	1			1
	ELPS		1		1
	その他	5	5	5	15
その他 計		90	79	106	275
直腸、肛門	IVHポート埋め込み術	1		1	2
	止血術		1		1
	異物摘出			2	2
	縫合閉鎖術	1			1
	直腸脱手術	1	5	2	8
	直腸切断術	9	8	3	20
	直腸切除術	36	22	27	85
	洗浄ドレナージ		1	1	2
	切開排膿術		1		1
	人工肛門閉鎖術	1		1	2
	人工肛門造設術	5	1	5	11
	痔核（瘻）根治術	10	13	7	30
	結腸切除術			1	1
	経肛門的腫瘍切除	1		3	4
直腸、肛門 計		65	52	53	170
頸部	遊離空腸移植	2		3	5
	嚢胞摘出術		1		1
	摘出術	1			1
	腫瘍摘出術			1	1
	ESD		1		1
	ELPS	5	5		10
頸部 計		8	7	4	19
甲状腺	甲状腺切除（葉）	1			1
	胃瘻造設術	1			1
甲状腺 計		2			2

データの個数：症例		件数			
臓器	手術	平成25年	平成26年	平成27年	総計
小腸	IVHポート埋め込み術			1	1
	開腹止血術	1			1
	異物摘出		1		1
	ヘルニア修復術			1	1
	縫合閉鎖術		1		1
	癒着剥離術	7	12	19	38
	非切除（吻合など）			1	1
	腸瘻造設術	2	2		4
	腸重積観血的整復	1			1
	穿孔部縫合閉鎖	1	1	1	3
	人工肛門閉鎖術	5	16	10	31
	人工肛門造設術	5	2	4	11
	小腸部分切除術	11	15	14	40
	腫瘍摘出術		1		1
	試験開腹			2	2
	空腸瘻造設術	16	2		18
	回盲部切除術	2	1	1	4
	メッケル憩室切除術		1		1
	その他	2	2	2	6
小腸 計		53	57	56	166
食道	切除術	1			1
	縫合閉鎖術		1		1
	摘出術	2			2
	食道切除術	17	10	8	35
	頸部リンパ節郭清	2			2
	空腸瘻造設術			1	1
	胃瘻造設術	1			1
	胃切除（噴門側）	1			1
	胃切除（全摘）			1	1
	ESD			3	3
	その他	4	3		7
食道 計		28	14	13	55
肝臓	縫合閉鎖術		1		1
	胆嚢摘出術			1	1
	生検	1			1
	肝切除（葉）	2	3	8	13
	肝切除（部分）	6	6	9	21
	肝切除（区域）	4	6	1	11
	肝切除（拡大以上）		1	2	3
	肝切除（亜区域）			1	1
肝臓 計		13	17	22	52
膵臓	止血術			1	1
	膵頭十二指腸切除	6	6	10	22
	膵中央切除術			1	1
	膵体尾部切除	5	4	3	12
	膵全摘術			1	1
	嚢胞開窓術	1			1
	胆管空腸吻合術		1		1
	洗浄ドレナージ			1	1
	胃空腸吻合術	1	2	1	4
	その他			1	1
膵臓 計		13	13	19	45
胆管	バイパスまたは置換術			1	1
	膵頭十二指腸切除	1	1	3	5
	胆管切除	3	1		4
	総胆管切石術	2	1		3
	肝切除（拡大以上）			1	1
	その他	2		1	3
胆管 計		8	3	6	17
気管	気管切開術		1	3	4
気管 計			1	3	4

データの個数：症例		件数			
臓器	手術	平成25年	平成26年	平成27年	総計
両側付属器	切除術			1	1
	胃切除（幽門側）			1	1
	その他		1		1
両側付属器 計			1	2	3
脾臓	脾臓摘出術			3	3
脾臓 計				3	3
後腹膜	止血術			1	1
	洗浄ドレナージ		1		1
	経肛門的腫瘍切除			1	1
	その他	1			1
後腹膜 計		1	1	2	4
精巣	ボツツ法			1	1
	(空白)			1	1
	その他	9		6	15
精巣 計		9		8	17
肺	IVHポート埋め込み術			1	1
	肺縫縮術		1		1
	肺切除（葉）	2			2
	肺切除（部分）	2			2
肺 計		4	1	1	6
縦隔、胸壁	ヘルニア修復術	1			1
	(空白)	1			1
縦隔、胸壁 計		2			2
Vater乳頭	膵頭十二指腸切除	2		2	4
Vater乳頭 計		2		2	4
腎	血管内手術（EVS）		1		1
	内シャント造設術		1	1	2
	その他		1		1
腎 計			3	1	4
総計		1, 173	1, 211	1, 171	3, 555

イ 呼吸器外科

分 類	病 名 及 び 術 式	件 数		
		平成25年度	平成26年度	平成27年度
肺 癌	肺全摘出	1	4	4
	肺葉切除	25	14	14
	肺区域・部分切除	2	2	2
	胸腔鏡下肺葉切除	30	17	21
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	10	2	4
	気管支形成術を伴う肺葉切除	1	2	3
	試験開胸術	2	0	0
転 移 性 肺 腫 瘍	肺全摘出	0	0	1
	肺葉切除	1	3	0
	肺区域・部分切除	2	3	4
	胸腔鏡下肺葉切除	2	3	0
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	8	9	4
肺（その他悪性）	胸腔鏡下肺区域・部分切除	1	1	1
肺（良 性）	肺全摘出	1	0	0
	肺葉切除	0	1	0
	肺区域・部分切除	1	0	0
	胸腔鏡下肺葉切除	0	0	0
	胸腔鏡下肺区域・部分切除	2	2	3
気胸・嚢胞性肺疾患	肺部分切除・肺縫縮術	8	2	2
	胸腔鏡下肺部分切除	16	10	24
縦 隔 腫 瘍	胸腺摘出術	3	2	4
	腫瘍摘出術	1	4	4
重症筋無力症	拡大胸腺摘出術	0	0	0
縦 隔（その他）	腫瘍・リンパ節生検	1	0	2
	リンパ節摘出	1	0	0
	交感神経節切除	0	0	0
胸 膜（悪 性）	胸膜肺全摘	1	0	1
	生検	2	2	3
胸 膜（良 性）	腫瘍摘出術	0	0	0
	生検	0	3	11
	開窓術	0	0	0
	筋弁充填・剥皮術	0	0	0
胸 壁	腫瘍摘出術	0	0	1
	肺葉切除等	0	1	0
そ の 他		11	0	2
計		133	87	121

ウ 脳神経外科

分 類	病 名 及 び 術 式	件 数		
		平成25年度	平成26年度	平成27年度
腫 瘍	メニンジオーマ	11	7	12
	グリオーマ	11	10	3
	転移性脳腫瘍	15	8	9
	頭蓋咽頭腫	0	0	0
	下垂体腫瘍	1	3	3
	その他の腫瘍	5	8	5
	脳動脈瘤（直達手術のみ）	15	11	12
	高血圧性脳出血	7	11	8
	脳動静脈奇形（直達手術のみ）	2	0	1
	血管内手術・出血性疾患（脳動脈瘤・動静脈奇形）	7	10	13
血 管 疾 患	血管内手術・閉塞性疾患（ステント・血栓除去など）	5	0	0
	その他（水頭症など）	16	17	11
	慢性硬膜下血腫（水腫）	36	27	33
	急性硬膜下血腫	4	3	9
	急性硬膜外血腫	5	1	4
	陥没骨折	2	0	0
	骨弁形成術・減圧開頭術	5	0	0
	その他（水頭症など）	4	3	2
	癌性髄膜炎・正常圧水頭症など	28	26	33
	髄膜瘤など	0	0	0
水 頭 症 奇 形 そ の 他	その他	28	43	26
計		207	188	184

エ 整形外科

術 式	件 数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
脊柱、脊髄、頸椎、前方	7	9	15
〃、後方	18	37	29
胸椎、前方	0	1	1
〃、後方	4	6	9
腰椎、前方	2	5	6
〃、後方	131	122	123
腱、神経	66	103	46
骨 折	436	315	332
骨折以外の外傷	32	41	36
抜 釘	138	127	117
手の手術	161	178	193
先天性奇形	0	0	4
骨軟部腫瘍	42	38	47
関節鏡 手	4	8	8
肘	1	0	6
肩	65	76	69
膝	79	51	59
股	2	0	1
人工股関節	54	48	51
人工膝関節	80	50	49
人工肩関節			9
その他の人工関節(肘、指、足)	16	14	8
上肢切断術(指含む)	5	2	5
下肢切断術(踵含む)	22	10	14
その他	35	27	38
計	1,400	1,268	1,275

オ 形成外科

分 類	件 数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
I. 外傷	171	175	200
II. 先天異常	15	17	14
III. 腫瘍	181	179	221
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	22	21	24
V. 難治性潰瘍	14	9	12
VI. 炎症・変性疾患	27	31	23
VII. 美容（手術）	46	46	57
VIII. その他	0	0	0
計	476	478	551

カ 心臓血管外科

分 類	病 名	術 式	件 数		
			平成25年度	平成26年度	平成27年度
心 大 血 管	大 動 脈				
	●胸部、胸腹部	人工血管置換術 他	10	8	9
	先 天 性 心 疾 患	開心術	0	0	0
	後 天 性 心 疾 患				
	●弁 膜 症	人工弁置換術、弁形成術	19	12	9
	●冠動脈疾患	冠動脈バイパス術 他	10	7	6
	●心 房 細 動	メイズ手術（単独）	1	0	0
	●そ の 他		1	2	2
	心 外 傷		}	}	}
	そ の 他	ペースメーカー移植 心カテアングリオ検査 その他	36	36	30
計			77	65	56

キ 皮膚科

術 式	件 数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
皮膚生検	162	163	232
皮膚良性腫瘍摘出	378	348	240
皮膚悪性腫瘍摘出	31	31	15
計	571	542	487

ク 泌尿器科

術 式	件 数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
後腹膜腫瘍摘出	0	0	1
腹腔鏡下副腎摘除術	5	3	4
副腎全摘除術	0	1	0
腎摘除術（良性）	0	0	1
根治的腎摘除術（悪性）	6	1	1
腎部分切除術	4	0	6
腹腔鏡下腎摘除術	11	18	13
腹腔鏡下腎部分切除術	1	4	8
腎尿管全摘除術	8	3	0
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	4	13	12
腎盂形成術	2	4	1
腎瘻造設術	7	7	6
P N L	0	3	5
腎盂切石	0	1	1
膀胱切石術	0	0	0
膀胱全摘除術	13	4	1
腹腔鏡下膀胱全摘除術	0	2	15
回腸導管造設術（膀胱全摘を伴うもの）	10	5	14
回腸導管造設術（膀胱全摘を伴わないもの）	2	5	2
代用膀胱造設術	3	1	2
後腹膜リンパ節郭清	0	0	0
経尿道の手術			
a) 膀胱結石、異物	12	17	17
b) T U R B T	116	100	100
c) T U R P	36	68	42
d) T U L	18	35	39
e) 経尿道的尿管狭窄拡張術	6	4	6
f) 内尿道切開切開術	1	0	2
g) 尿道狭窄拡張術	6	6	6
膀胱尿管新吻合	0	1	0
膀胱修復術	3	1	1
包茎手術			
a) 背面切開	1	0	0
b) 環状切開	2	3	2
精巣摘出術	4	2	6
高位精巣摘除術	5	3	8

術式	件数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
精巣固定術（停留精巣）	1	1	0
精巣（睾丸）捻転手術	2	1	2
陰嚢水腫根治手術	3	11	4
精索静脈瘤切除術	0	0	1
尿膜管嚢胞切除術	1	0	0
前立腺摘除術	3	1	1
腹腔鏡鏡下前立腺摘除術	13	23	21
前立腺針生検術	126	116	94
陰茎全摘除術	0	1	0
陰茎部分切除術	1	0	0
陰茎癌鼠径リンパ節廓清術	0	0	0
陰茎折症	0	0	0
E S W L	79	77	72
腎生検	1	4	4
尿管ステント留置	56	75	74
経皮的腎嚢胞縮小術	1	0	0
CVポート	3	1	8
膀胱瘻術	3	6	2
その他（R P など）	15	24	24
腹腔鏡下膀胱部分切除術	0	1	0
腹腔鏡下尿膜管切除術	0	1	0
腹腔鏡下腎嚢胞開窓術	0	0	1
計	594	658	630

ケ 産科・婦人科

術 式		件 数		
		平成25年度	平成26年度	平成27年度
内視鏡手術 合計		615	514	464
	腹腔鏡手術 合計	301	234	214
	腔式子宮全摘術	53	34	49
	子宮筋腫核出術	109	71	68
	付属器切除術	43	33	31
	卵巣腫瘍摘出術	81	71	41
	卵管開口術			
	子宮外妊娠手術	11	15	21
	その他の他	4	10	4
	子宮鏡手術 合計	314	280	250
	粘膜下筋腫摘出術	293	252	225
	その他の他	21	28	25
婦人科開腹手術 合計		202	177	177
	良性腫瘍手術 合計	144	137	124
	腹式単純子宮全摘術	75	80	58
	膣上部切断術			1
	子宮筋腫核出術	49	38	50
	付属器切除術	13	13	9
	卵巣腫瘍摘出術	6	3	5
	子宮外妊娠手術（開腹）			
	その他良性腫瘍手術	1	3	1
	悪性腫瘍手術 合計	58	40	21
	拡大子宮全摘術	32	30	15
	広汎子宮全摘術	3		
	卵巣癌根治術	3	4	3
	試験開腹			
	その他悪性腫瘍手術	20	6	3
産科手術 合計		293	294	294
	帝王切開術	284	289	284
	妊娠子宮摘出術	1	2	
	頸管縫縮術	1	1	3
	卵管結紮術	7		10
	その他の産科手術		2	1
腔式手術 合計		84	60	60
	子宮全摘＋膣壁形成	1	5	1
	膣壁形成術			
	膣閉鎖術	1	2	
	子宮膣部円錐切除術	70	52	44
	バルトリン腺手術			1
	その他腔式手術	12	1	4
子宮内容除去手術 合計		106	88	88
	流産手術	72	66	53
	胎状奇胎除去術	2	2	
	人工妊娠中絶術	2	7	
	内膜ポリープ切除術	3		
	全面搔爬術	27	13	71
計		1,300	1,133	1,133

コ 眼科

術 式	件 数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
白内障	309	272	288
硝子体手術	37	55	58
緑内障	0	4	2
網膜剥離（強膜バックリング）	3	0	1
斜 視	1	0	0
眼瞼腫瘍	0	3	0
眼瞼内反、眼瞼外反	1	0	0
眼球破裂	2	2	1
眼窩内異物	1	0	0
翼状片	3	3	0
霞粒腫	5	4	0
黄斑下血腫移動術	0	0	2
虹彩整復	1	0	1
結膜弛緩症	1	0	1
眼内レンズ縫着術・強膜内固定術	0	0	9
眼窩脂肪ヘルニア	2	1	0
眼瞼下垂	3	5	0
その他	0	0	1
硝子体注射	60	104	105
光凝固術			
網 膜	203	207	256
緑内障	18	10	8
後発白内障	52	19	5
光線力学療法	2	2	0
計	704	691	738

サ 耳鼻咽喉科

分 類	病 名	術 式	件		数	
			平成25年度	平成26年度	平成27年度	
耳	慢 性 中 耳 炎	鼓室形成	21側	16側	13側	
		乳突削開術	17側	14側	11側	
		鼓膜形成	4側	5側	8側	
		滲 出 性 中 耳 炎	鼓室内チューブ留置	30側	34側	46側
		先 天 性 耳 瘦 孔	瘦孔摘出	0	5側	3側
	外 耳 道 そ の 他		0	0	5	
	鼻	良 性 腫 瘍	腫瘍摘出	0	0	0
		慢 性 副 鼻 腔 炎	内視鏡下副鼻腔手術	46側	60側	52側
		頬 部 囊 腫	上顎洞根本術	1	0	0
		鼻 中 隔 彎 曲 症	鼻中隔矯正術	22	28	33
肥 厚 性 鼻 炎		下甲介切除術	14側	20側	18側	
上顎骨鼻骨骨折		整 復	6	6	2	
鼻 茸 そ の 他			2	3	5	
鼻副鼻腔悪性腫瘍				2	1	
咽 頭	アデノイド増殖	アデ切除	8	13	10	
	慢 性 扁 桃 炎	扁桃摘出	67側	88側	112側	
	咽 頭 良 性 腫 瘍	摘出・切除	6	4	9	
喉 頭	声帯ポリープ、他	ラリングマイクロ	13側	31側	29側	
	悪 性 腫 瘍	ラリングマイクロ	2側	0	0	
舌・口腔	良性腫瘍・チステ 他	摘出・切除	3	2	2	
顎 頸 部	唾 液 腺 手 術	良性手術摘出	11	21 (顎下腺6、耳下腺15)	23 (顎下腺8、耳下腺15)	
		悪性手術摘出	2	1(顎下腺)	2	
		甲 状 腺 手 術	良性手術摘出	10	27	21
		悪性手術摘出	10	11	10	
	頸 部 の う 胞 他	良性	6	6	3	
	リンパ節	摘 出	5	9	22	
	気 管 切 開		10	12	37	
	頭頸部悪性	舌 ・ 口 腔	悪性手術摘出	6	1	4
		咽 頭	悪性手術摘出	6	1	5
		喉 頭	悪性手術摘出	2	6	4
頸部郭清			9	15	22	
皮弁形成			0	2	5	
そ の 他			30	47	31	
計			369	490	548	

シ 歯科口腔外科

術式	件数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
〈入院手術症例〉			
上下顎骨形成術	4	2	3
顎顔面多発骨折観血的整復固定術		1	2
下顎骨骨折観血的整復固定術	8	10	3
頬骨骨折観血的整復固定術			
固定金属板除去術	9	6	4
唇顎口蓋裂手術			
顎骨嚢胞摘出術	21	28	29
顎骨骨髓炎手術		2	2
上顎洞根本術			
上顎洞口腔瘻閉鎖術	1		
唾石摘出術	1		
腫瘍摘出術	3	4	3
顎骨腫瘍摘出術	3	4	3
口腔・顎・悪性腫瘍切除術	5	4	4
顎骨・顔面再建術	2	1	
下顎・口蓋隆起形成術	4	5	2
埋伏歯抜歯術	8	15	7
顎関節脱臼観血手術			
顎関節授動術（開放）			
歯根端切除術		20	19
インプラント関連手術	1		4
心身障害児歯科治療	8	1	3
その他	8	5	11
〈外来手術症例〉			
埋伏歯抜歯術	739	916	1,004
抜歯術	1,387	1,521	1,573
嚢胞摘出術	89	81	76
歯根端切除術	33	63	48
縫合術	32	34	21
腫瘍摘出術	49	32	47
矯正用インプラント埋入術	21	28	19
インプラント埋入術	4	8	6
インプラント骨移植術	4	1	3
その他	271	343	311
計	2,715	3,135	3,207

10 分娩件数

術 式	件 数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単胎分娩	1,085	1,053	1,010
双胎分娩	17	12	20
経膣分娩	818	775	746
帝王切開分娩	284	290	284
帝王切開率	25.8%	27.2%	27.6%
早産分娩	95	94	96
正期産分娩	1,002	965	934
過期産分娩	1		
早産率	8.7%	8.8%	9.3%
吸引分娩	34	35	43
鉗子分娩	2	2	
骨盤位分娩		1	
V B A C			
予定帝王切開	153	172	170
緊急帝王切開	131	118	114
緊急帝王切開率	11.9%	11.1%	11.1%
母体搬送依頼（出）	3	3	4
母体搬送応需（入）	26	33	30
院外分娩	5	2	1
分娩時平均年齢	31.0歳	31.3歳	30.9歳
初産	611	584	541
経産	491	481	493
男児	569	572	577
女児	550	510	471
川崎区	525	493	536
幸区	252	209	204
中原区	35	43	21
川崎市	846	792	804
鶴見区	100	95	74
横浜市	148	130	108
大田区	46	55	49
東京都	71	83	76
川崎市民の割合	76.8%	76.1%	78.0%
分 娩 件 数	1,102	1,065	1,030
分 娩 総 数	1,119	1,082	1,050

11 麻酔科状況

分類・年度	診療科	一般外科	心臓外科	形成外科	放射線科	精神科	脳外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	循環器科	麻酔科	救急科	計
麻酔科管理	24	799	84	88	82	198	133	1,317	11	309	1,186	2	227	70	21	21		4,548
	25	923	39	85	83	121	96	1,154	13	368	1,206	3	215	72	6	4	5	4,393
	26	788	34	86	96	144	93	1,067	17	449	1,032	2	293	65	5	18	2	4,191
	27	872	35	54	22	168	105	1,002	6	412	970	0	260	63	5	0	3	3,977

(1) 麻酔科臨床工学室

医療機器が多用される最近の医療現場では、医師や看護師のみでは効率的かつ安全な医療の遂行が難しくなり、医学的な知識のみならず工学的な知識と技術を持つ専門家として、昭和63年に誕生したのが臨床工学技士です。臨床工学技士は医療技術者の一つで、厚生労働大臣の免許を受けて「医師の指示の下に呼吸、循環、代謝に関わる生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする」（臨床工学技士法第2条）とされています。

業務体制としては、手術室部門・人工呼吸器部門・血液浄化部門・心臓カテーテル部門・ペースメーカー部門・ME機器部門など多岐に分かれます。

臨床業務実績

年

点検業務実績

年度	PCAポンプ	電気メス	D	A	メーカ	一時的ペース	人工呼吸器	加温マット	人工心臓	P	C	P	S	血ガス装置	麻酔器	オペ室対応	透析室業務	閉鎖式保育器	シリンジポンプ	輸液ポンプ
24	85	19	190	86	218	1,020	6	67	10	492	2,438	76								
25	93	26	204	84	294	879	4	34	8	488	2,452	96	96	290	214	310				
26	119	26	204	84	252	991	4	27	20	488	2,492	79	100	304	715	1,172				
27	111	22	206	85	836	890	6	19	18	486	2,482	146	93	256	841	1,380				

12 内視鏡センター利用状況

分 類	件 数		
	平成25年度	平成26年度	平成27年度
上部消化管内視鏡	5,837	5,457	5,540
超音波内視鏡	7	8	14
食道・胃粘膜切除術	52	46	51
(食道粘膜切除術)	20 (ESD13)	17 (ESD13)	12 (ESD11)
(胃粘膜切除術)	32 (ESD29)	29 (ESD26)	39 (ESD39)
中・下咽頭粘膜切除術	10	2	0
上部消化管静脈瘤治療	16	31	50
(EVL)	(16)	(29)	(48)
(EIS)	(0)	(2)	(2)
胃静脈瘤硬化療法 (SOS)	0	0	0
狭窄拡張術	79	22	48
止血術	155	149	154
人工食道挿入	1	1	0
胃ろう造設 (PTEG)	76	60	76
イレウス管挿入	9	4	2
異物除去	17	23	14
下部消化管内視鏡	2,256	2,072	2,119
大腸粘膜切除術	186 (ESD11)	193 (ESD 0)	199 (ESD 8)
大腸ポリペクトミー	215	110	94
吻合部拡張術	3	3	3
止血術	14	9	12
カプセル内視鏡	19	18	24
気管支鏡	242	242	275
経気管支肺生検	69	76	94
膵・胆道内視鏡	273	266	266
逆行性膵・胆管造影	183	193	199
超音波内視鏡	81	64	67
EUS-FNA	9	9	7
乳頭括約筋切開術	71	83	66
乳頭バルーン拡張術	24	20	14
胆管結石採石・碎石術	71	79	61
経鼻胆道ドレナージ術	46	46	60
胆管ステント挿入術	44	51	47
膵管ステント挿入術	0	11	7
乳頭切除術	0	1	0
細胞診	32	31	1
組織診	11	22	0
計	8,696	8,131	8,224

13 クリニカルパス使用件数

病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
14N	7	3	7	8	10	9	10	7	11	5	9	12	98
14S	12	8	10	19	19	12	3	10	6	3	9	6	117
13N	47	33	38	35	31	29	43	33	38	42	47	57	473
13S	15	16	12	11	12	12	9	10	6	11	12	10	136
12N	82	69	83	103	88	89	71	77	67	77	80	89	975
12S	12	17	17	15	17	21	21	18	16	11	14	16	195
11N	39	48	48	43	28	31	36	35	36	25	25	22	416
11S	37	33	33	20	26	23	28	24	26	21	25	26	322
10N	80	62	70	64	69	56	66	53	49	44	69	78	760
10S	80	72	77	98	92	63	71	75	61	56	77	81	903
9N			1	4	5	6	6	6	6	4	5	6	49
9S											2	2	4
9W	1	3		2	3	3	2	4	4	3	4	2	31
8N	134	140	130	135	133	125	140	127	119	127	120	124	1,554
8S	27	30	20	26	28	22	23	17	26	35	30	22	306
8W													
I C U	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
O P E													
合計	574	535	547	584	562	502	530	497	472	465	529	554	6,351

14 外来治療センター利用状況

平成 27 年度治療患者数

月別 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
大腸	36	23	34	34	33	32	25	32	24	28	32	33	366
胃	18	13	19	19	17	12	10	11	9	10	6	3	147
肝胆膵	17	19	12	23	22	23	30	22	25	13	12	11	229
乳腺	31	23	35	27	22	23	27	24	20	33	36	34	335
呼吸器	16	12	19	17	15	24	25	16	21	28	20	30	243
造血器	30	12	32	19	20	13	26	16	21	22	22	15	248
婦人科	11	5	4	5	3	5	6	5	3	8	5	2	62
脳神経	18	9	11	11	11	18	13	14	11	12	12	8	148
泌尿器	0	2	1	1	0	1	0	1	1	2	3	3	15
頭頸部	4	1	3	6	5	5	5	3	8	9	12	14	75
その他	1	3	2	3	1	3	2	1	2	1	2	0	21
生物学的製剤	36	43	34	43	35	49	41	41	40	39	36	45	482
合計	218	165	206	208	184	208	210	186	185	205	198	198	2,371
診療日数	21	18	22	22	21	19	21	19	19	19	20	22	243
1日当たり	10.4	9.2	9.4	9.5	8.8	10.9	10.0	9.8	9.7	10.8	9.9	9.0	9.8

15 薬剤部業務状況

薬剤部の業務は、調剤・注射薬調製、薬剤管理指導、薬品管理、医薬品情報管理、製剤の5部門に大別され、その内容は次に示すとおりです。病院の機能分化が進む中、当院では外来患者数の減少に伴い、平成27年度の院外処方箋枚数は1日平均約40枚減少しました。持参薬の確認・鑑別業務は昨年度より約100件減少しましたが、これは入院契機となる薬剤の使用が減少したことが要因と考えられます。薬品管理部門では、前年度に引き続き後発医薬品への切替えを積極的に行い、後発品使用率（数量シェア）は70%超を維持しましたが、薬品使用金額は昨年度に比べ約3,500万円の増加となりました。

(1) 調剤・注射薬調製業務

アに科別、病棟別の外来・入院処方箋枚数を示しました。外来患者数が減少したことにより、外来院外処方箋枚数は昨年度より約10,000枚減少し、外来院内処方箋枚数は昨年度より約300枚減少しました。入院処方箋枚数は昨年度より約32,000枚増加しました。イに月別の外来処方箋枚数と院外処方箋発行率を示しましたが、院外処方箋発行率は昨年度とほぼ同じでした。ウに持参薬確認件数を示しましたが、昨年度より約100件減少しました。エに月別、病棟別TPN調製件数を示しました。TPN調製については、昨年度より一般病棟における調製件数が約1,460件と大幅に増加し、NICUの調製件数は約390件減少しました。オに化学療法調製件数を示しました。外来は昨年度より約370件減少し、入院は約40件減少しました。カに月別注射箋枚数を示しました。注射箋枚数は昨年度に比べ月平均約6,000枚と大幅に増加しました。その理由は、注射薬自動払い出しシステムの入替えにより集計方法が変わったことが挙げられます。

ア 診療科別外来（院外・院内）処方・病棟別入院処方年間総処方箋枚数及び1日平均処方箋枚数

診療科	外来院外処方箋枚数		外来院内処方箋枚数		病棟	入院処方箋枚数	
	年間	1日平均	年間	1日平均		年間	1日平均
内科	54,623	224.8	6,699	27.6	8N	3,615	9.9
精神・神経科	20,179	83.0	486	2.0	8S	4,427	12.1
小児科	17,031	70.1	3,915	16.1	8W	819	2.2
外科	8,224	33.8	972	4.0	9N	7,683	21.0
心臓血管外科	1,975	8.1	1	0.0	9S	5,768	15.8
脳神経外科	3,180	13.1	179	0.7	9W	937	2.6
整形外科	12,682	52.2	999	4.1	10N	8,271	22.6
形成外科	733	3.0	135	0.6	10S	8,568	23.4
皮膚科	14,144	58.2	207	0.9	11N	10,726	29.3
泌尿器科	7,986	32.9	179	0.7	11S	10,907	29.8
産婦人科	6,015	24.8	93	0.4	12N	8,612	23.5
眼科	4,528	18.6	78	0.3	12S	14,570	39.8
耳鼻咽喉科	6,092	25.1	224	0.9	13N	14,007	38.3
放射線科	395	1.6	16	0.1	13S	15,211	41.6
リハビリテーション科	54	0.2	2	0.0	14N	13,010	35.5
口腔外科	4,696	19.3	34	0.1	14S	14,011	38.3
救命救急センター	936	3.9	956	3.9	ICU	2,095	5.7
計	163,473	673	15,175	62	計	143,237	391

稼働日数 外来院外 243日

外来院内 243日

入院 366日

イ 平成27年度月間外来（院外・院内）処方箋枚数及び院外処方箋発行率

月別	外 来 処 方 箋 枚 数						院外処方箋発行率（注2）		
	院外処方箋枚数	院内処方箋枚数（注1）				計			
		(A)	(B)	(C)	計		(I)	(II)	(III)
4月	13,986	245	503	405	1,153	15,139	92.4%	94.9%	98.3%
5月	12,877	258	620	361	1,239	14,116	91.2%	93.6%	98.0%
6月	13,956	295	499	425	1,219	15,175	92.0%	94.6%	97.9%
7月	14,147	307	657	408	1,372	15,519	91.2%	93.6%	97.9%
8月	12,933	263	538	386	1,187	14,120	91.6%	94.2%	98.0%
9月	13,590	254	626	387	1,267	14,857	91.5%	93.9%	98.2%
10月	14,130	283	540	431	1,254	15,384	91.8%	94.5%	98.0%
11月	12,956	242	544	412	1,198	14,154	91.5%	94.3%	98.2%
12月	13,840	238	699	377	1,314	15,154	91.3%	93.7%	98.3%
1月	13,454	243	689	395	1,327	14,781	91.0%	93.5%	98.2%
2月	13,494	235	744	379	1,358	14,852	90.9%	93.2%	98.3%
3月	14,110	248	604	436	1,288	15,398	91.6%	94.3%	98.3%
計	163,473	3,111	7,263	4,802	15,176	178,649	91.5%	94.0%	98.1%

（注1）（A）：労災、自賠責扱い患者の処方、院内製剤、麻薬、治験を含む処方、特に必要と認めた患者の処方等

（B）：救急外来処方（主に夜間）

（C）：検査薬、糖尿病血糖測定紙、穿刺針、消毒綿、インスリン注入器等の処方

（注2）（I）：院内処方せん枚数に（A）、（B）、（C）を含む

（II）：院内処方せん枚数に（A）、（B）を含む

（III）：院内処方せん枚数に（A）を含む

ウ 持参薬確認件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14N	37	25	31	24	35	39	29	27	23	25	28	34	357
14S	23	24	28	31	22	25	30	29	30	31	28	27	328
13N	46	40	49	39	36	36	51	45	46	44	50	55	537
13S	41	34	40	33	34	40	24	32	40	37	37	44	436
12N	75	79	88	93	72	87	80	74	65	82	86	94	975
12S	36	34	53	23	33	33	31	35	27	31	34	28	398
11N	42	54	62	55	63	59	65	63	49	65	59	45	681
11S	49	66	72	64	65	53	55	57	57	58	59	72	727
10N	51	33	60	42	42	38	60	43	46	44	51	50	560
10S	41	29	55	53	55	55	34	46	49	54	56	50	577
9N	3	4	5	2	4	4	3	2	6	5	4	12	54
9S	6	6	12	7	9	5	8	15	10	17	15	6	116
8N	1	1		2		2		1				1	8
8S	1	1				1	1		1	2	2	2	11
ICU	1				1			1	1	1	2	1	8
合計	453	430	555	468	471	477	471	470	450	496	511	521	5,773

エ 平成27年度月別、病棟別TPN調製件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8S												3	3
9N													
10N													
10S							8						8
11N	57	55	31	67	37	13	16	25	46	96	72	50	565
11S	23	37	8		32	1	2	33	46	40	23	62	307
12N			4				12					3	19
12S			2	3			7		12	40	2	14	80
13N	25	16	32	24	30	23	22	30	38	11			251
13S			19	35	23	19	12	33	7	7	29	6	190
14N			27	4	14	42	34	23	10	24	21	3	202
14S			14	41	65	46	41	62	43	7	10	27	356
TPN小	105	108	137	174	201	144	154	206	202	225	157	168	1,981
NICU	28	31	23	22	20	8	16	16	43	4	8	33	252
合計	133	139	160	196	221	152	170	222	245	229	165	201	2,233

オ 平成27年度月別、外来（診療科）・入院（診療科・臓器別）化学療法調製件数

月別 診療科 ・入院（臓器別）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	94	75	90	93	78	89	88	75	80	86	74	86	1,008
外科	90	69	97	91	87	88	95	83	78	88	92	84	1,042
脳神経外	5	5	5	7	10	12	10	8	6	5	4	5	82
産婦人科	11	5	4	6	3	5	6	5	3	7	5	2	62
泌尿器科		2	1	1		1		1	1	3	3	3	16
耳鼻咽喉科	4	1	3	6	5	5	5	3	8	9	11	14	74
歯科													
エンドキサンパルス	1	1	1	1					1				5
外来合計	205	158	201	205	183	200	204	175	177	198	189	194	2,289
造血器	19	7	14	7	8	11	17	11	13	11	7	13	138
肺	69	80	47	60	55	45	57	65	64	83	53	75	753
食道	12	8	9	16	25	18	10	19	13	12	15	9	166
胃	3	1	5	4	3	3	5	1	1	2	1	1	30
膵	2	2	1	2			22	2		1	6	15	53
胆肝													
乳腺		1		1	1	4	2			5	3	5	22
大腸	7	5	8	6	10	7	10	7	5	9	10	4	88
脳外	4	2	4	10	1				1				22
皮膚科	1					1		2					4
産婦人科	10	2	3	5	5	2	9	14	6	5	6	6	73
泌尿器科	25	19	18	27	11	22	38	33	16	26	14	14	263
耳鼻科	5	3	23	16	20	22	24	17	19	17	9	10	185
歯科													0

エンドキサン	1	1	2	1	3	2	3						13
その他						2		2					4
入院合計	158	131	134	155	142	139	197	173	138	171	124	152	1,814
総合計	363	289	335	360	325	339	401	348	315	369	313	346	4,103

カ 平成27年度月別注射箋枚数（入院）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
注射箋枚数	13,197	15,184	14,891	15,350	14,119	13,323	15,091	14,578	15,075	13,344	13,539	14,135	171,826

(2) 薬剤管理指導業務

平成27年度は、指導患者数で約90人、指導件数で約650件の増加となりました。産休職員の復帰などに伴う薬剤師の人員増が影響を及ぼしているものと考えられます。内科を始め、外科、整形外科、泌尿器科などが大幅に増加しました。

診療科別・病棟別年間指導対象患者数及び薬剤管理指導件数

診療科	患者数	薬剤管理指導件数	病棟	患者数	薬剤管理指導件数
内科	1,248	1,754	8N	3	3
精神・神経科	11	17	8S	7	7
小児科	6	6	9N	11	17
外科	285	404	9S	5	5
心臓血管外科	40	55	9W	6	6
脳神経外科	15	20	10N	340	453
整形外科	417	557	10S	160	235
形成外科	13	14	11N	154	221
皮膚科	36	46	11S	186	267
泌尿器科	299	387	12N	646	809
産婦人科	34	53	12S	181	255
眼科	164	167	13N	456	554
耳鼻咽喉科	113	175	13S	205	319
歯科口腔外科	56	67	14N	190	288
救急科	7	8	14S	190	287
			ICU	4	4
計	2,744	3,730	計	2,744	3,730

(3) 薬品管理業務

薬品使用金額は昨年度に比べ約1.7%、金額にして約3,500万円の増加となりました。増加の理由は先発医薬品から後発医薬品への変更による減額効果以上に、新規抗がん剤や抗体製剤などの高額薬品の購入費が増加したことによるものと考えられます。

〔薬品使用状況〕

ア 用途別消費比率

区 分	比 率 (%)	区 分	比 率 (%)
内 服 用 薬 品	18.12	そ の 他 薬 品	0.84
注 射 用 薬 品	66.84	麻 薬	1.03
外 用 薬 品	2.40	血 液	4.47
検 査 薬 品	4.39	放 射 性 薬 品	1.92

イ 薬効別構成比

区 分	比率(%)
神経系及び感覚器官用医薬品 (麻酔剤、解熱鎮痛剤、抗てんかん剤、精神神経用材等)	5.60
個々の器官系用医薬品 (循環器官、呼吸器官、消化器官用薬等)	11.70
代謝性医薬品 (ビタミン剤、滋養強壮薬、人工透析用薬等)	15.30
組織細胞の機能用医薬品 (主要、アレルギー用医薬品等)	20.43
漢方製剤	0.10
病原生物に対する医薬品	34.72

区 分	比率(%)
治療を主目的としない医薬品	4.31
麻薬	1.30
検査用試薬	4.39
R I	1.92
歯科用薬剤	0.02
その他	0.21

ウ 採用医薬品における後発医薬品の割合

平成27年度末時点での、後発医薬品採用率及び使用率（新算定法による）は、次のとおりでした。

採用薬品数	先発医薬品	後発医薬品	合計	後発医薬品 採用率 (品目シェア)
	1,028	403	1,431	28.16%
入院使用数量 (薬価単位)	先発医薬品 (後発の発売が あるもの)	後発医薬品	合計	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	705,140	1,676,061	2,381,201	70.39%
外来使用数量 (薬価単位)	先発医薬品 (後発の発売が あるもの)	後発医薬品	合計	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	43,948	177,536	221,484	80.16%

(4) 医薬品情報管理業務

日本病院薬剤師会への薬剤師介入事例報告（プレアボイド報告）は、昨年度の163件から136件と約20%減少しましたが、昨年度と同様に100件以上を維持しました。治療薬物モニタリング（TDM解析）への介入実績は、昨年度の38件から85件と約2.2倍の大幅増加となりました。その理由として、バンコマイシンの院内測定が可能になったことにより測定件数が増加したことが挙げられます。

平成27年度 月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プレアボイド 報告（様式1）				2				1		1	1		5
プレアボイド 報告（様式2）	12	12	17	7	13	8	2	19	26	6	1	13	136
TDM解析	4	7	20	19	9	6	2	12	2	1	1	2	85

様式1：重篤化等回避報告

様式2：未然回避報告

(5) 製剤業務

院内製剤実績は全体的に減少傾向にあり、昨年度実績のあった坐薬は実績なしとなりました。当院では、市販品又は同等の市販品への切替えを推進しており、院内製剤品目数の減少傾向はさらに続くと考えられます。

平成 27 年度 主な製剤総量

薬 品 名	規格	数量	薬 品 名	規格	数量
3%亜硝酸ナトリウム注射剤	10ml	5	2%グリセリンカリ石鹼浣腸	3000ml	4
8 倍イソジン洗眼液	100ml	418	2.5%酢酸	100ml	26
塩酸エピネフリン 0.03%	50ml	699	2.5%酢酸	500ml	45
滅菌エピネ・キシロ 1 : 1	50ml	54	30%酢酸	8000ml	44
滅菌オリブ油	20ml	26	耳垢水	10ml	60
滅菌グリセリン	30ml	18	3%硝酸銀液	10ml	5
脱気水	1000ml	77	20%硝酸銀液	30ml	5
滅菌ハイアミン 0.025%	100ml	396	精製水	3000ml	31
滅菌ハイアミン 0.01%	100ml	75	精製水	10000ml	16
滅菌ハイアミン 0.01%	500ml	45	生理食塩水	10000ml	92
滅菌ピオクタニン 2%	10ml	478	2%ホルマリンアルコール	500ml	4
滅菌ペルカミン液 0.2%	50ml	56	ホワイトローション	50ml	15
滅菌ペルカ・エピネ 1 : 1	50ml	56	5%内服用ルゴール	500ml	8
1.2%口腔外科用ルゴール	100ml	15	1%内服用ルゴール	100ml	14
0.5%硫酸アトロピン点眼液	5ml	13	1.2%ルゴール液	500ml	6
0.25%硫酸アトロピン点眼液	5ml	13	0.8%ルゴール液	500ml	15
4%キシロカイン点眼液 分注	5ml	88	アクリノール分包	5g	5
ナシビン点鼻液 分注	10ml	47	水性ゲル	450ml	9
プリビナ点鼻液 分注	10ml	5	5%チンクレスタミンクリーム	100g	5
2%SADBE アセトン	60ml	4	2%ハイドロキノン	10g	50
1%SADBE アセトン	60ml	10	5%ハイドロキノン	10g	40
0.1%SADBE アセトン	60ml	7	0.2%ポリミキシン軟膏	300g	4
0.01%SADBE アセトン	60ml	3	0.8%メトロニダゾールゲル	100g	8
0.001%SADBE アセトン	60ml	8	モース氏ペースト	100g	1
0.0005%SADBE アセトン	60ml	2	0.1%レチノイン酸	10g	40
ZENTEL	30ml	4	0.2%レチノイン酸	10g	37
アクネローション	50ml	21	10%硫酸亜鉛散	100mg/包	2,320

平成27年度年間製剤総数量

滅菌、無菌を要する製剤		滅菌を要しない製剤	
注 射 剤	5本	内・外用液剤	462本
点眼薬・点鼻薬等	166本	軟 膏 剤	8.4kg
そ の 他	2,487 L	坐 薬	0個
		内 用 散 剤	2,320包

16 放射線診断科・放射線治療科業務状況

平成27年度には、平成10年購入のポータブル装置（移動式回診型X線撮影装置）が老朽化のため更新しました。新型の軽量及び耐荷重が強化されたF P D（平面検出器：フラットパネルディテクタ）を導入し、病棟のベッド上撮影に最適な「強力アイテム」を入手することができました。今後、救急外来及び手術室のポータブル装置も新型F P Dに変更し、迅速な画像処理・高画質な画像の提供を進めていきます。

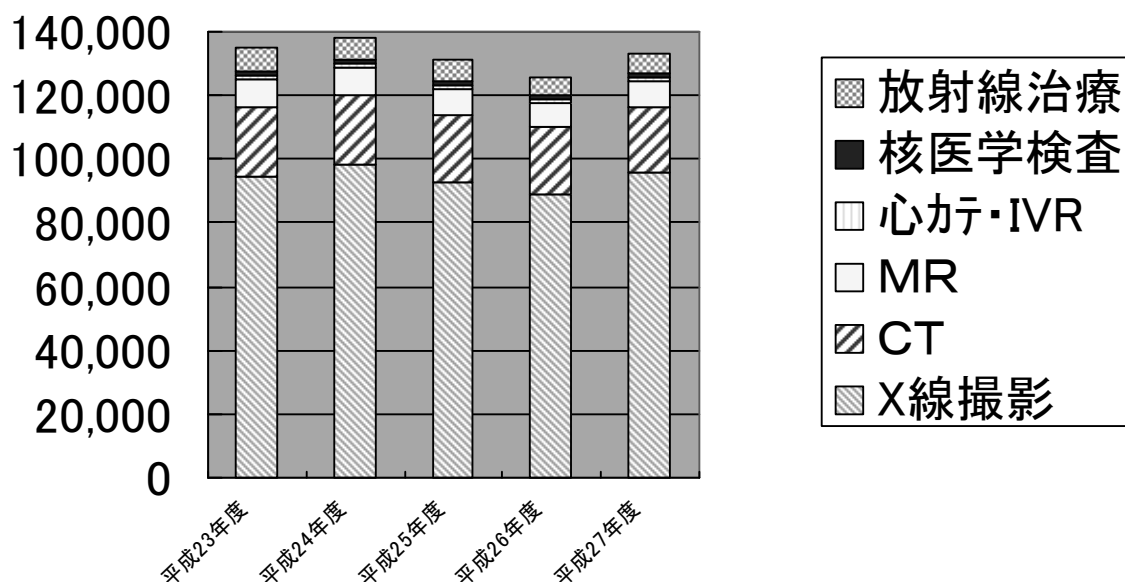
放射線科業務総人数は、全ての部門において前年比増となりました。表にはありませんが、平成22年度の142,261人から4年連続で減少した患者数が前年度比9%増という前途明るい数値になりました。

地域連携支援病院取得・県がん支援病院取得に向けて、検査件数増・放射線治療件数増を目指し、P E T－C Tの導入、2台目の放射線治療装置としてサイバーナイフ等定位放射線治療機等の導入、既存装置の最新型でより高性能な医療機器への更新が検討されています。

放射線診断科・治療科 患者数比較表 年度推移

部 門	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度比	件数 (平成27年度)	前年度比
X線撮影	94,671	98,133	92,483	89,125	95,943	1.08	176,679	1.15
C T	21,952	21,952	21,432	20,910	20,573	0.98	21,676	1.00
M R	8,474	8,537	8,228	7,768	7,834	1.01	12,435	0.96
カテ治療IVR	1,116	1,135	1,063	1,026	1,039	1.01	1,039	1.01
核医学検査	1,380	1,421	1,150	1,118	1,243	1.11	1,243	1.11
放射線治療	7,659	6,977	6,857	5,685	6,608	1.16	7,390	1.17
合 計	135,252	138,155	131,213	125,632	133,240	1.06	220,462	1.12

放射線科業務患者数年度別推移(人数)



(1) 撮影部門

検査種別	部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科
一般単純撮影	頭部・頸部系	単純	90	1	157	14		445	20	29	7	
	胸部系	単純	33,746	289	3,120	10,276	1,916	341	1,207	145	407	1,126
	腹部系	単純	3,835	263	521	8,357	7	101	15	1	11	3,206
	椎体系	単純	743	8	25	78		102	15,582	6	7	
	胸郭系	単純	177	4	4	26		1	4,210		2	
	骨盤系	単純	91	14	11	19	1	8	3,527		1	
	上肢系	単純	1,307	6	265	51		5	14,252	29	20	
	下肢系	単純	1,415	10	83	99		7	14,834	28	55	
	その他	単純			1	2						
一般単純撮影集計			41,404	595	4,187	18,922	1,924	1,010	53,647	238	510	4,332
ポータブル	頭・頸部系(P)	単純	5		1	2						
	胸部系(P)	単純	8,413	102	238	1,491	271	255	82	3	67	117
	腹部系(P)	単純	1,210	57	47	1,103	7	72	25		6	94
	椎体系(P)	単純	10	4		4		1	44			
	胸郭系(P)	単純	3						14			
	骨盤系(P)	単純	7			1		2	48			
	上肢系(P)	単純	15	4	29	5		1	10		2	
	下肢系(P)	単純	19	2	9			1	63		2	
	その他(P)	造影			1	2						
ポータブル 集計			9,682	169	325	2,610	278	332	286	3	77	211
手術室ポータブル	頭部・頸部系(O)	単純	2			4				2		
	胸部系(O)	造影				1						
		単純	5			225	61	4	9	3		3
	軀幹系(整形)(O)	単純	1					1	526			
	腹部系(O)	単純	5			530						101
	椎体系(整形)(O)	単純							733			
		造影							2			
	上肢系(整形)(O)	単純	4					3	585			
	下肢系(整形)(O)	単純							672			
手術室ポータブル 集計			17			760	61	8	2,527	5		104
乳房撮影			1	2		1,808						
一般造影撮影	外科系	造影				4						
	泌尿器科系	造影			2							
	婦人科系	造影										
一般造影撮影 集計					2	4						
透視検査	上部消化管	造影	25		4	154						
	下部消化管	造影	12			94						
	消化管その他	造影	23			197		1				
	肝・胆道・膵臓	造影	33			42						
	腎臓	造影										183
	尿管	造影										20
	膀胱、尿道、その他	造影				2						54
	婦人科	造影										
	脊椎、椎体	造影						2	192			
	整形系その他	造影							31			
	小児科	造影			40							
	その他	造影	6			76			2			
透視検査 集計			99		44	565		3	225			257
透視下内視鏡	呼吸器系	単純	208			45						
	上部消化管系	単純	2		1	13						
	下部消化管系	造影	11			16						
		単純	2			5						
	肝臓・胆嚢・膵臓系	造影	207			95						
透視下内視鏡 集計			430		1	174						
骨塩定量			117		39	134		6	252		1	
結石破碎			2			4						83
救急室単純撮影	頭部・頸部系(ER)	単純	25		15			21	8	7	2	
	胸部系(ER)	単純	2,617	1	868	174		11	50	2	7	3
	腹部系(ER)	単純	1,478		339	192		1	3			7
	椎体系(ER)	単純	57		5	3		2	245			
	胸郭系(ER)	単純	39			4		6	170	2		
	骨盤系(ER)	単純	29		1	1			72			
	上肢系(ER)	単純	17		6	4			921		2	
	下肢系(ER)	単純	53		13	2		4	786	4	10	
救急室単純撮影 集計			4,315	1	1,247	380		45	2,255	15	21	10
合 計			56,067	767	5,843	25,357	2,263	1,404	59,192	261	609	4,997

産婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリテーション科	救急科	体検	麻酔科	総計	外来	入院	総計
6		165	2,719	8		13			3,674	2,290	437	2,727
1,232	14	1,091	147	68		250	2,589	1	57,965	22,470	12,108	34,578
98		6	3	14		24			16,462	3,987	4,184	8,171
6		16		14	2	25			16,614	4,225	737	4,962
5		4				46			4,479	1,724	177	1,901
51						29			3,752	1,371	562	1,933
				15	8	72			16,030	5,038	339	5,377
9		4		4		95			16,643	3,880	727	4,607
									3	1	1	2
1,407	14	1,286	2,869	123	10	554	2,589	1	135,622	44,986	19,272	64,258
2									10	2	5	7
150		65	4	36		1,040		45	12,379	109	11,363	11,472
9	1	8		26		74		3	2,742	1	31	32
						2			65	23	2,506	2,529
						2			19		15	15
				2		17			77	2	62	64
						5			71	2	42	44
						14			110		62	62
									3		3	3
						1			3	1	1	2
161	1	73	4	64		1,155		48	15,479	140	14,090	14,230
		1	10						19	2	7	9
									1		1	1
1		26	2	1		1		8	349	5	318	323
									528	1	373	374
460		6				3		2	1,107	7	1,025	1,032
									733	3	406	409
									2		1	1
								4	596	46	220	266
						2			674	3	311	314
461		33	12	1		6		14	4,009	67	2,662	2,729
2				6			762		2,581	1,204	11	1,215
									4	1	2	3
2									4	1	2	3
4									4	4		4
6									12	6	4	10
		7		2	391		96		679	177	444	621
									106	80	19	99
									221	6	197	203
						3			78	1	74	75
				1		2			186	93	57	150
									20	15	3	18
									56	4	46	50
36									36	32		32
									194	91	62	153
						8			39	26	12	38
									40	12	24	36
		4		1					89	5	74	79
36		11		4	391	13	96		1,744	542	1,012	1,554
									253	42	185	227
									16		14	14
									27	1	30	31
									7	54	236	290
				2		2			306	97	465	562
				2		2			609	194	930	1,124
68	1		1	2			14		635	541	35	576
				4					93	4	76	80
		6				62			146	76	3	79
29		57		8	1	3,784		2	7,614	5,564	444	6,008
5				5		499			2,529	1,379	71	1,450
				2		429			743	306	4	310
						347			568	258	3	261
					3	504		7	617	417	14	431
				8		824			1,782	568	19	587
		2			2	1,048		2	1,926	591	20	611
34		65		23	6	7,497		11	15,925	9,159	578	9,737
2,169	16	1,468	2,886	229	407	9,227	3,461	74	176,697	57,191	38,752	95,943

(2)CT部門

CT		内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
頭部系	単純	990	99	56	20	7	1,383	6	22	5	6	6
	造影	5		1	11					1		
	単純＋造影	7		3	9		3					
頸部系	単純	4		2					1			
	造影	3		1	1							
	単純＋造影	4			1							
胸部系	単純	1,693	2	11	630	77	8	19	4	32	147	52
	造影	975		16	1,364	19	4	1		87	247	301
	単純＋造影	278			974	3	8	3	2	9	70	29
腹部系	単純	157		2	108	3		1	2	21	111	12
	造影	152		10	162		4	1		9	33	9
	単純＋造影	595	1	3	160	1	3	1		30	141	26
骨盤系	単純	2						76	1	2	2	1
	造影	3			5			2		2		
	単純＋造影	1										
四肢系	単純	4					5	279				
	造影	1			3			453	11			
	単純＋造影	1						3		1		
血管系	造影	123	2		358	66	15	21	3	4	2	10
	単純＋造影	167			16	24	174	4				
	単純	2,851	101	71	761	87	1,396	834	41	60	266	71
小計	造影	1,262	2	28	1,901	85	23	28	3	104	282	320
	単純＋造影	1,053	1	6	1,160	28	188	8	2	39	211	55
合 計		5,166	104	105	3,822	200	1,607	870	46	203	759	446

救急室CT		内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
頭部系	単純	736	3	131	9		85	16	4	1	6	
	造影	2										
	単純＋造影	3										
頸部系	造影											
	単純	216	2	3	3		1	6				
	造影	31	1		7							2
胸部系	単純＋造影	9			3							
	単純	193		3	6			4			2	
	造影	47		12	12							
腹部系	単純＋造影	324		4	48			2				4
	単純	1						3				
	造影	3			1			42	1			
四肢系	単純	3										
	造影	2			10							
	単純＋造影	15			3							
全身系	単純	68			6		1				2	1
	造影	17			1							3
	単純＋造影	62			17			3				1
小計	単純	1,217	5	137	25	0	87	71	5	1	10	1
	造影	99	1	12	30	0	0	0	0	0	0	5
	単純＋造影	413	0	4	71	0	0	5	0	0	0	5
合 計		1,729	6	153	126	0	87	76	5	1	10	11

CT + 救急室CT		内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
合 計		6,895	110	258	3,948	200	1,694	946	51	204	769	457

(3)MR部門

		内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
頭部系	単純	3,682	277	577	10	76	1,644	21		9	3	5
	造影	536	2	2	37		491	2		2		2
	単純＋造影	6		2				2	7	4	4	
頸部系	造影	4								1		
	単純	10		1	16	1		2	3	1		
	造影	9		1	251					2		
胸部系	単純＋造影											
	単純	336			112					4	8	3
	造影	111		1	60						3	
腹部系	単純＋造影											
	単純	16		7	15			9	2	18	154	532
	造影	5			3					14	27	84
骨盤系	単純＋造影											
	単純	11		2				377	9	5		
	造影							3		1		
四肢系	単純	19		4	6		1	316		11		
	造影	2						6		3		
	単純＋造影											
脊椎系	単純	228	1	26	9		19	1,189	1	1		
	造影	11					5	19				
	単純＋造影											
血管系	単純	8		1	43	1	5	1	3	1		1
	造影	7		1	5					2		
	単純＋造影											
合 計		5,001	280	625	567	78	2,165	1,947	25	79	199	627

眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリテーション科	救急科	体検	麻酔科	総件数	合計	外来人数	入院人数	総人数	合計
23	281	946	16		95			3,961	4,026	2,700	1,219	3,919	3,974
	7	7						32		16	13	29	
	3	8						33		15	11	26	
	49	6						62	230	50	4	54	213
	57	65			1			128		100	15	115	
	30	5						40		40	4	44	
	36	40	79		14			2,844	7,480	2,434	470	2,904	7,500
	168		7		9			3,198		2,743	414	3,157	
	42	1	16		2	1		1,438		1,245	194	1,439	
	1		34		6			458	1,824	356	105	461	1,807
					4			384		279	119	398	
			9		12			982		754	194	948	
			3		5			92	106	62	30	92	107
					1			13		7	6	13	
								1		1	1	2	
					4			292	292	165	125	290	283
			2		2			472	478	397	77	474	481
								5			5	5	
								1			2	2	
		2	1		5			612	999	417	193	610	992
					2			387		322	60	382	
23	367	992	134	0	126	0	0	8,181	15,435	6,164	2,030	8,194	15,364
0	232	74	8	0	20	0	0	4,372		3,562	765	4,327	
0	75	14	25	0	16	1	0	2,882		2,377	466	2,843	
23	674	1,080	167	0	162	1	0	15,435	15,435	12,103	3,261	15,364	15,364

眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリテーション科	救急科	体検	麻酔科	総件数	合計	外来人数	入院人数	総人数	合計
1	11				2,165		1	3,169	3,209	2,961	207	3,168	3,220
					4			6		9	2	11	
					31			34		39	2	41	
					2			2	2	1	1	2	2
					321			552	661	76	14	90	448
	1				43			85		116	33	149	
					12			24		178	31	209	
					230			438	1,177	409	24	433	1,188
					43			114		104	11	115	
					243			625		593	47	640	
					14			18	18	17	3	20	20
					75			122	122	103	10	113	113
					6			18	70	50	27	77	128
					34			52		49	2	51	
					575			653		25		25	
					97			118	982	46		46	90
					128			211		19		19	
1	11	0	0	0	3,380	0	1	4,952	6,241	3,591	258	3,849	5,209
0	1	0	0	0	195	0	0	343		326	74	400	
0	0	0	0	0	448	0	0	946		878	82	960	
1	12	0	0	0	4,023	0	1	6,241	6,241	4,795	414	5,209	5,209

眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリテーション科	救急科	体検	麻酔科	総件数	合計	外来人数	入院人数	総人数	合計
24	686	1,080	167	0	4,185	1	1	21,676	21,676	16,898	3,675	20,573	20,573

眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリテーション科	救急科	体検	麻酔科	総件数	合計	外来人数	入院人数	総人数	合計
55	190		89	8	144			6,790	7,901	1,947	833	2,780	3,684
	36		1					1,111		702	202	904	
6	45	11						87	157	81	6	87	164
2	48	15						70		77		77	
								34	311	30	2	32	311
			14					277		277	2	279	
			4					467	643	325	72	397	508
			1					176		103	8	111	
			13		2			768	901	729	64	793	906
								133		99	14	113	
			27					431	436	418	17	435	440
			1					5		4	1	5	
			18		5			380	393	346	45	391	403
					2			13		9	3	12	
			66		36			1,576	1,611	1,128	197	1,325	1,359
								35		19	15	34	
			2					66	82	50	4	54	59
			1					16		4	1	5	
63	319	26	237	8	189	0	0	12,435	12,435	6,348	1,486	7,834	7,834

(4) 核医学部門

検査種別	部位分類	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科
核医学	脳	129	39	4			61					
	甲状腺	5										
	副甲状腺	4										
	副腎	5			1						3	
	肺	5										
	循環器	106	3		21	5						
	唾液腺	9										
	消化管	1		1								
	腎			12							5	
	骨	353			217		2	16		1	73	2
	腫瘍	30		4	2			1		1	1	
	リンパ				86							
合 計		647	42	21	327	5	63	17	0	2	82	2

(5) カテーテル治療・IVR部門

		内 科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	放射線科	その他	合計
心臓系	心カテ	337						337
	PCI	219						219
	経皮的心筋焼灼術							0
	ペースメーカー	3		30				33
	その他	5		2				7
	心臓系 小計	564	0	32	0	0	0	596
頭頸部 一般血管	脳血管診断				33			33
	脳血管IVR				21			21
	頭頸部血管 小計	0	0	0	54	0	0	54
	胸・腹部診断		2			9		11
	四肢・血管系診断		16			4		20
	一般血管診断 小計	0	18	0	0	13	0	31
	胸・腹部IVR		17	13		109		139
	四肢・血管系IVR		116			43		159
	一般血管 I V R 小計	0	133	13	0	152	0	298
	血管以外の検査・治療					47		47
	その他		5		8			13
合 計		564	156	45	62	212	0	1,039

(6) 画像データ・フィルム画像の入出力件数

	入出力デバイス名	平成26年度 件数	平成27年度 件数	前年度比
入 力	フィルム	484	468	0.97
	CD(医事課)	3,106	3,915	1.26
	入力合計	3,590	4,383	1.22
出 力	フィルム	313	420	1.34
	CD-R	2,818	2,685	0.95
	DVD	243	298	1.23
	出力合計	3,375	3,403	1.01
総 合 計		6,965	7,786	1.12

(7) CT3D処理

	平成26年度 件数	平成27年度 件数	前年度比
依頼なし	451	505	1.12
インプラント	451	429	0.95
インプラント3D	58	1,317	22.71
3D	1,300	1,300	1.00
合計	1,809	2,144	1.19

眼科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	体検	麻酔科	総件数	外来人数	入院人数	総人数
	16		1					250	160	90	250
	3							8	6	2	8
	2							6	5	1	6
								9	9		9
								5	2	3	5
								135	117	18	135
	2							11	10	1	11
								2	1	1	2
								17	7	10	17
	2	2	22		1			691	612	79	691
	1							40	22	18	40
								86		86	86
0	26	2	23	0	1	0	0	1,260	951	309	1,260

(8) 放射線治療部門

リニアック部位件数

部位	件数
脳	393
眼窩	13
副鼻腔	6
口腔・舌	0
頸部	1,141
その他	74
肺	647
食道	185
乳房	1,583
鎖骨部	333
腋窩・胸壁	340
その他	68
縦隔	140
腹部	127
その他	25
全骨盤	372
小骨盤	949
鼠径・臀・外陰部	46
その他	38
上肢（軟部）	4
下肢（軟部）	32
その他	0
頭部骨	20
胸部骨	89
腹部・骨盤部骨	112
脊椎	519
上肢骨	20
下肢骨	93
その他	0
上肢関節	0
下肢関節	20
全身	0
リハ・節	0
その他	1
合 計	7,390

治療計画CT件数

		外来	入院	合計
頭部	単純	18	47	65
	造影	2	5	7
頭部集計		20	52	72
副鼻腔	造影	0	1	1
副鼻腔集計		0	1	1
頸部	単純	22	9	31
	造影	9	3	12
頸部集計		31	12	43
肺・縦隔	単純	37	23	60
	造影	5	6	11
肺・縦隔集計		42	29	71
乳房	単純	69	1	70
	造影	0	0	0
乳房集計		69	1	70
上腹部	単純	2	0	2
	造影	2	0	2
上腹部集計		4	1	5
下腹部	単純	3	0	3
	造影	3	0	3
下腹部集計		3	0	3
骨盤腔	単純	44	11	55
	造影	1	1	2
骨盤集計		45	12	57
股関節	単純	2	1	3
	造影	2	1	3
股関節集計		2	1	3
頸椎	単純	1	5	6
	造影	1	5	6
頸椎集計		1	5	6
胸椎	単純	5	13	18
	造影	0	0	0
胸椎集計		5	13	18
腰椎	単純	8	9	17
	造影	8	9	17
腰椎集計		8	9	17
上肢	単純	1	0	1
	造影	1	0	1
上肢集計		1	0	1
下肢	単純	1	5	6
	造影	1	5	6
下肢集計		1	5	6
その他	単純	0	2	2
	造影	0	2	2
その他集計		0	2	2
小計	単純	213	126	339
	造影	19	16	35
	単+造	0	1	1
合 計		232	143	375

リニアック特殊放射線治療件数

区 分	件数
強度変調放射線治療（IMRT）	586
前立腺	675
画像誘導放射線治療（IGRT）	1,257
脳定位放射線治療	154
肺定位放射線治療	48
合 計	2,720

放射線治療管理料件数

区 分	件数
1門照射・対向2門照射	66
非対向2門・3門照射	128
4門照射以上	135
強度変調放射線治療（IMRT）	43
放射線治療専任加算	299
合 計	671

(9) 使用造影剤

造影剤	規格	平成26年度	平成27年度	前年度比
ガストログラフィン	100ml	327	410	1.25
バリテスターA240散	350g	180	180	1.00
ホースデル	250ml	335	345	1.03
EOB・プリモビスト注シリンジ	10ml	80	85	1.06
イオパミロン注300	50ml	180	135	0.75
	100ml	182	146	0.80
イオパミロン注300シリンジ	50ml	125	25	0.20
	100ml	2,370	2,275	0.96
イオパミロン注370	20ml	27	194	7.19
	50ml	70	25	0.36
	100ml	495	537	1.08
イオパミロン注370シリンジ	100ml	360	395	1.10
イオメロン300注	50ml	225	320	1.42
	100ml	175	205	1.17
オイパロミン300注シリンジ	100ml	2,015	2,590	1.29
オムニパーク140注	50ml	120	60	0.50
オムニパーク300注	10ml	160	130	0.81
オムニパーク300注シリンジ	80ml	950	885	0.93
	100ml	2,330	2,090	0.90
	150ml	175	180	1.03
コンレイ注	20ml	900	608	0.68
ウログラフィン注	20ml		410	
バイステージ注370	50ml	70	400	5.71
	100ml	385	55	0.14
マグネビストシリンジ	15ml	1,140	1,065	0.93
リピオドル480注	10ml	110	95	0.86
ネオダルムゾル	400ml	60	10	0.17
オムニスキャンシリンジ	10ml	260	260	1.00

(10) 放射性医薬品

	平成26年度	平成27年度	前年度比
	入荷量 (MBq)	入荷量 (MBq)	
99Mo-99mTc generator	0.0	0.0	0.00
99mTc-pertechnetate	32,930.0	31,450.0	0.96
99mTc-HSA-D	740.0	740.0	1.00
99mTc-ECD	66,000.0	69,000.0	1.05
99mTc-MAG3	1,554.0	1,998.0	1.29
99mTc-MDP	441,780.0	511,340.0	1.16
99mTc-PMT	1,850.0	0.0	0.00
99mTc-MIBI	110,852.0	2,220.0	0.02
99mTc-tetrofosmin	740.0	108,780.0	147.00
99mTc-MAA	4,440.0	0.0	0.00
201TlCl	2,664.0	3,478.0	1.31
67Ga-citrate	6,438.0	4,292.0	0.67
123I-MIBG	4,008.0	3,330.0	0.83
123I-BMIPP	666.0	888.0	1.33
123I-capsule	33.3	22.2	0.67
131I-adosterol	148.0	37.0	0.25
111In-DTPA	851.0	925.0	1.09
123I-ioflupane	4,008.0	14,863.0	3.71

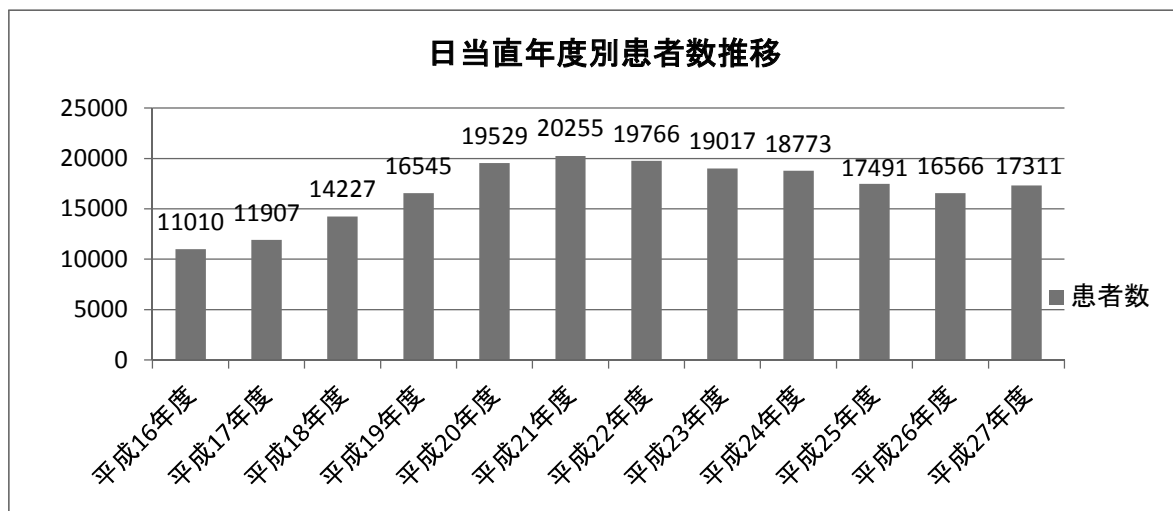
(11) 日当直状況

ア 月別日当直患者数

	平成27年度(人)		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度比
	当直	土日祝日勤	合計(人)	合計(人)	合計(人)	合計(人)	合計(人)	
4月	413	895	1,602	1,571	1,434	1,405	1,308	0.93
5月	1,001	990	1,635	1,638	1,584	1,496	1,991	1.33
6月	341	818	1,381	1,554	1,496	1,353	1,159	0.86
7月	384	902	1,684	1,667	1,435	1,339	1,286	0.96
8月	488	835	1,465	1,623	1,430	1,253	1,323	1.06
9月	648	899	1,495	1,559	1,421	1,409	1,547	1.10
10月	397	879	1,568	1,499	1,302	1,414	1,276	0.90
11月	552	920	1,577	1,490	1,438	1,311	1,472	1.12
12月	599	870	1,797	1,646	1,616	1,591	1,469	0.92
1月	568	897	1,718	1,721	1,669	1,633	1,465	0.90
2月	561	979	1,520	1,361	1,319	1,221	1,540	1.26
3月	522	953	1,575	1,444	1,347	1,141	1,475	1.29
合計	6,474	10,837	19,017	18,773	17,491	16,566	17,311	1.04
月平均	539.5	903.1	1,584.8	1,564.4	1,457.6	1,380.5	1,442.6	1.04
一日平均	17.7	96.8	132.1	130.4	121.5	115.0	120.2	1.04

イ 日当直業務内容別患者数

業務項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度比
	合計人数	合計人数	合計人数	合計人数	合計人数	
単純撮影	9,202	8,665	9,110	8,282	8,120	0.98
回診撮影	4,876	5,070	3,300	3,337	3,763	1.13
造影撮影	89	114	139	84	153	1.82
カテ治療・IVR	115	100	154	154	196	1.27
CT検査	4,735	4,824	4,788	4,705	5,053	1.07
MR検査				4	26	6.50
合計	19,017	18,773	17,491	16,566	17,311	1.04



17 リハビリテーション科業務状況

(1) 平成27年度 業務実績

平成27年度リハビリテーション科業務実績		
	項目	人数
1	理学療法合計	24,484
2	作業療法合計	11,993
3	言語聴覚療法合計	4,051
4	年間筋電図実施人数	148
5	年間嚥下造影実施人数	335
6	年間嚥下内視鏡実施人数	125
7	総合計	40,528

月別 リハビリテーション科業務実績 (単位:人数)																					
日付	平成27年4月			平成27年5月			平成27年6月			平成27年7月			平成27年8月			平成27年9月			平成27年10月		
月実施日数	21			18			22			22			21			19			21		
項目	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
理学療法合計	2,288	19	2,307	2,193	11	2,204	2,381	8	2,389	2,370	4	2,374	2,284	30	2,314	1,850	23	1,873	2,135	30	2,165
作業療法合計	880	192	1,072	849	176	1,025	1,099	202	1,301	1,071	214	1,285	900	212	1,112	651	184	835	718	189	907
言語聴覚療法合計	185	12	197	261	9	270	299	11	310	317	14	331	292	14	306	253	18	271	425	17	442
年間筋電図実施人数																					
年間嚥下造影実施人数																					
年間嚥下内視鏡実施人数																					
総合計	3,353	223	3,576	3,303	196	3,499	3,779	221	4,000	3,758	232	3,990	3,476	256	3,732	2,754	225	2,979	3,278	236	3,514

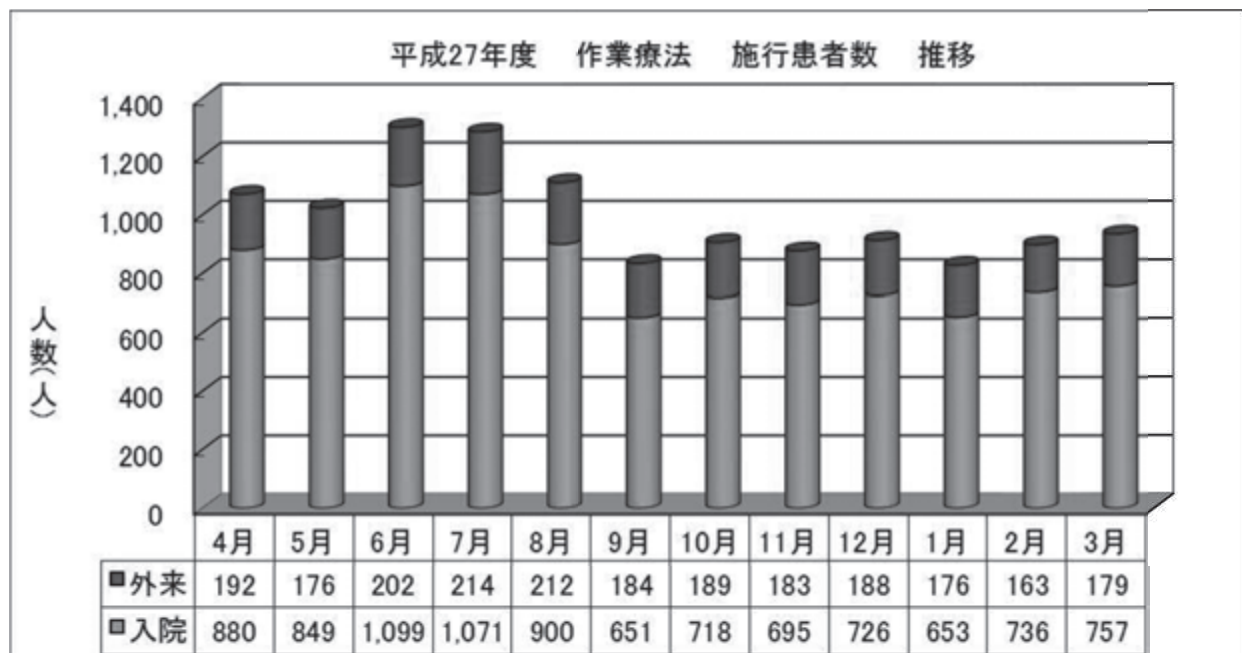
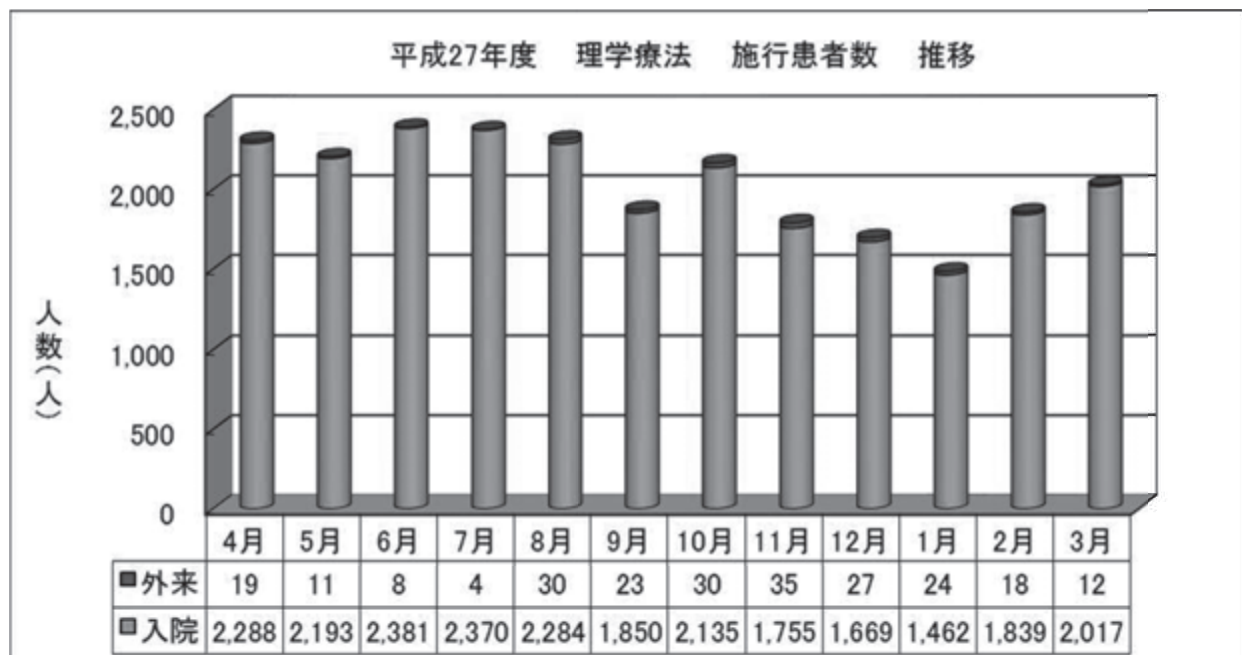
日付	平成27年11月			平成27年12月			平成28年1月			平成28年2月			平成28年3月			年間合計		
月実施日数	19			19			19			20			22			243		
項目	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計	入院	外来	合計
理学療法合計	1,755	35	1,790	1,669	27	1,696	1,462	24	1,486	1,839	18	1,857	2,017	12	2,029	24,243	241	24,484
作業療法合計	695	183	878	726	188	914	653	176	829	736	163	899	757	179	936	9,735	2,258	11,993
言語聴覚療法合計	401	20	421	409	12	421	339	13	352	354	14	368	353	9	362	3,888	163	4,051
年間筋電図実施人数																	148	
年間嚥下造影実施人数																	335	
年間嚥下内視鏡実施人数																	125	
総合計	2,851	238	3,089	2,804	227	3,031	2,454	213	2,667	2,929	195	3,124	3,127	200	3,327	37,866	2,662	40,528

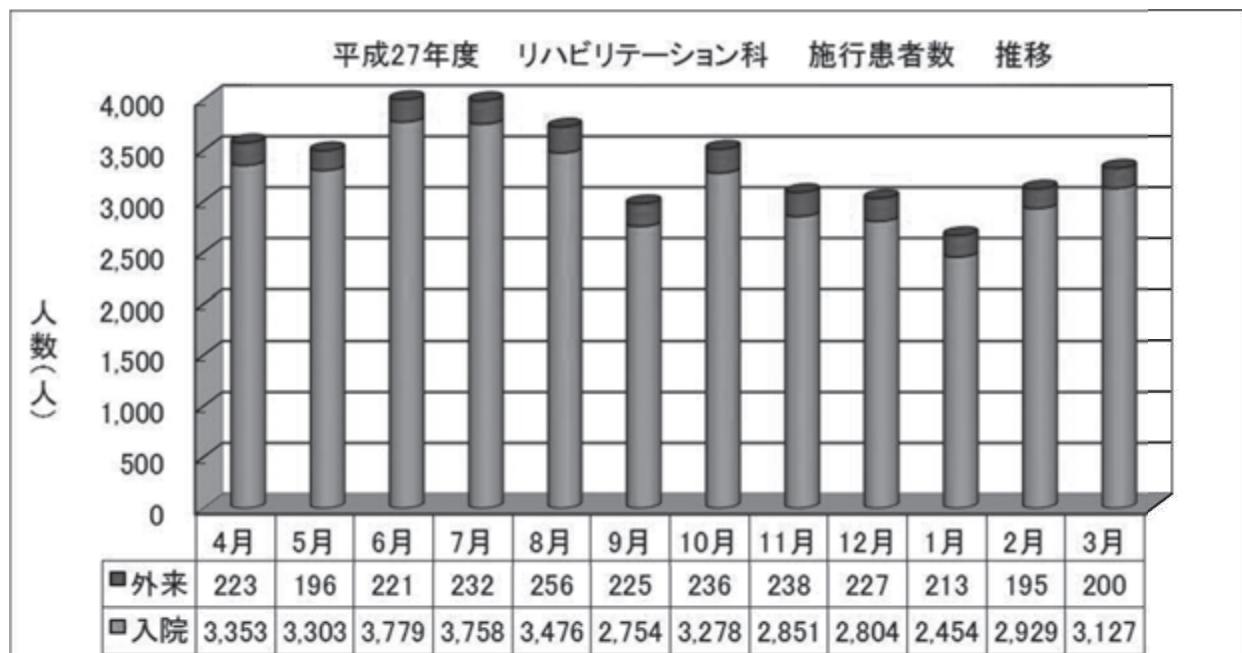
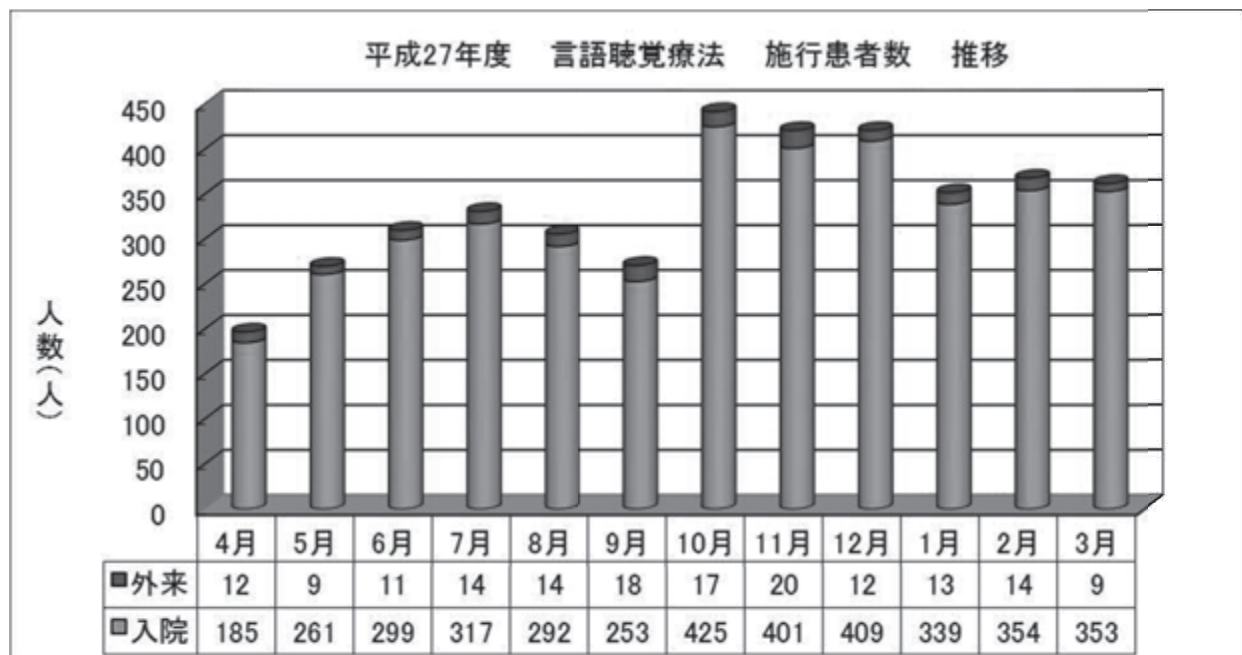
* 1人のセラピストが、1日に受け持てる患者数は18～24名、かつ、1週間で108名と決められています。

* 早期加算とは、発症から、脳血管・運動器・呼吸器に加算されます（厚生労働大臣が別に定めた患者が対象）。

* 消炎鎮痛処置・介速牽引は、一般病床200床以上の病院では、外来診療科に包括されます。

* 算定日数は、それぞれ脳血管180日、運動器150日、呼吸器90日となります。





(2) 平成27年度実習状況

学校名	人数	期間
北里大学医療衛生学部理学療法学科	1名	平成27年4月6日～5月29日
東京医療学院理学療法学科夜間部	1名	平成27年6月8日～7月31日
目白大学保健医療学部言語聴覚学科	1名	平成27年5月18日～6月26日
国際医療福祉大学保健医療学部作業療法学科	1名	平成27年8月10日～9月4日

18 検査科業務状況

業務実績概要は資料に示したとおり、平成26年度と比べ、生理検査は1.7%増加、病理・細胞診検査は1.9%減少、解剖数は2.5倍に増加、細菌検査は20.9%増加、血液センターの検査件数は1.1%増加、宿日直検査は1.7%増加しました。臨床支援業務は、産科エコー検査は横ばい、抗酸菌塗抹至急検査は1.0%減少しました。

検査科は、病理医師の検査科部長の下、臨床検査技師の正規職員21名、非常勤職員1名、臨時的任用職員13名、ブランチ・ラボ（SRLに業務委託）で業務を行いました。資格取得に積極的に取り組み、検査機能の充実・拡大に努めています。また、院内感染チーム、DMAT、糖尿病療養指導等のチーム医療への参加や外来採血の待ち時間減少への取組等、検査の質と患者サービスの向上に努めています。

各種認定資格取得状況

日本超音波医学会認定超音波技師：循環器3名、消化器2名、体表臓器2名

日本糖尿病療養指導士：3名、日本臨床細胞学会認定細胞検査士：5名（国際細胞検査士3名）

日本臨床衛生検査技師会病理検査技師1名、日本輸血・細胞治療学会認定輸血検査技師：2名

(1) 生 理 検 査（心室遅延電位は平成27年11月に新設しました。）

項 目	平 成 2 6 年 度			平 成 2 7 年 度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
心 電 図	15,843	2,674	18,517	15,200	3,441	18,641
C V R R	14	11	25	37	46	83
心 室 遅 延 電 位				3	6	9
運 動 負 荷	146	9	155	130	17	147
起 立 負 荷	31	4	35	40	2	42
ホ ル タ ー	338	23	361	307	22	329
ト レ ッ ド ミ ル	142	9	151	128	7	135
負 荷 心 肺 機 能 検 査	3	7	10	7	2	9
A B I	1,279	178	1,457	1,273	201	1,474
S P P	20	17	37	17	31	48
T B I	20	0	20	28	1	29
一 般 肺 機 能（SVC）	1,571	283	1,854	1,702	336	2,038
一 般 肺 機 能（FVC）	1,571	283	1,854	1,702	336	2,038
機 能 的 残 気 量	62	14	76	75	11	86
肺 拡 散 能 力	62	13	75	75	10	85
C ・ ボ リ ュ ー ム	49	12	61	66	9	75
薬 剤 吸 入 試 験	19	9	28	6	4	10
筋 電 図	557	36	593	526	8	534
神 経 伝 導 検 査	1,896	433	2,329	1,773	521	2,294
脳 波	604	341	945	649	416	1,065
脳 波（眠 剤 使 用）	20	103	123	7	109	116
A B R	77	22	99	48	18	66
V E P						
S E P						
V E M P						
心 エ コ ー	1,619	714	2,333	1,650	752	2,402
経 食 道 心 エ コ ー	3	1	4	3	3	6
腹 部 エ コ ー	3,408	795	4,203	3,390	877	4,267
体 表 エ コ ー	2,729	174	2,903	2,674	150	2,824
血 管 エ コ ー	288	317	605	363	338	701
エ コ ー 下 生 検 ・ 穿 刺	168	50	218	167	30	197
モ ニ タ リ ン グ	0	21	21	0	25	25
合 計	32,539	6,553	39,092	32,046	7,729	39,775

(2) 病理検査部門

ア 病理・細胞診検査

項 目	平 成 26 年 度			平 成 27 年 度		
	外来件数	入院件数	総件数	外来件数	入院件数	総件数
病 理 組 織 検 査	3,140	4,415	7,555	2,922	4,685	7,607
病 理 術 中 迅 速 検 査	4	251	255	5	289	294
免 疫 染 色	478	840	1,318	489	889	1,378
特 殊 染 色	67	295	362	78	350	428
電 子 顕 微 鏡 検 査	0	27	27	0	7	7
細 胞 診 検 査	9,556	1,277	10,833	8,839	1,377	10,216
細 胞 診 術 中 迅 速 検 査	0	31	31	0	42	42
病 理 解 剖	0	12	12	0	27	27
合 計	13,245	7,148	20,393	12,333	7,666	19,999

イ 剖検状況

科別剖検状況	平 成 26 年 度				平 成 27 年 度			
	実入院	死亡数	剖検数	剖検率	実入院	死亡数	剖検数	剖検率
内 科	4,230	280	10	3.57	4,362	249	23	9.24
神 経 科								
小 児 科	1,798	1			1,944	3		
外 科	1,770	78			1,794	61	2	3.28
脳 神 経 外 科	211	8			202	15		
整 形 外 科	1,087	3			1,025	2		
形 成 外 科	73	0			58	0		
心 臓 血 管 外 科	84	3			89	3	1	33.33
皮 膚 科	221	1			165	3		
泌 尿 器 科	713	11			685	15		
産科・婦人科（死産児）	2,165	7	1	14.29	2,064	4		
眼 科	194	0			173	0		
耳 鼻 咽 喉 科	481	5			444	1		
リハビリテーション科	0	0			0	0		
放 射 線 科	6	0			8	0		
歯 科 口 腔 外 科	110	0			115	0		
救 命 救 急 セ ン タ ー	572	77	1	1.30	571	79	1	1.27
感 染 内 科	0	0			0	0		
感 染 小 児 科	0	0			0	0		
精 神 科	339	1			274	0		
計	14,054	475	12	2.53	13,973	435	27	6.21

ウ 臨床支援業務

項 目	平 成 26 年 度			平 成 27 年 度		
	外来件数	入院件数	外来件数	外来件数	入院件数	総件数
産科エコー（胎児計測）	2,728		2,728	2,724		2,724

(3) 細菌検査

項目 \ 年度		平成 26 年 度			平成 27 年 度		
		外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
塗 抹 鏡 検		3,350	3,977	7,327	3,707	4,900	8,607
培 養 同 定	口 腔 ・ 呼 吸 器	2,197	2,139	4,336	2,403	2,296	4,699
	消 化 器	516	1,032	1,548	446	1,180	1,626
	泌 尿 器 ・ 生 殖 器	1,628	1,014	2,642	2,419	1,234	3,653
	血 液 ・ 穿 刺 液	3,205	3,409	6,614	4,109	4,546	8,655
	そ の 他	1,520	1,024	2,544	874	1,004	1,878
嫌 気 性 培 養		4,353	5,152	9,505	5,117	6,456	11,573
薬 剤 感 受 性	1 菌 種	2,116	1,578	3,694	2,391	1,855	4,246
	2 菌 種	556	533	1,089	625	535	1,160
	3 菌 種 以 上	182	219	401	186	223	409
大 腸 菌 抗 原		393	362	755	347	343	690
大腸菌ベロトキシン		11	5	16	2	3	5
肺 炎 球 菌 抗 原		0	4	4	3	1	4
ヘモフィルス抗原		0	4	4	3	0	3
カ ン ジ ダ		0	0	0	0	0	0
ト リ コ モ ナ ス		3	0	3	1	0	1
ク ラ ミ ジ ア		1	0	1	0	0	0
インフルエンザ		1,446	192	1,638	91	19	110
アデノウイルス		589	119	708	229	38	267
R S ウ イ ル ス		457	98	555	153	34	187
抗 酸 菌 塗 抹 至 急		120	500	620	104	510	614
合 計		22,643	21,361	44,004	23,210	25,117	48,387

平成27年8月からインフルエンザ、アデノウイルス及びRSウイルスの迅速検査は検体検査室での実施となりました。

(4) 血液センター

ア 検査件数

	平成 26 年 度			平成 27 年 度		
	外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
血液型 ABO 式 及び Rh 式	6,504	1,548	8,052	6,581	1,515	8,096
抗体スクリーニング 含む抗 D i a 抗体検査	5,065	1,153	6,218	5,131	1,213	6,344
A B O 式 垂 型 の 同 定	3	0	3	2	0	2
そ の 他 の 血 液 検 査	1	3	4	1	2	3
抗 体 価	23	28	51	17	10	27
交 差 試 験	835	2,906	3,741	959	2,834	3,793
直 接 ク ー ム ス	28	227	255	30	207	237
間 接 ク ー ム ス	17	31	48	30	47	77
出 血 時 間	5	4	9	8	9	17
合 計	12,481	5,900	18,381	12,759	5,837	18,596

イ 血液使用数量

			平成 26 年 度			平成 27 年 度		
製 剤	単位		外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
自 己 血	1		0	7	7	0	1	1
	2		0	148	148	0	122	122
成 分	赤血球 製剤	院内照射 RCC-LR・RBC-LR	1	0	27	0	37	37
			2	740	1,777	650	1,896	2,546
		日赤照射 RCC-LR・RBC-LR	1	0	0	0	4	4
			2	5	63	17	101	118
		合 計	1	0	27	0	41	41
			2	745	1,840	667	1,997	2,664
	新鮮凍 結血漿	F F P - L R	120ml	0	13	0	39	39
			240ml	205	770	240	667	907
			480ml	0	157	0	116	116
製 剤	濃 厚 血 小 板	院内照射 P C - L R	1	0	0	0	13	13
			5	2	1	0	3	3
			10	21	36	15	38	53
			15	0	1	0	0	0
			20	0	4	0	9	9
		日赤照射 P C - L R	1	0	0	0	0	0
			5	0	13	0	10	10
			10	26	69	8	121	129
			15	1	32	4	14	18
			20	7	27	8	39	47

注：単位 1 は200ml由来、単位 2 は400ml由来

注：平成26年8月供給分より RCC-LRはRBC-LRに名称変更

ウ 自己血貯血

		平成 26 年 度			平成 27 年 度		
	単位	外 来	入 院	合 計	外 来	入 院	合 計
液 状 保 存	1	9	1	10	2	1	3
	2	242	15	257	231	12	243
合 計		251	16	267	233	13	246

*単位 1 は200ml、単位 2 は400ml

(5) 院内委託検査

検査項目	平成 26 年 度			平成 27 年 度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
(尿 検 査)						
尿 定 性	51,514	14,111	65,625	49,785	13,634	63,419
尿 沈 渣	24,864	9,489	34,353	25,327	8,737	34,064
尿 定 量 検 査	7,110	20,446	27,556	8,655	26,736	35,391
髄 液 検 査	1,331	1,807	3,138	1,242	1,923	3,165
穿 刺 液 検 査	222	614	836	202	783	985
そ の 他	3,089	5	3,094	2,838	3	2,841
小 計	88,130	46,472	134,602	88,049	51,816	139,865
(血 液 検 査)						
血 算	79,184	45,977	125,161	78,517	51,087	129,604
血 液 像	46,480	28,962	75,442	50,386	35,529	85,915
網 状 赤 血 球	4,698	6,592	11,290	6,789	8,724	15,513
凝固関連検査	56,656	46,304	102,960	60,679	58,743	119,422
血 液 ガ ス	1,912	3,011	4,923	1,803	2,592	4,395
赤 沈	6,670	807	7,477	6,870	933	7,803
そ の 他	11	8	19	9	6	15
小 計	195,611	131,661	327,272	205,053	157,614	362,667
(血 清 検 査)						
感染症関連検査	46,641	4,008	50,649	47,535	3,722	51,257
薬物関連検査	3,163	892	4,055	2,540	769	3,309
腫瘍関連検査	24,843	1,750	26,593	24,720	2,061	26,781
そ の 他	18,608	4,817	23,425	33,252	7,475	40,727
小 計	93,255	11,467	104,722	108,047	14,027	122,074
(生 化 学 検 査)	1,413,247	747,369	2,160,616	1,427,604	873,127	2,300,731
合 計	1,790,243	936,969	2,727,212	1,828,753	1,096,584	2,925,337

(6) 院外外注検査

検 査 項 目	平 成 26 年 度			平 成 27 年 度		
	外 来	入 院	総件数	外 来	入 院	総件数
内分泌学の検査	9,295	2,953	12,248	10,295	3,417	13,712
腫瘍関連検査	17,173	2,434	19,607	17,924	2,896	20,820
細胞性免疫検査	2,073	342	2,415	2,288	361	2,649
薬物検査	1,248	448	1,696	1,283	609	1,892
生化学的検査	7,957	3,137	11,094	5,763	3,474	9,237
免疫学の検査	38,338	6,732	45,070	32,283	6,340	38,623
感染症・ウイルス検査	16,332	4,014	20,346	18,249	4,449	22,698
血液学的検査	247	339	586	297	255	552
遺伝子関連検査	180	206	386	205	224	429
微生物学的検査	3,159	3,813	6,972	3,128	4,347	7,475
病理学的検査	229	160	389	176	184	360
尿検査・他	2,718	566	3,284	2,851	737	3,588
合 計	98,949	25,144	124,093	94,742	27,293	122,035

(7) 宿日直検査

項 目	平 成 26 年 度		平 成 27 年 度	
	件 数	月 平 均	件 数	月 平 均
血液型検査	1,678	139.8	1,706	142.1
交差適合試験	1,380	115.0	1,401	116.8
血液製剤払い出し	840	70.0	980	81.7
心電図検査	4,519	376.6	4,477	373.1
合 計	8,417	701.4	8,564	713.7

19 給食業務状況

平成24年度から病床数が713床に変更され、入院患者数の減少に伴い給食総数も減少していましたが、平成27年度は平成26年度より12,000食程増加しました。今年度も引き続き特別食の増加を目標に掲げ、医療スタッフ勉強会や特別食早見表の配布を行い、特別食比率は0.7%増加しました。栄養に関する情報発信として、栄養だより作成、毎月デイルームへ掲示しました。また献立アイディア募集箱の意見を参考に委託業者と連携しながら、メニュー改善を行いました。

(1) 年度別給食状況

年 度	一 般 食				特別食	計	1 回 の 食 数	特別食 比率%
	常 食	軟 食	流動食	計				
平成23年度	205,478	106,162	62,067	373,707	117,241	490,948	447	23.9
平成24年度	198,266	88,293	61,874	348,433	136,209	484,642	443	28.1
平成25年度	190,869	86,117	59,635	336,621	126,932	463,553	423	27.4
平成26年度	190,806	89,445	51,783	332,034	119,848	451,882	413	26.5
平成27年度	189,566	92,045	56,284	337,895	126,162	464,057	424	27.2

(2) 食種別給食数

総 数 464,057 食 100 %

一般食	337,895食	72.8 %	— 常食	189,566食
			— 軟食	53,181食
			— 嚥下調整食	38,864食
			— 流動食	5,575食
			— 調乳	15,797食
			— 濃厚流動食	34,912食

特別食	126,162食	27.2%	— 蛋白コントロール 食	50,518食
			— 脂質コントロール 食	10,052食
			— カロリーコントロール 食	52,364食
			— 術後・潰瘍食	10,577食
			— 注腸食	75食
			— 濃厚流動食	2,576食

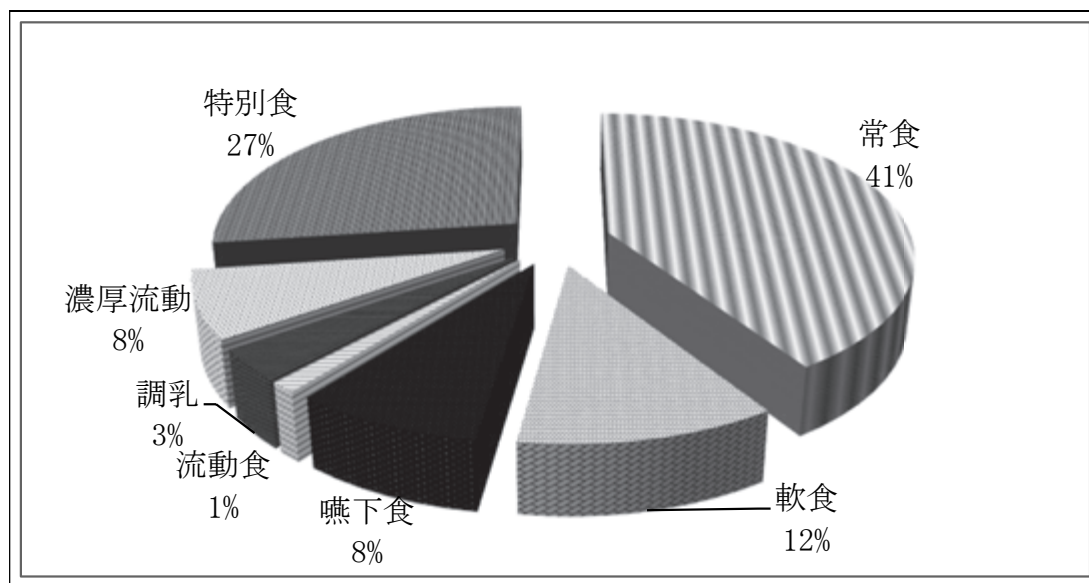
なごみ食 11,410 食 (常食として計上)

フリーオーダー食 1,944食 (常食として計上)

定型除去食 273 食 (軟食として計上)

検食 4,380 食 (常食として計上)

食種別比率



(3) 平成27年度月別給食数

月 別	一 般 食				特別食	計	1回の食 数
	常 食	軟 食	流動食	計			
4 月	16,054	7,500	4,901	28,455	9,939	38,394	427
5 月	15,929	7,380	5,198	28,507	10,857	39,364	423
6 月	15,319	7,664	5,234	28,217	11,546	39,763	412
7 月	16,890	7,333	5,426	29,649	10,409	40,058	431
8 月	15,129	7,472	5,222	27,823	11,051	38,874	418
9 月	14,805	6,936	4,657	26,398	9,042	35,440	394
10 月	15,429	8,261	4,392	28,082	9,424	37,506	403
11 月	16,489	8,725	4,029	29,243	10,019	39,262	436
12 月	16,083	8,234	3,948	28,265	11,177	39,442	424
1 月	15,639	7,409	4,190	27,238	10,475	37,713	406
2 月	15,193	6,927	4,508	26,628	11,208	37,836	450
3 月	16,607	8,204	4,579	29,390	11,015	40,405	434
計	189,566	92,045	56,284	337,895	126,162	464,057	

(4) 嚥下調整食数

平成26年2月から嚥下調整食の分類を見直し、一口大食ときざみ食をまとめ6段階としました。全食数の8%を占めています。栄養サポートチームでは経口摂取を目指し、早期介入を行っています。

年 度	ゼリー開始食	ミキサー	細きざみ	きざみ	一口大	軟菜食Ⅰ	軟菜食Ⅱ	計
平成23年度	1,392	13,373	8,263	5,470	7,935	9,656	6,129	52,218
平成24年度	1,095	8,531	7,072	7,301	4,711	7,742	4,923	41,375
平成25年度	913	10,525	5,340	5,869	4,486	5,637	4,437	37,207
平成26年度	1,647	16,159	7,459	6,498	0	7,885	2,240	41,888
平成27年度	1,730	13,404	5,927	8,074	0	7,738	1,991	38,864

20 栄養指導・NST業務状況

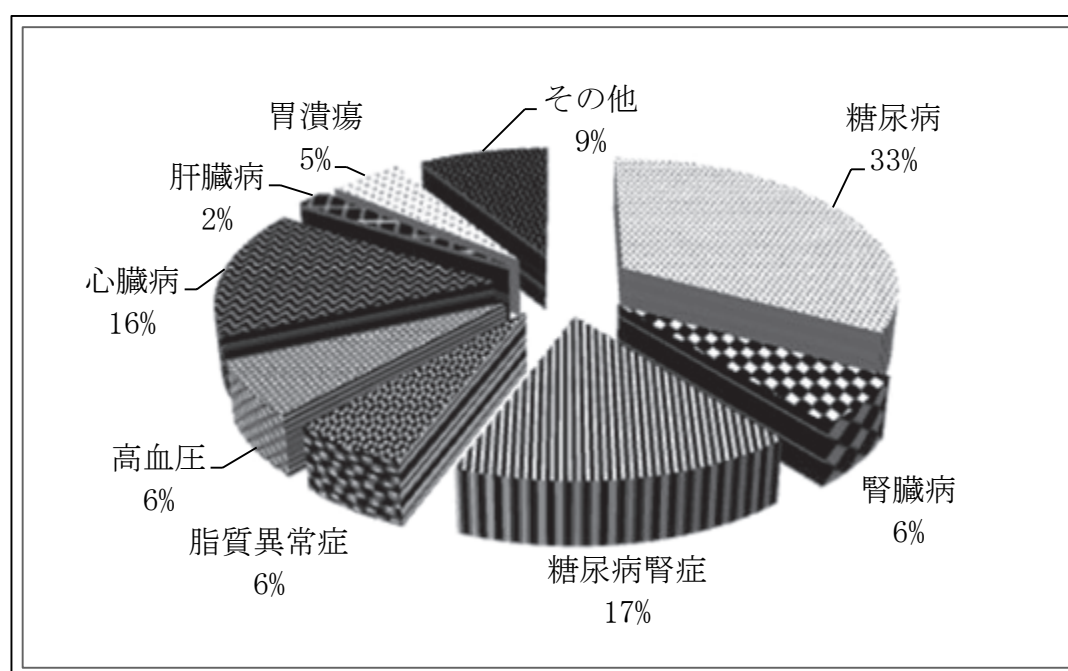
(1) 栄養指導状況

個別指導は、外来指導件数が100件減少しましたが、入院指導件数は53件増加しました。疾患別では、糖尿病、糖尿病腎症合わせて50%と半数を占めています。心臓カテーテル入院でのクリニカルパス指導件数は16%、その他は嚥下調整食や妊婦ダイエットなど特別食以外での指導です。集団指導は糖尿病教室、母親教室、アレルギー教室とも参加者が減少しました。

		個 別 指 導		集 団 指 導				
		個別指導	透析予防指導	糖尿病教室		母親教室	アレルギー教室	イベント
				基 礎	応 用			
回 数	総数	2,554	515	11	12	12	12	4
	月平均	212.8	42.9	0.9	1	1	0.9	
指 導 人 数	総数	3167	567	117	139	252	26	118
	月平均	263.9	47.3	10.6	11.6	21		
内 訳	総数	外来 1,068	外来 515	外来 28	39	外来 252	外来 26	5月 看護の日 12名 ・糖尿病 公開講座 8・10・11月 106名
		入院 1,486		入院 63	73			
		家族他 613	家族 52	家族他 26	27		(家族 26)	
	月平均	外来 89	42.9	外来 2.5	3.3	外来 21		
		入院 123.8		入院 5.7	6.1			
		家族他 51.1	4.3	家族他 2.4	2.3			
時 間	総時間	1,277	257.5	11.0	12.0	12.0		
	1回	30分	30分	1時間	1時間	1時間		

個別栄養指導(疾患別件数)

糖尿病	腎臓病	糖尿病腎症	脂質異常症	高血圧	心臓病	肝臓病	胃潰瘍	その他	計
1,016	185	515	182	200	478	67	154	272	3,069



(2) N S T回診状況

N S T（栄養サポートチーム）は食事だけでなく、経管栄養、静脈栄養など総合的かつ専門的な栄養管理を目指し、医師、看護師、薬剤師、栄養士、検査技師、言語聴覚士など、多職種が連携して活動を行っています。平成22年の診療報酬改定にて、栄養サポートチーム加算（200点／週／人）が新設され、平成23年3月から施設基準を満たし算定を行っています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 (人)
平成23年度	146	165	288	221	254	320	275	295	197	245	307	239	2,952
平成24年度	256	212	218	225	300	207	278	217	213	198	214	207	2,745
平成25年度	256	191	200	288	197	218	188	212	215	204	215	252	2,636
平成26年度	182	172	254	176	193	209	216	189	186	167	156	184	2,284
平成27年度	162	140	144	163	126	142	138	127	114	125	135	151	1,667

※回診回数：平成23年度週4回、平成24年度～平成26年度週3回、平成27年度から週2回

〔介入状況〕

N S T加算算定開始後は経管栄養以外にも嚥下障害や食種・補助食の相談を中心に介入患者数を増やしてきましたが、平成27年度からは回診の体制を週2回としたことや、病棟担当管理栄養士の積極的な活動により食種・補助食のN S Tへの依頼が減ったこと等から、介入患者数は減少しました。より重度の低栄養患者に対象を当て、目標設定をして効率の良い介入を行い、改善終了患者の割合が増加しました。

	ポンプ 使用	経管栄養 (下痢含む)	褥瘡	嚥下障害	食種・補助食	輸液	その他	合計(人)
平成23年度	7(1.3%)	72(13.5%)	13(2.4%)	304(57.0%)	125(23.5%)		12(2.3%)	533
平成24年度		94(14.6%)	12(1.9%)	318(49.5%)	205(31.9%)		13(2.0%)	642
平成25年度		65(10.5%)	8(1.3%)	316(51.2%)	166(26.9%)	10(1.6%)	52(8.4%)	617
平成26年度		77(12.0%)	1(0.2%)	325(50.7%)	183(28.5%)	27(4.2%)	28(4.4%)	641
平成27年度		66(14.9%)	1(0.2%)	269(60.7%)	84(19.0%)	20(4.5%)	3(0.7%)	443

	退院	転院	改善	不変	死亡	悪化 (ターミナルなど)	合計(人)
平成23年度	203(40.0%)	117(23.1%)	104(20.5%)	6(1.2%)	63(12.4%)	14(2.8%)	507
平成24年度	258(39.9%)	95(14.7%)	173(26.8%)	7(1.1%)	65(10.1%)	48(7.4%)	646
平成25年度	206(32.3%)	104(16.3%)	225(35.3%)	7(1.1%)	56(8.8%)	39(6.1%)	637
平成26年度	195(30.8%)	73(11.5%)	266(42.0%)	18(2.8%)	49(7.7%)	32(5.1%)	633
平成27年度	98(20.7%)	53(11.2%)	235(49.7%)	41(8.7%)	22(4.7%)	24(5.1%)	473

〔入院期間と介入期間〕

病院全体として入院期間短縮に取り組む中で、N S T介入者の入院期間と介入期間は下表のとおりです。介入者の高齢化が進む中、入院期間、介入期間の短縮を目指しています。平成27年度の介入患者の入院期間は増加しましたが、介入期間は前年度と同程度でした。

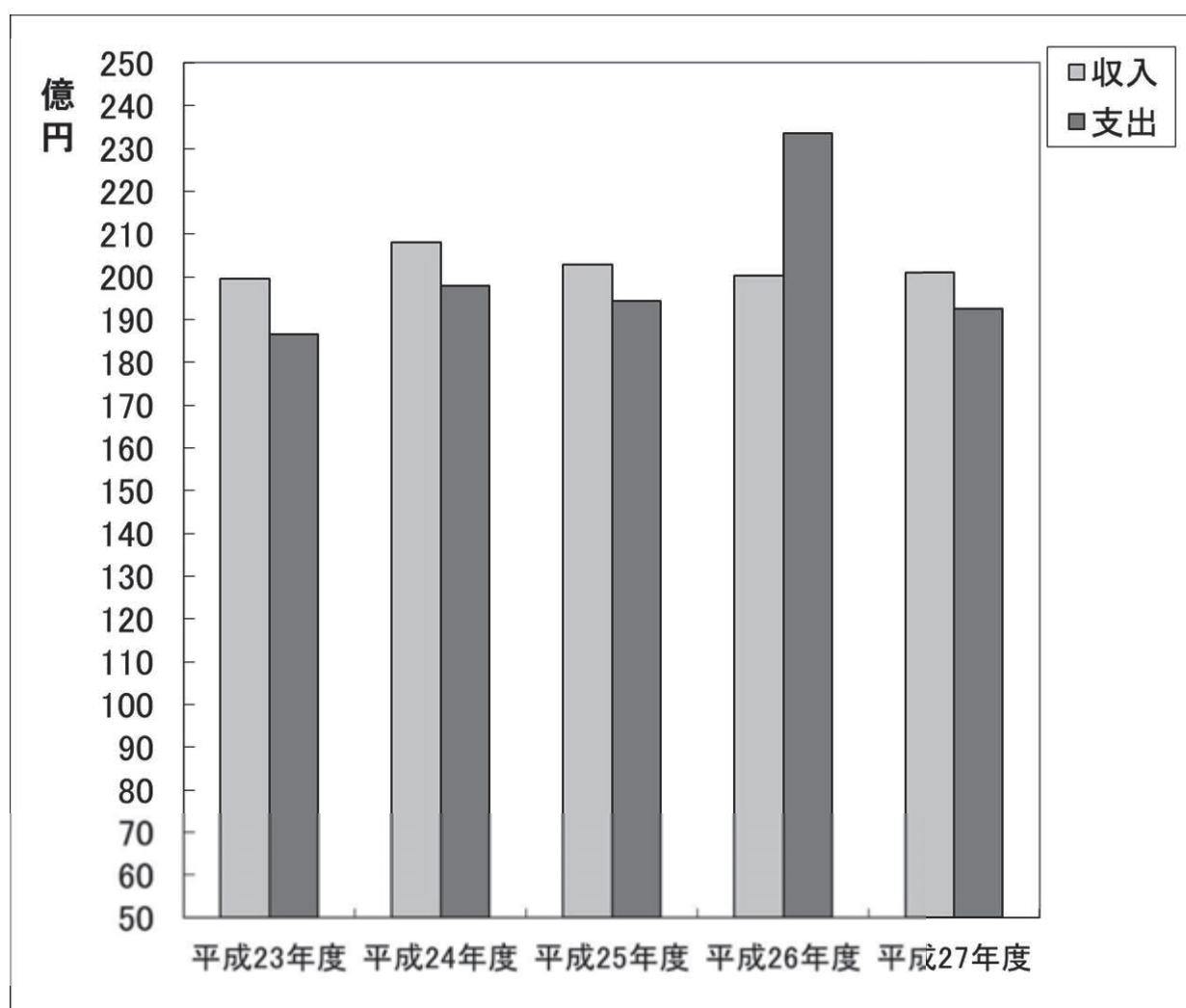
	年齢(歳)	入院期間(日)	介入期間(日)
平成23年度	75.0	45.0	24.0
平成24年度	76.0	44.0	20.0
平成25年度	76.0	44.0	18.0
平成26年度	76.0	39.0	14.0
平成27年度	75.0	54.8	14.3

Ⅳ 経 理 概 要

1 年度別経営収支状況

(単位：千円)

年 度	収 入		支 出		損 益
	決 算 額	指 数	決 算 額	指 数	
平成23年度	19,950,349	100	18,655,377	100	1,294,972
平成24年度	20,808,593	104	19,794,924	106	1,013,669
平成25年度	20,290,579	101	19,432,171	104	858,408
平成26年度	20,035,777	100	23,363,614	125	-3,327,837
平成27年度	20,102,156	101	19,246,546	103	855,610



2 収入・支出状況

(1) 収益的収入及び支出

収 入

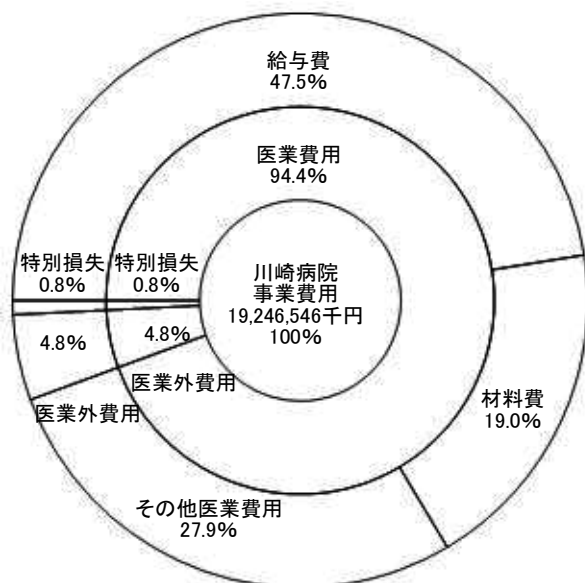
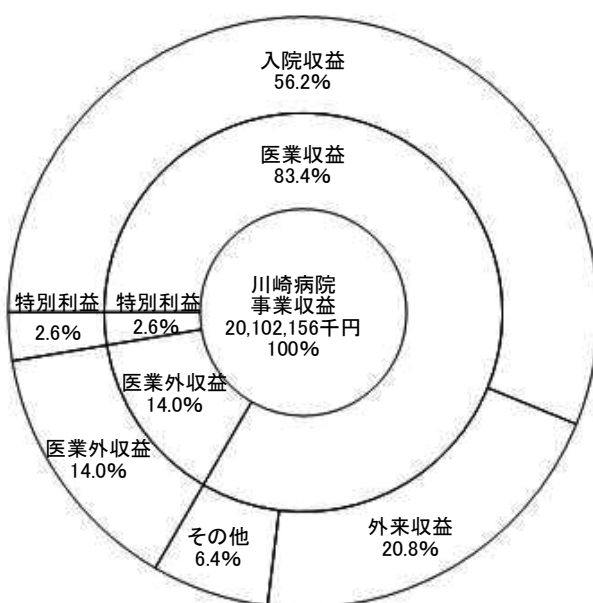
(単位：千円)

科 目	平成26年度		平成27年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業収益	20,035,777	100.0	20,102,156	100.0
医業収益	16,619,615	82.9	16,758,004	83.4
入院収益	11,106,240	55.4	11,291,687	56.2
外来収益	4,196,179	20.9	4,175,232	20.8
その他	1,317,196	6.6	1,291,084	6.4
医業外収益	3,373,250	16.8	2,815,501	14.0
受取利息配当金	805	0.0	884	0.0
補助金	44,125	0.2	39,559	0.2
負担金交付金	1,951,313	9.7	1,935,706	9.6
長期前受金戻入	888,173	4.4	439,831	2.2
資本費繰入収益	188,249	0.9	173,739	0.9
その他	300,585	1.5	225,782	1.1
特別利益	42,912	0.2	528,652	2.6

支 出

(単位：千円)

科 目	平成26年度		平成27年度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業費用	23,363,614	100.0	19,246,546	100.0
医業費用	18,365,314	78.6	18,165,147	94.4
給与費	8,711,427	37.3	9,134,694	47.5
材料費	3,523,230	15.1	3,655,242	19.0
経 費	4,127,995	17.7	4,077,729	21.2
減価償却費	1,922,653	8.2	1,180,748	6.1
資産減耗費	29,769	0.1	49,729	0.3
研究研修費	50,240	0.2	67,005	0.3
医業外費用	947,479	4.1	928,452	4.8
特別損失	4,050,821	17.3	152,947	0.8



平成26年度から、改定後の地方公営企業会計基準を適用して財務諸表等を作成

(2) 資本的收入及び支出

収 入

(単位：千円)

科 目	平 成 26 年 度		平 成 27 年 度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業資本的收入	1,700,340	100.0	1,553,179	100.0
企 業 債	640,000	37.6	530,000	34.1
出 資 金	0	0.0	0	0.0
固 定 資 産 売 却 代 金	0	0.0	0	0.0
補 助 金	1,782	0.1	0	0.0
負 担 金	1,058,558	62.2	1,023,179	65.9

支 出

(単位：千円)

科 目	平 成 26 年 度		平 成 27 年 度	
	決算額	構成比率 (%)	決算額	構成比率 (%)
川崎病院事業資本の支出	2,712,389	100.0	2,501,543	100.0
建 設 改 良 費	967,527	35.7	727,115	29.1
企 業 債 償 還 金	1,744,862	64.3	1,774,428	70.9
長 期 借 入 金 償 還 金	0	0.0	0	0.0

3 年度別一般会計繰入金及び出資金

(単位：千円)

種 別 \ 年 度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
収 益 的 収 入 他会計負担金、他会計補助金、 負担金交付金	4,173,146	4,077,339	3,177,821	2,954,991
資 本 的 収 入 (出 資 金)	0	0	0	0

4 比較貸借対照表

(単位：千円)

科 目	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					平 成 26年度	平 成 27年度
固定資産	17,825,657	17,354,775	△ 470,882	97.4	67.0	71.0
有形固定資産	17,825,657	17,354,775	△ 470,882	97.4	67.0	71.0
土 地	426,224	426,224	0	100.0	1.6	1.7
建 物	15,061,047	14,428,644	△ 632,403	95.8	56.6	59.0
構築物	136,480	89,054	△ 47,426	65.3	0.5	0.4
器械備品	2,159,573	2,312,238	152,665	107.1	8.1	9.5
車 両	1,495	2,647	1,152	177.1	0.0	0.0
リース資産	4,225	44,922	40,697	1,063.2	0.0	0.2
その他	34,238	32,830	△ 1,408	95.9	0.1	0.1
建設仮勘定	2,376	18,217	15,841	766.7	0.0	0.1
無形固定資産	—	—	—	—	—	—
施設利用権	—	—	—	—	—	—
流動資産	8,780,417	7,083,728	△ 1,696,689	80.7	33.0	29.0
現金預金	6,012,608	4,179,846	△ 1,832,762	69.5	22.6	17.1
未収金	2,665,582	2,827,114	161,532	106.1	10.0	11.6
貯蔵品	102,147	76,768	△ 25,379	75.2	0.4	0.3
前払金	81	—	△ 81	—	0.0	—
その他	—	—	—	—	—	—
資産合計	26,606,074	24,438,503	△ 2,167,571	91.9	100.0	100.0

(単位：千円)

科 目	平成26年度 決算額	平成27年度 決算額	増 減	前年度比 (%)	構成比率 (%)	
					平 成 26年度	平 成 27年度
固定負債	24,942,740	23,648,978	△ 1,293,762	94.8	79.1	76.2
企業債	21,528,380	20,167,171	△ 1,361,209	93.7	68.3	65.0
リース債務	—	25,076	25,076	—	—	0.1
引当金	3,414,360	3,456,730	42,370	101.2	10.8	11.1
流動負債	5,170,091	5,039,902	△ 130,189	97.5	16.4	16.2
企業債	1,774,428	1,891,209	116,781	106.6	5.6	6.1
リース債務	7,196	17,065	9,869	237.1	0.0	0.1
未払金	2,710,131	2,410,407	△ 299,724	88.9	8.6	7.8
未払費用	122,631	144,291	21,660	117.7	0.4	0.5
引当金	450,859	476,256	25,397	105.6	1.4	1.5
その他	104,846	100,674	△ 4,172	96.0	0.3	0.3
繰延収益	387,589	450,679	63,090	116.3	1.2	1.5
負債合計	30,500,420	29,139,559	△ 1,360,861	95.5	96.7	93.9
資本金	8,750,047	8,750,047	0	100.0	27.8	28.2
自己資本	—	—	—	—	—	—
借入資本	—	—	—	—	—	—
企業債	—	—	—	—	—	—
剰余金	△ 7,724,831	△ 6,863,058	861,773	88.8	△ 24.5	△ 22.1
資本剰余金	52,989	59,152	6,163	111.6	0.2	0.2
受贈財産評価額	30,092	30,092	0	100.0	0.1	0.1
補助金	22,897	22,897	0	100.0	0.1	0.1
負担金	—	6,163	—	—	—	0.0
欠損金	7,777,820	6,922,209	△ 855,611	89.0	△ 24.7	△ 22.3
当年度未処理決損金	7,777,820	6,922,209	△ 855,611	89.0	△ 24.7	△ 22.3
資本合計	1,025,216	1,886,989	861,773	184.1	3.3	6.1
負債資本合計	31,525,636	31,026,548	△ 499,088	98.4	100.0	100.0

※ 各表の数値については、端数処理の関係から合計値が一致しない場合があります。

5 主な経営分析

項 目	平成26年度	平成27年度
(1) 病床利用率 (%)		
一 般 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	74.6	76.1
精 神 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	69.1	59.1
感 染 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延病床数}} \times 100$	0.0	0.0
(2) 一日平均患者数 (人)		
入 院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{診療日数}}$	521.0	526.8
外 来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{診療日数}}$	1504.7	1447.9
(3) 外来入院患者比率 (%) = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	193.1	182.5
(4) 職員 1 人当たり患者数 (人)		
医 師 { 入 院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延医師数}}$	4.0	4.0
外 来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延医師数}}$	11.6	11.1
看護部門 { 入 院 = $\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$	0.9	0.9
外 来 = $\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延看護部門職員数}}$	2.5	2.4
(5) 患者 1 人 1 日当たり診療収入 (円)		
入 院 = $\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$	58,400	58,564
外 来 = $\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$	11,429	11,867
(6) 患者 1 人 1 日 当たり薬品費 (円) = $\frac{\text{薬品費 (投薬・注射)}}{\text{年延患者総数}}$	2,505	2,649
(7) 入院患者 1 人 1 日当たり給食材料費 (円)		
= $\frac{\text{給食材料費}}{\text{年延入院患者数}}$	572	601

項 目		平成26年度	平成27年度
(8) 薬品使用効率 (%) = $\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{薬品費}} \times 100$		68.9	70.0
(9) 診療収入に対する割合 (%)			
投薬注射収入	$\frac{\text{投薬注射収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	9.1	9.3
検 査 収 入	$\frac{\text{検査収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	8.0	8.1
放 射 線 収 入	$\frac{\text{放射線収入}}{\text{入院外来収益}} \times 100$	4.4	4.3
(10) 医業収益に対する割合 (%)			
薬 品 費	$\frac{\text{薬品費}}{\text{医業収益}} \times 100$	12.2	12.3
診 療 材 料 費	$\frac{\text{診療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	9.2	8.7
給 与 費	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	50.8	54.5

V 研究・研修及び実習・講師派遣

1 診療関係研究

平成 27 年度 C. P. C 開催内容

通 常 型	開催番号	年 月 日	剖検番号	症例事項名	主 治 医	病理担当
	第373回 (合同第85回)	6月25日	S-1980	悪性リンパ腫(びまん性 大細胞型B細胞性リン パ腫)	関 根 一 真	清 水 與 一
	第374回	8月5日	A-6019	肝性脳症 + 髄膜脳炎	遠 藤 裕 子 吉 田 稔	西 村 瑤 子 杉 浦 仁
	第375回	9月16日	A-6018	糖尿病 + 急性心筋梗塞	金 尾 邦 生	久 保 田 直 人 杉 浦 仁
	第376回 (合同第86回)	11月11日	A-6013	全身性硬化症 + 腎クリ ーゼ	藤 澤 有 希 東 野 俊 洋	尾 原 健 太 郎 杉 浦 仁

各診療科カンファレンス状況

各 科	検討会	抄読会	研究会	各 カンファレンス 内容
内 科	週1回	週1回	月1回	内科(週1回) 循環器(週1回) 内視鏡(週1回) リウマチ(週1回) 腎臓(週1回) 神経(週1回) 呼吸器(週1回) 総診(週1回) 消化器(週1回)
精 神 科	週1回			病棟カンファレンス(週1回) 医局カンファレンス(週1回) 病棟回診(週1回)
小 児 科 新生児内科	週1回	週1回		神奈川県下10病院合同症例検討会(年1回) 川崎市小児科医会症例検討会(年2回) 病棟回診(週2回) カルテ回診(週1回) 慶大小児科高橋教授回診(月2回) X線画像カンファレンス(週1回) 症例検討会(月2回)
外 科	週1回	月1回		部長回診(週1回) 術前・術後カンファレンス(各週1回) 消化器カンファレンス(隔週) 救急外科カンファレンス(不定期) 合併症カンファレンス(不定期)
脳神経外科	週4回	適宜		脳神経カンファレンス(週1回) カルテ回診(週1回) 術前カンファレンス(週1回) 病棟カンファレンス(週1回)
整 形 外 科	週1回	月2回	年2回	X線画像カンファレンス(週5回) 入院患者カンファレンス(週1回) 全体カンファレンス(月1回)
形 成 外 科	週1回	月1回	年2回	術前カンファレンス(週1回) 抄読会(月1回) 同門会(年2回)
心臓血管外科	週1回			循環器合同(週1回) 術前カンファレンス(週1回)
皮 膚 科	週1回	適宜		皮膚病理(週1回) 市皮膚科医会症例検討(年2回) 県7病院症例検討会(年3回) 臨床画像カンファレンス(週1回)
泌 尿 器 科	週2回			術前カンファレンス(週1回) 病棟カンファレンス(週1回)

各 科	検討会	抄読会	研究会	各カンファレンス内容
産科・婦人科	週1回		年2回	ハイリスク症例検討（週1回） 手術症例検討会（週1回） 勉強会（月2回） カルテ回診（週1回） 放射線カンファレンス（年4回）
眼 科	週1回	月2回	年1回	症例検討カンファレンス（週1回）
耳 鼻 咽 喉 科	週4回	週2回		術前カンファレンス（週1回） 病棟カンファレンス（週1回） 癌治療カンファレンス（週1回） 耳鼻科・放射線合同カンファレンス（週1回） 耳鼻科・リハ科合同嚥下カンファレンス（月1回）
放射線診断科	週4回	適宜		放射線科画像カンファレンス（週1回） 消化器画像カンファレンス（月2回） 小児科画像カンファレンス（週1回） 産婦人科画像カンファレンス（年4回） 呼吸器画像カンファレンス（週1回） 脳神経カンファレンス（週1回）
放射線治療科	週1回			耳鼻科・放射線治療科合同カンファレンス（週1回） 呼吸器合同カンファレンス（週1回）
麻 酔 科	毎日	月2回		術前カンファレンス（週5回） 症例検討会（月1回）
リハビリテー シ ョ ン 科		月1回		耳鼻科・リハビリテーション科合同嚥下カンファレンス（月1回） 摂食嚥下ランチ回診、カンファレンス（月2回） 脳神経外科病棟カンファレンス（週1回） 整形外科カンファレンス（医師：週1回、療法士：週2回） SCU部会（月2回） NSTカンファレンス（週1回） NST部会（月1回） NST回診（週2回） 神経内科カンファレンス（週1回）
歯科・口腔外科	週1回	適宜	年3回	カンファレンス（週1回） 川崎病院症例検討会（年3回）
救 急 科	週14回	月4回		総合カンファレンス（週1回）、症例検討会（週14回）

2 院内研究交流会 平成28年2月29日(月) 18:00~20:00

演 題	演 者	所 属
当院14S病棟とリハビリテーション科連携におけるチームアプローチの効果	小 島 厳 中 村 優太 山 口 さと美 黒 澤 希久江 尾 原 恵美子 宿 田 友子 鎌 田 郁子 富 岡 曜平 藤 原 実香	リハビリテーション科脳血管チーム 14階南病棟看護部
脂肪乳剤の適正使用と薬剤部の介入	渡 部 絵梨可 井 上 彰大 飯 島 尚志	薬剤部
ICU CCUの騒音調査 ～睡眠の質改善に向けて～	大 川 順子 小 林 博美 荒 井 絵里 中 野 延子	ICU CCU看護部 外来看護部
輸血後感染症検査の実施率向上に向けた取り組み	三 津 田 太 郎	検査科
カテコラミン併用交換時に発生する三方活栓開け忘れのインシデント防止と安全なカテコラミン交換を目指した手技統一への取り組み	佐 久 間 祐 樹	ICU CCU看護部
平成27年不具合・破損連絡用紙に関する報告	芝 真 佐 樹 鈴 木 大 貴 山 下 絵 里 山 門 馬 栄 菜 西 根 啓 太 井 汲 康 典 高 森 修 平 山 口 和 哉 中 尾 一 俊 安 藤 嘉 門 菅 規 久 子 逢 坂 佳 宗 森 田 慶 久	MEセンター 麻酔科
不具合・破損事故用紙に関する報告 ～ME機器の破損件数について～	西 根 啓 太 鈴 木 大 貴 山 下 絵 里 山 門 馬 栄 菜 芝 真 佐 樹 井 汲 康 典 高 森 修 平 山 口 和 哉 中 尾 一 俊 安 藤 嘉 門 菅 規 久 子 逢 坂 佳 宗 森 田 慶 久	MEセンター 麻酔科

インシデント報告推進の取り組み ～医療安全ラウンドの効果～	井 口 絹 枝 檜 林 敦 武 田 玲 子	医療安全管理部会
多職種連携による栄養管理を実践した嚥下障害と慢性下痢症を伴う皮膚筋炎の1例	長 澤 恵 梨 子 金 澤 美 穂 清 水 谷 弘 美 亀 山 亜 希 夫 太 田 博 子 樋 口 直 美 井 上 彰 大 坪 田 結 香 尾 原 恵 美 富 岡 曜 平 伊 藤 真 梨 細 田 智 弘 井 上 健 太 津 村 和 大	食養科 薬剤部 リハビリテーション科 感染症内科 内科 糖尿病内科
肺炎加療中に新規発症の狭心症から興奮性せん妄を呈した一例	石 倉 佳 代 子 石 川 隆 昭 大 崎 典 子 河 野 暉 清 河 駿 樹 手 塚 朋 子 中 屋 雅 人 野 間 絵 梨 子 道 振 康 平 佐 々 木 雅 世 中 西 美 沙 西 恵 美 理 上 園 志 穂 古 守 真 由 子	臨床研修医 (1年次)
西表島への旅行歴から診断に至ったレプトスピラ症の一例 ～レジャーを原因とした感染症、問診がカギ～	有 田 祐 起 朝 比 奈 祐 一 小 川 卓 範 木 下 水 葵 高 橋 香 菜 田 中 千 尋 津 軽 開 津 崎 盾 哉 西 浦 美 穂 脇 坂 悠 介	臨床研修医 (2年次)
川崎区災害医療訓練報告	小 林 裕 介 鈴 木 貴 博 大 城 健 一 竹 村 成 秀 白 井 佳 子 塚 田 千 代 内 海 聡 小 高 夕 子	放射線診断科 井田病院救急センター 救急科 看護部 検査科

	稲 葉 咲 佐 藤 順 正 牧 野 弘 美 小 野 欽 也 吉 野 秀 佳 宮 崎 恭 助 三 津 田 太 郎	
関東・東北豪雨災害救助活動報告	内 海 聡 塚 田 千 代	救命救急センター
労働と看護の質向上に向けた取り組み ～日本看護協会データベース（DiNQL）事業への参加～	古 山 美 佐 田 中 君 枝 楳 原 弘 成 森 田 純 子 島 田 佳 代	看護部
川崎病院スマート化の取り組みについて	檜 林 敦 山 本 哲 也	病院局経営企画室 庶務課
地域医療支援病院承認に向けた取り組み	加 藤 理 賀 子	地域医療部
後発品切替に伴う調剤過誤エラーの分析	坂 井 義 則 吉 富 加 奈 子 小 林 綾 早 川 和 宏 飯 島 尚 志	薬剤部
食事形態から考える地域連携の取り組み	亀 山 亜 希 夫 小野田美千代 葛 西 ひ と み 手 島 幸 恵 高 野 直 子 櫻 井 和 美 長 澤 恵 梨 子 太 田 博 子 樋 口 直 美	食養科
当院の摂食嚥下障害患者の現状とランチ回診の試み	古 瀬 美 穂	13階南病棟看護部
酸素投与によって改善せず体位変換によってのみ改善した 低酸素血症の1例	脇 坂 悠 介 有 田 祐 起 朝 比 奈 祐 一 小 川 卓 範 木 下 水 葵 高 橋 香 菜 田 中 千 尋 津 軽 開 津 崎 盾 哉 西 浦 美 穂	臨床研修医 (2年次)

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の理解を支援する取り組み	神田雅子 菅原雅子 北田伸子 津村和大	薬剤部 臨床研究支援室 糖尿病内科
---	--	----------------------------------

3 看護研究発表会

(1) 事例研究

第 18 回 院内発表会

ア 平成 27 年 11 月 28 日（土）9：00～15：00

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
繰り返し同じ訴えのある認知症患者への対応 ～突然の怒りに対する関りを振り返って～	上原 佳澄	10 階南病棟
手術後の主体的なりハビリ意欲を引き出す関り	米沢 萌	10 階南病棟
排尿障害への不安を抱えたまま退院した周術期患者への関り ～入院時から退院まで視野に入れた精神的援助を考えて～	蝦名 千尋	10 階南病棟
患者の意思を尊重し共に考え異動動作作業獲得を目指す看護 ～化学療法を受けた患者への介入を振り返る～	吉村 実香	10 階南病棟
出生時に外表奇形が認められたとき ～自身の助産行動、思いを振り返り今後のケアにつなげていく～	田中 聡美	8 階北病棟
児がNICUへ入院となった母親の思いを振り返る ～初回面接時の母親のケア～	齊藤 淳子	8 階北病棟
学童前期という発達段階に応じた退院指導について	中村 菜摘	8 階南病棟
在宅療養患児の母の自己肯定感を低下させないための看護師としてのアプローチ方法 自己の看護を振り返って	鈴木 栞	8 階南病棟
アトピー性皮膚炎の児のスキンケアと家族指導 家族の手技獲得までの援助	今 和香子	8 階南病棟
上肢抑制中の患者への間接拘縮・筋力低下を予防する看護介入～ 鎮静剤使用中の両手ポーズ抑制患者～	高橋 聡	9 階南病棟
脳梗塞を発症し容態が急変した患者家族の危機的状況への看護	洲鎌 佑美	9 階南病棟
患児の家族と共に行ったケアの振り返り ～患児と家族に与える影響についての一考察～	庄司 圭佑	9 階南病棟
傾聴による看護の大切さ～よりよい信頼関係を築くために～	大沼 香純	9 階南病棟
ENBD チューブ挿入中にせん妄症状を呈した患者の看護 ～患者の個別性にあった抑制具・抑制方法の検討～	森 玲奈	9 階南病棟
患児の家族と共に行ったケアの振り返り ～患児と家族に与える影響についての一考察～	庄司 圭佑	9 階南病棟
帝王切開に対する不安の強い妊婦への術前訪問から術後訪問までの関わり～ バースプランを取り入れた介入～	森崎 史月	手術室

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
看護の医師を尊重する看護～看護ケアをかたくなに拒否する患者への看護実践を振り返って～	坂本 秀一郎	14 階南病棟
事故により障害を受けた患者の受容過程における看護師の役割	久島 千知	10 階北病棟
人工股関節全置換術後患者に対する 一脱臼を繰り返している患者との関わりを通して～	今野 紗希	10 階北病棟
鎮痛剤による創痛緩和が十分に行えなかった事例の看護を振り返って～創痛の緩和方法に着目して～	仲宗根 将司	10 階北病棟
せん妄予防と発症後改善に有効な看護とは	栗林 まり	10 階北病棟
がん患者に対する自己決定支援のあり方を考える ～患者との関りや記録を振り返って～	山角 裕美	13 階北病棟
意思決定困難の患者への関りを振り返る ～「終末期患者の家族の持つ 10 のニーズ」を用いて～	佐藤 洋美	13 階北病棟
BPSD がある認知症高齢者の対応場面を振り返る	清水 美帆	13 階北病棟
気道閉塞を起こした高齢患者の口腔ケアの振り返り	岩永 良輔	13 階北病棟
気切カニューレと胃管チューブを挿入している患者の看護 適切な抑制具の選択と抑成中のケア	宮原 祥彰	13 階北病棟

イ 平成27年12月5日（土）9：00～16：40

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
間質性肺炎による呼吸困難感を訴える患者との関りを通して学んだこと	中島 敬太郎	11 階南病棟
術後の生活に対して不安を訴える患者との関わりを通して	小澤 香	11 階南病棟
退院を視野に入れた離床意欲を高めるための関りについて考える	内山 元気	11 階南病棟
入退院を繰り返し、ターミナル期を迎えた A 氏との関りを振り返る	山崎 美里	11 階北病棟
ターミナル期に呼吸困難を訴える患者への看護	迎 沙也夏	12 階南病棟
早期から患者の個別性考慮し五感刺激を取り入れた看護介入の実践について	丸山 幹枝	12 階南病棟
悪性リンパ腫患者の自宅退院を目指した ADL の維持・拡大を目的とした関りを通して	田中 智洋	12 階南病棟
呼吸困難感を訴える患者に寄り添う看護を通して	小野 沙耶香	13 階南病棟

研 究 テ ー マ	研 究 者	所 属
環境の変化によりせん妄状態となった高齢患者における身体抑制具解除の有効性 ～夜間せん妄患者に対する関わりとその効果を振り返って～	永井 由紀	13 階南病棟
癌性疼痛による身体的苦痛の強い患者とその家族への関わりについて～清潔ケアの必要性を捉えながら～	原 愛実	13 階南病棟
腹水貯留による身体的苦痛の強い終末期がん患者との関わりを通して	中村 華子	13 階南病棟
人工呼吸器装着中の COPD 患者との関わり ～精神的苦痛緩和のための看護～	平林 奈那子	14 階北病棟
発達遅滞のある透析患者の不安軽減に対する援助	石川 由美子	14 階北病棟
血糖コントロール不良の 2 型糖尿病患者の自己管理への意識づけ	三浦 智子	14 階南病棟
緊急帝王切開を受けた母親の心理と産褥期での援助	北村 梨沙	8 階北病棟
NRFS により超緊急帝王切開となった女性への看護	鈴木 晴香	8 階北病棟
患者の安全確保のための身体抑制について ～転倒リスクのある患者との関りを通して～	荒木 和也	9 階南病棟
気管内挿管中の患者の身体抑制解除のあり方 ～事故抜管事例から学んだもの～	芝 紘一	9 階南病棟
死期の差し迫った患者の家族に対する看護師の関りについて ～救命救急センターでの家族参加の清潔ケアを通して学んだこと～	飯塚 愛里	9 階南病棟
終末期にある患者との関りを振り返る ～スピリチュアルペインに焦点を当てて～	平栗 由菜	12 階北病棟

(2) 看護研究

第70回 院内発表会

平成28年2月6日(土) 8:50～12:30

研 究 テ ー マ	所 属	発 表 者	研究メンバー
低心機能患者に対する早期リハビリテーションの一例 ～カテコラミン離脱困難な虚血性心疾患患者への介入事例を振り返る～	ICU・CCU	田中 靖弘	鵜川 元帥
鎮痛・鎮静・せん妄の評価を行う抑制アセスメントフローチャートが看護師に与える影響	ICU・CCU	佐久間 祐樹	吉田 龍也
緊急入院患者が代理意思決定から意思決定に移行できた過程の一考察	9階南病棟	小澤 康子	梶 麻乃 高橋 貴子
助産師の死産に関する教育指針の一考察 ～死産分娩を後輩と一緒にを行う先輩助産師の支援方法～	8階北病棟	星野 夏樹	小松 由佳 上島 正恵 市川 清美 倉原 愛未
手術室における新人看護師教育支援の取り組み ～屋根瓦方式導入後の現状～	手術室	永田 修一	藤本 典子 松本 真由美 尾崎 加菜 久野 昭子
救命救急センター若手看護師の就業継続要因と支援について	9階南病棟	原田 寿子	岡野 麻美 渡邊 嘉如 飯塚 千代
働きやすい人的環境の構築に向けて ～対人関係の意識改革～	手術室	鈴木 見香	佐藤 律子
院内トリアージを行っている看護師の実態調査と今後の課題	9階南病棟	松本 貴子	塚田 千代 高橋 貴子
嚥下障害のある患者に対する看護師の食事介助 ～参加観察法を用いた実態調査～	13階南病棟	中津 小百合	高波 沙織 森本 夕子 早津 美雪 福井 優子
外科病棟における手術後の褥瘡発生要因及び予防対策の評価	11階南病棟	大欠 久美子	高橋 智美 塩津 未季
小児の点滴刺入部の管理 ～蜂窩織炎を起こしやすい原因はあるのか～	8階南病棟	新堀 彩美	成田 貴子 山本 恵美 濱地 亜希子
急性期における極低出生体重児の体温変動の実態	8階西病棟	加瀬 江利子	吉川 紀子 大野 静 山口 美咲

(3) 院外看護研究派遣者

No.	演 題 名	氏 名	学 会 名	発 表 日
1	オピオイド副作用対策の改善を目指した記録の標準化	塩津 未季	日本緩和医療学会 学術大会	6月19日
2	地域連携強化をめざしたポジションチェンジ型研修の実施とその成果～訪問看護ステーションへの体験研修を通して	綱嶋 たかえ	第54回全国自治体 病院学会	10月8日 10月9日
3	内科病棟における便秘の状況と看護師の便秘に対する認識とケアの実態	坂本 晴香	第54回全国自治体 病院学会	10月8日 10月9日
4	初めて死産に関った助産師の心理過程	星野 夏樹	日本看護学会 看護管理	9月8日 9月9日
5	インシデントを体験した看護師の感情とソーシャルサポートに関する考察	水嶋 真帆	日本看護学会 看護管理	9月8日 9月9日
6	早期産で出生した新生児に対するケアについての検討 ～ストレスを与えないケアを目指して～	佐藤 佳奈	神奈川看護学会	12月5日
7	手術安全チェックリストを導入しての安全意識に関する追跡調査	原 祐子	日本手術看護学会	10月10日
8	母乳育児支援の充実に向けた取り組み ～スタッフニーズアセスメント調査を基にロールプレーを取り入れての結果～	坂本 久美子	日本看護学会 ヘルスプロモーション	11月6日 11月7日

4 研 修

(1) 看護部 院内研修実施状況

No.	研 修 名	研 修 内 容	実施年月日	参加者 人 数	会 場	講 師
1	新人看護職員入職 ガイダンス (4月)	病院長挨拶 副院長兼看護部長講話 看護部概要・看護部組織活動 電子カルテ基本操作 三役紹介 事務連絡 防災、勤務管理、職員衛生 BLS	平成27年4月2日 (半日) 平成27年4月20日 (1日)	4月採用者 61名	7階講堂	増田院長 綱島副院長兼看護部長 岡本副看護部長 庶務課 救急部会 教育委員会
2	新採用者看護技術演習	採血・血統測定・インスリン皮下注射・静脈注射・点滴管理・輸液ポンプ・シリンジポンプ操作・清潔操作・酸素吸入・ネブライザー・吸引・オムツ交換・体位変換ポジショニング・食事介助・経腸栄養・移動解除 (移送移譲)	平成27年4月8日 平成27年4月9日 平成27年4月10日 平成27年4月14日 平成27年4月15日 平成27年4月16日	4月採用者 55名	7階講堂	教育委員会 認定看護師 副主任会

3	新人看護職員研修 安全な看護を提供するために	薬剤管理の基礎知識 安全な与薬方法 院内感染防止と清潔操作 インシデント教訓事例からの学び 安全な看護を提供するということ（グループワーク）	平成27年5月22日 （1日）	4月新採者 61名	7階講堂	早川副薬剤長（薬剤部） 井口担当係長（医療安全管理室） 駒場担当課長（感染対策室） 廣川副主任 教育委員会
4	認定看護師による講演（認知症ケア）	急性期病院におけるせん妄予防とその対策について	平成27年5月7日	153名	7階講堂	認定看護師会
5	全職員研修 公開講座	まちがいだらけの感染対策	平成27年6月12日 平成27年5月13日	147名 30名	7階講堂	認定看護師会
6	看護助手研修	医療制度の概要及び病院の機能と組織の理解他	平成27年6月17日 平成27年6月23日	42名	7階大会議室	教育委員会
7	新人看護職員 静脈注射技術テスト	静脈注射に関する 技術チェック	平成27年6月10日	55名	各部署	教育委員会 副主任会
8	新人看護職員 静脈注射筆記テスト	解剖整理及び実施上の注意 薬理作用と投与方法の注意点	平成27年6月12日	54名	7階講堂	教育委員会
9	全職員対象	急変サインを見逃さない	平成27年6月10日	142名	7階講堂	認定看護師会
10	新人看護職員 静脈注射筆記テスト 追試	解剖整理及び実施上の注意 薬理作用と投与方法の注意点	平成27年6月19日	13名	7階講堂、 小会議室	教育委員会
11	公開講座	みて、聴いて、感じる 呼吸アセスメント	平成27年6月17日	28名	7階講堂	認定看護師会
12	全職員対象 公開講座	看護師の“うつ”	平成27年7月8日 平成27年7月15日	93名 11名	7階講堂	認定看護師会
13	全職員対象 公開講座	誤嚥性肺炎を起こさないための“コツ”	平成27年8月5日 平成27年8月19日	78名 33名	7階講堂	認定看護師会
14	全職員対象	見て聞いて感じる 呼吸アセスメント	平成27年9月2日	140名	7階講堂	認定看護師会
15	新人実地指導者 フォローアップ研修	自部署で行った指導を振り返り 発表・意見交換	平成27年9月30日 （3時間）	25名	7階会議室	教育委員会
16	全職員対象 公開講座	がん化学療法の副作用とケア の実際	平成27年10月7日 平成27年10月21日	101名 24名	7階講堂	認定看護師会
17	全職員対象 公開講座	高齢者のスキンケア	平成27年11月6日 平成27年11月11日	96名 16名	7階講堂	認定看護師会
18	全職員対象 公開講座	脳卒中の患者のケア	平成28年1月6日	71名	7階講堂	認定看護師会
19	新人研修 フィジカル アセスメント	フィジカルアセスメント 能力の向上	平成27年12月21日 （半日）	51名	7階講堂	集中ケア 認定看護師
20	新人看護職員臨床研修	新人看護職員の院内留学	平成27年10月～ 平成27年11月	51名	各部署	各部署担当者
21	第1回看護記録強化 研修	根拠に基づいた看護診断の方法など	平成27年9月5日	48名	7階会議室	天理医療大学 永田 明先生
22	第2回看護記録強化 研修	臨床推論を活用した看護診断 の方法の理解（参加型講義）	平成27年12月19日	43名	7階講堂	天理医療大学 永田 明先生
23	新人同期会（3回）	茶話会形式でゲームや自由に 語り合う場とする	平成27年6月12日 平成27年10月30日 平成28年3月18日	54名 51名 49名	7階講堂	副主任会

24	BLS講習会	BLS技術の習得	平成27年4月～ 平成28年3月	各部署 未経験者 全員	各部署	各部署 インストラクター
25	臨時看護師研修	安全管理 感染管理 看護記録 接遇	平成27年10月19日	11名	7階講堂	教育委員会
26	臨床実習指導者研修 フォローアップ	臨床実習指導者としての自己を 肯定することができる	平成28年1月8日	28名	7階大会議室	副主任会
27	訪問看護ステーション 研修報告会	おおしま訪問看護ステーション・川崎大師訪問看護ステーション・川崎南部訪問看護ステーションでの学びと課題	平成28年1月15日	28名	7階講堂	教育委員会 地域医療部
28	全職員対象 公開講座	痛みの看護スキルアップ	平成28年2月3日	79名	7階講堂	認定看護師会
29	キャリアアップ ニュース	実習指導者講習会 医療安全管理者研修 多職種連携推進課程研修 栄養サポートチーム研修	平成28年2月22日 平成28年2月23日	50名 39名	7階講堂	教育委員会
30	看護必要度研修	重症度、医療・看護必要度の必要性と評価方法を理解する	平成27年4月～ 平成28年3月	看護師 助産師	各部署	各部署研修修者
31	看護職員採用者研修	安全管理 感染管理 看護記録 接遇	平成28年1月25日	7名	7階大会議室	教育委員会
32	全職員対象 公開講座	認知症を持ちながら楽しく 暮らす	平成28年3月4日	59名	7階講堂	認定看護師会
33	担当看護師研修 ～2年目に向けて	看護経験を振り返り自己の看護観を考察する2年目の役割と責任を考え、課題を明確にする	平成28年3月18日	47名	7階大会議室	教育委員会

(2) 検査科 院内研修会実施状況

No.	研修会名	研 修 内 容	実施年月日	参加者数	会 場	講 師
1	検査科勉強会	閉塞性黄疸	平成27年5月19日	14名	4階会議室	小林 優希
2	検査科勉強会	当院での糞便検査について	平成27年6月9日	15名	4階会議室	内田 理絵
3	検査科勉強会	病理組織染色について	平成27年7月14日	18名	4階会議室	上岡 咲耶
4	検査科勉強会	・大規模地震時医療活動訓練の報告 ・サイトメガロウイルスについて	平成27年10月13日	15名	4階会議室	三津田 太郎
5	検査科勉強会	耐性菌について	平成27年12月8日	15名	4階会議室	工藤 美樹
6	検査科勉強会	検体採取等に関する厚生省指定講習会	平成28年1月12日	18名	4階会議室	相馬 響子
7	検査科勉強会	妊婦検診における超音波検査	平成28年2月9日	15名	4階会議室	鈴木 玲子
8	検査科勉強会	発作性寒冷血色素尿症	平成28年3月8日	15名	4階会議室	西之坊 泰子
9	交流勉強会	災害時における川崎病院の役割について	平成27年7月16日	11名	7階講堂	小野 欽也
10	交流勉強会	ガンマナイフについて サイバーナイフについて	平成27年11月17日	8名	7階講堂	エレクト株式会社 日本アキュレ株式会社
11	交流勉強会	心筋梗塞について	平成28年1月29日	8名	7階講堂	小林 優希 齋藤 敦子 西根 啓太 吉富 加奈子

(3) 放射線診断科・放射線治療科 院内研修会実施状況

No.	研修会名	研 修 内 容	実施年月日	参加者数	会 場	講 師
1	交流勉強会	心筋梗塞について	平成27年11月29日	20名	7階大会議室	齋藤 敦子
2	医療安全管理研究会	・医療従事者が知っておきたい放射線の知識 ・MR検査に潜むリスク～金属持ち込み危険性～	平成28年1月18日	多数	7階講堂	小野 欽也 引地 利昭
3	交流勉強会	心筋梗塞について	平成28年1月29日	20名	7階大会議室	齋藤 敦子
4	院内研究交流会	川崎区医療災害訓練報告	平成28年2月29日	多数	7階講堂	小林 裕介
5	感染対策研修会	Excelの基礎から関数、グラフまで	平成28年3月23日	20名	4階会議室	堀口 将生

5 院外看護活動

活 動 名	日 程	場 所	参加者
災害派遣医療チーム研修	平成27年5月25日 ～平成27年5月28日	国立病院機構災害医療センター	内海 聡
ビッグレスキューかながわ	平成27年8月30日	神奈川総合防災センター	内海 聡
大規模地震時医療対応訓練	平成27年9月1日	川崎市立川崎病院	吉川 佳子 内海 聡 小高 夕子 牛尾 夏希 古瀬 美穂 佐藤 順正
関東・東北豪雨に係る災害救助法上の救助	平成27年9月11日 ～平成27年9月12日	茨城県	内海 聡 塚田 千代
東京国際空港航空機事故対処総合訓練	平成27年10月15日	羽田空港	洲鎌 佑美
ハロウィン救護班	平成27年10月25日	川崎駅周辺	田中 美紗
首都直下地震等を想定した東京湾臨海部 基幹的広域防災拠点（東扇島地区）に係 る応急復旧及び緊急物資輸送訓練	平成27年11月5日	東扇島	佐藤 順正
井田病院災害訓練	平成27年12月12日	川崎市立井田病院	塚田 千代
神奈川DMA T－L 隊員養成研修	平成27年12月13日 ～平成27年12月14日	神奈川県消防学校	小高 夕子 松本 貴子
神奈川DMA T－L 隊員養成研修に係る 講師	平成27年12月13日 ～平成27年12月14日	神奈川県消防学校	塚田 千代 内海 聡
川崎DMA T 隊員養成研修・事前講義	平成28年1月18日	川崎市立川崎病院	吉田 優作 稲葉 咲 牧野 弘美 塚田 千代 内海 聡
鶴見区訓練	平成28年1月24日	横浜市鶴見区	藤島 諒
川崎DMA T 隊員養成研修	平成28年1月27日	川崎市消防総合訓練場	吉田 優作 稲葉 咲 牧野 弘美 内海 聡
関東ブロックDMA T 訓練	平成28年1月30日 ～平成28年1月31日	東京医科大学八王子医療センター	塚田 千代 吉川 佳子 内海 聡
川崎区訓練	平成28年2月14日	川崎市川崎区各病院	佐藤 順正 内海 聡 塚田 千代 小高 夕子 松本 貴子

6 各科別実習状況報告

科・部	学校・病院名	人数	科・部	学校・病院名	人数
内科・総合診療科	杏林大学	2名	小児科	東京慈恵会医科大学	3名
	横浜市立大学	3名		東邦大学	1名
	岡山大学	1名		東北大学	2名
	金沢大学	2名		日本医科大学	1名
	群馬大学	1名		北海道大学	1名
	慶應義塾大学	37名	外科	慶應義塾大学	1名
	札幌医科大学	1名		札幌医科大学	1名
	山梨大学	1名		秋田大学	1名
	産業医科大学	2名		新潟大学	1名
	滋賀医科大学	2名		千葉大学	1名
	秋田大学	1名		東京医科歯科大学	1名
	順天堂大学	3名		日本医科大学	1名
	新潟大学	2名	脳神経外科	慶應義塾大学	2名
	千葉大学	6名		千葉大学	2名
	大阪大学	1名		大阪大学	1名
	大分大学	1名	整形外科	群馬大学	1名
	筑波大学	5名		慶應義塾大学	2名
	東海大学	1名		山梨大学	1名
	東京医科歯科大学	1名		順天堂大学	1名
	東京慈恵会医科大学	5名		新潟大学	1名
	東京女子医科大学	4名		東京医科歯科大	1名
	東京大学	1名		東京大学	1名
	東邦大学	5名		日本大学	1名
	東北大学	2名		名古屋市立大学	1名
	徳島大学	1名	皮膚科	横浜市立大学	1名
	日本医科大学	5名	産婦人科	横浜市立大学	1名
	日本大学	1名		札幌医科大学	1名
	北海道大学	2名		山梨大学	1名
	北里大学	1名		東邦大学	1名
精神科	名古屋大学	1名	耳鼻咽喉科	大阪大学	1名
	琉球大学	1名		北里大学	2名
小児科	秋田大学	1名	麻酔科	慶應義塾大学	25名
	大分大学	1名		名古屋市立大学	1名
小児科	横浜市立大学	1名		名古屋大学	1名
	慶應義塾大学	4名	救急科	横浜市立大学	5名
	滋賀医科大学	1名		宮崎大学	4名
	秋田大学	1名		金沢大学	1名
	順天堂大学	1名		慶應義塾大学	36名
	信州大学	1名		弘前大学	1名
	聖マリアンナ医科大学	1名		高知大学	2名
	大阪大学	1名		山梨大学	1名

科・部	学校・病院名	人数
救急科	産業医科大学	4名
	滋賀医科大学	2名
	秋田大学	1名
	順天堂大学	1名
	新潟大学	3名
	千葉大学	3名
	筑波大学	2名
	長崎大学	1名
	東海大学	2名
	東京医科歯科大学	1名
	東京医科大学	1名
	東京慈恵会医科大学	5名
	東京慈恵会医大	1名
	東京女子医科大学	1名
	東京大学	1名
	東北大学	3名
	日本大学	2名
	浜松医科大学	1名
	福井大学	1名
	福島県立医科大学	1名
	名古屋市立大学	1名
	琉球大学	1名

※ 平成27年度から、現役研修医の見学は数値から除外している。

7 講師派遣

(1) 看護師

氏 名	派 遣 場 所	担 当 科 目	期 間
塚田 千代	川崎市立看護短期大学	成人看護方法Ⅲ（急性期にある人の看護）	6月22日
松下 貴代子	川崎市立看護短期大学	成人看護方法Ⅲ（急性期にある人の看護）	6月22日
久野 昭子	川崎市立看護短期大学	成人看護方法Ⅴ（周手術期にある人の看護）	9月25日
大川 順子	川崎看護専門学校	成人健康支援論Ⅰ（クリティカルケア）	11月12日・18日
松澤 由香	川崎看護専門学校	成人健康支援論Ⅰ（糖尿病患者の看護）	11月21日・28日
酒井 友美	川崎看護専門学校	母性発達支援論Ⅱ （妊娠・分娩・産褥の異常に対する看護）	12月7日・14日・21日
佐藤 江利子	川崎看護専門学校	老年健康支援論Ⅰ（人工肛門をもつ患者の看護）	9月18日
森田 純子	川崎看護専門学校	臨床看護技術Ⅰ（感染予防）	11月25日
武田 玲子 (医療安全管理室)	川崎看護専門学校	医療安全	9月15日
塚田 千代	川崎看護専門学校	災害・国際看護（災害看護）	10月8日・15日・22日
大和田 恵美	医師会准看護学校	臨床看護概論Ⅱ 手術室看護	4月～5月
島田 佳代	医師会准看護学校	運動器看護	5月26日 6月2日・9日
野村 貴子	医師会准看護学校	女性生殖器看護	8月31日 9月7日・14日・28日
塚田 千代	医師会准看護学校	臨床看護概論Ⅱ救急看護	9月～10月
武樋 寿子	医師会准看護学校	血液造血器アレルギー看護	4月～5月
渡邊 いづみ	医師会准看護学校	泌尿器疾患看護	11月10日
秋廣 代子	医師会准看護学校	腎疾患看護	10月13日・20日・27日
高橋 澄江	医師会准看護学校	感覚器看護（耳・口腔）	6月16日・23日・30日
渡邊 いづみ	医師会准看護学校	感覚器看護（眼科）	7月7日
小切 容子	医師会准看護学校	感覚器看護（眼科）	7月8日
中久 泰樹	医師会准看護学校	精神看護	4月～6月
岩見 裕司	医師会准看護学校	外科系看護（消化器）	10月14日・28日 11月4日・11日
上島 正恵	医師会准看護学校	母子看護	11月～12月
山本 恵美	医師会准看護学校	小児看護	11月～12月
吉川 紀子	医師会准看護学校	低出生体重児看護	12月19日
高橋 一子	川崎糖尿病市民講座	糖尿病劇場	4月5日
高橋 一子	川崎市キャリア開発センター	糖尿病足病変看護従事者研修（第一回）	6月6日・7日

高橋 一子	川崎市キャリア開発センター	糖尿病足病変看護従事者研修フォローアップ研修	7月4日
高橋 一子	川崎市キャリア開発センター	糖尿病足病変看護従事者研修（第二回）	9月5日・6日
高橋 一子	川崎市キャリア開発センター	糖尿病足病変看護従事者研修（第三回）	12月5日・6日
高橋 一子	川崎市キャリア開発センター	糖尿病足病変看護従事者研修（第四回）	3月5日・6日
久野 昭子	日本手術室看護学会	手術室におけるフィジカルアセスメント	9月19日
大山 美和子	日本離床研究会	早期離床教育講座「血液生化学データの読み方」	5月16日
高橋 貴子	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	集中ケア看護概論	5月28日 6月4日・10日・16日
吉崎 弘之	一般社団法人日本精神科看護協会	第40回日本精神科看護学術集会看護研究発表座長	6月20日
高畑 良子	川崎市立看護短期大学	看護職のための生涯学習支援講座認知症看護の実際と課題	7月18日
古山 美佐	川崎市立看護短期大学	看護職のための生涯学習支援講座看護覚え書	8月22日
塚田 千代	川崎市立看護短期大学	看護職のための生涯学習支援講座川崎DMA T	11月21日
伊東 かつえ	川崎市立看護短期大学	看護職のための生涯学習支援講座 外来で治療を継続するがん患者を支援する	10月17日
塩津 未季	川崎市立看護短期大学	看護職のための生涯学習支援講座 一般病棟での緩和ケア	11月21日
塚田 千代	公益社団法人川崎市看護協会	災害時看護研修会	8月11日
高橋 一子	社会福祉法人川崎市社会福祉協議会	福祉看護職のための出張講座 高齢者のフットケア	10月19日
高畑 良子	公益社団法人川崎市看護協会	認知症と入院時のケア等について	12月16日 1月16日 2月15日
森田 純子 臼田 美奈子	川崎市市民子ども局	病気がもたらす障害とその手立て（配慮） ～健康な子どもたちと過ごすために～	12月4日 12月11日
久野 昭子	日本手術室看護学会	鏡視下手術におけるリスクを理解し、看護実践に活かす	2月6日
塚田 千代 吉田 優作	川崎市立川崎高等学校	救急蘇生法演習	3月3日
牛込 志乃	社会福祉法人川崎市社会福祉協議会	高齢者の排泄ケア	3月4日
井本 有美	県立二俣川看護福祉高等学校	新人看護師から見た看護師の仕事とは	3月14日

(2) 医師

派遣場所	川崎市立看護短期大学			学年学期	2年次 前期・後期
科目名	病態治療学Ⅲ・Ⅳ	単位数	各1単位（必修）	科目区分	専門基礎科目
担当者	市東昌也 夏 錦言 成松芳明 今西智之 澤藤 誠 中道憲明 伊藤壮一 増田純一 富田洋平 佐藤陽一郎 宮川俊一 原 智（担当順）				

「授業概要」

病態治療学Ⅲ・Ⅳでは、手術療法と血管塞栓術などの手術に準ずる治療、麻酔、救急・集中治療について教授します。それぞれの治療目的と適応、効果、治療による生体への侵襲と回復過程について概説し、さらに具体的な治療方法や関連する検査・援助について代表的な状態や疾患を引用して解説します。

小児科は内科と重複する疾患が多いですが、年齢によって疾患の傾向が違います。それは、患者さんが成長していくからです。この講義の目的は、そのような特殊性を加味して、小児疾患を理解することにあります。

生殖器・特殊感覚器疾患については、手術療法と血管塞栓術など手術に準ずる治療、麻酔、救急・集中治療について教授します。それぞれの治療目的と適応、効果、治療による生体への侵襲と回復過程について概説し、さらに具体的な治療方法や関連する検査・援助について代表的な状態や疾患を引用して解説します。

「授業計画」

病態治療学Ⅲ	病態治療学Ⅳ
1 手術学総論 適応	1 小児1
2 手術学総論 術前検査	2 小児2
3 手術学総論 術後管理	3 小児3
4 内視鏡下手術 総論	4 小児4
5 内視鏡下手術 各論	5 小児5
6 I V R	6 産科手術
7 手術学各論 脳神経外科	7 婦人科手術
8 外科	8 産科正常編
9 呼吸器外科	9 産科異常編
10 整形外科	10 眼科
11 心臓外科	11 耳鼻科
12 救急	12 皮膚科
13 麻酔	13 泌尿器科
14 心肺蘇生	14 まとめ1
15 まとめ	15 まとめ2

(3) 薬 剤 師

氏 名	派 遣 場 所	担 当 科 目	期 間	回 数
小林 岳	星薬科大学	実務実習事前学習	4月～12月	6回
小林 岳	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	感染症学（抗微生物薬の種類と薬理作用）	7月6日	1回
長谷川 圭子	川崎看護専門学校	病態薬理学	4月～6月	7回

(4) 診 療 放 射 線 技 師

氏 名	派 遣 場 所	担 当 科 目	期 間
田中 秀夫	川崎市立看護短期大学	画像診断	12月8日
小切 孝洋	川崎市立看護短期大学	画像診断	12月8日

(5) 臨 床 検 査 技 師

氏 名	派 遣 場 所	担 当 科 目	期 間
鈴木 玲子	神奈川県立衛生看護専門学校	妊娠期の診断技法（超音波）	7月3日

Ⅵ 臨 床 研 修 概 要

1 経 緯

(1) 病院の沿革・特徴

昭和2年、伝染病組合病院が川崎市立病院に改称、昭和11年、大規模改築、昭和20年6月1日に総合病院となり、その後建物、設備、診療科の増設を逐次行い、市民の医療の中核を担う病院に発展してきました。

昭和40年、救急指定病院となり、昭和42年には研修医制度が発足しました。それ以降、各学会の指定医の研修施設に指定され、昭和63年には、外国人医師等を対象とした臨床修練指定病院となりました。

また、平成10年4月から総合診療科を設置したことに伴い、新たに後期臨床研修も実施しています。

なお、平成7年から全面改築を進めてきましたが、平成10年11月病棟・中央診療棟が完成し、そして平成12年4月、新外来棟がオープンしたことにより、当院を取り巻く医療環境は、大幅に改善されたばかりでなく、導入された総合医療情報システムや搬送システムが完全に稼動し、機能面でも一段とアップしました。

(2) 初期臨床研修

当院の臨床研修制度は、昭和42年4月に発足し、既に40年が経過しています。最初の10年間は研修期間4年のレジデント制度として行われ、昭和52年からは2年間の臨床研修制度となりました。

また、当初の12年間は学制と同じく4月に始まり、3月に終わる制度でありましたが、研修医内定者のうち医師国家試験に不合格となるものがあり、厚生省の指導や欠員を配慮して昭和54年からは6月開始・5月修了に改められました。そして、平成5年に至り医師国家試験の期日が3月に変更されたことに伴い、5月開始・4月修了という新たな制度に生まれ変わりました。

昭和50年度までは単一専門科か専門科と関連する他の1から2科を研修するのみでありましたが、昭和51年度からは専門科に重点を置きながらも、広く各科を研修するローテイト方式を採用してきました。

これは平成16年度から実施された卒後臨床研修制度を先取りしていたものであったといえます。

平成16年5月からは新たな卒後臨床研修制度義務化に伴って、単独型臨床研修病院として初期研修医各学年10名を受け入れ、更に川崎市立井田病院に対する協力型病院として各々2名（当院ローテイトは卒後2年目）を指導しています。

平成22年12月1日に卒後臨床研修評価機構の認定を受けました。

新制度実施後、多数の医学生から応募があるのは、当院がこれまで取り組んできた臨床研修制度が高く評価されたものと自負しつつも更に医療安全管理・倫理面も含めた教育内容を拡充し、優れた臨床医の育成を図りたいと考えています。

ア 臨床研修医年度別 採用者数

年 度	応 募 者	採 用	修 了	備 考
昭和44	5	3		3年制→2年制度へ移行
45	14	7	3	
46	19	4	2	
47	18	6	8	
48	17	8	4	
49	24	6	3	
50	39	10	7	
51	37	5	5	
52	26	8	5	
53	23	10	11	
54	42	10	11	
55	17	10		
56	12	3	9	
57	9	5	8	
58	4	3	2	
59	11	5	5	
60	11	1	11	
61	9	5	1	
62	6	2		
63	8	2	4	
平成元	12	8	2	
2	9	6	1	
3	9	7	6	
4	13	10	6	
5	12	7	5	
6	10	9	8	
7	11	11	6	
8	21	10	7	
9	13	6	8	
10	12	9	10	
11	16	9	4	
12	16	11	5	
13	14	10	8	
14	11	10	8	
15	8	7	7	
16	84	10	6	
17	126	9	4	
18	83	9	9	
19	103	10	9	
20	83	9	9	
21	62	10	9	
22	67	10	10	
23	79	10	10	
24	96	10	10	
25	77	10	10	
26	51	10	10	
27	73	9	10	
計	1,522名	359名	296名	

イ 専攻医年度別 採用者数

年 度	応募者数	採 用	備 考
12	12	9	
13	13	12	
14	8	8	
15	10	10	
16	13	10	
17	11	11	
18	13	12	
19	27	25	
20	44	36	
21	38	34	
22	32	29	
23	34	27	
24	38	34	
25	31	30	
26	40	39	
27	50	49	
計	414名	375名	

ウ 臨床研修医出身校別採用者数

国・公立大学

私立大学

(平成27年4月1日現在)

出身校	年度 昭和42～ 平成22	23	24	25	26	27	計	出身校	年度 昭和42～ 平成22	23	24	25	26	27	計
北海道大	4				1		5	岩手医大	2						2
札幌医科大	1						1	自治医大	7						7
旭川医科大	1	1					2	埼玉医大	3						3
弘前大	5						5	日本大	4						4
秋田大	7						7	日本医大	2		2	1			5
山形大	2						2	順天堂大	2	1					3
東北大	2		2	1			5	慶應義塾大	70	5	2	5	6	3	91
福島県医大	1						1	東京医科大	8		1				9
群馬大	3					1	4	東京女子医大	8		1				9
筑波大	2					1	3	慈恵医科大	27	1					28
千葉大	13		1		1		15	昭和医大	6		1	1		1	9
東京大	1			1	1		3	東邦大	15						15
東京医科歯科大	4						4	杏林大	7						7
横浜市立大	3						3	聖マリアンナ大	14						14
山梨大	1						1	北里大	6					1	7
新潟大	3			1			4	東海大	13						13
富山大	2						2	帝京大	1						1
福井大	2						2	藤田保健大	9	1					10
浜松医科大	4						4	愛知医科大	2						2
岐阜大	2						2	関西医科大	3						3
名古屋大	2						2	大阪医科大	2						2
名古屋大	3						3	兵庫医科大	1						1
三重大	3						3	川崎医科大	2						2
奈良県立大	1						1	産業医科大	5						5
京都府医大	1						1	久留米大	2						2
神戸大	3						3	金沢医大	2						2
岡山大	2						2								0
島根大	1						1								0
山口大	2						2								0
徳島大	2						2								0
香川大	1						1								0
長崎大	4						4								0
佐賀大	1						1								0
熊本大	2						2								0
鹿児島大	1						1								0
琉球大	2						2								0
キングスレッジ大	1	1					2								0
大阪大	0				1		1								0
高知大	0					2	2								0
計	95	2	3	3	4	4	111	計	223	8	7	7	6	5	256

エ 初期臨床研修修了者(平成26年度生)

修了年月日	氏名	出身校
平成28年3月31日	朝比奈 祐一	東京大学
平成28年3月31日	有田 祐起	大阪大学
平成28年3月31日	小川 卓範	慶應義塾大学
平成28年3月31日	木下 水葵	千葉大学
平成28年3月31日	荒井 香菜	慶應義塾大学
平成28年3月31日	田中 千尋	慶應義塾大学
平成28年3月31日	津 軽 開	慶應義塾大学
平成28年3月31日	津崎 盾哉	慶應義塾大学
平成28年3月31日	西浦 美穂	北海道大学
平成28年3月31日	脇坂 悠介	慶應義塾大学

<3年間研修を受けた専攻医>

・有馬 聖永

<2年間研修を受けた専攻医>(※ 1年6箇月以上2年未満の者を含む。)

・大谷 慧 ・坂本 容規 ・角 浩史 ・白井 俊 ・堂本 佳典 ・吉田 稔

<1年間研修を受けた専攻医>(※ 6箇月以上1年未満及び1年6箇月未満の者を含む。)

・三谷 麻里絵 ・山本 裕子 ・金澤 慶 ・藏成 香 ・兵頭 正浩 ・長谷川 靖浩
 ・宮田 順之 ・鈴木 まり重 ・佐藤 悠 ・小泉 知子 ・小林 茉莉 ・種本 俊
 ・菅野 瑛梨 ・片桐 翔治 ・飯尾 みなみ ・藏成 勇紀 ・的場 優介 ・伏見 茜
 ・船山 拓也 ・及川 裕之 ・川島 裕平 ・北畑 伶奈 ・牧 里紗

オ 在籍する臨床研修医(平成28年4月1日現在)

2年次生(平成27年度生)		1年次生(平成28年度生)	
氏名	出身校	氏名	出身校
手塚 朋子	高知大学	鈴木 友博	慶應義塾大学
中屋 雅人	高知大学	田中 李樹	東京大学
石川 隆昭	筑波大学	中川原 賢亮	慶應義塾大学
野間 絵梨子	北里大学	中村 美紀	慶應義塾大学
道振 康平	昭和大学	中村 有吾	筑波大学
大崎 典子	群馬大学	西川 賢	慶應義塾大学
石倉 佳代子	慶應義塾大学	原 碧	長崎大学
河野 暉	慶應義塾大学	藤田 野々香	福井大学
清河 駿樹	慶應義塾大学	細尾 真奈美	滋賀医科大学
		山下 友寛	慶應義塾大学

カ 在籍する専攻医(平成28年6月1日現在)

4年次生以上			3年次生		
志望科	氏名	出身校	志望科	氏名	出身校
内 科	前田 麻実	東北大学	内 科	津軽 開	慶應義塾大学
内 科	花田 亮太	昭和大学	内 科	脇坂 悠介	慶應義塾大学
内 科	平本 和音	慶應義塾大学	内 科	小川 卓範	慶應義塾大学
内 科	横山 裕章	名古屋大学	内 科	村中 二三枝	山形大学
内 科	城下 郊平	香川大学	内 科	城谷 翔太	順天堂大学
内 科	松原 祥平	杏林大学	内 科	稲毛 純	慶應義塾大学
内 科	明神 聡介	慶應義塾大学	内 科	長田 真二	岡山大学
内 科	鳥海 聡	杏林大学	内 科	永田 亮平	新潟大学
内 科	的場 健太	北里大学	内 科	長島 誠	北里大学
内 科	萩原 裕也	慶應義塾大学	内 科	木村 文将	北里大学
内 科	阿部 麻衣	東京女子医科大学	内 科	上妻 嵩英	慶應義塾大学
内 科	楠本 竜也	慶應義塾大学	麻 酔 科	中山 亮振	慶應義塾大学
内 科	鄭 瑞雄	韓国慶熙大学	救 急 科	金子 翔太郎	順天堂大学
内 科	鈴木 啓介	浜松医科大学	精 神 科	白井 将博	日本医科大学
麻 酔 科	石渡 博昭	福島県立医科大学	麻 酔 科	太田 琴美	日本歯科大学
耳 鼻 咽 喉 科	島貫 茉莉江	慶應義塾大学	外 科	菊池 直哉	日本大学
精 神 科	安東 一樹	慶應義塾大学	小 児 科	前島 沙織	大分大学
精 神 科	齋藤 雄太	弘前大学			
救 急 科	土屋 光正	香川大学			
救 急 科	白川 和宏	慶應義塾大学			
救 急 科	宮嶋 和宏	秋田大学			
歯科口腔外科	矢島 祥助	昭和大学歯学部			
内 科	永岡 未来	北里大学			
内 科	鎌田 龍明	横浜市立大学			
内 科	川合 聡史	千葉大学			
小 児 科	長田 枝利香	東邦大学			
小 児 科	佐々木 万里恵	慶應義塾大学			
麻 酔 科	柿沼 勇太	慶應義塾大学			
産 婦 人 科	早乙女 啓子	岩手医科大学			
形 成 外 科	加茂川 留理	横浜市立大学			
脳 神 経 外 科	石原 恵理子	慶應義塾大学			
救 急 科	三吉 貴大	国立三重大学			
内 科	布施 彰久	東邦大学			
放射線診断科	植松 敬子	旭川医科大学			
救 急 科	上倉 英恵	滋賀医科大学			
検 査 科	堀井 千裕	東海大学			
検 査 科	紅林 泰	慶應義塾大学			
小 児 科	江原 和美	キングスカレッジ			

2 初期臨床研修医プログラム

(1) 名 称

川崎市立川崎病院初期臨床研修プログラム

(2) 目的と特徴

当院の研修医制度は、昭和42年4月に発足し、その後教育指導部を設置して既に40年以上が経ちますが、この間多数の研修修了者を送り出してきました。その後、幾度かの変遷を経て、現在では、毎年4月1日に研修開始して、2年後の3月31日に修了する方式を採っています。

ローテイトに当たっては、研修医と十分話し合いを持ち、それぞれに最も適した個別カリキュラムを組んで、限られた期間に充実した研修成果が上がるよう努めています。

また、各科の基礎的診断治療のための技能の習得のみならず、“病気を診るのではなく、悩める病人を診る”という、診療態度の修得やプライマリ・ケアを重視した研修を行っています。

医学の進歩に伴い、医療の専門分化・高度化により各臓器疾患の専門医は増加し、これまで治療困難とされた疾患が克服できるようになりました。それに反して患者を全人的に診療できる医師（General Physician）は少なく、“病気のみを診るのではなく悩める病人を診る”ことのできるGeneral Physicianの養成が社会的に求められています。また、本当の意味での専門医はGeneral Physicianとしての素養を身につけた上で、自分の専門分野を追及していくべきと考えます。

そこで当院では、“臓器別専門医である前に、患者全体を診て適切な診療を行う”を基本方針の基に、臨床医としての基礎的臨床能力を養成することを主たる目標にしました。

(3) 指導者と研修施設

ア 指導者と研修プログラム責任者

研修管理委員会委員長 小宮 浩一郎

イ 研 修 施 設

診療各科及び検査科の施設、研究室、会議室

ウ 指導医リスト 〔医師免許取得後7年以上〕（平成28年6月1日現在）

内 科	大曾根 康夫	岡野 裕	有馬 功一郎	佐山 宏一
	野崎 博之	末吉 浩一郎	坂本 光男	玉井 博修
	西澤 健也	夏 錦言	高木 英恵	津村 和大
	李 慧崇	田口 博章	有泉 健	大森 奈緒
	東野 俊洋	高橋 賢至	高田 昌幸	田中 希宇人
	井上 健太郎	深江 智明	室田 敦子	扇野 圭子
	細田 智弘	北薊 久雄		
精神科	齋藤 寿昭	鹿島 美納子	米森 京子	
小児科	番場 正博	土橋 隆俊	檜林 敦	荒木 耕生
	外山 陽子	志村 和浩		
新生児内科	森 和広	栗原 伸芳	梶原 久美子	坂井 みのり
外 科	掛札 敏裕	相浦 浩一	市東 昌也	萬谷 京子
	和多田 晋	三原 規奨	荒木 一兵太	菊池 弘人
	井上 正純			

救命救急センター	田熊 清継 塩島 裕樹 竹村 成秀 土井 賢治	大城 健一 荘司 清 金尾 邦生	郷内 志朗 權守 智 春成 学	齋藤 豊 進藤 健 野口 啓
脳神経外科	竹中 信夫	今西 智之		
脳血管外科	片山 真	植田 良		
整形外科	小柳 貴裕 山口 健治 稲葉 尚人	中道 憲明 船尾 陽生	小宮 浩一郎 川崎舎 俊一	西脇 正夫 西田 有正
心臓血管外科	蜂谷 貴	笠原 啓史		
呼吸器外科	澤藤 誠	井澤 菜緒子		
皮膚科	宮川 俊一	渡邊 絵美子		
泌尿器科	原 智	金子 剛	服部 盛也	石岡 桂
産婦人科	林 保良 樋口 隆幸	染谷 健一 金 善恵	中田 さくら 千代田 達幸	上野 和典 鈴木 毅
眼 科	富田 洋平	鈴木 亜鶴		
耳鼻咽喉科	今西 順久	佐藤 陽一郎	中原 奈々	
放射線診断科	成松 芳明	倉田 忠宜	長谷川 市郎	佐藤 宏朗
放射線治療科	栗林 徹	黒岩 信子		
形成外科	畑野 麻子			
歯科口腔外科	鬼澤 勝弘	安居 孝純		
麻酔科	森田 慶久 阪本 浩平	逢坂 佳宗 平畑 枝里子	丹羽 規久子	安藤 嘉門
検査科	杉浦 仁			
リハビリテーション科	阿部 玲音	岩崎 真梨	富岡 曜平	

エ 専門医（認定医）教育病院等学会の指定状況

日本内科学会認定教育病院	日本放射線腫瘍学会認定協力施設
日本小児科学会専門医研修支援施設	日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設	日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本外科学会専門医制度修練指定施設	日本 IVR 学会専門医修練認定施設
日本精神神経学会 精神科専門医制度研修施設	心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設関連施設
日本脳神経外科学会専門医研修プログラム研修施設	日本集中治療医学会専門医研修施設
日本整形外科学会専門医研修施設	日本呼吸器学会認定施設
日本認知症学会認定教育施設	日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本形成外科学会認定教育関連施設	日本感染症学会認定研修施設
日本皮膚科学会専門医研修施設	日本臨床細胞学会認定施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
日本眼科学会専門医研修施設	日本口腔外科学会関連研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	呼吸器外科専門医合同委員会認定修練基幹施設

日本麻酔科学会指導医指導病院	日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
日本病理学会専門医研修認定施設	生殖医療医学会生殖医療専門医制度認定研修施設
日本リハビリテーション医学会認定研修施設	日本胆道学会認定指導施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本大腸肛門病学会認定施設
日本リウマチ学会認定施設	日本緩和医療学会認定研修施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設	日本がん治療医認定機構認定研修施設
日本アレルギー学会認定施設	日本手外科学会認定研修施設
日本神経学会専門医制度准教育施設	日本頭頸部外科学会準認定施設
日本消化器病学会専門医制度認定施設	日本脈管学会認定研修指定施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設	日本食道学会全国登録認定施設
日本核医学会専門医教育病院	日本消化管学会胃腸科指導施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設	日本アレルギー学会認定準教育施設
日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設	日本周産期・新生児医学会専門医制度暫定認定施設
日本医学放射線学会専門医総合修練機関	日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設

オ 指導体制

各科とも原則としてマンツーマン方式を取れ入れています。

(4) プログラム委員会

本院には、研修管理委員会が設置されており、その委員がプログラム委員を兼務します。

(5) プログラム管理体制

ア 研修管理委員会の組織・機能

(ア) 委員長：小宮 浩一郎 研修管理委員会委員長

(イ) 構成：委員は各研修カリキュラムの責任者、院長、事務局長、副院長、庶務課長、研修協力施設の研修実施責任者（指導医等）、外部委員（医師等）

(ウ) 業 務

a 研修プログラムの全体的な調整・管理

（研修プログラム作成方針の決定や、各研修カリキュラム間の相互調整など）

b 研修医の全体的な管理

（研修医の募集、他施設への出向、研修医の処遇、研修医の健康管理）

c 研修医の研修状況の評価

（研修目標の達成状況の評価、臨床研修修了の評価）

d 採用時における研修希望者の評価

e 指導医の評価と記録

f 研修後の進路について、相談等の支援を行う

g 院内カンファレンス、研修資料と教育機材の管理、指導医研修

イ 研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法

研修医の勤務規定、顕彰・処罰規定及び採用方法は別途定める要綱によります。研修医は、毎年公募により採用されます。

ウ 研修プログラムの自己評価と改善体制

研修管理委員会では、研修医の研修成果や研修医・指導医の意見を踏まえ、常に研修プログラム自体の評価を行い、修正可能な点は速やかに修正します。また、大きなシステム上の問題は、関係各所と協議の上、適宜改善を行います。

エ 研修医からのフィードバック

研修医は、研修実行委員と定期的に面接を行い、研修プログラムや指導医に対する意見を述べるができます。臨床研修委員会は、できるだけ研修医の要望を実現できるように配慮します。

オ 研修の継続が困難な研修医に対する処置

身体的・社会的・経済的理由などにより、研修継続が困難な状態に陥った場合は、臨床研修委員会及び研修責任者は、研修医個人の処遇を勘案し、適切な対応を行うものとします。

(6) 卒後臨床研修・ローテイトについて

ア 期間割り研修医予定配置

1年次の最初の月（4月）は、全員が救急科で研修を行います。厚生労働省の定める内科6箇月、救急科3箇月、地域医療1箇月を必修科目として計10箇月間研修します。選択必修は5科（外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科）の中から2科を選択し、選択科（内科、外科、救急科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、整形外科、放射線科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、心臓血管外科、リハビリテーション科、検査（病理）科、の中から選択）と合わせて計14箇月の研修を行います。

選択科目の研修期間は、プログラムの特性を配慮し、最低1箇月とします。

選択科目の研修に当たっては、研修医が各研修カリキュラムを選択し、積極的に研修に取り組む、充実した研修ができるように留意します。

(7) 研修医定員及び処遇

研 修 医 定 員	： 1 年次10名、2 年次10名
募 集 及 び 採 用 方 法	： 公募、小論文、集団面接及び集団討論にて選考、マッチングに参加
資 格	： 平成28年度日本で医師免許取得見込みの者
処 遇	： 川崎市非常勤嘱託職員 地方公務員法（以下「地公法」という。）第30条及び第32条から第35条を、遵守する義務を負う。
待 遇	： 給与月額 364,100円 健康保険・厚生年金・雇用保険・労働災害補償あり レジデントハウス（単身者用）あり 病院個室なし、個人の机及びロッカー有り 定期健康診断年 1 回 医師賠償責任保険は病院として加入

学会及び研究会への参加は研修に支障のない範囲で可。ただし、公費負担なし。

勤務時間：1週5日（月～金曜日）

月～金曜日：8時30分～17時まで 時間外勤務なし

研修以外の診療活動は認めない（地公法第38条の改正による）

当直は配属科により変わるが、内科の場合に平日当直2日、休日当直1日が目安である。

年次有給休暇等：1年目10日、2年目11日付与

夏期休暇5日（6月1日～10月31日までの間に取得）

(8) 研修修了認定基準

臨床研修医に関する要綱中、第10条の修了証書の授与に際しては、次の基準によるものとします。

ア 各研修医は、厚生労働省の指定した初期臨床研修到達目標の自己評価表に基づき、自己採点を行い、研修責任者に提出する。

イ 研修責任者は、研修管理委員会を開催し、ローテイトした科の指導責任者の採点によるレジデント評価表と研修医が採点した自己評価表を併せて審査し、その結果を院長に報告する。

ウ 院長は、報告に基づき研修が修了したと認定された研修医に対して、修了証書を授与する。

VII 業 績 目 録

科目 年度 科 別		業 別 科												
		内科・総合診療科	精神科	小児科	新生児内科	外科	呼吸器外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科
学 位 取 得	23													
	24												1	
	25					1								
	26									1				1
	27													
賞	23													
	24					1							1	
	25													
	26	1												
	27													
研 究 助 成 共 同 研 究	23	2				1								
	24	1						1						
	25	1						1						
	26	2						1					1	
	27		1					1					1	
書 籍	23	5	3	1					4				1	1
	24	3		2		24			23					
	25	4		11		1			1					
	26	1		1		2			1					5
	27					1	4		10					1
論 文	23	3	1			33	1		24				2	3
	24	3				2	1		16			1	9	3
	25	10		2		8	2	2	20	2	6	1	2	
	26	18		9		5	3	1	20	1	1	7	4	11
	27	10		9	1	5	1		19			1	4	4
学 会 研 究 会	23	36	5	7		11	8	2	33			3	5	14
	24	22	4	4		1	8	1	18		3	6	13	31
	25	45	3	18	2	30	5	2	34	1		7	4	
	26	54	5	13	1	21	2	2	67	2	1	5	6	34
	27	22	3	18	7	21	4	3	60	1	1	5	2	9
そ の 他	23	13	1	2		9		1					1	
	24	7							15				1	
	25	7	2	1										
	26	4	5	10	2			1	8				2	
	27	21		4		1			4		1		1	

※ 平成25年度から業績目録の様式を変更。

※ 「新生児内科」「形成外科」は平成25年度から計上。「放射線診断科」「放射線治療科」は平成25年度から分離。「医療安全管理室」は平成26年度から計上。

※ 平成26年度から「学会」と「研究会」を統合。

※ 「書籍」は「著書」と「書籍の章」の合算。「その他」には「講演会等」を含む。

績 統 計

眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	放 射 線 治 療 科	放 射 線 診 断 科	麻 酔 科	救 急 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	歯 科 口 腔 外 科	検 査 科	薬 剤 部	看 護 部	医 療 安 全 管 理 室	地 域 医 療 部	感 染 対 策 室	食 養 科	合 計
1					1		1		1						0 2 1 3 2
2	1	1						1		3 4 1					0 4 3 6 3
1					1	1	1 1 1 1 1								5 3 3 6 5
		3 1			4 1 15	2 1	1 3 1		2 1 1				2 1 1	1	26 56 35 16 24
1 1 3	5 2 2 3	2 4		9 3 7 1 4	3 5 19 3 11	2		12 6	3 1 4 2 3						99 57 94 97 98
3 3	22 17 12 16 21	15 7 25 4 2	1 5	18 16 18 13 8	20 24 33 34 36	4 5 2 5 5	1 4 2 14 6	11 12 9 8 6	7 4 3 4 8					2 4 5 1	222 202 269 327 257
	1	8 4		5 1	14 48 5 17 5			4 3	3	3 1			5 1 10	2 5 7	58 90 23 120 122
1	5	1		9	5	3	17	16	15 7		10 25	11			

1 当院における学位取得者

(1) 眼科

富田洋平. 医学博士. 平成 28 年 1 月取得. Wide-Angle Viewing System versus Conventional Indirect Ophthalmoscopy for Scleral Buckling. Scientific Reports. 2015; Sep 2;5

(2) 歯科口腔外科

安居孝純. 医学博士. 平成 28 年 3 月取得. Purified Human Dental Pulp Stem Cells Promote Osteogenic Regeneration. Journal of Dental Research. 2016; 95: 95-214.

2 賞

(1) 眼科

富田洋平. 慶應義塾大学眼科同窓会研究奨励賞. 平成 27 年 11 月. 受賞理由: 研究成果が評価された

富田洋平. 慶應義塾大学眼科ベストペーパーアワード. 平成 27 年 11 月. 受賞理由: scientific reports に accept された論文が評価された

(2) 看護部

岩崎明美. 川崎市病院協会 平成 27 年度優良職員協会長. 平成 27 年.

3 研究助成及び共同研究

(1) 精神科

内田貴仁 (主任研究者). ベンゾジアゼピン・アルコール同時使用と精神症状の関係 2015-2016 井之頭病院研究基金.

(2) 脳神経外科

植田良. 悪性神経膠腫および腫瘍新生血管に対する複合的ペプチドワクチン療法の評価法開発.

(3) 泌尿器科

服部盛也. 科学研究費 若手研究 B. 尿路上皮癌における Ax1 リン酸化阻害薬の抗腫瘍効果に関する検討

(4) 眼科

富田洋平. 2016 年 科学研究費 若手研究 B. 高脂肪食と加齢黄斑変性

(5) 歯科口腔外科

安居孝純. 平成 25 年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金 若手研究 B), 研究課題名: 予期的に分離したヒト歯髄幹細胞の in vivo における評価と顎骨壊死治療への応用, 補助事業期間: 平成 25 年度～平成 27 年度

4 著書

(1) 外科

萬谷京子. 立体模型でよくわかる腋窩郭清ビジュアルテキスト. 中外医学社. 東京. 2015. 総ページ数 106.

(2) 整形外科

堀内行雄. 複合性局所疼痛症候群をもっと知ろうー病態・診断・治療から後遺障害診断までー. 全

5 書籍の章

(1) 呼吸器外科

澤藤誠. 治療総論. 臨床に役立つ気胸の診断と治療. 菊池功次, 澤藤誠, 田島敦志. 東京, 克誠堂出版, 2015;第1版, p. 14-23.

澤藤誠. 内科(保存)的治療. 臨床に役立つ気胸の診断と治療. 菊池功次, 澤藤誠, 田島敦志. 東京, 克誠堂出版, 2015;第1版, p. 24-33.

澤藤誠. 再膨張性肺水腫. 臨床に役立つ気胸の診断と治療. 菊池功次, 澤藤誠, 田島敦志. 東京, 克誠堂出版, 2015;第1版, p. 59-62.

神山育男. 巨大肺嚢胞. 臨床に役立つ気胸の診断と治療. 菊池功次, 澤藤誠, 田島敦志. 東京, 克誠堂出版, 2015;第1版, p. 167-169.

(2) 整形外科

堀内行雄. 橈骨へのアプローチ. 整形外科手術イラストレイテッド上腕・肘・前腕の手術. 金谷文則. 東京, 中山書店, 2015; p. 35-42.

越智健介, 堀内行雄, 田崎憲一. 特発性前骨間神経麻痺, 特発性後骨間神経麻痺. 肘関節手術のすべて. 今谷潤也. 東京, メジカルビュー, 2015; p. 248-263.

中村俊康, 堀内行雄. CRPS の画像診断—BMD 計測および MRS による診断—. 複合性局所疼痛症候群をもっと知ろう—病態・診断・治療から後遺障害診断まで—. 堀内行雄. 東京, 全日本病院出版会, 2015; p. 22-29.

西脇正夫. 三角線維軟骨複合体 (TFCC) 損傷. 上肢臨床症候の診かた・考え方. 玉井和哉. 東京, 南山堂, 2016; p. 219-221.

西脇正夫. 月状骨(周囲)脱臼. 上肢臨床症候の診かた・考え方. 玉井和哉. 東京, 南山堂, 2016; p. 228-229.

船尾陽生, 相澤守, 石井賢. 抗菌インプラントの開発. 関節外科 特集: 人工関節周囲感染. 齋藤知行. 東京, メジカルビュー, 2015; p. 78-83.

船尾陽生, 石井賢. Clinical Question “MISt (最小侵襲脊椎安定術)の適応について教えてください”. Locomotive Pain Frontier. 牛田享宏ほか. 大阪, メディカルレビュー, 2015; p. 44-47.

船尾陽生, Kebaish K, 福田健太郎, 松本守雄, 石井賢. 経皮的 S2 alar iliac screw 刺入法のコツ. — PPS 刺入法 (アドバンス編)—. MISt 手技における経皮的椎弓根スクリューの基礎とその臨床応用. 星野雅洋ほか. 東京, 三輪書店, 2015; p. 59-62.

船尾陽生, 石井賢. C-アームによる被曝とその対策. —安全性への取り組み—. MISt 手技における経皮的椎弓根スクリューの基礎とその臨床応用. 星野雅洋ほか. 東京, 三輪書店, 2015; p. 203-206.

(3) 産科・婦人科

樋口隆幸. 思春期医療—若年妊娠と合併症. 今日の小児治療指針. 東京, 医学書院, 2015; p. 734-735.

(4) 耳鼻咽喉科

相馬啓子. めまい. 慶應義塾大学病院の医師 100 人と学ぶ病気の予習帳. 東京, 講談社, 2015; p. 170-171.

(5) 麻酔科

安藤嘉門. 【介助&アセスメントの「なぜ?」「どうする?」がわかる! 全身麻酔・局所麻酔患者の体内をのぞき見!厳選ビジュアル集】局所麻酔・神経ブロック. オペナーシング 2015 年 11 月号. 荒木泰人. 大阪市, メディカ出版, 2015; 初版, p. 1154-1164.

安藤嘉門. 新知見を知って看護力も UP! 先生! ホントのところ教えてください! 麻酔 イラスト・写真で丸わかり! 神経ブロック、何がどこに効く?. オペナーシング 2016 年 3 月号. 荒木泰人. 大阪市, メディカ出版, 2016; 初版, p. 246-249.

逢坂佳宗. 【はじめのはじめからまるっとわかる 整形外科ナースのための麻酔看護の Q&A34】末梢神経ブロックの Q&A. 整形外科看護 2015 年 7 月号. 荒木泰人. 大阪市, メディカ出版, 2015; 初版, p. 659-665.

逢坂佳宗. 【どう効かせたい?→何を選ぶ?が一目でわかる!術中に使用する薬剤 麻酔科医の心の中・頭の中先読みセミナー】筋弛緩薬. オペナーシング 2015 年 9 月号. 荒木泰人. 大阪市, メディカ出版, 2015; 初版, p. 917-922.

逢坂佳宗. 【どう効かせたい?→何を選ぶ?が一目でわかる!術中に使用する薬剤 麻酔科医の心の中・頭の中先読みセミナー】局所麻酔薬(脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔). オペナーシング 2015 年 9 月号. 荒木泰人. 大阪市, メディカ出版, 2015; 初版, p. 910-916.

(6) 歯科口腔外科

鬼澤勝弘, 安居孝純. 急性疱疹性歯肉口内炎. 薬' 17/ ' 18 歯科 疾患名から治療薬と処方例がすぐわかる本. 朝波惣一郎, 王宝禮, 矢郷香. 東京, クインテッセンス出版, 2016 年 3 月; p. 128-129.

(7) 薬剤部

小林岳. 第 19 章 病原微生物(感染症)と薬Ⅲ細菌感染症の薬、病態、治療. NEO 薬学シリーズ 10 疾患薬理学. 成田年. 神奈川, ネオメディカル, 2016; p. 626-680"

6 論文

(1) 内科・総合診療科

津村和大. 【糖尿病診療のスキルアップ】糖尿病足病変のフットケア人材育成で求められる多職種連携の視点. 月刊糖尿病. 2015; 7:63-70.

津村和大. 地域包括ケアシステム構築における糖尿病療養支援チームの課題と展望. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 2016 ; Vol. 20 No. 1, 105-109.

本橋健史, 工藤雄大, 田口博章, 楠 芳恵, 大曾根康夫, 野崎博之, 岡野 裕, 秋月哲史, 杉浦 仁, 安斎慎一. 洞不全症候群で発症し、7 年後に皮膚生検でサルコイドーシスと診断、その 5 年後に抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)関連顕微鏡的多発血管炎を発症した一例. 関東リウマチ. 2015; 48:39-45.

Matsusaka M, Kabata H, Fukunaga K, Suzuki Y, Masaki K, Mochimaru T, Sakamaki F, Oyamada Y, Inoue T, Oguma T, Sayama K, Koh H, Nakamura M, Umeda A, Ono J, Ohta S, Izuhara K, Asano K,

Betsuyaku T. Phenotype of asthma related with high serum periostin levels. *Allergol Int.* 2015; 64:175-80.

野崎博之. 【悪性腫瘍に伴う脳梗塞】Trousseau 症候群の発症メカニズム. *神経内科.* 2015; 83:302-305.

野崎博之. 【細菌性髄膜炎の臨床と最新の治療】鑑別診断結核性髄膜炎. *Clinical Neuroscience.* 2015; 33:1255-1258.

野崎博之. 神経疾患治療ノート悪性高熱症. *Clinical Neuroscience.* 2015; 33: 1429-1430.

玉城博章, 工藤雄大, 東野俊洋, 田口博章, 大曾根康夫, 岡野 裕. 顕微鏡的多発血管炎の治療中にニューモシスチス肺炎を合併し巨大肺嚢胞を形成したが薬物治療により縮小した一例. *関東リウマチ.* 2016; 49:213-218.

Kabata H, Moro K, Koyasu S, Asano K. Group 2 innate lymphoid cells and asthma. *Allergol Int.* 2015; 64:227-34.

Maeda Y, Taguchi H, Kudo T, Okano Y. Takayasu arteritis and ischaemic stroke. *QJM.* 2016; 109:45-6.

(2) 小児科

Mass Screening Committee; Japanese Society for Pediatric Endocrinology; Japanese Society for Mass Screening, Nagasaki K, Minamitani K, Anzo M, Adachi M, Ishii T, Onigata K, Kusuda S, Harada S, Horikawa R, Minagawa M, Mizuno H, Yamakami Y, Fukushima M, Tajima T. Guidelines for Mass Screening of Congenital Hypothyroidism (2014 revision). *Clin Pediatr Endocrinol.* 2015; 24:107-133.

Mass Screening Committee; Japanese Society for Pediatric Endocrinology; Japanese Society for Mass Screening, Ishii T, Anzo M, Adachi M, Onigata K, Kusuda S, Nagasaki K, Harada S, Horikawa R, Minagawa M. Guidelines for diagnosis and treatment of 21-hydroxylase deficiency (2014 revision). *Clin Pediatr Endocrinol.* 2015; 24:77-105.

Shinjo H, Sugaya N, Yamaguchi Y, Tomidokoro Y, Sekiguchi S, Mitamura K, Fujino M, Shiro H, Komiyama O, Taguchi N, Nakata Y, Yoshida N, Narabayashi A, Myokai M, Sato M, Furuichi M, Baba H, Fujita H, Sato A, Ookawara I, Tsunematsu K, Yoshida M, Kono M, Tanaka F, Kawakami C, Kimiya. Effectiveness of Trivalent Inactivated Influenza Vaccine in Children Estimated by a Test-Negative Case-Control Design Study Based on Influenza Rapid Diagnostic Test Results. *PLoS One.* 2015; 10:e0136539.

Ishii T, Matsuo N, Sato S, Ogata T, Tamai S, Anzo M, Kamimaki T, Sasaki G, Inokuchi M, Hori N, Amano N, Narumi S, Shibata H, Hasegawa T. Human Chorionic Gonadotropin Stimulation Test in Prepubertal Children with Micropenis Can Accurately Predict Leydig Cell Function in Pubertal or Postpubertal Adolescents. *Horm Res Pediatr.* 2015; 84:305-310.

Matsui Y, Takenouchi T, Narabayashi A, Ohara K, Nakahara T, Takahashi T. Childhood Sjögren syndrome presenting as acute brainstem encephalitis. *Brain & Development.* 2016; 38:158-162.

津村由紀, 世間瀬基樹, 千葉剛史, 成田雅美, 二村昌樹, 大矢幸弘. 小児科医の行動変容を目的とした食物アレルギー研修プログラムの開発と有用性の検討. *アレルギー.* 2015; 64:721-723.

三谷麻里絵, 鳥居健一, 江原和美, 本田堯, 荒木耕生, 後藤正之, 檜林敦, 津村由紀, 安藏慎, 番場正博. 発症した腸管出血性大腸菌 O157 感染症の 10 歳男児例. *小児科.* 2015; 56:1827-1830.

志村 和浩, 長谷川奉延. 小児における内分泌機能検査. ホルモンと臨床. 2014; 62:79-84.

Shinjo M, Sugaya N, Yamaguchi Y, Tomidokoro Y, Sekiguchi S, Mitamura K, Fujino M, Shiro H, Komiyama O, Taguchi N, Nakata Y, Yoshida N, Narabayashi A, Myokai M, Sato M, Furuichi M, Baba H, Fujita H, Sato A, Ookawara I, Tsunematsu K, Yoshida M, Kono M, Tanaka F, Kawakami C, Kimiya T, Takahashi T, Iwata S. Effectiveness of Trivalent Inactivated Influenza Vaccine in Children Estimated by a Test-Negative Case-Control Design Study Based on Influenza Rapid Diagnostic Test Results. PLOS ONE. August 28, 2015.

(3) 新生児内科

坂井みのり, 佐藤利永子, 井手義顕, 山本敬一, 栗原まな. 急性脳症後の高次脳機能障害に対する小児科医としての取り組み. 小児科臨床. 2016;69-431.

(4) 外科

Hoshimoto S, Aiura K, Tanaka M, Shito M, Kakefuda T, Sugiura H. Mass-forming type 1 autoimmune pancreatitis mimicking pancreatic cancer. J Dig Dis. 2016;17:202-209.

Hoshimoto S, Aiura K, Shito M, Kakefuda T, Sugiura H. Successful resolution of a hemorrhagic pancreatic pseudocyst ruptured into the stomach complicating obstructive pancreatitis due to pancreatic cancer: a case report. World J Surg Oncol. 2016;14:46.

Hoshimoto S, Aiura K, Shito M, Kakefuda T, Sugiura H. Adenosquamous carcinoma of the ampulla of Vater: a case report and literature review. World J Surg Oncol. 2015; 13:287.

Yorozuya K, Kawase K, Akashi-Tanaka S, Kanbayashi C, Nomura S, Tomizawa Y. Mentorship as Experienced by Women Surgeons in Japan. World J Surg. 2016; 40:38-44.

Shinoda M, Kishida N, Itano O, Ei S, Ueno A, Kitago M, Abe Y, Hibi T, Yagi H, Masugi Y, Tanabe M, Aiura K, Sakamoto M, Tanimoto A, Kitagawa Y. Long-term complete response of advanced hepatocellular carcinoma treated with multidisciplinary therapy including reduced dose of sorafenib: case report and review of the literature. World J Surg Oncol. 2015;13:144.

(5) 呼吸器外科

Eguchi K, Sawafuji M. Surgical management of a patient with bilateral multiple pulmonary epithelioid hemangioendothelioma: report of a case. Surg Today. 2015; 45:904-906

(6) 整形外科

塩野雄太, 日方智宏, 船尾陽生, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. MIST手技における新たな胸椎経皮的椎弓根スクリュー刺入法 (Groove Entry Technique). 2015; 6: 1295-1299.

大門憲史, 磯貝宜広, 船尾陽生, 中道憲明, 小宮浩一郎, 西脇正夫, 別所祐貴, 堀内孝一, 橋田祐樹, 平賀聡, 西田有正, 堀内行雄, 小柳貴裕. 保存的治療で改善を認めた小児炎症性斜頸の2例. 2015; 28(4): 65-68.

森田晃造, 堀内行雄. Polyaxial locking plateを用いた橈骨遠位端骨折治療例の遠位骨片へのスクリューの固定本数の違いにおける固定性の検討—2nd rowの意義—. 2015; 31(5): 604-607.

堀内孝一, 堀内行雄, 別所祐貴, 西脇正夫, 中道憲明, 佐藤和毅. 重度 Heberden 結節における X線所見と疼痛との関連性についての検討. 2015; 31(6): 964-968.

別所祐貴, 堀内行雄, 堀内孝一, 中道憲明, 中村俊康. 温冷交代浴を併用した上肢 CRPS の治療経験. 2015; 31(6): 1006-1008.

木村洋朗, 西脇正夫, 高松広周, 森智章, 水谷憲生, 關口治, 上田誠司, 吉田宏. 外固定期間中に尺骨頭が掌側脱臼した Galeazzi 骨折の 1 例. 2015; 50: 1251-1255.

森重雄太郎, 小柳貴裕, 飯田剛, 金子康仁. 診断に時間を要した Surfer's Myelopathy の 1 例. 2015; 50: 813-816.

中間楽平, 別所祐貴, 橘田祐樹, 小宮浩一郎, 市東昌也, 小柳貴裕. 股関節周囲の疼痛で整形外科を受診した閉鎖孔ヘルニアの 1 例. 2015; 58: 1289-1291.

小宮浩一郎, 磯貝宜広, 中間楽平, 原藤健吾. TKA 後に生じた膝蓋腱断裂に対し、Leeds-Keio 人工靱帯による再建に加えて大腿四頭筋腱の V-Y 形成を要した 1 例. 2015; 45: 541-542.

福原悠介, 橘田祐樹, 小柳貴裕, 中道憲明, 西脇正夫, 小宮浩一郎, 別所祐貴, 船尾陽生, 大門憲史, 稲葉尚人, 大野聡一郎. 治療に難渋した両側大腿骨頸部骨折を発症した突発性大腿骨頭壊死症の 1 例. 2016; 43(1): 138-139.

Nishiwaki M, Welsh M, Gammon B, Ferreira LM, Johnson JA, King GJ. Volar Subluxation of the Ulnar Head in Dorsal Translation Deformities of Distal Radius Fractures: An In-Vitro Biomechanical Study. 2015; 29: 295-300.

Nishiwaki M, Welsh M, Gammon B, Ferreira LM, Johnson JA, King GJ. Effect of Volarly Angulated Distal Radius Fractures on Forearm Rotation and Distal Radioulnar Joint Kinematics. 2015; 40A: 2236-2242.

Funao H, Irie R, Daimon K, Isogai N, Sugiura H, Koyanagi T. Intradural extramedullary non-myxopapillary ependymoma with a lumbar nerve root involvement in a Japanese male. 2016; pii: S1529-9430(16)00329-6.

Funao H, Ishii K, Nagai S, Sasaki A, Hoshikawa T, Tsuji T, Aizawa M, Okada Y, Koyasu S, Toyama Y, Matsumoto M. A novel hydroxyapatite film coated with ionic silver via inositol hexaphosphate chelation prevents implant-associated infection. 2016; 6:23238.

Funao H, Koyanagi T. Massive intrapelvic hematoma after a pubic ramus fracture in an osteoporotic patient. 2016; ISSN: 2378-0248.

Lau D, Funao H, Clark AJ, Nicholls F, Smith JS, Bess S, Shaffrey C, Schwab FJ, Lafage V, Deviren V, Hart R, Kebaish KM, Ames CP, International Spine Study Group. The clinical impact correlation of the Hart-ISSG proximal junctional kyphosis severity score (PJKSS) in 184 patients: HRQOL and prediction of need for revision surgery. 2016; 41(3): 213-223.

Ishii K, Kaneko Y, Funao H, Ishihara S, Shinohara A, Nakanishi K, Hikata T, Fujita N, Iwanami A, Hosogane N, Watanabe K, Nagura T, Nakamura M, Toyama Y, Matsumoto M. A novel percutaneous guide wire (s-wire) for percutaneous pedicle screw insertion: its development, efficacy, and safety. 2015; 22(5): 469-473.

Chen RQ, Hosogane N, Watanabe K, Funao H, Okada E, Fujita N, Hikata T, Iwanami A, Tsuji T, Ishii K, Abe T, Toyama Y, Nakamura M, Matsumoto M. Reliability analysis of spino-pelvic parameters in adult spinal deformity: A comparison of whole spine and pelvic radiographs. 2016; 41(4): 320-327.

Ochi K, Horiuchi Y, Arino H, Toyama Y. Interfascicular neurolysis for incomplete spontaneous posterior interosseous nerve palsy with a surgical delay of 17 Years: Is It Still Effective?.

2015; 20(2): 302-303.

(7) 皮膚科

渡邊絵美子. 脱毛症の病態を正確に知るための皮膚生検戦略. *Visual Dermatology*. 2015; 14: 1284-1288.

(8) 泌尿器科

Hattori S, Kikuchi E, Kosaka T, Miyazaki Y, Tanaka N, Miyajima A, Mikami S, Oya M. Relationship Between Increased Expression of the Axl/Gas6 Signal Cascade and Prognosis of Patients with Upper Tract Urothelial Carcinoma. *Anal. of surgical oncology*. 2016; 23: 663-670.

Matsushima M, Miyajima A, Hattori S, Takeda T, Mizuno R, Kikuchi E, Oya M. Comparison of continence outcomes of early catheter removal on postoperative day 2 and 4 after laparoscopic radical prostatectomy: a randomized controlled trial. *BMC Urol*. 2015; 31: 77-.

Shigeta K, Kikuchi E, Hagiwara M, Hattori S, Kaneko G, Hasegawa M, Takeda T, Jinzaki M, Akita H, Miyajima A, Nakagawa K, Oya M. Visceral to total obesity ratio and severe hydronephrosis are independently associated with prolonged pneumoperitoneum operative time in patients undergoing laparoscopic radical nephroureterectomy for upper tract urothelial carcinoma.. *Springerplus*. 2015; 24: 290-.

Matsushima M, Kikuchi E, Matsumoto K, Hattori S, Takeda T, Kosaka T, Miyajima A, Oya M. Intravesical dual PI3K/mTOR complex 1/2 inhibitor NVP-BEZ235 therapy in an orthotopic bladder cancer model. *Int J Oncol*. 2015; 47: 377-383.

(9) 産科・婦人科

樋口隆幸, 予防的頸管縫縮術—エビデンスと診療—, 産婦人科の実際, 2015; 12: 1887-1891.

Lin BL, Tsuchiya K, Tomosaka M, Okochi M, Uterine tumor resembling ovarian sex cord tumors diagnosed after resectoscopic operation in a 37-year-old woman, *Gynecol Minim Invasive Thera*. 2015; 4: 16-17.

Asai S, Asada H. Lin BL, Remnant of rubber tip cover of uterine manipulator after laparoscopic myomectomy, *Gynecol Minim Invasive Thera*. 2015; 4: 18-19.

Lin BL, Chin H, Okochi M, Takeda T, Suzuki T, Ueno K, Iwata S, Iwata S, Invention of a new Lin soft outer sheath as continuous flow system for diagnostic flexible hysteroscopy, *Gynecol Minim Invasive Thera*. 2015; 4: 87-89.

(10) 眼科

Tomita Y, Kurihara T, Uchida A, Nagai N, Shinoda H, Tsubota K, Ozawa Y. Wide-Angle Viewing System versus Conventional Indirect Ophthalmoscopy for Scleral Buckling. *Scientific Reports*. 2015; Sep 2;5.

Tomita Y, Nagai N, Suzuki M, Shinoda H, Uchida A, Mochimaru H, Izumi-Nagai K, Sasaki M, Tsubota K, Ozawa Y. Functional Visual Acuity in Age-Related Macular Degeneration. *Optometry and Vision Science*. 2016; Jan;93(1): 70-76.

Nagai N, Izumi-Nagai K, Suzuki M, Shinoda H, Koto T, Uchida A, Mochimaru H, Tomita Y, Miyake S, Kobayashi S, Sasaki M, Tsubota K, Ozawa Y. Association of Macular Pigment Optical Density With Serum Concentration of Oxidized Low-Density Lipoprotein in Healthy Adults. *Retina*. 2015;

Apr;35(4): 820-826.

(11) 耳鼻咽喉科

安田知久, 衛藤憲人, 荒木康智, 相馬啓子, 國弘幸伸. Foulage test におけるステップの新しい作図法. *Equilibrium Research*. 2016; 75: 22-26.

安田知久, 衛藤憲人, 荒木康智, 相馬啓子, 國弘幸伸. Foulage test における回転角測定の試み. *Equilibrium Research*. 2016; 75: 41-46.

Habu N, Imanishi Y, Kameyama K, Shimoda M, Tokumaru Y, Sakamoto K, Fujii R, Shigetomi S, Otsuka K, Sato Y, Watanabe Y, Ozawa H, Tomita T, Fujii M, Ogawa K. Expression of Oct3/4 and Nanog in the head and neck squamous carcinoma cells and its clinical implications for delayed neck metastasis in stage I/II oral tongue squamous cell carcinoma. *BMC Cancer*. 2015; 15: 730-/.

(12) 放射線診断科

Tsukada J, Hasegawa I, Torikai H, Sayama K, Jinzaki M, Narimatsu Y. Interventional therapeutic strategy for hemoptysis originating from infectious pulmonary artery pseudoaneurysms. *J Vasc Interv Radiol*. 2015; 26: 1046-1051.

成松 芳明. 脈管 技術編 EVT べからず集 「IVR 医」として. *血管外科*. 2015; 34: 127-129.

(13) 麻酔科

Ando K, Urakami K, Kusuhara M, Tamai S, Morisaki H. Metabolomic analysis of the mechanism of isoflurane induced apoptosis of PC12 cells. *J Metabolomics*. 2015; 1.

Saito I, Osaka Y, Shimada M. Transient third-degree AV block following sugammadex. *J Anesth*. 2015; 29: 641-641.

逢坂佳宗, 島田奈穂, 齋藤理絵, 齋藤郁恵, 小藺祐紀, 安藤岳史, 島田宗明. 足関節または踵骨手術に対する持続坐骨神経ブロックと持続硬膜外麻酔の術後鎮痛効果. *麻酔*. 2015; 64: 388-391.

逢坂佳宗. 人工膝関節置換術における麻酔法 神経ブロックを中心に. *日本関節病学会誌*. 2015; 34: 599-604.

(14) 救急科

田熊清継. 【感染制御の最前線 救急領域のベストプラクティス】 感染制御に注意を要する病原体 破傷風菌. *救急医学*. 2015; 39: 1376-1381.

大城健一. 【パパッと見てズバッとわかる!見逃すな!救急患者の症状・所見 30〜緊急対応?経過観察?〜】 喘鳴. *EMERGENCY CARE*. 2015; 28: 882-882.

大城健一. 【パパッと見てズバッとわかる!見逃すな!救急患者の症状・所見 30〜緊急対応?経過観察?〜】 呼吸困難. *EMERGENCY CARE*. 2015; 28: 848-849.

權守智, 田熊 清継, 市東昌也. 膀胱上窩ヘルニア嵌頓穿孔により大腿部のガスを伴う軟部組織感染症をきたした1例. *日本外科感染症学会雑誌*. 2015; 12: 705-708.

土井賢治. 頭部 CT で異常のない急な半身知覚低下をどう診断する?. *日本医事新報*. 2016; 4785: 58-59.

Gonai S, Doi K, Noguchi K, Kanao K, Gommori S, Saito Y, Oshiro K, Takahashi S, Ito S, Takuma K. Extraoral autoreduction of temporomandibular joint dislocation: a preliminary clinical study. *Am J Emerg Med*. 2015; 33: 588-589.

Gonai S, Kamio Y, Matsuoka T, Harunari M, Saito Y, Takuma K. A new autoreduction method for anterior shoulder dislocation: the GONAI method. *Am J Emerg Med.* 2016; 34: 120.e5-7.

Fujishima S, Ganto S, Saitoh D, Kushimoto S, Ogura H, Mayumi T, Takuma K, Kotani J, Yamashita N, Tsuruta R, Takeyama N, Shiraishi SI, Araki T, Suzuki K, Ikeda H, Miki Y, Suzuki Y, Yamaguchi Y, Aikawa N, Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry (JAAM SR) Study Group. Infection site is predictive of outcome in acute lung injury associated with severe sepsis and septic shock. *Respirology.* 2016; 21: 898-904.

SOS-KANTO 2012 Study Group. Subsequent shock deliveries are associated with increased favorable neurological outcomes in cardiac arrest patients who had initially non-shockable rhythms. *Crit Care.* 2015; 19: 322-322.

SOS-KANTO 2012 Study Group. Changes in treatments and outcomes among elderly patients with out-of-hospital cardiac arrest between 2002 and 2012. *Resuscitation.* 2015; 97: 76-82.

SOS-KANTO 2012 Study Group. Applying the termination of resuscitation rules to out-of-hospital cardiac arrests of both cardiac and non-cardiac etiologies: a prospective cohort study. *Crit Care.* 2016; 20: 49-49.

(15) 歯科口腔外科

Yasui T, Mabuchi Y, Toriumi H, Ebine T, Niibe K, Houlihan D D, Morikawa S, Onizawa K, Kawana H, Akazawa C, Suzuki N, Nakagawa T, Okano H, Matsuzaki Y. Purified Human Dental Pulp Stem Cells Promote Osteogenic Regeneration. *Journal of Dental Research.* 2016; 95: p.206-214.

Sato H, Castrillon EE, Cairns BE, Bendixen KH, Wang K, Nakagawa T, Wajima K, Svensson P. Intramuscular temperature modulates glutamate-evoked masseter muscle pain intensity in humans. *J Oral Facial Pain Headache.* 2015; 29: p.158-167.

Sato H, Castrillon EE, Cairns BE, Bendixen KH, Wang K, Nakagawa T, Wajima K, Svensson P. Intramuscular pH modulates glutamate-evoked masseter muscle pain magnitude in humans. *Eur J Pain.* 2016; 20: p.106-115.

Miyashita H, Asoda S, Horie N, Usuda S, Kato S, Muraoka W, Yamada Y, Yoshikawa M, Hasegawa T, Onizawa K, Tanaka I, Yazawa M, Ogata H, Kishi K, Tomita T, Nakagawa T, Kawana H. A titanium screw-retaining temporary denture on the raw surface muscular flap for the immediate maxillary reconstruction. *Journal of Oral and Maxillofacial surgery, Medicine and pathology.* 2015; 28: p.8-12.

Naganawa T, Sato H, Kumar A, Iida T, Naganawa E, Okamoto T, Ando T. Clinical Presentation of Oral Manifestations and Intraoral Somatosensory Changes in Fahr's Disease. *J Pain Relief.* 2015; 4: p.214-.

Naganawa T, Naganawa E, Kumar A, Sato H, Iida T, Morita S, Suzuki A, Okamoto T, Ando T. Effect of motivational interviewing on medication non-adherence for patients with chronic intraoral pain. *J Oral Maxillofac Surg Med Pathol.* 2016; 28: p.165-169.

内山公男, 山田学, 小松俊一, 相馬智也, 岩渕博史, 鬼澤勝弘, 安居孝純, 中山成一, 滝沢翼. 口腔癌患者に対する Docetaxel, Nedaplatin (5日間分割投与), 5-Fluorouracil 併用化学療法時の悪心に対する効果的な Aprepitant 投与タイミングの検討. *癌と化学療法* . 2015; 42:

p. 1191-1195.

滝沢翼, 柴田護, 萱間洋平, 黄杏里, 佐藤仁, 鳥海春樹, 清水利彦, 鈴木則宏, 遠藤友樹. TRPV1 刺激時の三叉神経脊髄路核における HMGB1 発現誘導. 日本頭痛学会誌. 2014; 42: p. 78-80.

遠藤友樹, 西須大徳, 村岡渡, 佐藤仁, 臼田頌, 中川種昭, 和嶋浩一. 口腔顔面痛外来における 口腔内疼痛患者の臨床統計. 日本口腔顔面痛学会誌. 2015; 8: p. 1-6.

(16) 検査科

山崎麻未, 小野澤裕也, 安部さやか, 金家明美, 永塚育江, 野崎博之. 脳波検査における検査精度向上への取り組みとその評価. 神奈川県臨床検査技師会雑誌. 2015; 50: 13-16.

Yoshida A, Yoshida H, Yoshida M, Mori T, Kobayashi E, Tanzawa Y, Yasugi T, Kawana K, Ishikawa M, Sugiura H, Maeda D, Fukayama M, Kawai A, Hiraoka N, Motoi T. Myoepithelioma-like Tumors of the Vulvar Region: A Distinctive Group of SMARCB1-deficient Neoplasms. Am J Surg Pathol. 2015; 39: 1102-1113.

本橋健史, 工藤雄大, 田口博章, 楠芳恵, 大曾根康夫, 野崎博之, 岡野裕, 秋月哲史, 杉浦仁, 安斎慎一. 洞不全症候群で発症し、7 年後に皮膚生検でサルコイドーシスと診断、その 5 年後に抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA)関連顕微鏡的多発血管炎を発症した一例. 関東リウマチ. 2015; 48: 39-45.

Hoshimoto S, Aiura K, Shito M, Kakefuda T, Sugiura H. Adenosquamous carcinoma of the ampulla of Vater: a case report and literature review. World J Surg Oncol. 2015; 13: 287-287.

Hoshimoto S, Aiura K, Shito M, Kakefuda T, Sugiura H. Successful resolution of a hemorrhagic pancreatic pseudocyst ruptured into the stomach complicating obstructive pancreatitis due to pancreatic cancer: a case report. World J Surg Oncol. 2016; 14: 46-46.

Hoshimoto S, Aiura K, Tanaka M, Shito M, Kakefuda T, Sugiura H. Mass-forming type 1 autoimmune pancreatitis mimicking pancreatic cancer. J Dig Dis. 2016; 17: 202-209.

(17) 薬剤部

小林岳. 医療経営士とチーム医療. 月刊医療経営士. 2015; 7 月号: 1-3.

小林岳. 人と人を繋ぐ. 週刊薬事新報. 2015; 平成 27 年 11 月 19 日号: 38-38.

坂井義則. 後発医薬品切り替えに伴う調剤過誤・調剤エラーの分析. 神奈川県病院薬剤師会雑誌. 2015; No.47: 2-5.

(18) 看護部

臼田美奈子. 特集 外来で看護師が子供を見る基本ポイントホームケア. 小児看護. 2015; 第 38 巻第 13 号.

小澤康子. 多重課題に強くなる. 月間ナーシング. 2015; Vol. 35 No.11.

小澤康子. 多重課題に強くなる. 月間ナーシング. 2016; Vol. 36 No.1.

7 学会・研究会

(1) 内科・総合診療科

井上健太郎, 相浦浩一, 星本相淳, 市東昌也, 有泉 健, 高木英恵, 玉井博修. 当院における超高齢者総胆管結石症に対する内視鏡治療の現状. Gastroenterological Endoscopy. 2015; 57(Suppl.):865.

脇坂悠介, 東谷卓美, 深江智明, 高橋賢至, 李慧崇, 西澤健也, 末吉浩一郎, 野崎博之, 秋月哲史. 急性心不全にて発症した胸部大動脈瘤破裂の1例. 日本内科学会関東地方会. 2015; 615回:27.

齋藤豊, 種本俊, 井上健太郎, 有泉健, 高木英恵, 玉井博修, 岡野裕, 野崎博之, 秋月哲史. 経皮経肝的静脈瘤塞栓術(PTO)にて止血し得た直腸静脈瘤の1例. 第616回日本内科学会関東地方会. 2015.

有田祐起, 東野俊洋, 田口博章, 大曾根康夫, 岡野裕, 野崎博之, 細田智弘, 坂本光男. 西表島への旅行歴から診断に至ったレプトスピラ症の1例. 日本内科学会関東地方会. 2015; 616回:24.

津村和大. 教育講演 I. 地域包括ケアシステム構築における糖尿病療養支援チームの課題. 第20回日本糖尿病教育・看護学会学術集会. 2015年9月.

津村和大. イブニングセミナー: CDE のあり方 患者-家族-医療スタッフのつながりの中で. 第3回日本糖尿病協会療養指導学術集会. 2015年7月.

津村和大. コメディカルセッション: 糖尿病眼合併症のために私たちができること. 糖尿病眼合併症を取り巻く概況. 第21回日本糖尿病眼学会総会. 2015年11月.

津村和大. シンポジウム. 管理栄養士に求められる「医療経済学」の視点. 第19回日本病態栄養学会年次学術集会. 2016年1月.

鈴木まり重, 津村和大, 小泉知子, 的場健太, 高田昌幸, 野崎博之, 有馬功一郎, 大曾根康夫, 岡野裕, 秋月哲史. 2系統の血球減少症とシェーグレン症候群を合併したバセドウ病の1例. 第617回日本内科学会関東地方会. 2015.

明神聡介, 佐山宏一, 加畑宏樹, 田中希宇人, 大森奈緒, 野崎博之, 岡野裕, 秋月哲史, 澤藤誠, 入江理恵. シェーグレン症候群に合併した結節性リンパ組織過形成により気管狭窄をきたした1例. 第618回日本内科学会関東地方会. 2015.

兵頭正浩, 佐々木雅世, 東野俊洋, 田口博章, 大曾根康夫, 岡野裕, 野崎博之, 秋月哲史. 珪肺の経過中に末梢神経障害で発症した抗好中球細胞質抗体(ANCA)関連血管炎の1例. 第618回日本内科学会関東地方会. 2015.

津軽 開, 東谷卓美, 深江智明, 高橋賢至, 李 慧崇, 西澤健也, 末吉浩一郎, 野崎博之, 秋月哲史. 重症冠攣縮により難治性心室細動を呈した重症筋無力症の1例. 第619回日本内科学会関東地方会. 2015.

萩原裕也, 玉井博修, 高木英恵, 有泉 健, 井上健太郎, 野崎博之, 岡野裕, 秋月哲史, 入江理恵, 杉浦 仁. 急性胆嚢炎の経過中に後腹膜出血を来した VonRecklinghausen 病の1例. 第620回日本内科学会関東地方会. 2015.

井上健太郎, 三原規奨, 市東昌也, 有泉 健, 高木英恵, 玉井博修, 杉浦 仁, 相浦浩一. 粘液の胆管内逆流により黄疸を来したと考えられた膵管内乳頭粘液性腫瘍の1例. Progress of Digestive Endoscopy. 2015; 88(Suppl.):S133.

有泉 健, 玉井博修, 井上健太郎, 高木英恵, 野崎博之, 岡野裕, 秋月哲史. 当院におけるC型慢性肝疾患に対するダクラタスビル、アスナプレビル(DA)併用療法の治療効果の検討. 日本内科学会雑誌. 2016; 105(Suppl.):242.

有馬聖永, 加畑宏樹, 田中希宇人, 佐山宏一, 岡野裕, 野崎博之, 秋月哲史, 木下水葵, 井澤菜緒子, 澤藤 誠. 肺扁平上皮癌の治療経過中に空気塞栓による脳梗塞を発症した1例. 第621回日本内科学会関東地方会. 2016.

横山裕章, 東野俊洋, 田口博章, 大曾根康夫, 野崎博之, 岡野 裕, 秋月哲史. 意識障害と横断性脊髄炎をきたした高齢発症の全身性エリテマトーデスの1例. 第621回日本内科学会関東地方会. 2016.

宮田順之, 細田智弘, 坂本光男, 岡野 裕, 野崎博之, 秋月哲史. ナイジェリアから帰国後の卵形マラリアの1例. 第621回日本内科学会関東地方会. 2016.

東野俊洋, 菅野瑛梨, 長谷川靖浩, 片桐翔治, 平本和音, 田口博章, 大曾根康夫, 佐藤慎二, 鈴木康夫, 岡野 裕. 抗MDA-5抗体陽性皮膚筋炎5例の検討. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウム. プログラム・抄録集 p.588. 2016.

田口博章, 東野俊洋, 大曾根康夫, 岡野 裕, 秋月哲史. リウマチ性疾患の画像関節リウマチにおいて構造的寛解を治療目標とした場合に疾患活動性評価には臨床的評価法と比較して超音波パワードブラ検査がより優れている. 第60回日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウム. プログラム・抄録集 p.439. 2016.

小川卓範, 佐山宏一, 加畑宏樹, 田中希宇人, 大森奈緒, 野崎博之, 岡野 裕, 秋月哲史. 縦隔型肺癌の多発骨転移と鑑別を要した結核性リンパ節炎・多発骨結核の1例. 第622回日本内科学会関東地方会. 2016.

Toya T, Nishizawa K, Fukae T, Takahashi M, LiHui-Chong, Sueyoshi K. 川崎病に合併した冠動脈病変にバイオリムス溶出性ステントを留置し、巨大なPSSを認めた1例. 第24回日本心血管インターベンション治療学会. 抄録集 p.1342. 2015.

(2) 精神科

鹿島美納子. 呼称名変更に伴う危険ドラッグ使用患者の受診件数の変化の検討. 日本社会精神医学会. 2106年1月. 岡山.

内田貴仁. うつ病に対する修正型電気けいれん療法後の再入院予測因子. 日本総合病院精神医学会. 2015年11月. 徳島.

小杉哲平. 統合失調症における強迫症状の治療についての考察. 六郷川精神科医療懇話会. 2015年7月. 神奈川.

(3) 小児科

長田枝利香, 三谷麻里絵, 江原和美, 本田堯, 吉田祐, 荒木耕生, 後藤正之, 檜林敦, 津村由紀, 安藏慎, 木下明俊, 番場正博. インフルエンザワクチン、日本脳炎ワクチン接種後に免疫性血小板減少性紫斑病 (ITP) を発症した5歳女児例. 第334回日本小児科学会神奈川県地方会. 2015年4月. 横浜市.

三谷麻里絵, 鳥居健一, 江原和美, 本田堯, 荒木耕生, 後藤正之, 檜林敦, 津村由紀, 安藏慎, 番場正博. 川崎病の経過中に急性脳症と肺炎を合併した3歳女児例. 第118回日本小児科学会学術集会. 2015年4月. 大阪市.

後藤正之, 津村由紀, 鳥居健一, 三谷麻里絵, 江原和美, 本田堯, 石川真由美, 荒木耕生, 檜林敦, 安藏慎. 当院における食物負荷試験の報告. 第118回日本小児科学会学術集会. 2015年4月. 大阪市.

本田堯, 江原和美, 檜林敦, 津村由紀, 安藏慎, 番場正博, 樋口昌孝, 川崎一輝. 2か月前からの発声障害と運動時呼吸困難で発症した再発性多発軟骨炎の13歳女児例. 第118回日本小児科学会学術集会. 2015年4月. 大阪市.

檜林敦，津村由紀，安藏慎，番場正博．電子カルテ標準機能を用いた、安全・簡便・廉価な予防接種支援システムの開発．第 118 回日本小児科学会学術集会．2015 年 4 月．大阪市．

檜林敦．電子カルテ標準機能を用いた、安全・簡便・廉価な予防接種支援システムの開発．第 118 回日本小児科学会学術集会．2015 年 4 月．大阪市．

津村由紀，世間瀬基樹，千葉剛史，川口隆弘，森田久美子，小室久子，近藤麻伊，夏目統，齋藤麻耶子，橋本みゆき，野村伊知郎，二村昌樹，成田雅美，大矢幸弘．食物アレルギー診療に関する研修プログラムの実施．第 64 回日本アレルギー学会学術大会．2015 年 5 月．品川区．

坂口友理，武内俊樹，安藏慎，高橋孝雄．脳波検査過呼吸負荷でくも膜下出血をきたした可逆性脳血管攣縮症候群の 9 歳女児例．第 57 回日本小児神経学会学術集会．2015 年 5 月．大阪市．

及川裕之，片岡貴昭，田村雅人，伏間江真由美，辻麻理子，吉田真．ハイフローネーザルカヌラ（NHC）の使用で人工呼吸管理を免れた RSV 感染の 21 トリソミー 2 歳男児．第 29 回日本小児救急医学会学術集会．2015 年 6 月．さいたま市．

長田枝利香，吉田祐，三谷麻里絵，本田堯，荒木耕生，後藤正之，檜林敦，津村由紀，安藏慎，番場正博，浅沼宏．尿路感染症に著明な膀胱拡張を伴い、後部尿道弁と診断した 1 例．第 366 回日本小児科学会神奈川県地方会．2015 年 9 月．横浜市．

檜林敦．2 大メーカー徹底比較！ 電子カルテ連携バイタル測定機器のすべて．第 11 回導入/運用ノウハウ事例発表会．2015 年 9 月．東京都．

檜林敦．当院で行っている 8 の工夫 《第 4 弾》 + 開発中案件 2 件．第 11 回導入/運用ノウハウ事例発表会．2015 年 9 月．東京都．

志村和浩，石井智弘，柴田浩憲，阿部清美，鳴海覚志，長谷川奉延．新生児・乳児期早期のヨウ素造影剤使用後に一過性甲状腺機能低下症を呈した 2 例．第 49 回日本小児内分泌学会学術集会．2015 年 10 月．江戸川区．

及川裕之，片岡貴昭，田村雅人，伏間江真由美，辻真理子，吉田真．ステロイドが著効した猫ひっかき病の 1 例．第 47 回日本小児感染症学会総会・学術集会．2015 年 10 月．福島市．

三谷麻里絵，長田枝利香，江原和美，本田堯，志村和浩，荒木耕生，後藤正之，檜林敦，津村由紀，安藏慎，番場正博，諸角美由紀，生方公子，岩田敏．遅発型 B 型溶血性連鎖球菌（GBS）敗血症・髄膜炎に対して ABPC と GM の併用が有効であった一例．第 47 回日本小児感染症学会総会・学術集会．2015 年 10 月．福島市．

本田堯，長田枝利香，江原和美，及川裕之，志村和浩，外山陽子，荒木耕生，後藤正之，檜林敦，津村由紀，安藏慎，番場正博．生来健康な 5 歳男児に発症したリステリア髄膜炎の 1 例．第 338 回日本小児科学会神奈川県地方会．2016 年 2 月．横浜市．

檜林敦．少しでも未来の多施設臨床研究のイメージ．第 2 回臨床研究者ネットワーク会議（KEIO-INQ）．2016 年 2 月．東京都．

及川裕之，長田枝利香，江原和美，本田堯，志村和浩，外山陽子，荒木耕生，後藤正之，津村由紀，安藏慎，番場正博．幼少期から繰り返す上腹部痛の既往があり、急性腹痛で来院した右傍十二指腸ヘルニアの 14 歳男児．第 339 回日本小児科学会神奈川県地方会・第 33 回神奈川小児科医会総会．2016 年 3 月．横浜市．

(4) 新生児内科

白井千代，森和広．診断前に児が 21 トリソミーと察した母の語り ―母と臨床心理士とのやりとり

の変化- 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 2015 年 6 月. 福岡.

森和広. 6 床の NICU における超低出生体重児入院数のベイジアン推測. 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 2015 年 6 月. 福岡.

原香織, 櫻本真理, 住友典子, 梶原久美子, 古川律子, 森和広, 栗原伸芳. 軽症 TTN に対する酸素投与方法に関する検討. 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 2015 年 6 月. 福岡.

梶原久美子, 櫻本真理, 原香織, 住友典子, 古川律子, 森和広, 鈴木毅, 竹田貴, 福武麻里絵, 金善恵, 樋口隆幸, 上野和典. 母体の異常行動と児の易刺激性からアンフェタミン (AM) 使用の診断に至った 1 例 (新生児経過). 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 2015 年 6 月. 福岡.

櫻本真理, 原香織, 住友典子, 梶原久美子, 古川律子, 森和広. 新生児期に診断された Prader-Willi 症候群に, 両側膀胱尿管逆流症を合併した一例. 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 第 51 回日本周産期・新生児医学会. 2015 年 6 月. 福岡.

金子絵名, 坂井みのり, 梶原久美子, 古川律子, 栗原伸芳, 森和広. 体重 2 kg で気管支肺胞洗浄 (BAL) を行い、肺胞蛋白症と診断し得た極低出生体重児の 1 例. 第 60 回日本新生児成育医学会. 第 60 回日本新生児成育医学会. 2015 年 10 月. 盛岡.

坂井みのり, 金子絵名, 梶原久美子, 古川律子, 栗原伸芳, 森和広. 臍帯脱落遅延と遷延する高 CRP 血症を契機に樹状細胞欠損症と診断された極低出生体重児の 1 例. 第 60 回日本新生児成育医学会. 第 60 回日本新生児成育医学会. 2015 年 10 月. 盛岡.

(5) 外科

市東昌也, 星本相淳, 相浦浩一. 開腹および開腹移行による胆嚢摘出術の検討. 第 27 回日本肝胆膵外科学会. 2015 年 6 月. 東京.

市東昌也, 掛札敏裕, 相浦浩一, 夏錦言, 星本相淳, 萬谷京子, 和多田晋, 松永篤志, 筒井麻衣, 田熊清継. Acute care surgery における外科医の果たす役割—一般市中病院での体制と問題点—. 第 70 回日本消化器外科学会. 2015 年 7 月. 浜松.

市東昌也, 相浦浩一, 三原規奨, 筒井麻衣, 松永篤志, 和多田晋, 萬谷京子, 夏錦言, 掛札敏裕. 当院における開腹胆嚢摘出術症例の検討. 第 77 回日本臨床外科学会. 2015 年 11 月. 福岡.

市東昌也. 勤務医のための診療報酬 (社保審査). 第 34 回川崎市外科医会保険診療懇話会. 2016 年 1 月.

筒井麻衣, 松永篤志, 和多田晋, 萬谷京子, 星本相淳, 夏錦言, 相浦浩一, 市東昌也, 入江理恵, 杉浦仁, 掛札敏裕. 食道癌根治術後、鼠径リンパ節転移をきたした 1 例. 日本食道学会学術集会プログラム・抄録集. 2015; 69 回:128.

市東昌也, 星本相淳, 相浦浩一. 開腹および開腹移行による胆嚢摘出術の検討. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集. 2015; 27 回:564.

市東昌也, 相浦浩一, 三原規奨, 筒井麻衣, 松永篤志, 和多田晋, 萬谷京子, 夏錦言, 掛札敏裕. 当院における開腹胆嚢摘出術症例の検討. 日本臨床外科学会雑誌. 2015; 76 (増刊):765.

筒井麻衣, 三原規奨, 松永篤志, 和多田晋, 萬谷京子, 夏錦言, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 当院における高齢者胃癌症例に対する外科治療の実際と術後合併症リスク因子について. 日本臨

床外科学会雑誌. 2015; 76 (増刊) :524.

桑原強, 田中求, 佐藤知美, 小野滋司, 星本相淳, 壁島康郎, 小柳和夫, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 術前に胆嚢穿孔と診断しえた1例. 神奈川医学会雑誌. 2015; 42:250.

堂本佳典, 三原規奨, 松永篤志, 相浦浩一, 市東昌也, 掛札敏裕. 空腸漿膜パッチ術(Serosal patch)を行った十二指腸傍乳頭部憩室穿孔・後腹膜膿瘍の1例. 日本臨床外科学会雑誌. 2015; 76 (増刊) :944.

和多田晋, 掛札敏裕. 動静脈瘻が ABPI 低下の原因と推察される1例. 血管外科. 2015; 34:155.

吉永怜史, 小柳和夫, 田中求, 樋口格, 掛札敏裕. 胃 GIST に対し幽門側胃切除術後イマニチブ使用中に出現した GIST 再発との鑑別を要した残胃近傍腫瘍の1例. 神奈川医学会雑誌. 2016; 43:54.

萬谷京子, 大平猛, 飯尾みなみ, 白井俊, 堂本佳典, 切詰和孝, 筒井麻衣, 三原規奨, 松永篤志, 和多田晋, 夏錦言, 市東昌也, 相浦浩一, 掛札敏裕. 3D プリンターの医学への応用 3D プリンターを用いた解剖・手術操作の学習ツールの製作 リアルな腋窩 Level I 立体模型製作の経験. 日本臨床外科学会雑誌. 2015; 76 (増刊) :437.

松永篤志, 関川浩司. 川崎地区における直腸癌に対する腹腔鏡下手術の現況. 日本内視鏡外科学会雑誌. 2015; 20:OS295-3.

筒井麻衣, 夏錦言, 掛札敏裕. 高齢者胃癌切除可能症例の治療戦略. 日本胃癌学会総会記事. 2016; 88 回:203.

星本相淳, 相浦浩一. 膵癌閉塞性膵炎に伴う左胃大網仮性動脈瘤破裂、膵仮性嚢胞内出血が胃内に穿破した1例. 膵臓. 2015; 30:503.

切詰和孝, 萬谷京子, 市東昌也, 掛札敏裕. 急性腹症にて発症し、試験開腹で診断しえた腸間膜血管腫の1例. 日本腹部救急医学会雑誌. 2016; 36:453.

星本相淳, 相浦浩一, 市東昌也. 十二指腸乳頭部腺扁平上皮癌の1例. 日本肝胆膵外科学会・学術集会プログラム・抄録集. 2015; 27 回:581.

夏錦言, 筒井麻衣, 大森泰, 杉浦仁. 食道癌術後再建胃管癌に対し ESD を施行した1例. 日本食道学会学術集会プログラム・抄録集. 2015; 69 回:172.

和多田晋, 尾原秀明, 掛札敏裕, 藤村直樹, 松原健太郎, 渋谷慎太郎, 林忍, 内田智夫, 長崎和仁, 朝見淳規, 大住幸司, 秋好沢林, 関本康人, 原田裕久, 北川雄光. EVAR 導入後の孤立性腸骨動脈瘤に対する治療法および治療成績の検討. 日本血管外科学会雑誌. 2015; 24:461.

和多田晋, 掛札敏裕. 大伏在静脈逆流に対する治療の現況 デクスメデトミジン塩酸塩を使用し いまだストリッピングが優勢. 静脈学. 2015; 26:183.

(6) 呼吸器外科

神山育男, 青木耕平, 澤藤誠, 浅村尚生. 肺癌手術におけるハーモニックスカルペル(フックタイプ DH105)を用いた安全な肺門部露出法. 第32回日本呼吸器外科学会総会. 2015年5月. 高松.

江口圭介, 澤藤誠. 肺癌術後に発見された肺腫瘍病変に対する体幹部定位放射線治療. 第32回日本呼吸器外科学会総会. 2015年5月. 高松.

白井俊, 澤藤誠, 井澤奈緒子. 主気管支浸潤をともなった左下葉肺癌に対し舌区下葉管状切除を施行した1例. 第169回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 2015年11月. 東京.

澤藤誠. 肺切除後の気胸と再膨張性肺水腫. 第85回埼玉西北部呼吸器疾患研究会. 2016年2月. 川越.

(7) 脳神経外科

田中希宇人, 加畑宏樹, 荒井亮輔, 大森奈緒, 佐山宏一, 片山真, 野崎博之, 岡野裕, 秋月哲史. 肺癌による癌性髄膜炎に対してメトトレキサート髄腔内投与を施行した32例の臨床的検討. 第112回日本内科学会総会. 2015年4月. 京都市.

蔵成勇紀, 植田良, 片山真, 竹中信夫, 今西智之. 経過の予測が困難であった非交通性水頭症の1例. 第128回日本脳神経外科学. 2015年12月. 東京都.

蔵成勇紀, 片山真, 植田良, 今西智之. チロシンキナーゼ阻害剤と髄液化学療法を併用した非小細胞癌・癌性髄膜炎治療. 第11回信濃町脳腫瘍セミナー. 2016年2月. 東京都.

(8) 整形外科

越智健介, 堀内行雄, 堀内孝一, 森澤妥, 佐藤和毅. 肘部管症候群患者における尺骨神経伸張度一病態と治療の観点から一. 第58回日本手外科学会学術集会. 2015年4月. 新宿.

森田晃造, 大橋麻衣子, 越智健介, 堀内行雄. 掌側転位型橈骨遠位端関節内骨折に対するpolyaxial locking plate固定術の治療成績. 第58回日本手外科学会学術集会. 2015年4月. 新宿.

西脇正夫, 別所祐貴, 堀内行雄, ジェイムス・ジョンソン, グラハム・キング. 橈骨遠位端骨折の橈側変形が遠位橈尺関節のキネマティクスに与える影響. 第58回日本手外科学会学術集会. 2015年4月. 新宿.

西脇正夫, 別所祐貴, 小柳貴裕, 堀内行雄, 岡崎真人, 田崎憲一. 我が国の橈骨遠位端骨折に対する髄内釘を用いた治療の現状と未来. 第88回日本整形外科学会学術総会. 2015年5月. 神戸.

越智健介, 堀内行雄, 森田晃造, 森澤妥, 堀内孝一, 大橋麻依子, 鈴木拓, 松村昇, 岩本卓士, 戸山芳昭, 佐藤和毅. 肘部管症候群患者における尺骨神経伸張度と肩関節内旋外転の関係. 第88回日本整形外科学会学術総会. 2015年5月. 神戸.

稲葉尚人, 西脇正夫, 大野総一郎, 大門憲史, 福原悠介, 橘田祐樹, 別所祐貴, 船尾陽生, 小宮浩一郎, 中道憲明, 小柳貴裕, 堀内行雄. 上腕骨外側顆骨折を伴った小児肘関節脱臼の2例. 第21回神奈川上肢外科研究会. 2015年10月. 横浜.

寺坂幸倫, 西脇正夫, 稲葉尚人, 堀内行雄. 豆状三角骨関節症により小指深指屈筋腱皮下断裂を生じた1例. 第30回東日本手外科学研究会. 2016年1月. 横浜.

西脇正夫, 稲葉尚人, 寺坂幸倫, 別所祐貴, 堀内行雄, 堀内孝一, 河野友祐, 越智健介, 森田晃造. 関節リウマチに対するK-NOW Version 1を用いた人工肘関節置換術の中期治療成績. 第28回日本肘関節学会. 2016年2月. 岡山.

中村俊康, 西脇正夫, 別所祐貴, 福岡昌利, 齋藤毅. TFCC変性損傷に対する尺骨短縮術の効果 手関節鏡による検討. 第58回日本手外科学会学術集会. 2015年4月. 新宿.

中村俊康, 西脇正夫. 遠位橈尺関節不安定症の病態評価と治療 遠位橈尺関節不安定性に対する尺骨短縮術. 第88回日本整形外科学会学術総会. 2015年5月. 神戸.

中村俊康, 西脇正夫, 岩本卓士, 佐藤和毅. 尺側手根伸筋腱半裁腱を用いた手関節TFCC再建術の成績. 第88回日本整形外科学会学術総会. 2015年5月. 神戸.

岡崎真人, 田崎憲一, 西脇正夫, 谷野善彦. PIP関節脱臼骨折の治療 PIP関節背側脱臼骨折に対するミニプレート固定手術. 第58回日本手外科学会学術集会. 2015年4月. 東京.

船尾陽生, 戸山芳昭, 松本守雄, Kebaish K. 腰仙椎部脊柱変形に対する第5腰椎もしくは仙椎で

の後方脊柱骨切り術の治療成績. 第44回日本脊椎脊髄病学会. 2015年4月. 福岡.

石井賢, 塩野雄太, 金子康仁, 船尾陽生, 石原慎一, 藤田順之, 加藤正二郎, 日方智宏, 中村雅也, 戸山芳昭, 松本守雄. 腰椎変性すべり症に対する MIS-TLIF の中長期治療成績-隣接椎間病変に注目して-. 第44回日本脊椎脊髄病学会. 2015年4月. 福岡.

日方智宏, 石井賢, 磯貝宣広, 塩野雄太, 船尾陽生, 岡田英次郎, 藤田順之, 岩波明生, 渡辺航太, 中村雅也, 戸山芳昭, 松本守雄. 転移性脊柱腫瘍に対する MIST(minimally invasive spine stabilization: 最小侵襲脊椎安定術)の有用性の検討. 第44回日本脊椎脊髄病学会. 2015年4月. 福岡.

船尾陽生, 大門憲史, 小柳貴裕. 透析性脊椎症に対する minimally invasive spine stabilization を併用した前後方腰椎固定術の1例. 第12回川崎脊椎脊髄連携集会. 2015年9月. 川崎.

船尾陽生, 大門憲史, 小柳貴裕. 胸腰移行部に発生した硬膜外クモ膜嚢腫の1例. 第87回神奈川脊椎脊髄研究会. 2015年9月. 横浜.

吉岡研之, 石井賢, 磯貝宣広, 塩野雄太, 蔵本哲也, 石濱寛子, 船尾陽生, 佐々木文, 相澤守, 岡田保典, 松本守雄, 中村雅也. 超音波照射によるインプラント表面のバイオフィーム除去効果における至適条件の検証. 第30回日本整形外科学会基礎学術集会. 2015年10月. 富山.

船尾陽生, 磯貝宣広, 大門憲史, 塩野雄太, 岡田英次郎, 日方智宏, 石井賢. 腰仙椎部の化膿性脊椎炎に対して経皮的 S2 alar iliac screw を用いた最小侵襲脊椎安定術の1例. 第50回日本脊椎障害医学会. 2015年11月. 東京.

船尾陽生, 大門憲史, 磯貝宣広, 小柳貴裕. 脊髓円錐部付近に発生した稀な硬膜内髄外腫瘍の2例. 第20回神奈川県東部整形外科研究会. 2015年11月. 横浜.

磯貝宣広, 船尾陽生, 金子康仁, 塩野雄太, 小柳貴裕, 大門憲史, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. Minimally invasive transforaminal lumbar interbody fusion(MIS-TLIF)導入初期の脊椎外科フェローによるラーニングカーブ. 第18回日本低侵襲脊椎外科学会. 2015年11月. 東京.

船尾陽生, 磯貝宣広, 大門憲史, 小柳貴裕. 下位腰椎の化膿性脊椎炎に対する経皮的 S2-alar-iliac screw を用いた最小侵襲脊椎安定術の治療経験. K2 スパイン研究会. 2016年1月. 横浜.

船尾陽生, Kebaish K, 磯貝宣広, 塩野雄太, 石原慎一, 日方智宏, 小柳貴裕, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. 下位腰椎における化膿性脊椎炎に対して経皮的 S2-alar-iliac screw を用いた MIS-long fixation の3例. 第7回日本 MIST 研究会. 2016年2月. 仙台.

別所 祐貴, 小柳 貴裕, 西脇 正夫, 堀内 孝一, 平賀 聡, 大門 憲史, 磯貝 宣広, 橘田 祐樹, 船尾 陽生, 小宮 浩一郎, 中道 憲明, 堀内 行雄. 頸髄症に起因したと思われる環小指下垂指に対し腱移行術を施行した1例. 第58回日本手外科学会学術集会. 2015年4月. 新宿.

福原悠介, 橘田祐樹, 小柳貴裕, 中道憲明, 西脇正夫, 小宮浩一郎, 別所祐貴, 船尾陽生, 大門憲史, 稲葉尚人, 大野聡一郎. 治療に難渋した両側大腿骨頸部骨折を発症した突発性大腿骨頭壊死症の1例. 第154回神奈川整形災害外科研究会. 2015年5月. 横浜.

Funao H, Naef F, Skolasky R, Kebaish K. Sacral three column osteotomies for sacral fracture after multilevel spinal fusion. The 22nd International Meeting on Advanced Spine Techniques. クアラルンプール.

Funao H, Isogai N, Daimon K, Koyanagi T. A case report of minimally invasive spine

stabilization with percutaneous sacropelvic fixation for pyogenic spondylodiscitis in the lower lumbar spine. Shinjuku Spine Conference. 2015 年 9 月. 新宿.

Funao H, Isogai N, Daimon K, Koyanagi T. A case report of anterior spinal fusion followed by minimally invasive spine stabilization with percutaneous pedicle screws for MRSA spondylodiscitis. Shinjuku Spine Conference. 2015 年 9 月. 新宿.

Funao H, Kaneko S, Isogai N, Daimon K, Koyanagi T. A case report of corrective surgery with minimally invasive anterior spinal fusion followed by supplementary posterior spinal fusion in adult spinal deformity. DepuySynthes Spine Conference. 2015 年 9 月. 東京.

Funao H, Isogai N, Daimon K, Koyanagi T. A case report of minimally invasive spine stabilization with percutaneous sacropelvic fixation for pyogenic spondylodiscitis in the lower lumbar spine. DepuySynthes Spine Conference. 2015 年 9 月. 東京.

西脇正夫, 別所祐貴, Welsh M, Gammon B, Ferreira LM, Johnson JA, King GJ. 橈骨遠位端骨折の掌屈変形が前腕自動回内外可動域に与える影響. 第 41 回骨折治療学会. 2015 年 6 月. 奈良.

稲葉尚人, 鈴木拓, 別所祐貴, 西脇正夫, 佐藤和毅, 堀内行雄. 上腕骨滑車に生じた離断性骨軟骨炎の 1 例. 第 28 回日本肘関節学会. 2016 年 2 月. 岡山.

森武男, 岡崎真人, 田崎憲一, 西脇正夫. 同一指における近位・遠位指節間関節同時骨折に対する手術経験. 第 58 回日本手外科学会学術集会. 2015 年 4 月. 東京.

岡崎真人, 田崎憲一, 西脇正夫, 吉澤秀, 藤田恵. 尺骨肘頭骨折の治療成績 術後合併症を中心に. 第 28 回日本肘関節学会. 2016 年 2 月. 岡山.

船尾陽生, 戸山芳昭, 松本守雄, Kebaish K. 成人脊柱変形術後の症候性固定上位隣接後弯変形 (PJK) に対する revision 手術の治療成績 -PJK 再発危険因子の解析-. 第 88 回日本整形外科学会学術総会. 2015 年 5 月. 神戸.

石井賢, 塩野雄太, 日方智宏, 藤田順之, 加藤正二郎, 船尾陽生, 岩波明生, 渡辺航太, 中村雅也, 戸山芳昭, 松本守雄. 首下がり症候群に対する頸胸椎固定術の治療成績. 第 88 回日本整形外科学会学術総会. 2015 年 5 月. 神戸.

磯貝宜広, 石井賢, 塩野雄太, 蔵本哲也, 吉岡研之, 石濱寛子, 船尾陽生, 松本守雄, 中村雅也. メタボローム解析を用いた骨感染症の新規血漿バイオマーカー. 第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2015 年 10 月. 富山.

石濱寛子, 石井賢, 柿沼祐亮, 塩野雄太, 蔵本哲也, 吉岡研之, 船尾陽生, 永井重徳, 佐々木文, 相澤守, 岡田保典, 小安重夫, 松本守雄, 中村雅也. 合成樹脂製インプラントにおける新規抗菌加工の安全性評価 -細胞毒性とバイオメカニクスの検討-. 第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2015 年 10 月. 富山.

石濱寛子, 石井賢, 柿沼祐亮, 塩野雄太, 蔵本哲也, 吉岡研之, 船尾陽生, 永井重徳, 佐々木文, 相澤守, 岡田保典, 小安重夫, 松本守雄, 中村雅也. 合成樹脂製インプラントにおける新規抗菌加工の開発. . 第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2015 年 10 月. 富山.

石井賢, 名倉武雄, 関広幸, 塩野雄太, 船尾陽生, 蔵本哲也, 磯貝宜広, 日方智宏, 松本守雄, 中村雅也. 胸椎経皮的椎弓根スクリューの新たな刺入法 (groove-entry technique) の新鮮屍体を用いたバイオメカニクスの検討. 第 30 回日本整形外科学会基礎学術集会. 2015 年 10 月. 富山.

船尾陽生, Kebaish K, 藤田順之, 日方智宏, 岩波明生, 石井賢, 中村雅也, 松本守雄, 渡辺航太.

胸腰椎固定術後の固定下位隣接後弯変形に対する revision 手術の治療成績. 第 49 回日本側彎症学会. 2015 年 11 月. 新潟.

船尾陽生, 磯貝宜広, 大門憲史, 塩野雄太, 岡田英次郎, 日方智宏, 石井賢. 成人胸腰移行部に硬膜内髄外腫瘍として発生した類表皮嚢腫の 1 例. 第 50 回日本脊髄障害医学会. 2015 年 11 月. 東京.

船尾陽生, 大門憲史, 磯貝宜広, 石原慎一, 塩野雄太, 岡田英次郎, 日方智宏, 小柳貴裕, 中村雅也, 松本守雄, 石井賢. 腰仙移行部に発生した化膿性脊椎炎に対して経皮的 S2 alar iliac screw を用いた MIS-long fixation を施行した 2 例. 第 18 回日本低侵襲脊椎外科学会. 2015 年 11 月. 東京.

小宮浩一郎, 福原悠介. CR 型 TKA 施行 8 年後に誘因なく関節血症を伴い前方亜脱臼を生じた 1 例. 第 46 回 日本人工関節学会. 2016 年 2 月. 大阪.

福原悠介, 小宮浩一郎. 当院での Mini-Keel tibia component (Zimmer 社 Nexgen LPS-Flex) を使用した人工膝関節置換術の中期治療成績. 第 46 回 日本人工関節学会. 2016 年 2 月. 大阪.

小宮浩一郎, 福原悠介. 関節包滑膜から渦巻き状に連続する有茎性軟部腫瘍が膝関節に catching を生じた 1 例 遊離体形成の一過程像か. 第 7 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会. 2015 年 10 月. 札幌.

福原悠介, 小宮浩一郎. 尋常性乾癬およびニッケルアレルギーをもつ変形性膝関節症患者に対して、人工膝関節置換術を施行した一例. 第 7 回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会. 2015 年 10 月. 札幌.

磯貝宜広, 石井賢, 細金直文, 日方智宏, 藤田順之, 金子康仁, 小柳貴裕, 中村雅也, 戸山芳昭, 松本守雄. 腰椎固定術後に頭側隣接椎体の偏位が大きければ冠状面の変形が進行する. 第 44 回日本脊椎脊髄病学会. 2015 年 4 月. 福岡.

磯貝宜広, 船尾陽生, 石井賢, 金子康仁, 大門憲史, 小柳貴裕, 戸山芳昭, 松本守雄. Minimally Invasive Transforaminal Lumbar Interbody Fusion (MIS-TLIF) 導入初期の脊椎外科フェローによるラーニングカーブ. 第 44 回日本脊椎脊髄病学会. 2015 年 4 月. 福岡.

Nishiwaki M, Welsh M, Gammon B, Ferreira LM, Johnson JA, King GJ. Distal radioulnar joint kinematics in simulated volarly angulated distal radius fractures. 第 70 回アメリカ手の外科学会. 2015 年 9 月. シアトル.

Funao H, Toyama Y, Matsumoto M, Kebaish K. Incidence and risk factors for recurrent proximal junctional kyphosis following adult spinal deformity surgery. 第 44 回日本脊椎脊髄病学会. 2015 年 4 月. 福岡.

Funao H, Naef F, Skolasky R, Kebaish K. Sacral three column osteotomies for sacral fracture after multilevel spinal fusion. The 50th Scoliosis Research Society. 2015 年 9 月. ミネアポリス.

Isogai N, Funao H, Kaneko Y, Koyanagi T, Daimon K, Nakamura M, Matsumoto M, Ishii K. Spine fellow's initial learning curve in minimally invasive transforaminal lumbar interbody fusion. The Society for Minimally Invasive Spine Surgery Global Forum. 2015 年 11 月. ラスベガス.
Kitta Y, Nagura T, Kiriya Y, Harato K, Niki Y, Suda Y, Toyama Y. The Validation of a Novel Indentation Sensor for Arthroscopic Measurement of Cartilage Stiffness. International

Society of Arthroscopy, Knee Surgery & Orthopaedic Sports Medicine. 2015 年 6 月. リオン.
堀内行雄. 末梢神経障害の診断と治療—CRPS を含めて—. 茨城県臨床整形外科医会学術講演会.
2015 年 6 月. 水戸.

堀内行雄. 外来における手外科診療の実際—CRPS 初期治療を含む—. 第 129 回西日本整形・災害外科学会学術集会. 2015 年 6 月. 福岡.

小柳貴裕. 整形外科における骨粗しょう症の診断と治療—特に B R O N J との兼ね合い—. 口腔外科病診連携セミナー. 2016 年 3 月. 川崎.

小柳貴裕. 痛み、脱力、筋委縮から見た頸椎疾患の鑑別診断. 城南疼痛セミナー. 2015 年 7 月. 目黒.

日方智宏, 磯貝宣広, 塩野雄太, 船尾陽生, 岡田英次郎, 松本守雄, 石井賢. 転移性脊椎腫瘍に対する腰仙椎 MIST. 第 5 回関東 MIST 研究会. 2015 年 9 月. 東京.

西脇正夫, 別所祐貴, 小柳貴裕, 堀内行雄, 岡崎真人, 田崎憲一. わが国の橈骨遠位端骨折の治療の現状と未来 わが国の橈骨遠位端骨折に対する髄内釘を用いた治療の現状と未来. 第 88 回日本整形外科学会学術総会. 2015 年 5 月. 神戸.

(9) 形成外科

畑野麻子. 胸骨の長さや胸郭の安定性の関係に関する研究. 第 58 回日本形成外科学会・総会学術集会. 2015 年 4 月. 京都.

(10) 心臓血管外科

蜂谷貴, 森厚夫, 石田治, 和多田晋, 鳥飼秀幸. 大動脈直接分岐左椎骨動脈温存にカワスミ Najuta を用いた症例. 神奈川ステントグラフト研究会. 2015 年 11 月. 横浜市.

(11) 皮膚科

大方詩子, 渡辺絵美子, 宮川俊一, 栗原佑一, 井上健太郎, 有泉健, 高木英恵. 疑い例を含む pancreatic panniculitis の 4 例. 第 860 回日本皮膚科学会東京地方会. 2015 年 4 月. 横浜市.

渡辺絵美子, 大方詩子, 宮川俊一, 乃木田礼佳, 原智. Raynaud 現象を併発した褐色細胞腫の 1 例. 第 114 回日本皮膚科学会総会. 2015 年 5 月. 横浜市.

大方詩子, 渡辺絵美子, 宮川俊一, 菅野聖逸. 掌蹠外膿疱と四肢・仙腸関節炎を伴った掌蹠膿疱症の 1 例. 第 863 回日本皮膚科学会東京地方会. 2015 年 11 月. 横浜市.

大方詩子, 川島裕平, 宮川俊一, 頼母木洋. 糖尿病に伴う包茎と亀裂を伴う包皮炎症. 第 865 回日本皮膚科学会東京地方会. 2016 年 1 月. 横浜市.

川島裕平, 大方詩子, 宮川俊一. 腰部に生じた色素性エクリン汗孔腫の 1 例. 第 865 回日本皮膚科学会東京地方会. 2016 年 1 月. 横浜市.

(12) 泌尿器科

服部盛也. Relationship between increased expression of Axl-Gas6 signal cascade and prognosis in upper urinary tract urothelial carcinoma. AUA2015. 2015 年 5 月. オランダ.

服部盛也. Axl-Gas6 カスケード亢進と上部尿路上皮癌術後の予後との関連. 日本泌尿器科学会総会. 2015 年 5 月. 仙台.

(13) 産科・婦人科

樋口隆幸, 竹田貴, 鈴木毅, 金善恵, 上野和典. 当院において腹腔鏡下手術を施行した良性卵巣腫瘍合併妊娠に関する検討. 第 51 回 日本周産期・新生児医学会学術集会. 2015 年 7 月. 福岡.

的場優介, 染谷健一, 鈴木毅, 金善恵, 樋口隆幸, 上野和典, 岩田壮吉, 林保良. 第2子妊娠時に妊娠性肝内胆汁うっ滞症を再発した1例. 第411回 神奈川県産科婦人科学会学術講演会. 2015年9月. 川崎市.

鈴木毅, 的場優介, 真壁健, 金善恵, 樋口隆幸, 上野和典, 染谷健一, 林保良, 岩田壮吉. 母体の異常行動と児の易刺激性から薬物使用の診断に至った1例(母体経過). 第51回 日本周産期・新生児医学会学術集会. 2015年7月. 福岡.

鈴木毅, 染谷健一, 的場優介, 真壁健, 金善恵, 樋口隆幸, 上野和典, 林保良, 岩田壮吉. 8歳小児に発症した卵巣腫瘍茎捻転に対して腹腔鏡下手術を施行した1例. 第411回 神奈川県産科婦人科学会学術講演会. 2015年9月. 川崎市.

Lin BL. How to prevent hysteroscopic complications. 遼寧省医学会第3次婦人内視鏡及び微创技術学会. 2015年7月. Shenyang, China.

Lin BL. How to perform a safe and efficient hysteroscopic surgery. 2015 Reproductive surgery hands-on workshop. 2015年7月. LuKang, Taiwan.

Lin BL. How to perform a hysteroscopic operation safely and efficiently. China - US gynecologic laparoscopy summit (AAGL Shanghai regional conference). 2015年9月. Shanghai, China.

Lin BL. The role of office hysteroscopy for management of abnormal uterine bleeding. 16回アジア太平洋婦人科内視鏡学総会 (APAGE). 2015年11月. Beijing, China.

Lin BL. Hysteroscopic findings and minimally invasive surgery. Rajavithi Gynecological Endoscopy Congress. 2015年12月. Bangkok, Thailand.

(14) 眼科

Tomita Y, Kurihara T, Uchida A, Nagai N, Shinoda H, Tsubota K, Ozawa Y. Wide-Angle Viewing System versus Conventional Indirect Ophthalmoscopy for Scleral Buckling. Euretina. 2015年9月. France, Nice.

富田洋平. 網膜剥離に対する広角観察システムを用いた強膜バックリング術と従来型の強膜バックリング術との比較. 慶大眼科オータムセミナー. 2015年11月. 東京, 新宿.

Suzuki A, Takano Y, Ando Y, Ogawa J, Ishida M, Baba A, Imamura Y. Mineralcorticoid receptor inhibitor for long-standing central serous chorioretinopathy. Euretina. 2015年9月. France, Nice.

(15) 耳鼻咽喉科

佐藤陽一郎, 富田俊樹, 戸田正博, 植田良, 三浦康士郎, 猪野絢子, 岩井貴洋, 富岡拓矢, 相馬啓子. 内視鏡下頭蓋底手術における鼻中隔粘膜弁作成の工夫. 第116回日本耳鼻咽喉科学会. 2015年5月. 東京都.

中原奈々, 大塚邦憲. 非反回下喉頭神経の3例. 第116回日本耳鼻咽喉科学会. 2015年5月. 東京都.

相馬啓子, 國弘幸伸, 富岡拓矢, 猪野絢子, 佐藤陽一郎. 外傷後めまい症例における重心動揺と聴覚・嗅覚・味覚の検討. 第116回日本耳鼻咽喉科学会. 2015年5月. 東京都.

Imanishi Y, Hamanoue Y, Matsumoto Y, Moro Y, Sato D, Kohno N, Takeuchi H, Sato Y, Watanabe Y, Sekimizu M, Ito F, Ozawa H, Ogawa K. Clinical outcome of transoral surgery for locally

early hypopharyngeal and supraglottic cancer. The 4th Asian Society of Head and Neck Oncology/第39回日本頭頸部癌学会. 2015年6月. 神戸市.

島貫茉莉江, 相馬啓子, 戸塚大輔, 中原奈々, 佐藤陽一郎. 「ペリカンのように首が膨らむ」と訴えた一例. 第61回慶浜耳鼻科研究会. 2015年6月. 横浜市.

戸塚大輔, 相馬啓子, 島貫茉莉江, 中原奈々, 佐藤陽一郎. 術後再発し放射線治療を行った耳下腺木村氏病の1症例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第171回学術講演会. 2015年7月. 横浜市.

島貫茉莉江, 佐藤陽一郎, 島貫茉莉江, 戸塚大輔, 中原奈々, 相馬啓子. TPF療法の発熱性好中球減少症予防に対しPegfilgrastimを使用した2例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第172回学術講演会. 2015年9月. 横浜市.

佐藤陽一郎, 中原奈々, 戸塚大輔, 島貫茉莉江, 相馬啓子. 鼻中隔膿瘍の一例. 第62回慶浜耳鼻科研究会. 2015年9月. 横浜市.

戸塚大輔, 相馬啓子, 島貫茉莉江, 中原奈々, 佐藤陽一郎. ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に伴う上顎洞炎の5症例. 第62回慶浜耳鼻科研究会. 2015年9月. 横浜市.

相馬啓子, 國弘幸伸, 堀明美, 佐藤永通子. 外傷後機能的難聴の長期経過. 第60回日本聴覚医学会. 2015年10月. 東京都.

Imanishi Y, Sato Y, Watanabe Y, Sekimizu M, Ito F, Ozawa H, Hamanoue Y, Matsumoto Y, Moro Y, Sato D, Kohno N, Takeuchi H, Ogawa K. Transoral partial pharyngolaryngectomy for locally early hypopharyngeal and supraglottic cancer. The 3rd International Conference of Asian Federation of Clinical Oncology (FACO)/第53回日本癌治療学会. 2015年10月. 京都市.

相馬啓子, 國弘幸伸. 脳脊髄液減少症におけるRI脳槽シンチグラムと重心動揺の検討. 第74回日本めまい平衡医学会総会. 2015年11月. 岐阜市.

國弘幸伸, 相馬啓子. 小児の脳脊髄液減少症4例の治療経験. 第74回日本めまい平衡医学会総会. 2015年11月. 岐阜市.

中原奈々, 相馬啓子, 島貫茉莉江, 戸塚大輔, 佐藤陽一郎, 佐藤靖夫. ELPSにて摘出した血管腫の2症例. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第173回学術講演会. 2015年12月. 横浜市.

島貫茉莉江, 佐藤陽一郎, 戸塚大輔, 中原奈々, 相馬啓子. 急速な進行により治療の選択に難渋した頸部腫瘍の一例. 第13回慶應義塾大学医学部耳鼻咽喉科臨床懇話会. 2016年1月. 東京都.

佐藤陽一郎, 今西順久, 島貫茉莉江, 戸塚大輔, 中原奈々, 相馬啓子, 小澤宏之, 富田俊樹, 小川郁. 下咽頭癌N2b以上症例に対する導入化学療法後up-front neck dissection + CCRTの適応の検討. 第27回日本頭頸部外科学会. 2016年1月. 名古屋市.

島貫茉莉江, 佐藤陽一郎, 戸塚大輔, 中原奈々, 相馬啓子. TPF療法の発熱性好中球減少症予防に対するPegfilgrastimの使用経験. 第28回日本頭頸部外科学会. 2016年1月. 名古屋市.

佐藤陽一郎, 島貫茉莉江, 戸塚大輔, 中原奈々, 相馬啓子, 今西順久, 小川郁. 進行下咽頭癌に対しUp-front neck dissection followed by CRTを施行した症例について. 第64回慶浜耳鼻科研究会. 2016年3月. 横浜市.

國弘幸伸, 堀明美, 相馬啓子. 脳脊髄液減少症の難治例でみられる髄液鼻漏に関する一考察. 第15回脳脊髄液減少症研究会. 2016年3月. 東京.

堀明美, 國弘幸伸, 相馬啓子. 脳脊髄液減少症患者の聴力検査室から見えた特徴. 第15回脳脊髄

液減少症研究会. 2016 年 3 月. 東京.

佐藤陽一郎, 戸田正博, 片山真, 植田良, 中原奈々, 戸塚大輔, 島貫茉莉江, 蔵成勇紀, 相馬啓子. 当院で施行した内視鏡下頭蓋底手術について. 日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第 174 回学術講演会. 2016 年 3 月. 横浜市.

(16) 放射線治療科

高川佳明, 栗林徹, 相馬啓子, 三浦康士郎. 中咽頭扁平上皮癌に対する化学放射線療法の治療成績. 第 74 回日本医学放射線学会総会. 2015 年 4 月. 横浜.

高川佳明, 栗林徹, 深田淳一, 片山真. 癌性髄膜炎を発症した転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療の治療成績. 第 24 回日本定位放射線学会. 2015 年 5 月. 長崎.

(17) 放射線診断科

鳥飼秀幸, 植松敬子, 鴨志田久美, 佐藤宏郎, 長谷川一郎, 成松芳明. 肝腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術後の焼灼後症候群における硬膜外麻酔の有用性の評価. 第 51 回肝癌研究会. 2015 年 7 月. 神戸.

鴨志田久美, 鳥飼秀幸, 成松芳明, 植松敬子, 佐藤宏朗, 長谷川市郎. 嘔吐により脾動脈瘤破裂をきたした 1 例. 第 27 回関東 IVR 研究会. 2015 年 7 月. 東京.

有田祐起, 鳥飼秀幸, 成松芳明, 植松敬子, 鴨志田久美, 佐藤宏朗, 長谷川市郎, 星本相淳, 有泉健. 左胃大網動脈仮性瘤の腓仮性嚢胞内破裂により胃内出血を来した腓体部癌の 1 例. 第 27 回関東 IVR 研究会. 2015 年 7 月. 東京.

Torikai H, Tsukada J, Sato H, Hasegawa I, Narimatsu S, Nakatsuka S, Narimatsu Y, Jinzaki M. Percutaneous radiofrequency ablation of hepatic tumor under epidural anesthesia: prospective evaluation of feasibility and factors related to intraprocedural pain. Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe 2015. 2015 年 9 月. Lisbon, Portugal.

櫻井亮佑, 佐藤宏朗, 成松芳明, 安藏慎. くも膜下出血を合併した可逆性脳血管攣縮症候群 (RCVS) の 1 女児例. 神奈川県放射線科医会. 2015 年 10 月. 横浜.

(18) 麻酔科

瀬上和貴, 菅規久子, 石渡博昭, 花上まゆ, 森田慶久, 増田純一. 麻酔導入後に完全房室ブロックをきたしジルチアゼムが原因と疑われた急性硬膜外血腫の 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 55 回合同学術学会. 2015 年 9 月. 横浜.

石渡博昭, 逢坂佳宗, 瀬上和貴, 岡部久美子, 森田慶久, 増田純一. 血管塞栓術後に再出血のため出血性ショックをきたし胸腔鏡手術を要した自然血気胸の 1 例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 55 回合同学術学会. 2015 年 9 月. 横浜.

柿沼勇太, 阪本浩平, 生駒祐介, 永井美江, 森田慶久, 増田純一. TUR 手術後に MRSA による感染性心内膜炎、敗血症性肺塞栓症を生じ、救命しえなかった 1 症例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 55 回合同学術学会. 2015 年 9 月. 横浜.

生駒祐介, 安藤嘉門, 柿沼勇太, 小室祥子, 森田慶久, 増田純一. 難治性気管支喘息発作に対してセボフルラン吸入が著効した一例. 日本麻酔科学会関東甲信越・東京支部第 55 回合同学術学会. 2015 年 9 月. 横浜.

石渡博昭, 生駒祐介, 岡部久美子, 永井美江, 逢坂佳宗, 増田純一, 津崎晃一. 第 4 世代 FloTrac

は動脈圧心拍出量(APCO)を過大評価する問題を改善させる. 日本臨床麻酔学会第35回大会. 2015年10月. 横浜.

Ando K, Yoshino K, Sakamoto K, Suga K, Morita Y, Masuda J. The revised algorithm of the FloTrac System™ improves over estimation of an arterial pressure-based cardiac output (APCO) due to transiently increased blood pressure. Euroanesthesia2015. 2015年6月. ベルリン.

安藤嘉門. ネーザルハイフローの使用経験. 第3回神奈川鎮静・呼吸サポートフォーラム. 2015年11月. 横浜.

逢坂佳宗. 仰臥位坐骨神経ブロック内側アプローチと膝窩アプローチのリニアプローブを用いた超音波画像視認性の検討. 日本麻酔科学会第62回学術集会. 2015年5月. 神戸.

(19) 救急科

大城健一, 權守智, 近野祐介, 春成学, 田熊清継. 警察と救命センターの連携による交通事故被害者・家族への早期支援の試み. 第18回日本臨床救急医学会. 2015年6月. 富山市.

春成学, 近野祐介, 權守智, 伊藤壮一, 田熊清継. 救急搬送されたアメリカンフットボール(アメフト)関連外傷の検討. 第18回日本臨床救急医学会. 2015年6月. 富山市.

權守智, 近野祐介, 春成学, 進藤健, 竹村成秀, 齋藤豊, 大城健一, 伊藤壮一, 田熊清継. 脳血管障害、その他の中枢神経系の疾患・病態 救急搬送された意識障害患者の病院前バイタルサインについての検討. 第18回日本臨床救急医学会. 2015年6月. 富山市.

近野祐介, 春成学, 進藤健, 權守智, 竹村成秀, 莊司清, 齋藤豊, 大城健一, 伊藤壮一, 田熊清継. 急性中毒 危険ドラッグ中毒66症例の検討. 第18回日本臨床救急医学会. 2015年6月. 富山市.

伊藤壮一, 土井賢治, 田熊清継. 救急研修医教育 救急医療のシミュレーション教育は初期研修医のためだけのものか?. 第18回日本臨床救急医学会. 2015年6月. 富山市.

塩島裕樹, 土井賢治, 莊司清, 春成学, 進藤健, 權守智, 竹村成秀, 齋藤豊, 大城健一, 伊藤壮一, 田熊清継. 当院ERに健忘を主訴に搬送された患者の検討. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

伊藤壮一, 土井賢治, 齋藤豊, 莊司清, 權守智, 竹村成秀, 進藤健, 大城健一, 田熊清継. ERにおける患者医療情報伝達(ハンドオフ)に関する質的研究. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

近野祐介, 土井賢治, 春成学, 莊司清, 進藤健, 權守智, 竹村成秀, 齋藤豊, 大城健一, 伊藤壮一, 田熊清継. 当院勤務体制の現状について. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

齋藤豊, 伊藤壮一, 土井賢治, 春成学, 竹村成秀, 進藤健, 權守智, 莊司清, 大城健一, 田熊清継. Modified Early Warning Scoreを用いた院内急変予測に関する検討. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

竹村成秀, 塩島裕樹, 野口啓, 進藤健, 權守智, 土井賢治, 莊司清, 齋藤豊, 大城健一, 伊藤壮一, 田熊清継. 上部消化管出血における Glasgow-Blatchford bleeding score の有用性の検討. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

莊司清, 田熊清継, 伊藤壮一, 大城健一, 齋藤豊, 竹村成秀, 塩島裕樹, 權守智, 進藤健, 春成学, 土井賢治. 浴槽内CPAの蘇生に影響する因子の検討. 第43回日本救急医学会. 2015年10日. 東京.

土井賢治, 田熊清継, 伊藤壮一, 大城健一, 齋藤豊, 荘司清, 塩島裕樹, 野口啓. 初期研修早期における「Dialog in the Dark」の体験によるノンテクニカルスキルの学習効果の検討. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

野口啓, 土井賢治, 春成学, 荘司清, 進藤健, 權守智, 竹村成秀, 齋藤豊, 大城健一, 伊藤壮一, 田熊清継. 若年成人CPAの原因となった内因性疾患についての検討. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

郷内志朗, 進藤健, 春成学, 權守智, 竹村成秀, 荘司清, 齋藤豊, 大城健一, 高橋俊介, 伊藤壮一, 田熊清継. 反復性肩関節前方脱臼に対する新しい自己整復法の試み. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

小倉裕司, 丸藤哲, 阿部智一, 荒木恒敏, 池田弘人, 射場敏明, 上山昌史, 岡本好司, 久志本成樹, 小谷穰治, 齋藤大蔵, 阪本雄一郎, 佐々木淳一, 椎野泰和, 白石淳, 白石振一郎, 田熊清継, 武山直志, 樽井武彦, 鶴田良介, 中田孝明, 一二三亨, 藤島清太郎, 藤見聡, 増野智彦, 真弓俊彦, 三木靖雄, 水島靖明, 山下典雄, 日本救急医学会多施設共同試験特別委員会. 学会主導多施設共同研究について考える 日本救急医学会 学会主導多施設研究の発展とその経緯. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

阿部智一, 小倉裕司, 齋藤大蔵, 久志本成樹, 白石淳, 藤島清太郎, 荒木恒敏, 池田弘人, 射場敏明, 上山昌史, 岡本好司, 小谷穰治, 阪本雄一郎, 佐々木淳一, 椎野泰和, 白石振一郎, 田熊清継, 武山直志, 樽井武彦, 鶴田良介, 中田孝明, 一二三亨, 藤見聡, 増野智彦, 真弓俊彦, 三木靖雄, 水島靖明, 山下典雄, 丸藤哲, 日本救急医学会多施設共同試験特別委員会. 学会主導多施設共同研究について考える Sepsis registry 敗血症診療の国際標準化の現状と展望. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

藤島清太郎, 丸藤哲, 齋藤大蔵, 小倉裕司, 久志本成樹, 真弓俊彦, 阿部智一, 白石淳, 荒木恒敏, 池田弘人, 射場敏明, 岡本好司, 上山昌史, 小谷穰治, 阪本雄一郎, 佐々木淳一, 椎野泰和, 白石振一郎, 田熊清継, 武山直志, 樽井武彦, 鶴田良介, 中田孝明, 一二三亨, 藤見聡, 増野智彦, 三木靖雄, 水島靖明, 山下典雄, 日本救急医学会多施設共同試験特別委員会. 学会主導多施設共同研究について考える ALI/ARDSに対する多施設共同前向き観察研究. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

齋藤大蔵, 丸藤哲, 佐々木淳一, 池田弘人, 上山昌史, 田熊清継, 荒木恒敏, 小倉裕司, 藤島清太郎, 阿部智一, 白石淳, 久志本成樹, 真弓俊彦, 射場敏明, 岡本好司, 小谷穰治, 阪本雄一郎, 椎野泰和, 白石振一郎, 武山直志, 樽井武彦, 鶴田良介, 中田孝明, 水島靖明, 一二三亨, 藤見聡, 増野智彦, 三木靖雄, 山下典雄, 日本救急医学会多施設共同試験特別委員会. 学会主導多施設共同研究について考える 広範囲熱傷の初期輸液に関する多施設共同前向き無作為比較対照試験の計画. 第43回日本救急医学会. 2015年10月. 東京.

小倉裕司, 丸藤哲, 齋藤大蔵, 武山直志, 久志本成樹, 藤島清太郎, 真弓俊彦, 荒木恒敏, 池田弘人, 小谷穰治, 白石振一郎, 鈴木幸一郎, 鈴木泰, 田熊清継, 鶴田良介, 三木靖雄, 山口芳裕, 山下典雄, 相川直樹, 日本救急医学会 sepsis registry 特別委員会. 重症敗血症とDIC 新しいDIC診断基準とアンチトロンビンの役割 重症敗血症の疫学とDIC 日本救急医学会 sepsis registryからのメッセージ. 第37回日本血栓止血学会. 2015年5月. 甲府市.

藤島清太郎, 丸藤哲, 齋藤大蔵, 真弓俊彦, 久志本成樹, 白石振一郎, 小倉裕司, 田熊清継, 小

谷穰治, 池田弘人, 山下典雄, 鈴木幸一郎, 鶴田良介, 武山直志, 荒木恒敏, 鈴木泰, 三木靖雄, 山口芳裕, 相川直樹, 日本救急医学会 sepsis registry 特別委員会. 重症敗血症と DIC 新しい DIC 診断基準とアンチトロンビンの役割 重症敗血症と Surviving Sepsis Campaign Guidelines. 第 37 回日本血栓止血学会. 2015 年 5 月. 甲府市.

伊藤壮一, 金尾邦生, 近野祐介, 權守智, 野口啓, 田熊清継. 頭部 MRI にて一次性の視索障害による外傷性同名半盲を示し得た一症例. 第 29 回日本外傷学会. 2015 年 6 月. 札幌市.

安心院康彦, 伊藤壮一, 田熊清継, 石川久, 大貫隆弘, 並木淳, 坂本哲也. 疼痛刺激による grimace 反応は Glasgow Coma Scale の M4 または M5 に相当する. 第 29 回日本外傷学会. 2015 年 6 月. 札幌市.

三吉貴大, 竹村成秀, 白川和宏, 土屋光正, 伊藤壮一, 田熊清継. 昏迷様症状にて搬送された統合失調症患者の非痙攣性てんかん重積 (NCSE) の一例. 第 66 回日本救急医学会関東地方会. 2016 年 2 月. 東京.

白川和宏, 土井賢治, 進藤健, 野口啓, 塩島裕樹, 春成学, 權守智, 竹村成秀, 荘司清, 齋藤豊, 大城健一, 郷内志朗, 伊藤壮一, 田熊清継. 自然血気胸に対し IVR を行った後、再出血を認め胸腔鏡下止血術を要した 1 例. 第 66 回日本救急医学会関東地方会. 2016 年 2 月. 東京.

土屋光正, 權守智, 宮寫和宏, 白川和宏, 三吉貴大, 伊藤壮一, 田熊清継. 消化管穿孔との鑑別が困難であった子宮留膿腫穿孔による汎発性腹膜炎の 1 例. 第 66 回日本救急医学会関東地方会. 2016 年 2 月. 東京.

宮寫和宏, 進藤健, 野口啓, 塩島裕樹, 土井賢治, 春成学, 權守智, 竹村成秀, 荘司清, 齋藤豊, 郷内志朗, 伊藤壮一, 田熊清継. 救急搬送され入院となった急性薬物中毒症例についての検討. 第 66 回日本救急医学会関東地方会. 2016 年 2 月. 東京.

大城健一, 鈴木貴博, 渡邊顕弘, 松田潔. 大規模火災での多数傷病者事例における現場医療活動 医療マネジメントの観点から. 第 21 回日本集団災害医学会. 2016 年 2 月. 山形市.

大城健一, 塚田千代, 小野欽也, 鈴木貴博. 関東・東北豪雨災害に伴う浸水による病院避難での DMAT 活動. 第 21 回日本集団災害医学会. 2016 年 2 月. 山形市.

權守智, 伊藤壮一, 田熊清継. ガス壊疽が疑われた膀胱上窩ヘルニア嵌頓穿孔症例. 第 837 回外科集団学会. 2015 年 6 月. 東京.

伊藤壮一, 權守智, 田熊清継. インフルエンザを疑われた TSLS 症例. 第 837 回外科集団学会. 2015 年 6 月. 東京.

田熊清継, 伊藤壮一, 權守智. 意識障害と心不全で救急搬送された壊死性筋膜炎症例. 第 837 回外科集団学会. 2015 年 6 月. 東京.

田熊清継, 大城健一, 郷内志朗, 宮寫和宏, 白川和宏, 三吉貴大, 植松敬子, 近野祐介, 野口啓, 春成学, 土井賢治, 竹村成秀, 進藤健, 權守智, 塩島裕樹, 齋藤豊, 伊藤壮一, 金尾邦生, 多村知剛, 山崎元靖, 佐々木淳一. 救急車ダイバーション: 市立川崎病院 救命救急センターにおける三次救急患者応需の検討. 第 30 回日本救命医療学会. 2015 年 9 月. 神戸市.

田熊清継. 地域における総合的救急医療体制の構築. かわさき救急フォーラム. 2015 年 9 日. 川崎市.

田熊清継. Surviving Sepsis Campaign Guidelines と日本救急医学会 Sepsis Registry—重症敗血症患者の分離菌からみた抗菌化学療法について—. 第 4 回鹿児島救急・ICU 感染症研究会. 2015 年

6 月. 鹿児島市.

田熊清継. 熱傷治療における創傷被覆材: 広範囲熱傷への創傷被覆材の適用について. 第 24 回日本熱傷学会関東地方会. 2016 年 2 日. 東京.

Ajimi Y, Ito S, Takuma K, Ishikawa H, Onuki T, Namiki J, Sakamoto T. Usefulness Of A Grimace Response To Painful Stimuli for Determining The Levels Of The Best Motor Response Of The Glasgow Coma Scale. 13th Annual Meeting of Neurocritical Care Society. 2015 年 10 月. Phoenix, USA.

(20) リハビリテーション科

小島巖, 佐藤栄司, 伊藤真梨, 小宮浩一郎. TKA 術後患者における早期トレッドミル歩行訓練の有効性～唾液アミラーゼによるストレスの検証～. 第 54 回全国自治体病院学会. 2015 年 10 月. 函館.
中村優太, 小島巖, 宿田友子, 伊藤真梨, 尾原恵美, 山口さと美. 廃用症候群患者における「できる ADL」、「している ADL」と関連因子の検討. 第 54 回全国自治体病院学会. 2015 年 10 月. 函館.
尾原恵美, 古瀬美穂, 富岡曜平, 鎌田郁子, 伊藤真梨. 「摂食嚥下障害入院患者の現状とランチ回診の試み」. リハビリテーション医療懇話会. 2015 年 7 月. 東京.

伊藤真梨, 尾原恵美. 「急性期病院肺炎入院患者の経口摂取獲得に影響する因子の検討」. 第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会. 2015 年 9 月. 京都.

本間久恵, 尾原恵美, 古瀬美穂. 「地域包括ケアシステムに向けた摂食嚥下リハ・栄養ケアの展開～神奈川嚥下リハ研究会川崎地区の取組み～」. 第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会. 2015 年 9 月. 京都.”

(21) 歯科口腔外科

佐藤仁, 西須大徳, 村岡渡, 臼田頌, 安居孝純, 蒔生田整治, 鬼澤勝弘, 中川種昭, 和嶋浩一. TRPV1 高発現時にカプサイシン刺激によって誘導される細胞死にはカスパーゼ 2 の活性化が関与する. 第 28 回日本顎関節症学会総会・学術大会, 第 20 回日本口腔顔面痛学会学術大会. 2015 年 7 月. 名古屋.

金城知帆, 長縄拓哉, 佐藤仁, 岡本俊宏, 安藤智博. 口腔内の疼痛感受性変化を伴ったファール病の 1 例. 第 60 回 日本口腔外科学会総会・学術大会. 2015 年 10 月. 名古屋.

岡村衣里子, 西須大徳, 佐藤仁, 村岡渡, 蒔生田整治, 河奈裕正, 中川種昭, 和嶋浩一. 当科における口腔顔面痛外来患者の臨床統計. 第 28 回日本顎関節症学会総会・学術大会, 第 20 回日本口腔顔面痛学会学術大会. 2015 年 7 月. 名古屋.

高橋萌, 西須大徳, 村岡渡, 佐藤仁, 蒔生田整治, 河奈裕正, 中川種昭, 和嶋浩一. Stylohyoid complex syndrome の 7 症例. 第 28 回日本顎関節症学会総会・学術大会, 第 20 回日本口腔顔面痛学会学術大会. 2015 年 7 月. 名古屋.

西須大徳, 村岡渡, 佐藤仁, 臼田頌, 蒔生田整治, 河奈裕正, 中川種昭, 和嶋浩一. 非歯原性歯痛診断において神経障害性疼痛に対する陽性感覚異常の特異性の検討. 第 28 回日本顎関節症学会総会・学術大会, 第 20 回日本口腔顔面痛学会学術大会. 2015 年 7 月. 名古屋.

井上真梨子, 西須大徳, 佐藤仁, 村岡渡, 蒔生田整治, 河奈裕正, 中川種昭, 和嶋浩一. 顎関節症患者における開口抵抗力測定を試み(第 2 報) 自律神経系の影響. 第 28 回日本顎関節症学会総会・学術大会, 第 20 回日本口腔顔面痛学会学術大会. 2015 年 7 月. 名古屋.

(22) 検査科

吉田朗彦, 吉田裕, 吉田正行, 森泰昌, 杉浦仁, 前田大地. 女性外陰領域の筋上皮腫類似腫瘍 - SMARCB1 陰性 ER 陽性の特異な一群. 第 104 回 日本病理学会総会. 2015 年 4 月. 名古屋.

椋清美, 遠藤隆, 伊佐わかな, 村田行則, 笠原一郎, 遠藤久子, 吉見直己, 沢辺元司. ラオス国の病理検査の現状と課題 NP0 法人ラオスの病理を支援する会の活動から. 第 56 回 日本臨床細胞学会総会. 2015 年 6 月. 松江.

筒井麻衣, 松永篤志, 和多田晋, 萬谷京子, 星本相淳, 夏錦言, 相浦浩一, 市東昌也, 入江理恵, 杉浦仁, 掛札敏裕. 食道癌根治術後、鼠径リンパ節転移をきたした 1 例. プログラム・抄録集. 2015; :128. 第 69 回 日本食道学会学術集会. 2015 年 7 月. 横浜.

夏錦言, 筒井麻衣, 大森泰, 杉浦仁. 食道癌術後再建胃管癌に対し ESD を施行した 1 例. 第 69 回 日本食道学会学術集会. 2015 年 7 月. 横浜.

萩原裕也, 玉井博修, 高木英恵, 有泉健, 井上健太郎, 野崎博之, 岡野裕, 秋月哲史, 入江理恵, 杉浦仁. 急性胆嚢炎の経過中に後腹膜出血を来した Von Recklinghausen 病の 1 例. 第 620 回 日本内科学会関東地方会. 2015 年 12 月. 東京.

井上健太郎, 三原規奨, 市東昌也, 有泉健, 高木英恵, 玉井博修, 杉浦仁, 相浦浩一. 粘液の胆管内逆流により黄疸を来したと考えられた膵管内乳頭粘液性腫瘍の 1 例. 第 101 回 日本消化器内視鏡学会関東支部例会. 2015 年 12 月. 東京.

(23) 薬剤部

豊田恵子, 飯島尚志. 川崎南部地域における妊婦・授乳婦薬物療法に関する問題把握および地域合同勉強会開催の成果. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 45 回学術大会. 2015 年 8 月. つくば市. 坂井義則, 吉富加奈子, 小林綾, 早川和宏, 飯島尚志. 後発品切替に伴う調剤過誤エラーの分析. 日本病院薬剤師会関東ブロック第 45 回学術大会. 2015 年 8 月. つくば市.

Yano Y, Toyoda K, Mizushima N, Okada K, Usami E, amaguchi T. Overview of the revised Pharmacy Education Model Core Curriculum and pharmacy education in Japan. 75th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences 2015. 2015 年 9 月. Düsseldorf (Germany).

酒井絵梨可, 井上彰大, 飯島尚志, 中野泰子. 脂肪乳剤の適正使用と薬剤師の介入. 第 54 回全国自治体病院学会. 2015 年 10 月. 函館市.

井口恵美子, 赤瀬朋秀, 上原君男, 小田切正美, 小林岳, 菅野豪輝, 関口信香, 大幸淳, 根岸大輔, 吉田博史, 岡添進, 中村葉月, 舟越亮寛, 佐藤透. 病院薬剤師版 BSC 導入に向けての取り組みと成果 第 10 報. 第 25 回日本医療薬学会年会. 2015 年 11 月. 横浜市.

安次嶺ゆか, 岡田紳哉, 小林岳, 佐藤樹里, 沢辺正和. KAWASAKI 地域感染制御協議会加盟施設における抗菌化学療法業務実態調査報告～抗菌薬使用密度の利活用について～. 第 25 回日本医療薬学会年会. 2015 年 11 月. 横浜市.

野口周作, 濱野公俊, 小林加寿夫, 小林岳, 向山雅士. KAWASAKI 地域感染制御協議会における地域感染対策への取り組み～薬剤師部会活動報告～. 第 25 回日本医療薬学会年会. 2015 年 11 月. 横浜市.

望月徹, 國島広之, 長島梧郎, 竹村弘, 坂本光男, 平居義裕, 駒場瑠美子, 中谷佳子, 藤井春子, 野口周作, 小林岳, 宮本豊一, 吉岡美香. 感染防止対策地域連携における KAWASAKI 地域感染制御協議会の役割 (続報). 第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会. 2016 年 2 月. 神戸市.

(24) 看護部

塩津美希. オピオイド副作用対策の改善を目指した記録の標準化. 日本緩和医療学会学術大会.

平成 27 年 6 月 19 日. 神奈川県

星野夏樹. 初めて死産に関った助産師の心理過程. 日本看護学会看護管理. 平成 27 年 9 月 9 日. 福岡県

水嶋真帆. インシデントを体験した看護師の感情とソーシャルサポートに関する考察. 日本看護学会看護管理. 平成 27 年 9 月 9 日. 福岡県

綱嶋たかえ. 地域連携強化をめざしたポジションチェンジ型研修の実施とその成果—訪問看護ステーションへの体験研修を通して—. 第 54 回全国自治体病院学会. 平成 27 年 10 月 8 日. 北海道

坂本晴香. 内科病棟における便秘の状況と看護師の便秘に対する認識とケアの実態. 第 54 回全国自治体病院学会. 平成 27 年 10 月 8 日. 北海道

原祐子. 手術安全チェックリストを導入しての安全意識に関する追跡調査. 日本手術看護学会.

平成 27 年 10 月 10 日. 北海道

坂本久美子. 母乳育児支援の充実に向けた取り組み—スタッフニーズアセスメント調査を基にロールプレーを取り入れての結果—. 日本看護学会ヘルスプロモーション. 平成 27 年 11 月 6 日. 富山県

佐藤佳奈. 早期産で出生した新生児に対するケアについての検討—ストレスを与えないケアを目指して—. 神奈川看護学会. 平成 27 年 12 月 5 日. 神奈川県

(25) 感染対策室

駒場瑠美子. 蒸気化過酸化水素による病室内環境表面殺菌を実施して～多剤耐性アシネトバクターの検出患者の対応～. 全国自治体病院病院学会. 2015 年 10 月. 函館.

(26) 食養科

長澤恵梨子, 金澤美穂, 清水谷弘美, 亀山亜希夫, 太田博子, 樋口直美, 井上彰大, 坪田結香, 尾原恵美, 富岡曜平, 伊藤真梨, 吉田稔, 細田智弘, 井上健太郎, 津村和大. 多職種連携による栄養管理を実践した嚥下障害と慢性下痢症を伴う皮膚筋炎の 1 例. 第 19 回日本病態栄養学会年次学術集会. 2016 年 1 月.

8 講演会等

(1) 内科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 4 月 7 日	第 2 回糖尿病 Up Date in Kawasaki	津村和大	教育現場で感じる SGLT2 阻害薬のポジシ ョニング	川崎日航 ホテル
平成 27 年 4 月 9 日	第 5 回川崎区糖尿 病診療を考える会	津村和大	糖尿病フットケアの 人材育成とケアの実 際	川崎日航 ホテル

平成 27 年 4 月 20 日	医薬連携講演会	津村和大	施策立案に繋がるエビデンスの創出 ～企業人として必要な眼差し～	川崎日航ホテル
平成 27 年 4 月 22 日	第 8 回神奈川県糖尿病協会学術講演会	津村和大	糖尿病協会の現在と未来 ～時代のニーズに即した活動の発展～	横浜崎陽軒
平成 27 年 5 月 18 日	糖尿病 Up Date	津村和大	糖尿病の合併症 ～治療と療養指導に求められる全身管理のまなざし～	糖尿病 WEB 講演会
平成 27 年 5 月 26 日	平成 27 年度川崎区薬剤師会合同研修会	津村和大	薬剤師に求められる糖尿病療養指導の視点	川崎日航ホテル
平成 27 年 6 月 6 日	平成 27 年度第 1 回糖尿病足病変の指導者研修	津村和大	糖尿病足病変の病態と治療 ～指導者としての心得～	関東労災病院講堂
平成 27 年 6 月 11 日	横浜糖尿病合併症治療フォーラム	津村和大	コホートデータ分析から見える糖尿病医療連携の実態 ～わが国におけるデータベース研究の最新事情と地域での取り組み～	横浜ベイシエラトンホテル
平成 27 年 6 月 15 日	Meet The Expert (調剤薬局薬剤師勉強会)	津村和大	糖尿病治療薬の選択アルゴリズム	川崎フロンティアビル会議室
平成 27 年 6 月 19 日	第 76 回明日からの実践に役立つ川崎市糖尿病セミナー	津村和大	地域医療連携で共有される患者情報の活用法	ミューザ川崎会議室
平成 27 年 7 月 12 日	川崎市立川崎病院市民公開講座	津村和大	糖尿病と言われたら...	院内
平成 27 年 9 月 5 日	平成 27 年度第 2 回糖尿病足病変の指導者研修	津村和大	糖尿病足病変の病態と治療 ～指導者としての心得～	関東労災病院講堂

平成 27 年 9 月 26 日	第 12 回南泉州・和歌山北部糖尿病ネットワーク談話会	津村和大	糖尿病連携の新たなステージ ～組織創りの実際と最近のトピックス（データ分析・地域包括ケア）～	ホテルグランヴィア和歌山
平成 27 年 10 月 6 日	要介護支援症例に携わるスタッフの糖尿病勉強会	津村和大	糖尿病治療を取り巻く現況と治療・介護の全体像	院内
平成 27 年 10 月 24 日	糖尿病足病変の指導者研修（大阪）	津村和大	糖尿病足病変の病態と治療 ～指導者としての心得～	中之島フェスティバルタワー
平成 27 年 12 月 5 日	平成 27 年度第 3 回糖尿病足病変の指導者研修	津村和大	糖尿病足病変の病態と治療 ～指導者としての心得～	関東労災病院講堂
平成 28 年 2 月 7 日	第 17 回神奈川県糖尿病療養指導研究会研修会	津村和大	病態の理解を療養指導の実践に繋げるために ～90 分で学ぶ糖尿病療養指導のエッセンス～	川崎市産業振興会館
平成 28 年 2 月 7 日	第 17 回神奈川県糖尿病療養指導研究会研修会	津村和大	症例から学ぶ ～検査データと向き合う時の落とし穴～	川崎市産業振興会館
平成 28 年 2 月 11 日	第 32 回神奈川糖尿病療養指導士（KLCDE）糖尿病セミナー	津村和大	糖尿病協会の現在と未来 ～時代のニーズに即した活動の発展～	新都市ホール（横浜）
平成 28 年 2 月 24 日	平成 27 年度海老名内科医会学術講演会	津村和大	糖尿病チーム医療を取り巻く最新トピックス ～医療者教育の新たな取り組みから臨床研究の最前線まで～	オークラフロンティアホテル海老名
平成 28 年 3 月 8 日	東京ガス×川崎市立病院コラボレーション企画	津村和大	「健康的な食事」ってどんな食事？	東京ガス川崎支店

(2) 小児科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 4 月 1 日	川崎市小児科医会	長田枝利香	第 279 回 川崎市小児 科医会研究研修会	中原休日急 患診療所
平成 27 年 10 月 10 日	日本小児内分泌学 会	安藏慎	症例から学ぶ小児内 分泌入門編 献上の 成長・思春期発達	江戸川区タ ワーホール 船堀
平成 27 年 11 月 11 日	川崎市立川崎病院 小児科	津村由紀	医療的ケア 校内研 修会	川崎市立田 島支援学校 田島校
平成 28 年 2 月 24 日	川崎市健康福祉局 環境保健課	津村由紀	平成 27 年度ぜん息・ アレルギー知識普及 講演会	川崎市高津 市民会館

(3) 外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 4 月 20 日	川崎市外科医会	掛札外科・血管外科部 長	外来における脈管診 療のポイント	川崎日航 ホテル

(4) 心臓血管外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 11 月 16 日	川崎市立川崎病院	蜂谷貴	胸部大動脈瘤に対す る ステントグラフト 留置術の現状	院内

(5) 泌尿器科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 10 月 4 日	川崎市泌尿器科医 会	原	市民公開講座『おしっ こがでない』	ミューザ川 崎

(6) 耳鼻咽喉科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 6 月 9 日	慶浜耳鼻科研究会	佐藤陽一郎	内視鏡下頭蓋底手術 について	エーザイ横 浜コミュニ ケーション オフィス

平成 27 年 9 月 15 日	川崎区医師会	相馬啓子	摂食嚥下・栄養に関する地域包括ケアへの取り組み	院外
平成 27 年 10 月 17 日	日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会川崎医会	相馬啓子	外傷後の機能性難聴	院外
平成 27 年 11 月 11 日	聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室／サノフィアベンティス	佐藤陽一郎	内視鏡下頭蓋底手術について（耳鼻咽喉科医の役割を中心に）	武蔵溝ノ口ホテル KSP
平成 28 年 2 月 13 日	神奈川摂食嚥下リハビリテーション研究会	相馬啓子	誤嚥防止術	院外

(7) 放射線治療科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 5 月 30 日	神奈川県放射線治療技術研究会	栗林徹医師（放射線治療科）	緩和的放射線治療と当院の現状	院内

(8) 麻酔科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 4 月 4 日	富士フィルムソノサイト	逢坂佳宗	上肢神経ブロックワークショップ	富士フィルムソノサイトジャパンセミナーーム
平成 27 年 6 月 6 日	バクスター	逢坂佳宗	関東甲信越 Anesthesia Table Meeting 超音波ガイド下末梢神経ブロックセミナー	JA 長野県ビル
平成 27 年 8 月 30 日	日本小児麻酔学会	逢坂佳宗	神経ブロックハンズオン	東京国際交流館
平成 27 年 10 月 22 日	株式会社ユニシス	逢坂佳宗	末梢神経ブロックハンズオンセミナー	パシフィコ横浜
平成 27 年 10 月 23 日	日本臨床麻酔学会	逢坂佳宗	超音波ガイド下神経ブロックハンズオンセミナー	パシフィコ横浜

平成 27 年 12 月 19 日	丸石製薬・富士フイルムリソサイト	逢坂佳宗	神経ブロックワーク ショップ	東京女子医 大
平成 28 年 1 月 30 日	丸石製薬	逢坂佳宗	慶應義塾大学 PNB ハン ズオンセミナー	慶 應 義 塾 大 学
平成 28 年 2 月 19 日	富士フイルムリソサイト・丸 石製薬	逢坂佳宗	第 1 回赤羽橋ハンズオ ンセミナー	ハロー会議 室田町
平成 28 年 3 月 19 日	丸石製薬	逢坂佳宗	お茶の水麻酔フォー ラム	順天堂大学

(9) 救急科

実 施 日	主 催 者 講 演 会 名	講 師	演 題	開催場所
平成 27 年 11 月 17 日	川崎区医師会	田熊医師（救急科）	川崎における総合的 救急医療体制の構築	川崎市医師 会館
平成 28 年 1 月 14 日	(公財)川崎科学技 術アカデミー	田熊医師（救急科）	「医療機器産業参入 のための基礎」アドバ ンスコース第 1 回 救急医療 からみた日常の危険- 回避のためのイノベーショ ン	院内

(10) リハビリテーション科

実 施 日	主 催 者 講 演 会 名	講 師	演 題	開催場所
平成 27 年 10 月 6 日	川崎南部摂食嚥 下・栄養研究会	尾原恵美（リハビリテ ーション科言語聴覚 士）	口腔介護スキルア ップ研修会「食べる機能 アップ～嚥下機能を あげるリハビリのコ ツ～」	新川橋病院
平成 28 年 3 月 6 日	川崎南部摂食嚥 下・栄養研究会	尾原恵美（リハビリテ ーション科言語聴覚 士）	平成 27 年度口腔介護 技術研修 アドバ ンスコース「最期ま で口から食べるを支 える」「口腔リハビリ ～介護者が行う口腔 リハビリテーション ～」	特別養護老 人ホームし ゃんぐりら
平成 28 年 3 月 24 日	川崎地区在宅療養 推進協議会	菅野詩子（リハビリテ ーション科理学療法 士）	第 5 回川崎「医療介護 公開セミナー」 転倒 予防について	ライフコミ ュン川崎

(11) 歯科口腔外科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 9 月	川崎市歯科医師会	鬼澤勝弘	Per からの続発症	川崎市歯科 医師会
平成 27 年 9 月	川崎市歯科医師会	安居孝純	キーワードで診る合併症～もっと問診を活用すると合併症がみえてくる～	川崎市歯科 医師会
平成 27 年 9 月	川崎市歯科医師会	佐藤仁	顎関節症の新しい分類と治療法～顎関節症専門医による～	川崎市歯科 医師会
平成 27 年 10 月	川崎市立川崎病院	安居孝純	糖尿病と歯周病	院内
平成 28 年 3 月	川崎市立川崎病院	鬼澤勝弘	病診連携セミナー 顎骨壊死	院内

(12) 薬剤部

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 28 年 1 月 28 日	川崎臨港地区薬剤師勉強会	小林岳（薬剤部）	保険薬局の薬剤師も知っておきたい感染症の基礎知識	川崎市教育 文化会館

(13) 医療安全管理室

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成 27 年 4 月 1 日	教育指導部	担当課長武田玲子 （医療安全管理室）	医療安全・接遇	院内
平成 27 年 4 月 3 日	病院事業部	担当課長武田玲子 （医療安全管理室）	医療安全	院内
平成 27 年 5 月 22 日	看護部	井口絹枝 （医療安全管理室）	安全な看護を提供すること	院内
平成 27 年 5 月 22 日	医療安全管理部会	丹野彦治 （医療相談員）	院内暴力、悪質クレームへの対応	院内
平成 27 年 5 月 24 日	医療安全管理室	伊藤医師 （救急科）	チームステップス研修（初級編）①	院内
平成 27 年 6 月 8 日	医療機器安全管理委員会	風呂・石黒技士 （臨床工学技士）	輸液ポンプ・シリンジポンプ勉強会	院内

平成 27 年 6 月 20 日	医療安全管理部会	春日道也 (ImSAFER 研究会)	ImSAFER 分析手法研修	院内
平成 27 年 6 月 24 日	教育指導部	土井医師他 (救急科)	CVC 講習会	院内
平成 27 年 7 月 1 日	医療安全管理部会 医療安全委員会	福永篤志 (立川共済病院)	医療判例から見た医 療事故	院内
平成 27 年 7 月 22 日	医療安全管理室	伊藤医師 (救急科)	チームステップス研 修 (初級編) ②	院内
平成 27 年 7 月 24 日	看護部	井口絹枝 (医療安全管理室)	看護助手研修	院内
平成 27 年 8 月 7 日	医療機器安全管理 委員会	芝 技士 (臨床工学技士)	人工呼吸器研修 (初級 編)	院内
平成 27 年 9 月 4 日	医療安全管理室	坪田薬剤師 (薬剤部)	薬剤部における医療 安全の取り組み	院内
平成 27 年 9 月 24 日	医療安全管理室	伊藤医師 (救急科)	チームステップス研 修 (初級編) ③	院内
平成 27 年 10 月 16 日	医療機器管理委員 会	芝 技士 (臨床工学技士)	人工呼吸器研修 (中級 編)	院内
平成 27 年 10 月 16 日	看護部	井口絹枝 (医療安全管理室)	臨時看護師研修	院内
平成 27 年 11 月 13 日	薬剤部 医療安全管理室	井上薬剤師 (薬剤部)	簡易懸濁法について	院内
平成 27 年 12 月 2 日	医療安全管理部会 医療安全管理室	福永篤志 (立川共済病院)	医療における安全対 策	院内
平成 27 年 12 月 7 日	医療安全委員会	松井博 (損保ジャパン)	医療事故調査制度説 明会	院内
平成 28 年 1 月 18 日	医療安全管理部会 医療安全管理室	小野・引地技師 (放射線診断科)	医療者が知っておき たい放射線の知識	院内
平成 28 年 1 月 25 日	医療安全管理室 院内救急対策部会	伊藤・斉藤医師 (救急科)	R R S と A E D	院内
平成 28 年 1 月 27 日	医療安全管理室	伊藤医師 (救急科)	チームステップス研 修 (初級編) ④	院内
平成 28 年 2 月 24 日	医療安全管理室	深江医師 (総合診療科)	モニター心電図の勉 強会	院内
平成 28 年 3 月 2 日	医療安全管理部会 医療安全管理室	福永篤志 (立川共済病院)	医師の義務と権利患 者の権利と義務	院内

平成 28 年 3 月 14 日	医療安全管理室	伊藤医師 (救急科)	みんなのチームステ ップス	院内
---------------------	---------	---------------	------------------	----

(14) 感染対策室

実 施 日	主 催 者 講 演 会 名	講 師	演 題	開催場所
平成 27 年 6 月 12 日 ・16 日・18 日	感染対策室	感染対策室 坂本光男 駒場瑠美子 工藤美樹	げり！さあ。どうす る？	院内
平成 27 年 7 月 1 日	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	感染対策室 駒場瑠美子	職業感染管理	神奈川県立保健福祉大学実践教育センター
平成 27 年 7 月 2 日	川崎市社会福祉協議会	感染対策室 駒場瑠美子	福祉職員のための自分を守る感染対策～やるべきこと・やってはいけないこと	川崎市総合福祉センターエポックなかはら
平成 27 年 8 月 1 日	川崎市立多摩病院	感染対策室 駒場瑠美子	かわさき KIDS かんせんセミナー～手あら い～	川崎市立多摩病院
平成 27 年 8 月 17 日 ・28 日・31 日	感染対策室	感染対策室 駒場瑠美子	針刺し防止対策	院内
平成 27 年 10 月 26 日 ・28 日	感染対策室	川崎市健康安全研究所 三崎貴子	話題の感染症	院内
平成 27 年 11 月 13 日	ボランティア推進委員会	感染対策室 駒場瑠美子	感染対策～話題の感染症～	院内
平成 27 年 11 月 9 日	北里大学看護キャリア開発・研究センター	感染対策室 駒場瑠美子	医療関連感染予防・管理プログラムの立案	北里大学看護キャリア開発・研究センター

(15) 食養科

実施日	主催者 講演会名	講師	演題	開催場所
平成27年5月 ～ 平成28年3月	N S T部会	伊藤医師・安居医師・ 菅医師・吉田医師・相 馬医師・坪田薬剤師・ 井上薬剤師・古瀬看護 師・亀山管理栄養士	N S T勉強会	院内
平成27年 7月6日	褥瘡対策委員会	(褥瘡対策委員) 医師・看護師・薬剤 師・管理栄養士	褥瘡勉強会	院内
平成27年 7月11日	糖尿病診療連携委 員会	(糖尿病診療連携委 員) 医師・検査技師・看護 師・薬剤師・管理栄養 士	糖尿病市民公開講座 (食事クイズ)	院内
平成27年 10月24日	糖尿病診療連携委 員会	(糖尿病診療連携委 員) 医師・検査技師・看護 師・薬剤師・管理栄養 士	糖尿病市民公開講座 (食事クイズ)	院内
平成28年 2月2日	川崎区役所保健福 祉センター	亀山亜希夫(食養科)	川崎区病院及び高齢 者施設栄養士研修会 川崎病院での活動か ら考える川崎管内に おける食事支援につ いて	川崎区役所 講堂
平成28年 2月9日	川崎市健康安全部 健康増進課	長澤恵梨子(食養科)	食事摂取基準 2015 年 版を活用した取組	川崎市役所 第4庁舎

9 その他

(1) 整形外科

(マスコミ) 堀内行雄, 手のトラブルありませんか, 明日の友 216号 P40-49, 2015年6月

(研修会) 中道憲明, 広範囲肩腱板断裂の新治療法, 川崎南部症例検討会, 2015年7月

(研修会) 小柳貴裕, リウマチ類似疾患による体軸の痛み, 川崎市立病院リウマチ懇話会, 2015年11月

(研修会) 山口健治, リウマチ性股関節症の治療, 川崎市立病院リウマチ懇話会, 2015年11月

(2) 眼科

(映像提供) 富田洋平. Vivinex insert XY1 を用いた白内障手術. 第 69 回日本臨床眼科学会. 2015 年 10 月.

(3) 救急科

(講師) 田熊清継. 第 2 回 PBEC 長野コース. 長野赤十字病院. 2015 年 9 月.

(講師) 田熊清継. 第 3 回 PBEC 八戸コース. 八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部. 2015 年 12 月.

(講師) 土井賢治. ICLS コース. 院内. 2015 年 9 月.

(4) 歯科口腔外科

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 智歯の処置 2. FMかわさき. 2015 年 4 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 嚢胞処置 1 (軟組織). FMかわさき. 2015 年 5 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 嚢胞処置 2 (顎骨内). FMかわさき. 2016 年 6 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 顎口腔の怪我 1 (口腔・口唇の裂傷). FMかわさき. 2015 年 7 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 顎口腔の怪我 2 (歯牙脱臼). FMかわさき. 2015 年 8 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. 顎口腔の怪我 3 (顎骨骨折). FMかわさき. 2015 年 9 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. お口の中の炎症 1 (むし歯に起因する炎症). FMかわさき. 2015 年 10 月.

(マスコミ) 鬼澤勝弘. お口の中の炎症 2 (顎骨内の炎症). FMかわさき. 2015 年 11 月.

(マスコミ) 安居孝純. 糖尿病と歯周病との関係 1. FMかわさき. 2015 年 12 月.

(マスコミ) 安居孝純. 糖尿病と歯周病との関係 2. FMかわさき. 2016 年 1 月.

(マスコミ) 安居孝純. 歯周病から生じる疾病. FMかわさき. 2016 年 2 月.

(マスコミ) 佐藤仁. 顎関節の病気について. FMかわさき. 2016 年 3 月.

(5) 薬剤部

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター: 院内感染症のマネジメントとコミュニケーション〜こう聞かれたら、どうする? (ワークショップ). 第 6 回神奈川病院薬剤師感染症フォーラム. 2015 年 6 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター: 誤診だらけの感染症 (ワークショップ). 第 7 回神奈川病院薬剤師感染症フォーラム. 2015 年 11 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター: SWOT 分析、クロス分析 (ワークショップ). 神奈川県病院薬剤師会 バランスト・スコアカードセミナー第 1 部. 2015 年 12 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター: MRSA 感染症治療(感染性心内膜炎)と抗 MRSA 薬の TDM - 抗 MRSA 薬の選択と初期投与設計 - (症例検討会). 平成 27 年度 第 2 回神奈川県感染制御専門・認定講習会. 2016 年 1 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター: 戦略マップ、スコアカードの作成 (ワークショップ). 神奈川県病院薬剤師会 バランスト・スコアカードセミナー第 2 部. 2016 年 1 月.

(研修会・セミナー) 小林岳. ファシリテーター: MRSA 感染症治療(感染性心内膜炎)と抗 MRSA 薬の TDM - 血中濃度・薬物治療の評価と再投与設計 - (症例検討会). 平成 27 年度 第 3 回神奈川県感染制御専門・認定講習会. 2016 年 3 月.

(6) 感染対策室

(セミナー司会) 駒場瑠美子. 神奈川感染対策セミナー～PICC・CV ポートについて考えてみませんか?～. TKP ガーデンシティ横浜, 日本コヴィディエン株式会社. 2015 年 11 月.

(学会司会) 駒場瑠美子. 第 31 回日本環境感染学会総会・学術集会一般演題. 国立京都国際会館. 2016 年 2 月.

(7) 食養科

(誌上症例研究) 金澤美穂, 亀山亜希夫, 清水谷弘美, 長澤恵梨子, 太田博子, 樋口直美, 井上彰大, 坪田結香, 内海俊一, 土井賢治, 渡部桂子, 伊藤真梨, 井上健太郎, 津村和大. あなたならどう考える? NST の現場から急性大動脈解離術後に両側反回神経麻痺・嚥下障害を合併した患者に対し、多職種連携による栄養管理を行った一例. 2015 年 6 月.

追補

賞

(1) 整形外科

船尾陽生. 日本 MIST 研究会 2014 年度最優秀論文賞. 2015 年 2 月. 受賞理由: 最小侵襲腰椎椎体間固定術(MIS-TLIF)における医療従事者の被曝量を明らかにし、研究結果が国内外での標準的指標になり得ると評価されたため. 論文のタイトル: surgeons' exposure to radiation in single- and multi-level minimally invasive transforaminal lumbar interbody fusion; a prospective study.

学会・研究会

(1) 放射線診断科

鳥飼秀幸, 佐藤宏郎, 長谷川市郎, 成松芳明, 郷内志朗. 著明な動脈門脈瘻を伴った肝外傷性仮性瘤に対する NBCA/Lipiodol 塞栓術の 1 例. 第 43 回日本 I V R 学会. 2014 年 6 月. 奈良県奈良市. 植松敬子, 鳥飼秀幸, 成松芳明, 佐藤宏朗, 長谷川市郎, 和多田晋, 掛札敏裕. 肝部下大静脈に留置した下大静脈フィルターの閉塞により急性腎障害を呈した 1 例. 第 9 回日本 I V R 学会関東地方会. 2014 年 7 月. 東京都.

植松敬子, 鳥飼秀幸, 成松芳明, 鴨志田久美, 佐藤宏朗, 長谷川市郎, 和多田晋. 胃石による小腸閉塞の 1 例. 第 24 回日本救急放射線研究会. 2014 年 9 月. 兵庫県神戸市.

年 報 編 集 部 会

部 会 長	事 務 局 長	田 邊 雅 史	部 会 員	薬 剤 部	坂 井 義 則
副 部 会 長	看 護 部	柳 井 田 恭 子	〃	教 育 指 導 部	津 村 和 大
部 会 員	〃	岩 崎 明 美	〃	食 養 科	樋 口 直 美
〃	リウマチ膠原病・痛風センター	田 口 博 章	〃	庶 務 課	勝 野 隆
〃	産科・婦人科	金 善 恵	〃	〃	西 山 隆 晃
〃	放射線診断科	井 上 憲 治	〃	医 事 課	小 倉 真 由 美
〃	検 査 科	畠 山 み り	書 記	庶 務 課	中 村 太 郎

編 集 後 記

この年報は、病院運営及び活動の記録を取りまとめたものです。当院の評価の一指標となれば幸いです。

また、今後の業務改善、改革のための参考資料となりますことを期待しております。

編集に当たり、忙しい日常業務の合間を縫って原稿作成をお引き受けいただきました、各診療科及び各部門の責任者並びに執筆者の皆様に深く感謝申し上げます。

年報編集部会長 田 邊 雅 史

川 崎 市 立 川 崎 病 院 年 報

第51号（平成27年度版）

平成28年10月31日発行

編集・発行 川崎市立川崎病院

〒210-0013 川崎市川崎区新川通12番1号

電 話 044 (233) 5521(代)

F A X 044 (245) 9600

川崎病院ホームページ

(<http://www.city.kawasaki.jp/32/cmsfiles/contents/0000037/37856/kawasaki/>)

印 刷 所 株式会社 共栄堂